

復興  
を  
め  
ざ  
し  
て

県立芦屋高校 震災の記録

兵庫県立芦屋高等学校



# 1 震災・復興の記録

～復興をめざして～







## I. 学校関係

### 【1. 1月17日～1月31日】

- 17日（火） 午前5時46分、地震発生。
- 校舎3棟（本館・中館・南館）中2棟（中館・南館）、破損状況酷く使用不能状態、本館は1階が漏水のため浸水。
- 午前7時前頃、本校職員が避難所として体育館を開放する。100名程の人が、体育館が開くのを待っていた。時が経つに従って避難者増加。
- 午前8時頃、幾人かの生徒が登校する。居合わせた職員の判断で、自宅待機を指示する。
- この日、出勤出来た職員延べ約15名が対応した主なこと、
- ・避難所として体育館を開放。
  - ・避難者の世話。柔道畳・マット等の提供、体育館2階にテレビの設置。救急医療用品の提供（本館保健室より搬入）。養護教諭を中心に負傷者の手当て、老人の介護等にあたる。
  - ・危険区域に立入禁止の掲示（中館・南館）。
  - ・登校生徒に自宅待機の指示。
  - ・市当局への連絡。（市当局は本校が避難所になっていることを確認出来ていなかった。午後3時頃担当者来校。）
- 避難者数の増加に伴い、体育館2階フロアに加え体育館1階（剣道場・卓球場・食堂）、柔道場を開放する。夜にかけて、1000名を越す。
- ライフラインのうち、電気のみが午前8時前には復旧していた。
- 電話はほとんど不通状態が続いた。
- 夜になって市当局の手配によるおにぎりの配給あり。ただし質・量ともに不十分。

《解説》この日来校し得た延べ約15名の職員は、協議の場をもって行動したのではない。学校に居れた時間帯もばらばらだし、各所に散らばって行動していたので、近場の者との相談はあったろうが、基本的に個人の判断で動いたと思われる。午前7時過ぎ頃、やっと学校長から本校職員に電話（公衆）がつながり、学校の被害状況や様子を学校長に伝えることができ、学校長から幾つかの指示を受けることもできた。あとは居合わせた職員それぞれが、状況判断により行動した。主に避難者の受け入れ、お世話を奔走した。避難者の中で体の動くものは皆協力的に動いたが、特に本校の卒業生や在校生が積極的主体的に活動した。彼らがその後初期ボランティアの中核となった。彼らとの繋がりに加え、受け入れ施設側の立場にある本校職員は、午後3時頃当方よりの連絡を受けて来校した市職員と避難所の運営について十分な相談も出来ない状況の中で、用具の提供、施設案内等、主導的立場で活躍した。

- 18日（水） 生徒・職員の安否確認開始。
- 救援のため自衛隊到着（給食班、医療班、入浴班、給水班）。給水車常時配置。
- 県教育委員会視察及び専門家調査依頼（校舎使用の是非の確認）。
- 県教育委員会高校教育課へ臨時休業報告。
- 県災害対策本部の依頼によりNHKテレビ体育館に設置。



- 本校職員による24時間体制完了。
- 19日（木） 臨時休業・登校日（23日）案内を校区内の避難所に掲示して回る等、生徒への連絡と安否確認に奔走する。  
職員室・事務室・保健室・校長室を整備、当面の事務作業の場所を確保。  
避難所職員用外線臨時電話設置依頼。  
県教育委員会より専門家調査。中館・南館の使用禁止。  
本校被害状況調査開始。  
芦屋市から課長級職員応援、避難所運営を指揮。  
仮設トイレ20設置（芦屋市）。  
高校入試特別事情受付。  
手書きの町別避難者名簿の完成（前夜のボランティアの徹夜の作業による）。
- 20日（金） 臨時無料公衆電話・ファックス体育館1階に設置。  
体育館1階トレーニング室を救援物資置場にする。物資集積。  
校務運営委員会開催準備。  
本館漏電、至急修理。  
本校自治会執行部のコピー機を避難所運営に貸し出す。
- 21日（土） 校務運営委員会開催。  
本日予定の校内クラブ対抗駅伝中止。  
NHK・AM神戸に登校日案内の依頼。  
市災害対策本部に本校避難所への人的物的補強の依頼。
- 22日（日） 体育館1階武庫高校体育教官室に県立芦屋高校避難所芦屋市対策本部室を設置。以後この部屋が、避難所の管理運営本部室となる。
- 23日（月） 震災後初めての生徒登校。本館に集合。約6割の生徒が登校。  
現時点での生徒被災状況、生徒死亡3人、家族死亡8人、全壊56人、半壊194人。  
以降本館2階会議室を3年生進路指導等の専用室とし、自習室としても開放。進路保障の立場から、出来るだけ3年学年団が進路関係の仕事に専念できる体制を組む。  
ポンプ故障で使えなかった井戸水が使用可能となり体育館へ給水開始、体育館水洗トイレ使用可能。以後度々ポンプ故障修理のため使用不能あり。  
登校生徒に避難所世話のボランティアを募る。約40名の生徒が志望する。生徒ボランティア当番表作成。  
翌24日より学校指導による本校生ボランティアが組織的に避難所で活動開始。

《解説》18日、教頭・事務長、19日、学校長が出勤し、これ以降職員の活動に核が出来た。本館の漏水被害はさほど大きなものでなく、室内の惨状はともかく、職員室・事務室とも使用可能であった。この2室を拠点に、この期間はまた交通機関の遮断、自宅被害等の理由で出勤出来ない職員も多かったが、手分けして事に当たった。特にこの期間、そして授業再開以前の1月末まで、さらに一部2月上旬までは、平常時の校内の決定システムでは到底対処できず、学校運営に関わる諸事は、管理職を中心として出勤可能な校務運営委員に図ることにより適宜進め、止むを得ず職員には事後報告により理解を求める方法がとられた。個々の方針や進め方については、昼夜を問わずストーブ談義的に出し合う話がまとまっていくことも多く、パイプ役としての教頭の存在は大きかった。非常事態とはいえ、いわゆる責任ある司令塔の存在の重要性を痛感した場面であったが、多少の混乱はあったにせよ、職員間の連携やチーム



ワークの良さもあり、大方においてうまくいったと言えよう。さて、この時期の取組の内容は大きく「学校再開の準備」と「避難所の世話」に大別出来る。

#### 「学校再開の準備」

##### ①生徒・職員の安否確認。

生徒の安否確認は、職員室と事務室の入り口に全校生の名簿を置き、登校した生徒に無事の印を入れさせた。友達の間も、必ず直接自分の目で確認出来た者については記入させ、口コミで、随時登校し、無事の記入をするよう伝えさせた。並行して、可能なかぎり学年・担任の方から、生徒に連絡を取り、口コミや電話連絡で得た情報により無事の印を入れて名簿を埋めていった。この時期、事務室の外線電話は、避難者への連絡取次、学校側の安否確認連絡等で、常時使用中の状態であった。職員の安否確認も同様に行なわれたが、生徒・職員とも最寄りの避難所に避難している者もいて、確認の徹底は難しかった。23日（震災後初の生徒登校日、登校生徒数約6割）の時点でも安否確認は完了していないが、生徒3名（各学年1名）の死亡は23日以前に確認されていた。職員は22日の時点で、安否未確認2名（23日に確認）、出勤不可能者21名（全職員72名／非常勤講師を除く）であった。

##### ②授業再開の見通しと準備。

当面休業、23日を安否確認と今後の日程連絡を主とした登校日、及び職員会議開催日と決定（19日）。口コミ、校区内避難所への掲示、AM神戸・NHKへの放送案内依頼等、可能な限りの手を尽くして、生徒・職員に連絡の徹底を図った。21日を校務運営委員会開催日とし、前日20日に校務運営委員会議案作成のための準備会を持つ。20日の準備会で在校生3名の死亡確認報告があったが、安否確認が完了するまで全校での黙禱その他の対応は控えることとした。20・21日の両会で決定し、23日の生徒登校に対応、職員会議で報告了解された内容は次の通りである。

(1)23日の日程。〈8：40職員打合せ（職員室）、9：00生徒登校〔3年あしかび（同窓）会館ホール及び本館大教室・2年本館3階5教室・1年本館4階5教室、を使用。＊3・2・1各学年、9・10・10クラスあるが、使用可能な施設で対応するための処置。生徒登校9：00は校区が狭いので可能な時間設定であるが、職員打合せ8：40は交通事情からいって不可能。これは帰りの時間を保障することを優先し、朝の打合せは可能な者だけで対応することにしたことによる。〕、11：00職員会議。〉

(2)当面の日程。24～27日生徒休業。28日生徒登校日、11：00より1年・12：00より2年・13：00より3年の、時間差登校。

＊使用可能な本館10クラス分のHR教室で1クラス1教室を当てるための工夫。

(3)唯一使用可能な本館の確保は授業再開に不可欠なので、避難所に開放する施設は体育館・柔道場及び周辺部に収めたい方向を確認した。

(4)職員会議で報告了解された内容。以下の通り。（23日職員会議で配布されたプリントの内容を転載、一部補筆）

#### 1 震災経過及び状況の報告

（省略）

#### 2 生徒・職員の被害状況等の実態調査について

＊調査表別途配布、資料欄参照。

①生徒調査表の集計はクラス・学年毎によろしく。

②職員の分は本日中に提出下さい。本日欠席された方々について、状況等ご存じの方は氏名欄の下段に代理とご記入の上、承知範囲を記入して下さい。



### 3 学校の施設・設備の被害状況について

1月19日 被害状況について専門家の調査（最終結論未定）

南館 1階支柱亀裂 使用不可能に近い。 立入禁止

中館 1階支柱の一部亀裂、2・3・4階亀裂ひどい 立入禁止

本館 漏水箇所発生

当分の間ガス、水道復旧の見通しなし（関係当局より連絡なし）

便所は仮設トイレ設置で対応。\*19日仮設トイレ20設置（芦屋市）。

### 4 学校行事の変更について

①臨時休業（1/17～21処置済、1/24～27）

②部対抗駅伝の中止 処置済。

③校内マラソン大会の中止。 1/28 生徒登校

④3年生学年末考査中止（卒業判定資料は1・2学期）

⑤1月28日（土）生徒登校 被害状況調査の継続、確認。今後の日程の連絡。

⑥修学旅行の実施の有無について当該学年団に検討依頼（その後、中止に決定）。

⑦卒業証書授与式について

会場：グラウンドか教室で放送によるか。記念品：学年と相談。

\*体育館は避難所となっており使用できない。グラウンドは自衛隊基地及び避難者の駐車場になっているが、その狭い空きスペースを工夫するか、テニスコートを使うか、本館の10教室に分散集合して放送で行なうか（特に雨天の場合）、または学校外の他会場を探すか、意見は別れた。不十分でも被災した学校で卒業式を行なうべきだと云う意見も強くあったが、卒業式は厳粛にしかも従前通りのもので3年生を送り出したいとの3年学年団の強い要望もあって、県立芦屋南高校にお願いし、日程調整の上、3月1日に県立芦屋南高校体育館を借用して行なった。

⑧その他 当分の間、部活動中止・校舎内下履き使用・自転車通学を許可。

\*部活動・下履き使用・自転車通学のその後の展開は後述。

### 5 復旧計画

①後片付け・廃棄物の搬出。

②施設・設備の破損調査及び県への要求・要望。

③中・長期的には、仮設校舎（バレーコート・テニスコートに不足HR教室分を新年度に間に合わせよう建設されること確認済。グラウンドへの特別教室分の建設時期は未定、自衛隊基地・避難者駐車場の絡みあり）・校舎改築（南館は取り壊し新築の見通し、中館は新築か改築・補修か未定）等を含めた検討。

### 6 今後の教育活動等の見通しについて

①災害復旧等については長期間になる。

②短期的には、ガス、水道等の復旧の見通しを見守りながら、当面は1月27日までに可能な範囲で授業再開を検討（本館における1・2年生の授業再開の工夫。3年生は自宅学習時期に入る。水道復旧以前の授業再開に当たっては十分な仮設トイレ設置が不可欠。）。

③避難生徒の指導及び、学習場所提供の方策。

④部活動の自粛（校内での活動再開の時期の検討、校外はクラブ事情に合わせて認める）。

\*部活動再開へのその後の展開は後述。



⑤臨時休業が長期化の場合、自宅学習の指導の在り方等の検討。

7 平成7年度高校入試事務について

8 避難市民への対応

①避難者数 現在約1100名（体育館1階550、体育館2階300、柔道場250）。\*これまでに最大1500人を越えた時期もあった。

②避難市民への24時間支援体制

[支援人員]

芦屋市災害対策本部より4～5名が常駐。

ボランティア約25名（当初より本校卒業生・在校生約15名、その他約10名）。

本校職員随時若干名。

自衛隊の救援隊（医療活動、給水が中心）。

\*この日、在校生にボランティア志願者を募る。約40名集まる。本校生のボランティア活動の詳細については後述。資料欄参照。

[支援内容]

(1)避難者の受付、誘導。

(2)救援物資の受付及び分配。

(3)食事等の受取及び配布。

(4)外部からの連絡の伝達。

(5)医療看護等の補助。

(6)苦情処理。

(7)その他（ゴミ処理）。

③芦屋市災害対策本部との調整

(1)県立芦屋高校避難所芦屋市災害対策本部として体育館1階武庫高校体育教官室を提供。

(2)役割分担の明確化。本校避難所は芦屋市が中心となり指導。本校は芦屋市の補助者として支援。

\*住民の相談や市民としての要望の窓口はあくまで芦屋市が当たり、本校は避難所の受皿としての業務を支援する。

(3)本校の分担内容。[支援内容]の(1)(2)(3)(4)の補助。24時間体制、特に夜間について本校職員3～4名宿泊（本館に宿泊、緊急時の対応、夜間の電話取次）。

③校内備品類の被害状況調査及び使用可能備品類の搬出

この時期余震の心配があった。余震の規模によっては南館は倒壊する恐れがあった。中館は倒壊までは至らないだろうと云う判断だった。そこで南館にあった使用可能な備品等を中館の比較的被害の少ない東側部分の教室に移す作業をした。この作業は出勤職員が手分けしておこなったが、ヘルメットの着用等慎重を要する作業であった。本格的には出勤可能職員の人数が増えてきた23日以後で、2月以降も継続した。事務では備品類の被害状況をまとめるために、各教科・課に調査報告を求めたが、上記の作業と並行して行なわれた。

④学校運営の拠点、職員が一堂に集まれる場所として、職員室の整備が行なわれた。23日の職員会議には、一応全教員の机が部署別に確保された。

⑤仮設トイレの設置。市当局は1月19日に20の仮設トイレを設置した。これは主に避難者・近隣住民のためを意識



したものであった。授業再開に向けて本校生分の補充が必要、県及び市に要求する。

#### 「避難所の世話」

この時期避難所は、芦屋市担当職員、ボランティア（本校卒業生・在校生・他校生・その他）で運営されており、本校職員も個人の判断で随時ボランティアに参加していた。本校の姿勢として、避難所生活が安心して維持できるような補助的な協力は惜しまないが、飽くまで避難所運営の主体は芦屋市にあると云う理解にあった。職員の個人的なボランティアに加え、緊急時の対応に備え校内に24時間体制の人員配置を整え、主に避難者への電話連絡の取次等（上述、23日職員会議配布プリント、8 避難市民への対応の②避難市民への24時間支援体制〔支援内容〕(1)(2)(3)(4)）を行なった。さらに、23日の生徒登校日に在校生よりボランティアを募り、約40名の生徒が交替制でボランティアに参加した。夜間学校に宿泊勤務した職員は、宿泊可能な者に随時声を掛け、体制を組んだが、総じてお互いを気遣いながら皆協力的に応じた。この時期、避難所は避難者数の多さ、生活の不便、避難者のストレスの増大、運営システムの模索不手際等、極めて困難な状況にあったが、芦屋市の担当者に加え、本校卒業生を中心にしたボランティアがよく頑張った。芦屋市内の避難所はほとんどが市立の施設であるのに対して、本校は県立の施設であった。芦屋市災害対策本部としては、職務命令系統の違いが、他の市立施設の避難所と勝手が違うと感じていたのだろう。もっと積極的に避難所運営に関わって欲しいと思っていた節がある。学校側は、学校再開を第一に据え、避難所運営は、補助的協力を惜しまない共存共栄の姿勢を堅持した。この体制は長くは続かなかった。2月6日には芦屋市では復旧から復興へ向かうべく復興宣言がなされ、市の本来の業務も多く、しかも市職員の多くは被災者でもあり、人的に苦しい状況から学校も協力することになった。2月9日より学校が避難所運営の主体となる体制に変わることになるが、それまでの間、市と学校の軋轢は少なからずあった。但し、それは主に責任者同士の協議の場のことであり、避難所の現場で実際に活動する者同士はよく協力しあった。

24日（火）	生徒休業。
25日（木）	生徒休業。仮設トイレ6設置（市）。 本館と避難所（体育館）関係の放送を切り離す。
26日（木）	生徒休業。
27日（金）	生徒休業。3年学年末考査中止。仮設トイレ20設置（県）、総計46。
28日（土）	生徒登校（1年11時より、2年12時より、3年13時より）、約8割出席。生徒状況把握。本校職員全員出勤。職員連絡網作成。 県災害対策本部による避難所住民へのアンケート調査開始。 県にプールに生活用水の給水を依頼（プールの水は1月17日隣接民家消火のため使用済）、県企業庁より給水に来る。県域各所よりタンクローリー来校、交通事情悪化のため、深夜の作業となり2日かかる。
29日（日）	県災害対策本部による避難所住民へのアンケート調査。
30日（月）	生徒休業。授業再開準備、職員室、教室の整備。
31日（火）	生徒休業。避難所に班体制、班長会議等、組織化進む。 本・中・南館の上水復旧。周辺地域の上水復旧に先駆けての処置。中・南館は破損しているため止水。



《解説》この時期は、23日までの時点で上述した、「学校再開の準備」（安否確認・授業再開の準備・職員の通勤事情の実態把握・使用可能備品の搬出等）と「避難所の世話」の継続作業をした。◆安否確認は28日の生徒登校日に生徒、職員とも完了した。28日には、全職員が出勤した。◆転校を希望する生徒の申し出が出始め、27日の時点で19名にのぼった（\*最終的な転校生数、転校先の一覧は資料欄を参照）。文部省の震災に絡む転校受入手続きの簡素化通達もあってか、転校手続きはいたってスムーズに運んだ。◆23日に募集して集まった約40名の本校生ボランティアは、24日より避難所で活動を開始した。◆23日の登校日に調査した生徒被害状況の集計が28日に出た（\*資料欄参照）。◆本校生分の仮設トイレ約20台も27日設置された。次に1月28日の職員打合せ（担任メモ）、続いて1月30日・31日職員連絡メモとして配布されたプリントを転載（一部補筆・省略あり）し、当時の模様を伝えたい。

H. 1. 28 担任メモ（復旧を目指して）

この度の地震により本校生の1年生万本祥子さん、2年生藤原真喜さん、3年生下川麻紀さんが亡くなりました。謹んでお知らせすると共に、哀悼の意を表し、黙禱を捧げご冥福をお祈りいたします。 黙禱。

〈出欠点呼〉

1 生徒被害状況調査集計。

\*省略。資料欄参照。

2 本校の被害及び復旧状況。

①被害状況（1月17日現在）

南館 1階支柱亀裂崩壊状態。 使用不能・立入禁止

中館 中程の支柱一部亀裂及び側壁亀裂。 使用不能・立入禁止

本館 2階水道管一部破裂により1階・2階の一部それぞれ浸水。

水道・ガス停止。

②避難所区域

〈体育館のすべて・プールの更衣室及びトイレ・柔道場〉は避難されている人のみが利用。

③復旧状況

井戸水利用可能となる。

但し、体育館、プールのトイレは避難されている人専用、本校生の使用は禁止。

本校生は仮設トイレのみ利用（但し、バックネット横及び本館前のみを利用、約20台。体育館前の仮設トイレは避難所専用）。

グラウンド東側の水道利用可（井戸水のため飲料水としては不可）。

④今後の見通し。

市営水道の利用 2月下旬。\*実際の上水復旧は1月31日。

都市ガスの利用 未定。

仮設校舎18教室 4月7日までに完成予定（テニスコート内に設営）。

\*実際は20教室。資材不足のため2階建てではなく平屋になったので、テニスコートに加えバレーコート、グラウンドの一部も使用して建設。



### 3 授業再開に向けて

#### ①日程

1月28日(土) [本日] 生徒登校 今後の日程の連絡。

周知徹底のためマスメディア利用(AM神戸)

3年生本日の登校以降は自宅学習に入る。

2月1日(水) 生徒登校 授業時間割発表。

1年生 11時 出欠点呼・HR・清掃。

2年生 12時 出欠点呼・HR・清掃。

2月2日(木) 授業再開。

2月16日(木) 3年生登校日。

#### ②授業等について

(1)1日2限 2交替制(状況によっては1日3限授業)

\*交通事情の改善の度合い、職員の出勤可能時間の拡大を見て判断することとする。実際は2月27日(月)より1日3限授業に入った。

午前 1年生 10時～12時

午後 2年生 13時～15時

(2)教科科目内容について

教科科目の特性、教員の状況に合わせて、主としてプリント授業。

\*出勤出来ない教員がおり、既成の持ちクラスに教科担任が当たる体制が組めない。教科内で応援し合う。時間割も標準単位を参考にしながら組み直す。当然体育は施設がないので授業できない。

この特別時間割は資料欄参照。

#### 4 校内における部活動の自粛。

校内における部活動は当分の間自粛。\*校外での活動はむしろ奨励した。

#### 5 授業料減免等について(生徒課)

生徒の実情把握に努める。

授業料・奨学金の案内。別紙参照。

#### 6 ボランティア募集(生徒課)

避難所での生活開始より10日が過ぎ、今尚不自由な生活が続いています。

本校は地域の人、先輩に支えられて今日の繁栄を迎えることができました。

今、お礼と感謝の意味をこめてお返しする時でしょう。多くの先輩方が昼夜を問わず活躍しています。現役生も先輩に学び是非参加して欲しいと思います。すでに23日に募集して約40名の生徒が参加しています。

受付 1年E組の教室 29日11:00。

\*29日は日曜日で集まりが少なかったため、2月1日の登校日に担任より呼び掛けてもらい、2月2日に受付ける。80名弱の生徒が集まる。

活動時間 午前7時～午後6時 \*実際は午後7時まで。

活動内容 食事の世話、清掃、その他避難所世話一般、雑用。

#### 7 避難者への対応

避難所での生活は1月17日に始まり、すでに10日が過ぎました。今尚不自由な生活が続いています。避難所



で生活されている人の気持ちに配慮して、ご迷惑にならないよう行動すること。

- 8 クラス生徒の掌握よろしく。
- 9 学年連絡メモ。

H 7. 1. 30 職員連絡メモ

1 本日の日程

10:00～ 職員打合せ	10:20～ 職員室整備
12:00～ 昼食	13:00～ 教科会議
14:00～ 教科主任会議	

2 総務課

①職員室整備について。 ②ゴミの分別処理について。

③生ゴミはあしかび会館前及び体育館入り口。

\*体育館入り口前は避難所のゴミ置場になっていた。

3 生徒課

ボランティア参加状況について。(1/29京都の高校生ボランティアあり)

4 教務課

①時間割作成について。 ②教科書配布について。 ③時間割・校時表について。

\*校時表省略。31日職員連絡メモ参照。

④転出状況について。 \*資料欄参照。

5 その他連絡事項について

①中・南館の出入り厳禁について。

生徒の中・南館の出入りは厳禁。例外の一般化、夜間の無断入室あり。

②ゴミの分別処理の協力について。

③食器類の使用と後片付けについて。

\*宿泊勤務者の食事、その他職員の食事は、校内で簡便食や避難所の炊き出し等を食していた。携帯コンロを利用、水道なしの状態、使い捨て食器等の後片付けを促したお願いである。

④24時間体制の依頼について。

\*職員の宿泊勤務は、可能な職員による自発的了解に頼っていた。協力的に行なわれたが、やがて不満の傾向も出てきて、2月17日より、各学年・学年外より選出する当番制に変わった。

⑤救援カンパについて。

\*学校として、避難所で炊き出しの救援をしようとする動きあり。そのカンパを募った。

⑥復旧・復興にむけて。

協調・協力体制 \*宜しくと云うこと。

6 連絡メモ

その他 県立神戸高塚高校教諭1名が、本日より当分の間本校勤務となる。避難所の世話係を手伝ってもらう。

\*県教育委員会の斡旋により、他校職員の応援の申し入れがあったが、原則的にお断わりしていた。県立神戸高塚高校教諭は芦屋在住で被災され、本校の避難所に避難されていたことから、お受けした。なお、



この時期本校生ボランティアが学校の呼び掛けで、避難所にボランティアに入っている関係から、生徒課の職員が自発的に避難所のお世話係を担っていた。

H. 7. 1. 31 職員連絡メモ

1 本日の日程

10:00 職員打合せ      10:20 課会議  
12:00 昼食              13:00 校務運営委員会  
14:00 学年会議

2 当分の間の校時表

月～金曜日		土曜日	
9:50～10:00	職員打合せ	9:50～10:00	職員打合せ
10:00～10:50	1年1校時	10:00～10:50	1年1校時
11:00～11:50	1年2校時	10:55～11:05	1年SHR
11:55～12:05	1年SHR	11:20～12:10	2年1校時
12:00～13:00	昼食	12:15～12:25	2年SHR
13:00～13:50	2年1校時		
14:00～14:50	2年2校時		
14:55～15:05	2年SHR		

●注 校内緊急放送禁止。校内緊急放送は避難住民のためにのみ使用。

3 2月1日の日程 \*予告。省略、2月1日職員連絡メモ参照。

4 連絡事項

①ゴミ等の処理指導。

②玄関前の駐車・駐輪の禁止。

③緊急校内放送の禁止。 \*避難所への配慮。

④避難住民・避難者への配慮を宜しく。

\*避難者の呼称をどうするか、「避難民」とは絶対呼ばない。「避難者・避難住民・避難されている方々」とする。避難者への配慮の一例。

⑤水道使用可。本館便所使用可。 \*直ぐに使用不可となった。しばらくの間、可・不可が繰り返された。

⑥「芦笛」の発行について。

\*「芦笛」は自治会発行の年間活動記録を中心にした機関誌。毎年度末に卒業生特集を加えて発行。卒業生特集の部分のみを小冊子にして、卒業式に間に合わせ発行することとする。本編は、次年度の早いうちに6年度分を発行することにする。

⑦事務所よりの依頼の、備品調査票は今週中が締切でお願いしたい。



5 今後の検討事項

①3学期行事の見直し（校務運営委員会で）。

②南館の重要物品の搬出・保管及び図書館の復旧について(校務運営委員会で)。全職員による復旧・搬出計画。

【2. 2月1日～2月28日】

- 1日(水) 生徒登校(約85%登校)。臨時時間割・校時表発表。  
上水破損箇所を補修。
- 2日(木) 授業再開。1年午前、2年午後、各2校時授業。  
再度本校生よりボランティアを募る。約80人が志望。生徒自治会組織の一つとしてボランティア実行委員会発足、委員長に自治会長が就任。※資料欄参照。  
修学旅行中止等の学校行事変更について保護者に連絡。  
井戸ポンプ故障のため一時地下水使用不能。
- 3日(金) 芦屋市と提携する四条畷市職員が本校避難所に派遣される。(2月末日まで)  
体育館(避難所)上水復旧。
- 4日(土) 芦屋市より本校避難所の7:00～19:00間の責任運営を本校が担うよう依頼あり。了承する。  
24時間支援体制を校務分掌として位置付ける。  
生徒被災体験作文指導。
- 5日(日)
- 6日(月) 3年成績締切。校務運営委員会。  
周辺地域も含め上水道復旧。  
備品破損調査。
- 7日(火) 芦屋市より本校避難所の7:00～22:00間の責任運営を本校が担うよう依頼あり。実質的に本校が避難所の管理運営の主体となる依頼。了承する。  
卒業式は3月1日(水)に変更、県立芦屋南高校体育館を借用することを決定。  
グラウンド西門付近の盛土を撤去(仮設校舎建設時の車両進入に備えて)。
- 8日(水) 3年成績会議。職員会議。
- 9日(木) この日より、実質的に本校が避難所の管理運営の主体となる。
- 10日(金) 本校避難所の管理運営主体が、芦屋市から本校に移行するに当たっての、芦屋市災害対策本部との引継ぎ協議を、本校にてもつ。  
武庫高校職員が、本校と武庫高校との協議の結果、19:00～22:00、避難所に応援として入ることとなる。

《解説》この時期は、授業再開と避難所管理運営主体が芦屋市から本校へ移行する準備が重なった。校内の共通理解・体制作りのため奔走した。まずは新体制確立への経緯を述べる。

1月中の「避難所の世話」について、その体制、芦屋市・本校の姿勢は、すでに述べた。2月に入って、芦屋市の復興宣言が出され、事態が変化する中で、本校避難所の管理運営の主体を、本校に担ってほしいと云う姿勢は顕著になってきた。当初学校側は、あくまで補助的支援を惜しまないと云う姿勢を堅持しており、避難所から芦屋市の職員



が全面的に手を引くことについて、再三、再考を要望するも、芦屋市からの強い要請が段階的に出てきて、結果的に、本校が管理運営の主体を担うようになった。

1月23日に続いて2月2日に改めて募集した本校生ボランティアは、80人近く集まり、正式に本校生徒自治会の組織として「ボランティア実行委員会」を発足し、自治会長が委員長に就任した。1月23日以降、本校生ボランティアの指導監督の意味も含めて、生徒課教員を中心に随時避難所の手伝いに入っていたが、2月2日「ボランティア実行委員会」発足以降は、自治会指導担当部署の生徒課が、生徒課所属教員をやり繰りして継続的支援体制に入った。1月21日芦屋市災害対策本部より本校の避難所支援活動の補強依頼があったが、結果的にそれに応える形になった（生徒課としては主体的な行動であった）。

2月4日芦屋市災害対策本部より7:00～19:00の責任分担を学校が担うよう新たな要請があった。続けて1日置きに、22:00まで延長するよう要請があった。すでに、生徒課は継続的計画的支援体制を組んでいたため、飽くまで支援体制の拡大として、了解した。当時避難所では避難者の班分けが出来ており、ようやく班長会議（リーダーミーティング）が開かれるようになっていた。班長会議は、避難所運営の効率化・円滑化に欠かせないものであるが、当時の班長会議は、運営に対する不満、芦屋市への要望等の内容が多く、市当局の担当者でなくては対応できない場面が多々あった。1日置きに22:00まで学校が責任分担を担う要請を了承したのも、班長会議のない日、つまり班長会議の運営は市当局の担当者が責任を持つことを前提にしたものであった。

ところが、3日後、2月7日には、芦屋市災害対策本部より、市の方針として災害対策本部に加え災害復興本部を設置するに当たり、市の担当者を本来業務に戻したい、ひいては2月9日より学校に避難所運営の全般を引き受けて欲しい旨の依頼があった。

避難所の運営手伝いに市当局の派遣で入っていた人員は、市当局の担当責任者に加え、精道保育所の保母さん達がいたが、保母さん達は直接運営に関わる判断は出来ない立場で、輪番制の宿泊業務も含めた献身的な活動をしていた。

市当局の学校への依頼は、市当局の担当者を引き上げるに当たって、保母さん達の業務を当分間続けること、加えて芦屋市と提携で宿泊業務も含めた支援体制を組んで応援に来る四条畷市の市職員の方々を、新たに手伝いとして避難所に派遣するので、避難所の管理運営の主体を学校が担って欲しいと云うことであった。当然、班長会議の運営も含めてである。

市当局と学校の責任者間で、この件は了解されたが、翌2月8日にこのことを聞いた生徒課は慌てた。班長会議も含めた管理運営の主体を担うことは、飽くまで支援の拡大で組んでいた体制を根本的に変えなければいけない。つまり、7:00～22:00までの避難所の動きを熟知し、外部との連絡調整、市当局との交渉等を行い、班長会議での避難者からの要望処理、時にはお願い、ひいては避難者達の自治運営の育成等、を継続的に当てることを意味し、そのためには、当番制では不可能であり、どうしても固定した専任者が必要になると云うことである。しかも、勤務時間は7:00～22:00、当分休暇を取れる見通しはない。学校は、やっと授業を再開したばかりで、交通機関の遮断、自宅の被害等で、十分な形で、職員が勤務出来る状態ではなく、学校復旧のための諸々の業務も山積しており、避難所を主体的に責任をもって運営するための専任の職員を配置する余裕はなかった。また専任の職員に誰を任ずるかも難しい問題であった。新たな体制を組むための十分な協議をする時間的余裕がない中で、結果的に、生徒課より専任者二名・準専任者二名を出す、生徒課外より実習助手1人を専任者に加える、全教員が当番制で1週間一回三時間程度手伝いに入る、と云う体制で臨むことになった。加えて、本校と武庫高校との協議により武庫高校職員が19:00～22:00、応援として入ることになった。これを期に、依頼を受けて可能な者が了解していた学校での宿泊勤務も、基本的に全職員による当番制に移行する方向に進んだ。



授業再開に向けての校内の動きを、職員連絡メモの転載で伝えたい。なお、この職員連絡メモは、当時の教頭の労作で、非常時の情報の共有化と共通理解を図るために、ほとんど毎日出されたものである。また職員打ち合わせ会が毎日持たれ、年度末まで続いた。

H. 7. 2. 1 職員連絡メモ

1 本日の日程。

- 10:30 職員打ち合せ。
- 11:00 1年生HR。
- 12:00 2年生HR。
- 13:00 学年会議。

2 当分の間の校時表。

省略。1月31日「職員連絡メモ」の2参照。

3 2月1日の指導内容

- ①出欠確認。
- ②清掃・机の調整。
- ③生徒個人別現住所等被災状況票の作成。（一覧表作成、連絡網作成）正確に生徒に記入させる。  
\*被災状況の個人情報、その後コンピューターにインプットされ、授業料減免・奨学金・個人面談・心のケア等の基礎資料として、活用された。
- ④授業料減免・定期券申し込み。\*避難場所の関係で定期券の必要な生徒への対応。
- ⑤立入禁止区域の徹底（南・中館、本館トイレ）。
- ⑥ゴミ等の処理指導。
- ⑦黒板の使用。  
教室 前 南側 2年  
後 南側 1年  
後 北側 武庫高校 \*一つのHR教室を3部で使用する上での配慮。
- ⑧生徒駐輪場 グランドクラブハウス前。 \*自転車通学を全面許可していた。
- ⑨部活動 当分の間自粛。

●避難住民の皆さんへの配慮の指導を宜しく。

●避難所への本校生ボランティアの募集。志望者は2月2日12:30大教室に集合。（1月23日、29日にすでに応募している者も改めて集合のこと。）

●注 2年生のHR教室（中館）入室について

中館への教科書等の取出しについては、HR終了後、学年で時間設定して短時間に取り出す。

13:10~13:30

4 各課連絡事項

①総務課 3学期行事予定の一部変更。

- 仮設トイレ 本館北に設置の1~21を男子用  
バックネット裏の22~34女子用
- 緊急放送使用禁止。



2月16日 3年生登校（1年生は1限授業）

②教務課

1・2年生の出欠・評価等の取扱いは後日教務課より。

授業の補講（3学期分）については検討中。

③生徒課

授業料減免・奨学金等の取扱 1/28担任メモ参照。

自治会予算について

(1)1/17以前の領収書のあるものについては支出可。

(2)その他は凍結。

(3)すでに予算交渉が終わっている平成7年度予算は、60%カットで編成（収入減・緊急支出体制・柔軟な対応）。

避難所ボランティア2/2在校生より再募集、自治会執行部中心に正式の自治会特別委員会（ボランティア実行委員会）として活動。

「芦笛」卒業生特集のみ予定通り発行予定。

平成7年度自治会行事について

(1)対県西定期戦（延期あるいは中止、県西と協議）検討中。

(2)記念祭（実施時期・日数）検討中。

自転車通学当分の間認める。

部活動 校内の活動は当分の間自粛、いち早い再開を工夫、校外は奨励。

④進路課 県下一斉模試の集計よろしく。

⑤図書課

2月6日（月）～7日（火）図書館の整理復旧 各学年職員2名、学年外職員2名、計6名で書架復旧作業。 \*書架復旧ままならず。

H6年度「あしたづ」発行予定。

⑥保健課 学校保健委員会中止。校医の先生宅被害。

5 重要物品の取扱について

①南館からの取出しは、職員で計画的に取出し、中館1階教室に保管。（国・県費の物品のうち、破損物についても保管）

②全館の備品破損調査について、2月4日（土）までに事務室へ提出。

6 旅費及び課外活動委託料執行計画の調査について（依頼）

7 24時間体制

2月6日以降は学年外を中心に体制を作成、協力よろしく。

\*実際は、避難所管理運営主体が学校に移行するに伴い、根本的に新体制となる。前述。

8 今後の見通し。

①仮設校舎について

平屋18教室（テニスコート6×2棟・トイレ2、バレーコート2×2棟、グラウンド2）4月7日までに。

\*実際は、選択授業のための追加要求が通り、グラウンド4となり、計20の仮設教室建設。

特別教室 理科、芸術、家庭科、等は4月以降。\*実際はグラウンドに9月末完成。



②食堂について。 業者撤退申し入れあり。

\*実際は、応分の値上げを認めて、新年度より学校食堂再開。食堂は避難所になっており、食堂再開準備も含めて、早々に食堂から、避難されている方を他所に移動いただくのが、当面の課題となった。

続けて、この時期の取組の主なものを解説する。

転出生徒が続出した。正式転出、聴講生扱い（在籍本校）等まちまちだが、受け入れ体制は、他府県含め到って好意的。授業再開に際して、出欠確認の徹底を図る。成績・出欠数の取り扱いは、原則的に1・2学期の資料で行なうこととし、3学期分は配慮する。2月1日を起点に出欠確実に。1・2学期とは別枠扱いとする。出席率は以下の通り。

出席率	1年出席率		2年出席率	
	*注 分母が変わるのは転出生（在籍本校扱い含む）があるため。			
2月 1日（水）	298 / 356	82.6%	352 / 400	88.0%
2日（木）	321 / 356	90.1%	340 / 400	85.0%
3日（金）	326 / 356	91.5%	316 / 395	80.0%
4日（土）	314 / 356	88.0%	289 / 385	75.0%
6日（月）	330 / 356	92.7%	319 / 385	83.0%
7日（火）	310 / 341	91.0%	313 / 385	81.0%
8日（水）	316 / 341	92.7%	321 / 385	83.0%
9日（木）	319 / 341	93.5%	310 / 385	81.0%
11日（金）	317 / 341	93.0%	309 / 385	81.0%

\*転出生徒（在籍本校含む）の内訳は、資料欄参照。

以下この時期の取組・連絡事項の主なものを列挙する。◆授業料減免・奨学金等の情報を収集し、取り組みを強化する。◆生徒の保護者・同居親族の震災犠牲者調査。これは自治会弔慰金のためが直接の目的、加えて生徒の状況把握に活用。◆生徒の被災状況調査（被災状況、現住所、その他）の個人データは、別途すでに整理されつつあった。◆逝去生徒3名の弔慰は、ご家庭の事情に合わせて、学校長・学年を中心に随時行なわれる。◆授業中の余震指導として、予想される最大規模余震でも本館そのものの崩壊はないだろうと云う判断から、机の下にもぐる、で指導を統一する。◆卒業式についての調整は次の通り、[①場所/県立芦屋南高校体育館（決定）、日程/2月25日（土）予行・準備、27日（月）本番（仮決定）。\*県立芦屋南高校の都合、27日甲南大学入試で100名前後受験等の理由で、その後（2月8日）3月1日本番に決定。当日は普段着で参列を指導。②卒業記念品の確定。3学年と協議。] ◆連絡網の整備。◆職員の單車・自転車置場（中館北側）の確定、整理。◆職員の更衣ロッカーの移動、設置場所（本館1階廊下）の確定。◆印刷室の整備。職員室談話室の整備。◆清掃指導。◆南館より物品の持ち出し、保管。◆全館備品破損調査（4日、事務まで）、公立学校共済組合・学校厚生会の被害状況調査（事務）。◆重要物品搬出（図書）の動員。◆学校宛救援物資受け取り、相手先の記録、おってまとめて礼状発送の準備。学校宛義援金の取り扱い、当面事務長一任。◆学校被災の記録を残すための分担。◆3年生・浪人生の進路先の集約、県下一斉模擬テストの集約。◆校医の先生方の被災状況報告（2月3日、半・全壊/中村内科・富永外科・上塚耳鼻科、損傷比較的軽微/橋本歯科・安並眼科・小池薬剤師）。◆学校洗濯機の活用（友人・知人の方は連絡の上土日に）。◆郵便物、災害用無料（2月18日まで）の案内。◆卒業判定会議（8日）、1・2学期の資料で、被災を考慮して。◆本校職員による炊き出し（7日）。◆他高校の被害状況（1月30日現在、明石南・御影・夢野台・神戸北・神戸甲北・伊川谷・



鈴蘭台・鈴蘭台西・神戸商業・県西・西宮北・県芦屋・武庫工業・伊丹北・宝塚西、仮設校舎が必要な学校10校)。

◆芦屋市被災状況(2月6日19時現在、避難者数7652・避難所数54・死亡者数397・全壊2543・半壊1519・一部損壊3182・負傷者数2759)。  
◆被災体験作文指導、当初1・2年生原則全員授業中に作文する方向で提案されたが、意見が分れ、学年判断で、自宅で作文し提出の形をとる。全クラス対象とはならなかったが、生徒自身が震災を克服することを期待する効果だけでなく、その後の生徒指導にも役立ち、さらに貴重な資料ともなった。

- 11日(土) 建国記念の日
- 12日(日)
- 13日(月) 生徒被災状況調査現時点集計で。生徒死亡3人、家族死亡17人、全壊91人、半壊164人。  
本館水洗トイレ使用禁止(市下水処理施設故障のため)  
校務運営委員会。
- 14日(火) 本館水洗トイレ使用再開。  
午前1年・午後2年、各2限授業から各3限授業に、2月27日より増やすことを決定。  
職員会議。  
高校入試事務に対する体制を整える。  
転学希望者集計一覧、教務より再度出る。現時点28名(在籍本校含む)。  
「避難されている皆さんへ」学校運営、クラブ活動再開に向けて、避難所生活を最優先にしながら、出来る範囲で、避難住民による避難所の自主的運営、学校教育活動への協力をお願いする内容の文書を、避難所リーダーミーティングを通じて配布する。
- 15日(水) 被災者用仮設給水所をグランド東中程に2箇所設置(芦屋市の依頼による)。
- 16日(木) 北海道旭川農業高校3年生より本校生へ激励の手紙届く。学校宛の義援金、救援物資等は随時届いていた。  
事務長が一括管理。
- 17日(金) 「全県民による犠牲者への黙禱」正午1分間。  
全教員による新体制の避難所世話当番表(宿泊勤務当番表含む)が出る、3月23日まで。  
避難所の児童生徒の勉強室(食堂の一角)設置に伴う電気スタンドを、校内より借用を呼掛け集める。  
かねてよりコンピューターにインプット作業をしていた生徒の被災に関する個人情報が集約される。
- 18日(土) 部活動再開に向けてミーティングを実施。文化部活動場所の確保(本館教室を放課後時間を区切って使用する工夫)、運動部は出来る限り工夫して校外での活動を奨励する。
- 19日(日) 学生救援隊その他ボランティア団体が主催する「復興フェスティバル」が本校テニスコートで開催される。
- 20日(月)
- 21日(火)
- 22日(水) 震災による3年の死亡生徒(下川麻紀)の卒業を認定(1月16日付)。  
校務運営委員会。
- 23日(木) 震災による授業料減免者数、現時点、1年71人・2年65人・3年13人。  
県立芦屋南高校との調整完了し、3月1日10:30より県立芦屋南高校体育館にて卒業式を行なうことが決まる。
- 24日(金) 校務運営委員会。職員会議、避難所担当職員より避難所の報告、担当者としての感想、担当者選出の再検討の依頼(少なくとも新年度の校内人事では白紙より考えて欲しい)等の発言あり。



グラウンド仮設校舎建設に伴う、グラウンドの自衛隊テント・車両の移動、避難者車両等の移動整理の必要から、避難者の車を登録制とし、グラウンドの適所に駐車場を指定の上、移動の依頼をする。27日までに完了する。

25日（土） 仮設校舎建設着工（普通教室20室分とトイレ2、テニスコート12+トイレ2・バレーコート4・グラウンド4）。

芦屋市による臨時給水所設置（15日）のため、自衛隊給水車による給水終了。

芦屋市災害復興本部と協議をもつ。避難所での電気毛布等電気器具（県民局より支給）使用のため、仮設受電設備を芦屋市災害復興本部の責任で体育館に設置（2月末より工事を開始、3月8日に完了）を確認。学校運営の正常化を訴え、市の今後の方針を問う。最終的には避難所を市社会教育施設に統合し、学校施設の回復を図る旨の方針を確認。本校テニスコート仮設教室に併設される水洗トイレ使用のための給水管を、市の方で埋設工事をしてもらえるよう要望し、了承を得る。

26日（日） 芦屋市合同慰霊祭（県立芦屋南高校体育館）。

本校関係犠牲者（同居家族含む）1年生8人、2年生4人、3年生8人。

27日（月） 3限授業・2交替制実施。

避難所での電気毛布等電気器具（県民局より支給）使用のため、仮設受電設備を体育館に設置（芦屋市災害復興本部）。

運動部・文化部幹事会開催、3月より校内での部活動解禁を伝える。

28日（火） 卒業式会場設営（県立芦屋南高校体育館）。

芦屋市より本校避難所に派遣されていた四条畷市職員が、撤退する。

《解説》交通機関の遮断、被害自宅の処理、授業時数激減による教科指導の遅延など、通常の学校運営体制が組めない職員のストレスは、徐々に高まっていた。避難所の運営主体が学校に移行して以降、生徒課が中心になってその任に当たっていたが、併せて組まれた全職員当番による応援体制は、授業が再開した学校運営の面から、少なからず負担になっていた。避難所専任者も、避難所運営上のストレスは日々増大していった。こういう状況下で、全体を見渡せ、組織が有機的・協力的に動けるのは、かなり困難なことである。ともすれば視野が狭くなり、自分の置かれている立場からの狭小な言動が出たりする。職員間の軋轢、意見の食い違い等も出始めていた。動ける者と動けない者、動く部署動かない部署、どうしても動ける所に仕事が集まってしまう不満等が、水面下で蓄積していった。しかし、結果的に不満や軋轢が表面化しなかったのは、本校職員組織の総合的力量に負うところが大きかったのは言うまでもないが、学校長のリーダーシップの下、現場での陣頭指揮を執った教頭の存在が大きかった。避難所運営の主体を本校が担うことになり、それは本来市当局が責任を持つことだと云う筋論をいくら主張しても実現しないなら、学校運営の円滑を図る上でも、避難所のスムーズな運営は欠かせない。幸いにも、いち早く学校指導の下に入った本校生ボランティアの活躍は、避難者の方々から、大いに好感をもって歓迎され、本校職員との信頼関係も着実に構築されていた。本校生ボランティアの果たした役割は大きい。しかし、4月になって、授業が通常に再開されたら、物理的に現体制を続けることは不可能である。この頃から3月にかけて、4月からの避難所運営体制をどう組むかが大きな課題となり、避難所担当職員と管理職との対策協議が随時持たれた。その経緯は3月の解説で述べる。

一方、生徒のストレス増大も気になるところであった。表面的には通常と変わらなかったが、各家庭の事情に加え、変則授業、校内での部活動の自粛等、授業の遅れや部活動でエネルギーを発散出来ない不安や不満は、少なからずあるであろう。当面校内での部活動は、活動場所等の関係で物理的に無理であろうが、運動部のなかで校外練習試



合、グラウンド等の借用が可能なクラブは出来るかぎり工夫した。

### 【3. 3月1日～3月31日】

- 1日(水) 卒業式(県立芦屋南高校体育館で実施)。  
校内での部活動の解禁(実際は審査前なので審査終了後の9日より)。部活動一部本格的再開(さくら銀行グラウンド等借用)。  
避難者用の駐車場移動。(放置分)  
避難所で宿泊勤務をしていた市立精道保育所の保育さん方の宿泊勤務がなくなり、夕刻から20時前後までの勤務になる(3月9日に保育所再開のため完全撤退)。  
芦屋市より本校避難所に、岐阜県可児市の応援職員が2泊3日交替体制で派遣され、宿泊もする(3月17日までの予定。\*実際は3月末日まで延期。)  
3月17日以降芦屋市より派遣される避難所運営応援者が皆無となる事態に対して、芦屋市職員の本校避難所での常駐を、芦屋市災害復興本部に要請するが、前向きな回答なし。  
4月以降の通常授業に際し弁当を持たない生徒の食事保障から、食堂業者に新年度よりの食堂再開を申し入れるが、震災以前の利用度が低く採算ベースに合わないこと、加えて道路交通規制により食材搬入が困難なことを理由に営業辞退の回答あり。この日、臨時校務運営委員会を開き、全商品20%値上げを限度に業者と再協議に入ることを決める。結果的に、後日、学校から芦屋警察署に食堂業者車両の通行証発行を依頼(実現)する条件を加えて、新年度より営業を再開することとなった。
- 2日(木) 仮設教室建築のためのグラウンド杭打、早くから予告しても放置されてある車(近隣住民のもの)を、自衛隊に協力してもらいグラウンド隅に強制移動する。  
印刷室整備。
- 3日(金) 美化倉庫整備。
- 4日(土) 本校生ボランティア活動について、「高校生は今」(AM神戸)で放送。  
本年度クラブ予算の執行締め切る(1月16日以前分、以後は凍結)。
- 5日(日)
- 6日(月) 校務運営委員会。  
新年度のPTA・自治会予算等の、震災による授業料減免者増加に伴う大幅減額の予想数値(25%以上の減)が出る。授業料減免者数(2月6日現在、新1年生は願書受付時中学校長が減免対象者と認定した数)新1年102人、新2年79人、新3年81人。  
3学期授業実数の実態の報告、1～3月の予定授業時数196、震災による実数71。授業時数回復の手立ての検討。
- 7日(火) 自衛隊北海道部隊活動終了、撤退。  
芦屋市技監・教育次長と校長・教頭が本校避難所運営の今後の対応について協議する。本校としては、避難所の運営を責任をもって行なうための教員の専任配置を、新年度以降通常の学校運営が始まる中で、分掌上どのように工夫すればよいのか苦慮する。
- 8日(水) 学年末考査(～9日)。



- 9日(木) 部活動実質再開解禁。  
校務運営委員会、職員会議。7年度校務分掌希望調査。  
市から避難所に応援職員として派遣されていた精道保育所の保母さん達が、保育所再開のため、本日をもって完全撤退する。
- 10日(金) 厚生会被災会員生活再建物資申込締切。
- 11日(土)
- 12日(日)
- 13日(月) 成績締切、出欠は1月16日分までの数値を報告。2月2日以降の出欠は成績会議で(14日)説明する。  
芦屋保健所による避難住民への講話(19:00大教室)。  
避難所リーダーミーティングにて、4月以降食堂を再開したいので、その準備のため、加えて教科書販売の場所に使用等、新年度へ向けての各種学校行事にも使用したいので、3月17日までに食堂におられる避難住民は剣道場へ移動して欲しいと云う依頼が了承される。食堂再開後は避難されている方々も利用頂くこと、食堂のスペースを空いているかぎり避難所で有効に活用して頂くことも決まった。その後食堂は、学校使用、避難所勉強室、各種イベント会場として活用された。
- 14日(火) 成績会議・職員会議。
- 15日(水) 入試会場設営。  
自衛隊医療班活動終了、撤退。(3月末まで市医師会の救護所が体育館に開設。)
- 16日(木) 入学者選抜学力検査(高校入試)。
- 17日(金) 校務運営委員会。新年度よりの校時表を、交通機関の回復状況を勘案しながら始業時間を中心に検討。  
JR神戸線4月1日開通の情報を頼りに、8:40始業、6限授業とする。  
生徒集会室(食堂)の避難者、剣道場へ移動(一部19日午前中までずれ込む)、食堂再開準備に協力する。
- 18日(土) 本校生ボランティアによる避難所大掃除。
- 19日(日) 合否判定会議。  
避難所食堂の避難者、剣道場へ移動完了。
- 20日(月) 合格者発表。
- 21日(火) 春分の日。  
本校生ボランティア、一般ボランティアも含め、避難所で活躍していたボランティアを、全て本日で終了とする。すでに撤退していた精道保育所の保母さん方も招いて、グラウンドで打ち上げ会を開く。
- 22日(水)
- 23日(木) 終業式。  
職員会議。7年度校務分掌一次発表。新たに避難所担当部署が独立して設けられる。避難所担当として専任1名、準専任2名、補助応援2名が決まる。この体制で、避難所管理運営は、学校運営と基本的に切り離し、他の職員の避難所世話当番は全てなくすこととする。当番職員による宿泊勤務体制終了。  
19:00~22:00の武庫高校職員の応援、終了する。
- 24日(金) 春季休業に入る、生徒休業。
- 25日(土) 生徒休業。
- 26日(日) 生徒休業。
- 27日(月) 生徒休業。



28日（火）	生徒休業。
29日（水）	生徒休業。
30日（木）	生徒休業。
31日（金）	仮設校舎完成。 可児市職員による避難所受付業務等の応援派遣、本日をもって終了。 全職員による避難所世話当番、本日をもって終了。以後、避難所専任者が、避難所管理運営の一切を担当する。

《解説》新年度を間近に控え、避難所専任を新年度校内分掌上どのように位置付けるかが大きな課題となってきた。通常の授業・職務が再開される中で、職員の空き時間等を使って、当番制で避難所の世話に当たる体制は、避難所の運営上も、学校運営上も好ましくないことは、今までの経験上明白であった。校内分掌に避難所専任を新たに設け、学校運営とは基本的に切り離す、避難所専任以外の職員は避難所運営の心労から離れ、それだけでなくも仮設校舎での授業等困難が予想される学校運営に専念する体制がベストであった。もちろん市当局より避難所運営専任者が派遣されるのが一番よく、市災害復興本部との協議でも、それを強く要望したが、実現の見通しはなかった。

避難所専任者を校内分掌に位置付けるには二つの大きな課題があった。人的補充と誰が当たるかである。人的補充は、学校長が実情を県教育委員会に訴え、避難所専任者が抜けた後の職務を他職員が負担せずすむ補充体制を整えた。これは大きかった。次に誰が当たるかは、新年度校内分掌の原案を検討する人事委員会に委ねられたが、難航した。最終的には、すでに非常事態の中で、臨時的に避難所専任に当たっていた生徒課職員を中心に、任せられることになった。

校内の新年度へ向けての体制が調整されつつある一方、市当局との協議も行なわれ、学校側の要望が一部受け入れられ、次のような調整で決着した。①引き続き避難所の管理運営の主体は学校が担う。②但し、3月9日、市より避難所に応援職員として派遣されていた精道保育所の保母さん達の完全撤退、3月末日の可児市職員による避難所受付業務等の応援派遣の終了をもって、市から派遣されている応援職員はゼロになるが、4月以降は、市の方から臨時嘱託職員を派遣し、昼間の受け付け業務の応援と夜間の宿泊業務に当たる。

新体制が3月23日の職員会議で確定し、順次全職員による当番制も終了していった。併せて、武庫高校職員の応援も終了した。4月以降、学校運営とは基本的に切り離される形で、本校避難所専任者と市の嘱託職員の応援で、避難所は運営されることとなる。然るべき筋論はともかく、結果的には、実現可能な体制として最善のものであったろうと思われる。

この時期、避難所運営の主眼は、避難住民の自立・自治の援助と学校運営の協力を依頼することであった。本校避難所専任者と避難所住民との着実な信頼関係の構築を背景に、自治的運営の拡大、学校運営に協力的な雰囲気が増大が醸成されていった。仮設校舎建設に伴う駐車場・駐輪場の制限、食堂再開準備に伴う食堂居住者の剣道場移動等、概ねスムーズに運んだ。共同生活者としての仲間意識も育まれてきており、救援物資の充足化、配給食物の漸進的向上、炊き出しテントの常設、自主炊き出しの恒常化、救援電気器具の補充等、避難所生活の相対的な向上とともに、当初の寒々とした雰囲気から、不便で快適からは程遠いとはいえ、生活の場としての安定感が生まれつつあった。3月下旬には第1次仮設住宅の入居者の発表もあり、移動先が決まって避難所を出ていく人も増えてきたが、その一方、先行きの不安、精神的ストレスの蓄積等、避難所運営の眼目は、物理的配慮から精神的配慮の必要度を増していった。しかし、一部トラブルはあったものの、リーダーミーティングはいたって常識的な結論が出る場であり、全体として避難されている方々の生活ぶりは、大いに良識に富むものであった。



4月からの新年度を迎えるにあたって、3月中に決定しておかねばならないことが幾つかあった。

授業時数の確保は大きな課題であった。春季休業日を繰り下げ案もあったが、特別時間割り下での授業時数確保より、4月1日JR開通後、新年度よりの通常時間割りの中で工夫する方が実質的だとする意見が大勢を占め、4月当初の始業式を繰り上げるとともに、7月の授業時数を増やすことにした。この決定は7月の球技大会を中止することと連動している。

変更を余儀なくされる行事の検討・決定も行なわれた。

6月に行なわれている記念祭は、震災後のクラブ活動、特に文化部の活動状況からみて実施は不可能だし、文化部公演の会場であるルナホールが最低1年間は使用不可能なこと、加えて授業時数確保の上からも、9月下旬に短縮して行なうことにした。

5月に行なわれている対県立西宮高校定期戦は、当初会場の西宮総合体育館が使用不可能なこともあり、中止含みの延期が検討されていたが、当番校である県立西宮高校が会場を伊丹スポーツセンターに換え、実施の方向で申し入れてきたこともあり、本校としても、生徒の活力、運動部の活性化の観点から、生徒の移動等多少困難を伴うが、是非実施しようということに決まった。

震災以後、臨時的処置として、自転車通学を全面的に認めていたが、4月以降、原則禁止一部許可制に戻すかどうか協議された。従来、原則禁止一部許可制の下、放置自転車指導は困難を極めていたが、復興工事が続く近隣への放置自転車の迷惑を避けるため、また校外に練習場所を求めざるを得ない運動部の自転車による移動の必要性、さらに仮設校舎建設に伴いむしろ自転車置場が確保出来ること、臨時的な全面許可期間の自転車通学者数がさほど多くないこと等を考慮して、保険加入を条件に、新校舎完成グラウンド等復元にいたる2年間をメドに、届け出制に変更することに決まった。因みに、県教育委員会を通じて運動部練習場所として長期借用を申し入れていた、さくら銀行芦屋グラウンドが、借用できることになった。

本校生徒によるボランティア実行委員会は3月21日をもって終了した。中心になっていた自治会執行部が新年度に向けて本来の活動に戻る必要があったし、参加生徒も4月からは通常の授業が始まりクラブ活動も本格的に再開されるからだ。これを期に一般のボランティアも全て終了した。新年度からは各クラスよりボランティア委員を選出し(希望者)、放課後必要に応じて、避難所の手伝いをする事とした。実際は手伝いの必要はいたって少なかったが、この委員会がその後「いきいきハイスクール推進事業『芦屋市被災模型』制作」の当初の母体となった。

臨時的処置として上履きが廃止されていたが、本館と仮設校舎間の移動が頻繁に行なわれることから、新年度以降も引き続き上履きは廃止することになった。本館1階職員室前の下駄箱はすでに撤去されていたが、そこに学年ごとの掲示板が設置されるなど、その空間が有効利用されるようになった。

なお、2月以来続いていた朝の職員集会続行の検討は4月に持ち越され、4月当初協議の結果、3月末で終了することとなった。

以上1月17日から続いていた非常時体制は、仮設校舎使用(特別教室分は10月以降使用)、グラウンド一部を除き使用不能、体育館・柔道場使用不能(5月28日まで、体育館2階フローア・柔道場は5月21日より使用可)等の不備はあったものの、また当面避難所併設が続いた(5月28日閉所)が、4月より、一応通常に近い体制に正常化されることになった。



【4. [新年度] 4月1日～9月30日】

- 4月1日(土) 校務運営委員会。
- 4月5日(水) 職員会議、各種会議。  
フジテレビ「ニュースジャパン」にて、「芦屋高校物語シリーズ」その①「ぼくたちの震災」が、放映される。
- 4月6日(木) 始業式・入学式(授業時数確保のため繰上実施)。避難所一同より、本校入学式に立花の寄贈有り。
- 4月13日(木) いきいきハイスクール推進事業(副題「震災に学ぶ」)として、「芦屋市被災模型」の制作と「震災の記録集」編纂に取り組むことが決まる。  
\*計画書提出後、県教育委員会からの計画通りの実施承認は5月26日。
- 5月上旬頃 本校が「平成7年度兵庫県南部地震被災児童生徒教育相談研究指定校」に指定(公文書日付は3月31日)され、その任が、避難所専任者が当たることに決まる。  
\*昨年度末、新年度に向けて避難所専任者体制を整えるに当たり、学校長が県教育委員会に人的補充の要望を出し了承されたが、その人的補充の名目として、この研究指定校に任せられた。  
避難所にて、避難所生活に関するアンケートを取る。  
\*資料欄参照。
- 5月10日(水) 対県立西宮高校定期戦。(於/伊丹スポーツセンター)  
\*運動部の苛酷な練習環境を反映し、本校が久しぶりに負ける。
- 5月13日(土) 県立芦屋高校避難所大親睦会。  
\*4月以降避難所運営は順調に進んだ。仮設住宅等に転出する方も順次増え、5月末までには閉所の見通しも立った。避難されている方々が、ボランティアや学校への感謝の念と、ここで知合った人々との別れを惜しみ、共にこれからも頑張ろうという趣旨で、大親睦会を4月中旬に計画、本校避難所に関係のあった人々に呼び掛け、本日開催された。市長や県議も出席し、延べ300人に及ぶ参加者を得て、体育館食堂を会場に、大々的に開催された。この時用意された料理は全て避難者方の手作り、費用もかねてより避難者方自身で集められていた募金で賄う。参加者から会費は取らないが、カンパを募り、収益金が出た。この収益金は、リーダーミーティングで、学校に贈る感謝の記念品に充てると決まり、協議の末、記念銘板を作り、体育館1階入り口に設置することにする。
- 5月28日(日) 県立芦屋高校避難所閉所(17:10)。  
\*閉所に先立って、柔道場及び体育館2階におられた方々が、総合体育大会前に少しでも運動部に施設を使用させてやりたいと云う学校の要望に応じ、体育館1階剣道場に移動、5月21日より柔道場及び体育館2階フロアが学校通常使用可能となった。閉所は概ね穏便に迎えることが出来た。ほぼ全員の方が移動先(仮設住宅等)が決まり、移動の段取りがついた後の閉所であった。
- 6月上旬頃 「震災対策委員会」設置、4月1日に遡って分掌上位置付ける。  
活動内容は①避難所管理運営、閉所後の後始末。②教育相談(特に被災生徒の心のケア)研究推進、「平成7年度兵庫県南部地震被災児童生徒教育相談研究指定校」としての調査研究の推進。③震災の記録(いきいきハイスクール推進事業実行委員会を兼ねる)。委員会の構成は避難所専任に若干の協力者を加えて組織する。
- 6月1日(木) 「芦屋市被災模型」の制作、本格的に始める。  
\*資料欄参照。



- 6月7日(水) 特別教室仮設校舎建設着工。
- 6月27日(火) フジテレビ「ニュースジャパン」にて、「芦屋高校物語シリーズ」その②「それぞれの再出発」が、放映される。
- 6月28日(水) 教育相談のあり方についての職員アンケートをとる。  
\*資料欄参照。
- 6月30日(金) 仮設校舎空調設備設置工事完成。
- 7月上旬頃 生徒対象「心のケア」アンケートをとる。  
\*資料欄参照。
- 7月17日(月) 期末考査～21日(金) (授業時数確保のため繰り下げ実施)。
- 7月18日(火) 専門家講師を招いて職員対象教育相談の研修会を持つ。
- 7月21日(金) 考査終了後、終業式。
- 7月28日(金) 「教育相談」に関する職員研修会を開き「心のケア」アンケート結果の報告をする。
- 夏季休業中 「芦屋市被災模型」の制作に汗を流す。
- 9月2日(土) 新神戸オリエンタル劇場にて、本校演劇部卒業生劇団「傲漫」による、本校避難所をモデルにした芝居「パンク直します」が上演される。避難所におられた方々もたくさん観劇され、好評を博す。
- 9月14日(木) フジテレビ「ニュースジャパン」にて、「芦屋高校物語シリーズ」その③「それぞれの秋」が、放映される。
- 9月21日(木) 「芦屋市被災模型」完成。  
県立芦屋高校避難所一同より記念銘板を寄付、体育館1階入口壁面に設置。
- 9月22日(金) 記念祭。～23日(土) 「芦屋市被災模型」展示、一般公開する。
- 9月30日(土) 特別教室仮設校舎設置工事完成。  
震災の記録集「復興をめざして ～県立芦屋高校 震災の記録～」編纂作業本格化する。

〈編集・解説／金延重光〉



## II. 避難所関係

### 【1. 県立芦屋高等学校避難所 日誌】

年月日	曜日	日数	人数	世帯	出来事	サービス	備考
95/01/17	火	1			午前7頃、開設。約100名の方が体育館2階フロアに避難 夜になり1000名を超す。順次体育館1階、柔道場を開放。 なお、開設当初の様子は体験文集、座談会等を参照		
95/01/18	水	2			県災害対策本部の依頼によりNHKテレビ設置 この前後、避難者数は最大1500名を超えたと思われる。		
95/01/19	木	3					
95/01/20	金	4			臨時電話設置		
95/01/21	土	5					
95/01/22	日	6			芦高避難所災害本部設置(武庫高 体育教官室)	外部ボランティア10名	
95/01/23	月	7	1100		地下水利用可	OBボランティア15名	
95/01/24	火	8					
95/01/25	水	9	627				
95/01/26	木	10					
95/01/27	金	11			発泡容器(尼崎市消費者協会)県民局 夕食時 味噌汁配布(コンロ、テーブルを用意)	物資-薬品、マスク-須本年昭 物資-老眼鏡-グラスアデル芦屋ラポルテ店-上西洋一 物資-米、ラーメン-谷口正雄 ボ-半場、上坂、避難者のケア)	市担当職員(畑、岩崎、永田、矢野、鳥越) 〇〇さん自衛隊により芦屋病院に入院
95/01/28	土	12			県本部-第2次避難所への移転の意向調査(29日回収) 体育館2階マイク設置、2階入口仮囲い 自治組織(更衣室-多田、剣道場-中山 22:10決定) 29日リーダー会議	物資-自転車(調布市より29日発) 炊出-豚汁-阪神県民局、自衛隊 物資-自転車15台-調布市青年会議所 物資-買物カート-金商(株)	〇〇、◇◇さん-和風園へ
95/01/29	日	13			リーダー会議-人数少なく流会、プリント50枚で回覧 訪問-カウンセラー3人(芦屋保健所より心理状態について)	物資-菓子-立命館大学 物資-自転車2台-山下誠 物資-菓子、ノート-脇浜子供会 物資-米-日本臨床心理士会 物資-果物-南口みのもる 物資-菓子-大津クラブ 物資-カイロ-前田保彦 物資-卵-谷口逸史 炊出-豚汁-京都教会 物資-菓子-立命館大学 炊出-かす汁-阪神県民局、自衛隊	郵バック預かり
95/01/30	月	14			自衛隊-物資搬入 食事-550(昼-300) カセットコンロ(8ケース)自炊市民対象に配布(コンロ1、ボンベ3、住所氏名記入の上) 自治組織-卓球場(梅田) 発泡容器、割箸(コープこうべより納品)	炊出-八宝菜、-伊丹ボランティア 炊出-ぜんざい400-世界救世教 ボ-医療-スペイン気圧法-明大野田 物資-自衛隊 炊出-ぜんざい-京都協会グループ 物資-下着-柔道場-武田	高齢者病人の受入紹介-むつみ病院(京都市亀岡) 昼食準備(5、6人、〇〇さんの手伝い) ◇◇(うちみ)病院へ
95/01/31	火	15	658		山之内孝至(神戸高塚高校)2月1日より正式スタッフ 放送-館内のみ可(授業に関係なし)・・・実際は聞こえていた様子 昼食-200 グラウンド内の車に移動要請(2/1より自衛隊集結のため) ボランティアとの話し合い(a.県芦生のシフト表まだ、b.洗濯機について-4台以上ないと混乱?)	物資-洗濯機-同志社女子大学-プール入口に設置 炊出-ぜんざい500、こんぶ茶1000-浄土真宗僧侶ボランティア 炊出-おでん-県民局	インフルエンザ・ワクチン(~2/1、65才以上、400人分、精道小にて)
95/02/01	水	16	637		班分け-リーダー選出(自立へ組織づくり) 校内一斉放送-時間帯注意(「避難所の皆さんへ」と呼びかけ統一)	物資-カイロ、靴下-井出由紀 物資-生理用品、タオル-県芦サッカー部OB 物資-衣類-丸井茂雄 炊出-けんちん汁 炊出-シチュー-県民局 ボランティア-ショートステイ受入れ-滋賀県八日市市	
95/02/02	木	17	632		第2回世話人会(代表 野口 1-小笠原 2-久保 3-浜野 4-山口 5-小笠原 6-神田) 避難所での仕事 掃除 1階廊下トイレ-食、卓、剣 2階階段(外)仮設トイレ-2階 玄関、部屋トイレ-柔道 共通廊下、ごみ捨て-各階で 世話人通じて物資配布(均等に全員に) 飲酒の苦情ある様子-ご遠慮下さい ダスキン洗濯奉仕(水土、1家族下着1ネット)高齢者、障害者、乳幼児優先 衣料配布(夜8時、2F-5、柔-2、卓-2、食-1) 食事数-朝 夜550、昼250	物資-カイロ-藤原一成、山崎浩樹 ボ-コンタクトレンズのケア-くずはモール	



年月日	曜	日数	人数	世帯	出来事	サービス	備考
95/02/03	金	18	607		まめまきー7:30~8:00 食料品配布(缶詰等) 取材(読売新聞) 訪問(ボランティア申出-那覇青年会議所、有村) 物資-日用品、下着類(2/4仕分け-リーダー通じ配布) リーダー会議-1、警察の安否確認 2、洗濯について(2/6開始) 3、食事配分 中学校より生徒(8名)の昼食確保のお願い	物資-衣類-岡野昭治 物資-衣類-阪神百貨店労働組合 物資-カイロ-昭和法律事務所-明石法彦	
95/02/04	土	19	614		訪問(自衛隊 9:00)病院の炊出場でガス、水道使えたら暖かい御飯の提供可 市ボランティア委員会と世話人の話し合い(20:00 1階廊下) 取材(朝日放送、吉田) N T Tテレホンアシストよりフリーダイヤルのおこずけサービスの案内	物資-衣類-鹿目武 物資-横関太造 物資-富居由紀、永井真弓 物資-靴下-植村正一 物資-生理用品-P & G 物資-花-(株)クリエイト 物資-田中秀樹 物資-自転車12台-杉井敬介 物資-自転車12台-栗本義裕 物資-毛布、医療品-市橋クリニック-市橋研一 物資-衣類-林寛ゆき 物資-衣類-三島製袋(株)-下園雅人 物資-衣類-(株)角丸 物資-薬品-大湯村-伊藤博 物資-日用品-中川一夫 ボ-四条畷市-日比野、奥井、武田 ボ-四条畷市-武田、藤森、岸本	〇〇、◇◇さんの介護ボランティア 2/5 11:00来所(西宮YMCA)
95/02/05	日	20			分配-下着(L、LL)タオル、はがき リーダー会議 19:30~19:50 1、洗濯機の使用(2/6よりローテーション) 2、はがき配布1200枚 3、日用品(下着L、LL、タオル、洗面器、シャンプー)2/6~ 4、食事配布 18:00(残りは18:30に引き上げ) 5、カート貸出 6、ポータブルトイレ(子ども、健常者は使用禁止) 7、ごみだし-大袋利用 8、掃除当番-自主的に決定	物資-うがい薬4、ミネラルウォーター4本-福原一也 物資-衣類-松本武士 物資-衣類-藤村 物資-衣類-P L教団-松倉登 物資-軍手2ダース、カイロ30個-田沢伸太郎 炊出-豚汁、やきいも600人分、ぜんざい、シチュー-大阪青少年指導員-村上敏光 物資-栄養剤10本-高田真? 物資-マンガ本-藤本俊明 ボ-四条畷市職員-松本氏、他2名 炊出-豚汁、おでん-大阪市阿倍野区ソフトボールチーム有志-秀	
95/02/06	月	21	613		2/19 コンサートの企画の申入れ 県本部-「どこに避難しているか」パソコン通信に登録可(はがきで申込) リーダー会議 19:45~ 河原、富沢出席 復興フェスティバル案内配布 合唱ボランティア申出-会議で断る 消灯は市職員が行う(樋口君担当) おけ、シャンプー、リンス、せっけん配布	物資-ペットフード 物資-化粧品-(株)あみゆーれ-高田礼子 物資-衣類-川本 物資-カイロ、衣類、粉ミルク-コープ神戸 物資-もち、りんご、バナナ、-船井青年会議所-谷口文啓 物資-乾電池、ポケットティッシュ、金1000円-下村天伯 物資-衣類、毛布-吉住憲子 物資-衣類-小玉正樹	リーダー会議-〇〇さん(グランドの車上)、物資配布注意(柔道場に)
95/02/07	火	22	613		申出-川西明峰高ボランティア 物資-四条畷市 調査-入浴介護必要者(市ボランティア委員会、尾上、河合)2/8までに調査 リーダー会議-新避難者名簿作成中、点検を~2/10 洗濯を譲り合って シートが2/10に来るので高齢者中心に配布 要望-業務用掃除機、電源ドラム 会議の連絡事項をプリントで(B5を1枚) ストーブをロビーに 夜の電燈について	物資-菓子-続木千代子 物資-四条畷市 物資-靴-堀内慶子 -同志社女子大学短期大学部-坂本清音 物資-衣類-梅田幸子 炊出-かず汁-京料理 はま登久-藤本	当時、国道2号線は終日規制、国道43号線は0:00~6:00の間通行可 3:00 AM 芦屋高校教頭救急車で伊藤病院へ
95/02/08	水	23			2/3より管理運営体制変更(2/11午後 打ち合せ) インフルエンザ注射-13:00~15:00 自衛隊救護所 リーダー会議 19:45~20:15 物資係へ連絡-昼食にパンが大量(3000個)に届き、2/9朝食を300から200に減じるように連絡(後で)3000個のパンは県本部宛てのもの。1900は配布済み、残は物資係へ返却。 申出-カットサービス(メゾンポータ) 申出-子ども用アニメビデオ、テレビデオ2、ツタヤチェーン(2/11)に来所、場所事前確保 「四条畷市」「芦屋市民学生救援隊」体育館、部室を拠点に地域サービス実施	-そば-鹿目、有木 物資-トイレットペーパー、ティッシュ-柳生典子 炊出-コーヒースタンドサービス-UCC 物資-ミネラルウォーター20L、野菜-武庫川学院 物資-石鹸6箱、洗剤2箱-渡辺明美 物資-衣類-福井工業大学入試事務課 物資-衣類-北島均 物資-衣類、日用品、菓子-山根木材(株)-山根恒弘 物資-マスク12個-(株)リクルート-井口克美 物資-衣類-昭和51年卒業生 3C OG 炊出-おかゆ200食-ボランティア委員会	
95/02/09	木	24	571		エアークャップ(包装資材)量代り 300人分-同志社女子短期大学 2月12日~自衛隊撤退、以後炊出は県民局が引き継ぎ(2/10打ち合せ) 避難者数 448人182世帯(夜間の実数)	物資-電子レンジ-(有)エイゼット建工-大倉康寿 物資-エアークャップ(たたみがわり)-同志社女子短期大学 ボ-お絵かき-芦屋市ボランティア委員会	



年月日	曜	日数	人数	世帯	出来事	サービス	備考
95/02/10	金	25			<p>税務相談 10:30~16:00 近畿税理士会  申出-ビニールシート貼り(高齢者、障害者、母子家庭等)芦屋市社会福祉協議会  アンケート センバツに関して デイリースポーツ</p>	<p>ボ-相談-税務相談-近畿税理士会-吉岡房雄</p>	<p>盗難-〇〇さんの洗濯物(新しい下着)-リーダー会議で注意</p>
95/02/11	土	26	568		<p>プール洗濯場への入場時、足の泥を落とすこと  ダスキンの洗濯袋の配布(お年寄りの方にリーダーが声かけを)  訪問(ツタヤ小山-テレビ、ラジオ寄付の下見)1階廊下、柔道場に設置決定  ゴミに関して四條畷市が持ち帰る(缶ビン、その他に分別)  申出-老眼鏡(吹田市民ボランティア、高津)</p>	<p>物資-飲み物-木田  物資-下着-貫野邦夫  物資-テレビデオ-カルチュアコンビニエンスクラブ(株)-小山剛  炊出-おでん800食-自治労四條畷市職員組合現業評議会-林雅弘  -大和熱総本部-川上忠治  物資-本-吉岡てい子  物資-衣類-桑田  物資-下着-阪急百貨店労働組合  物資-ポリバック-佐藤鉄工  物資-体温計2、りんご15、カイロ5-鶴田幸恵他4名  物資-靴、ブーツ-森田  物資-灯油、ストーブ-神田百隆  物資-ウエットティシュー、ふりかけ、マジック、虫眼鏡-同志社女子大学-森山  炊出-焼肉-佐藤鉄工  炊出-豚汁、やきそば、うどん-団体役員-杉山</p>	<p>ツタヤのビデオ、テレビは避難所に寄付</p>
95/02/12	日	27	564		<p>下水がマンホールより噴出。バキュームカーを要請、処理(本格的検査必要)  印刷機(コピー)を2階より1階に下ろす  リーダー会議  県民局炊出休み</p>	<p>炊出-豚汁、やきそば、うどん-団体役員-杉山  物資-おもちゃ-立川太三  物資-靴、ゴミ袋-桑野正博  物資-カイロ-中島美知枝、石川美津子、宮田幸  物資-衣類-30期生-細見昭生  物資-下着、カイロ、味噌汁-甲南大学-片山  炊出-みかん、ぜんざい-岸和田泉州高校-梶本先生  物資-衣類-木村真?  ボ-洗髪-洗髪-梅田玉姫殿-山田幸三郎</p>	
95/02/13	月	28	454		<p>水洗トイレの使用について一県の施設なので県庁で点検を。その後市下水課に連絡  レクリエーション-バレーコート(市ボランティア委員会)  TV取材で住民に迷惑をかけないで  学用品支援-ビーナイスキャンペーン  訪問(YMCAこころのケアネットワーク)  郵便局より-転居先不明分は返送、災害用無料扱いは2/18で終了  物資(鯖缶、のり-芦屋保健所)  県炊出-かき玉汁  リーダー会議  ①県民局炊出終了-自主的にはNO多い  ②トイレ詰まり  ③勉強部屋  ④テレビデオ  ⑤郵便局の届け出</p>	<p>物資-衣類-黒木健一  物資-皿-真辺健  -YWCAこころのケアネットワーク  物資-ビタミン剤-原沢製薬工業(株)  物資-靴下-植村正一  ボ-マジックショー-マジックショー-ケント  ボ-散髪-散髪-美容院メソンドポート  物資-履き物-正福寺-末本喜久次  ボ-レクリエーション-芦屋市ボランティア委員会</p>	<p>〇〇さん-ぜんそくで迷惑を掛けてしまう。「うるさい」と言われ、他の場所への移動を申し出</p>
95/02/14	火	29	447		<p>市本部-広報「あしや」200部/日  市ボランティア委員会-バレンタインチョコ配布  訪問(四條畷市共産党議員団 15名)日用品等物資寄付  県民局-味噌汁で炊出し終了  県民局-食材のリスト着</p>	<p>物資-衣類-壺坂知代子  物資-オムツ、生理用品-西法寺  物資-洗剤-渡辺明美  物資-衣類-藤井寧子  物資-衣類-溝口真美子  物資-米100kg-芦屋大学  -日本臨床心理士会  物資-衣類-四條畷共産党議員団-大川泰生  炊出-おかゆ、豚汁-四條畷市共産党議員団</p>	<p>給水券-〇〇さん 2人分発行  コンロ紛失(〇〇さん)  新品貸し出し</p>
95/02/15	水	30			<p>臨床心理士来所</p>	<p>物資-パン1000個-甲南大学ボランティア  物資-靴下、下着-宮本典子  物資-カロリーメイト500こ-大塚製薬(株)神戸支店-吉田栄三  物資-山根木材(株)-楠部光明  ボ-紙芝居-紙芝居-岡田可斗子  ボ-紙芝居-紙芝居-山下圭子  -臨床心理士-千賀  物資-折り紙-華織  物資-断熱マット-山内康弘</p>	<p>〇〇さん-2/19でボランティア入浴介護終了、市社会福祉協議会へ申し込み</p>
95/02/16	木	31			<p>展示-雛人形--榎野峰也  ~3/3</p>	<p>炊出-豚汁-でんでん(西宮)-石井  物資-トレーニングウェア、シャツ-国連支援交流財団  物資-絵本-栗原豊子  物資-カップラーメン-相原麻理  物資-みかん-石井彰文  物資-セーター、ブラウス-水口  マジックショー-(KENT)</p>	
95/02/17	金	32			<p>調理器具を県本部に要望  西宮市児童相談所来所(来週より巡回)</p>	<p>マジックショー-(KENT)</p>	



年月日	曜日	日数	人数	世帯	出来事	サービス	備考
95/02/18	土	33	450		五色温泉招待の案内(高槻市) 操体治療のお知らせ-市ボランティア委員会	-高槻市交通部企画室-前川啓治 -自治労高槻市職員労働組合-山口重雄	
95/02/19	日	34	440		コンサート 断熱マット(卓球場・剣道場全面、2階一部)山内康弘 城崎温泉旅行のお知らせ(西村町長) 奈良県児童相談所(上田庄一) 見学-静岡県立藤枝北高校(平井先生、生徒3名)	見学-静岡県立藤枝北高等学校-平井克典 -奈良県中央児童相談所-上田庄一 温泉招待-兵庫県城崎町町長-西村 物資-カップラーメン300個-キリンビール 物資-コーヒー豆1箱-環境浄化を進める会 物資-クレヨン、スケッチブック-ぴんとうーら 地震にあった子供たちと絵を描く会-いまふくふみよ 物資-タオル30打-泉佐野市 ボ-コンサート-演劇、屋台-四条畷市職員 山内康弘 舞鶴青年会議所炊出し申し込み-後日、中止	
95/02/20	月	35	434		洗濯の苦情 ①9時以前に他の班の人が使用しずれこむ ②空き時間に放送で呼び掛けないで 断熱マットの確認のTEL 調査(動物の予知行動の有無)日本愛玩動物協会、尾崎 「芦屋の復興を考える市民ミーティング」2/26 参加要請 のじぎく隊(全国からの婦警)パトロール	ボ-カットサービス-大阪環境衛生同業組合生野支部-勝田千鶴子(ロレアル グランドサロン美容室 カツタ) 聞き取り-犬の予知行動-(社)日本愛玩動物協会-尾崎敬承 炊出-肉だんごスープ-(株)大阪有線放送社-大谷雅信 物資-ガスボンベ10本-新田恭子 物資-保温鍋-藤田東亜子 物資-衣類-坂野訓子	
95/02/21	火	36			食事数変更(朝450 昼250 夜480 実数+50) のじぎく隊パト 楽しみながら英語を(関東学院大、ブライアン・レッドモンド先生) 「お話しボランティア募集」案内	物資-衣類-門坂圭治 ボ-マッサージ-村上整体専門学院 物資-菓子-杉井道代	
95/02/22	水	37				-四条畷市総務部部長-川下功 -宮本自動車株式会社-宮本雅子 物資-カイロ-堀川玲子 -川口圭 -作出竜一 -中島典子 -遠藤登志子	
95/02/23	木	38	415			役所-備考1-四条畷市総務部-川下 功	
95/02/24	金	39			アコーディオン懐メロ演奏 勝浦温泉旅行の日時決定-募集開始	ボ-コンサート-アコーディオン-6期生-加藤和男 勉強部屋提供-勉強部屋提供-岩田	〇〇さん、早朝より深夜まで不在のため、駐車場登録困難
95/02/25	土	40			物資(毛布450、おむつ10箱)芦屋南は物資放出予定 (松竹)映画会-場所、観客の関係でビデオソフトを送付してもらう	聞き取り-兵庫県阪神県民局長-宮崎秀紀 聞き取り-兵庫県阪神県民局企画調整担当-山田義明 ボ-歯科治療-歯科博士-中井孝佳 -和歌山県商工会連合会広域指導センター紀南支所主任専門経営指導員所長代理-大坂憲久	
95/02/26	日	41	440		芦屋市合同慰霊祭(13時 黙祷の放送) 取材(東洋経済新聞、許さん) 訪問(宇治市社会福祉協議会、戒谷) 打出保育所-シチュー(炊出し)200食分配 物資の受け取りを証明	ボ-マッサージ-4名、1人20分、30人分-佐伯 物資-本-高瀬 物資-イス-シャレード化粧品 物資-カイロ、薬-金城美香 物資-文房具-須浪貴美子 ボ-針治療-大阪府鍼灸師会ボランティア -社会福祉法人宇治市社会福祉協議会-戒谷真人 -東洋経済日報東京本社編集部-許龍進 炊出-焼肉、ホルモン入りスタミナうどん-障害者が街で共に生きるみんなの麦の家事務局-茶谷直美	
95/02/27	月	42	430		有馬温泉-入浴サービス概数報告(大阪青年会議所)	炊出-被災者を応援する市民の会(大阪ボランティア協会) ボ-カットサービス-カット・パーマ サロンまき-森博子	
95/02/28	火	43			乳幼児用物資必要数調査 法律税務相談(マニマ新聞阪神支局)	物資-大人用紙おむつ-西川あや子 ボ-相談-法律税務相談-毎日新聞 食材提供-あま酒-エスク、名木(自分達で作れるよう)	
95/03/01	水	44			取材(日本新聞協会、西野) 県パト	聞き取り-報道がどう役立ったか-日本新聞協会-西野文章 炊出-うどん-大阪モータースポーツセンター-やぶき 物資-洗剤-上野章夫 近江兄弟社高校、柴田	県パト(〇〇さんは、どんな経過で和風園に入ったか)



年月日	曜	日数	人数	世帯	出来事	サービス	備考
95/03/02	木	45	400		「尋ね人」掲示(大阪、通学園)14歳一後、別の場所で発見される 市本部(雨堤)炊出について問い合わせ ①大なべあるが、コンロなし ②食材をカット後送るか、調理済を温めるか。 ※やる方向で決定	ボ-避難所管理-可児市建設部土木課長補佐兼工務係長-山本富義 ボ-避難所管理-可児市建設部区画整理課事業部-伊藤利高 炊出-大判焼-世界心道教-近藤 物資-ストーブ10台、食器-世界心道教-近藤 物資-サンポール-田中修一 -日本ビワ温圧療法師統括本部(株)エフエフシー指導室-内田政	
95/03/03	金	46				調査-地震対策の参考に-静岡県立焼津中央高等学校-鈴木義男 -ニッカウイスキー(株)大阪支店営業第二課主任-石井潔 -久光製薬(株)大阪支店薬粧部近北ブロック-福岡健二 -読売新聞記者-岩倉誠 炊出-甘酒-名木純子 物資-カイロ30個、靴下12足-同志社女子大学短期大学部 物資-衣類-中泉静子 物資-ドラムカン電気温水器-神先英司	
95/03/04	土	47	413			ボ-散髪-大森 ボ-神吉差和子(旧 田原)	
95/03/05	日	48			炊出(温食配布)一週末から来週にかけ実施 自衛隊(北海道方面の部隊)3/7引き上げ、見送り要請の連絡(食料を3/6にいただく)	ボ-避難所管理-可児市福祉事務所福祉課福祉係-可児芳男 ボ-避難所管理-可児市民生部環境課-井上弘明 要望調査-何が今この避難所に必要か-(社)大阪青年会議所広報企画室広報委員会-中村功 炊出-天理教-山本利彦 物資-コップ-藤村 炊出-熊本ラーメン1000食-ハマダ 炊出-ぜんざい、おでん-天理教-山本利彦 物資-タイプライター-榎本宏子 物資-洗濯機-松本(5班)	
95/03/06	月	49	399		県本部-電化製品、入荷の見込みなし プロパン納入業者(森本商店、東灘区)(保健所)ペット数の確認 カウンセリングボランティア-日本ヒーリングセラピスト、永田 申出-クラリネットアンサンブル(神戸女学院、岡田)-一成立せず 案内-仮設引っ越し手伝い(松浜公演内ボランティア) 本一市図書館より寄贈	炊出-近江兄弟社高等学校-上田高志 炊出-コーヒー、御菓子-芦屋Y・Oクラブ-小川 炊出-近江兄弟社高等学校-柴田勉 物資-食糧-自衛隊 学生援護会-求人情報誌「an」持参 ボ-避難所管理-瀬戸口暢浩、谷口先生の紹介~3/10	
95/03/07	火	50	395		ダンボール、荷物等の高さ制限をしてほしいリーダー会議で	炊出-京都市職員労働組合-角岡人志 ボ-心と体のリラックス-日本ヒーリングセラピスト研究所-永田兼一 物資-本-市立図書館	
95/03/08	水	51	392		仮設住宅発表 震災の記録の協力依頼(クラーク記念国際高校)	ボ-洗髪-守口玉姫殿-上須治 物資-ホカロン-原田美代子 ボ-洗髪-守口玉姫殿-上須治 ボ-避難所管理-可児市職員-佐橋勇司、渡辺英治~3/11	
95/03/09	木	52	399			リラクゼーション講習(永田)	
95/03/10	金	53				物資-同志社女子大学短期大学部-角田	
95/03/11	土	54	377		市本部より洗濯機 2、電気毛布 140、電子レンジ 3、コード 30 畳搬入(マンションエイト)80枚-戎川、宮川町	物資-大槻 幸美 物資-橋引 純子 炊出物資-うどん屋、けんちん汁-可児市ボーイスカウト中濃南地区可児一団-増田 善明 炊出-可児市ボーイスカウト-マスタ 物資-畳 77枚-成川朝彦	学生服一提供申し出あるが希望なく断る
95/03/12	日	55			乾燥機10台設置決定-3/15搬入(1階2、2階外4、プール4)	炊出-朝日製粉-西田 ボ-鍼灸)-奈良県桜井市社会福祉協会-坂田 佐藤西村 炊出-うどん-旭製粉-西田 炊出-うどん-旭製粉-西田 炊出-うどん-今里製麺 炊出-りんご ご神水-松緑神道大和山 炊出-湯どうふ、線香-和歌山県高野町役場	
95/03/13	月	56	385		いす付ポータブルトイレ撤去(使用者4名の希望) 講演(心の健康)於 大教室 リーダー会議一週2回(月、木)に変更 訪問(県教委学事課) 取材(毎日新聞、高倉)「アル中の人、夜騒いで困っているはずだ」との前提で取材に来たが、事実なく帰った		
95/03/14	火	57			市本部よりトースター 9、クリーナー 5、湯沸しポット 12	炊出-大阪あべの辻料理専門学校-小笠原輝幸 ヘルパーボランティア-堺市4人~3/17	



年月日	曜	日数	人数	世帯	出来事	サービス	備考
95/03/15	水	58			乾燥機設置 10台	物資-酒かず-林名都子 ボランティア-京都ボーイスカウト山下 下着-三田屋、田中	
95/03/16	木	59	328		自衛隊見送り 11:00	物資-下着類-三田屋本店-田中博子	
95/03/17	金	60	326		市本部-温食炊出開始(おでん 320食) 配布-子ども用下着 19:30 食堂	-雑巾-石平美智子(3班森田さんの紹介) 学生服、靴、参考書(新浜町 植田)	
95/03/18	土	61			自主炊出-そば、焼うどん、みそ汁	物資-ホカロン-寺尾富子 物資-ホカロン-勝久みよ子	
95/03/19	日	62	299		食堂(避難所)閉鎖	鍼灸-鍼灸ボランティア-坂田整骨院-坂田勝美 炊出-牛丼 300食-三田市富士小学校-福井 ボ-医療(眼科)-眼科検診 眼鏡提供-山室会眼科- 張 自転車バンク修理-大津13区少年クラブ、内村	
95/03/20	月	63	293		【県芦】食堂にて教科書販売		
95/03/21	火	64			取材(朝日新聞) ボランティア終了、打ちあげ(バーベキューパーティ ー)	物資-埼玉県中島 炊出-ほうれん草のおひたし-大阪市立大学食品栄 養学、奥田助教授、池田あずさ	バーベキューパーティ ー
95/03/22	水	65	288		訪問(大阪市立大学 奥田)調査の下見		
95/03/23	木	66	280		インタビュー(1班 野口)ラジオ放送で現状を訴 える	-水田 ボ-シンビジューム 造花-塚本 容山	
95/03/24	金	67			N T T - 無料電話の有料化不可能、撤去のみ K D D より校長に苦情一通話が多すぎる(市本部 に直接言うように) 温食数の変更(320から300に) 税務説明会(芦屋税務署、下前)19:00 食堂		
95/03/25	土	68	279			炊出-カレー 400食-関口 三男 求人広告-アスカ、関口	
95/03/26	日	69	277		訪問(心のケア・ネットワーク)大阪YMCA	炊出-ラーメン-熊本救災会-濱田 勝次 コンサート-森山 良子 物資-老眼鏡-山室会眼科-張 ボ-メンタルケア)-大阪YWCA-川浪 高橋 中村 寄席-笑福亭遊喬、喬楽-食堂	
95/03/27	月	70				炊出-たきこみご飯 すまし汁-滋賀県甲良町社会 福祉協議会-円城	
95/03/28	火	71	269		ガス点検(食堂は専門業者に、体育教官室は湯沸し ため、他OK)ガス使用可 津知公園で物品放出会-その時、私物かばんをも って帰った人あり、返してほしい	カットサービス-モッズヘア-15:00	
95/03/29	水	72			体育館設備点検、下見(セノー、松島)	物資-花 130(防犯協会、フラワーセンター) 炊出-すき焼風煮込み-天台京都青年会	
95/03/30	木	73			調査(大阪市立大学 奥田)		
95/03/31	金	74	244		訪問(大阪YMCA 岩切) 訪問(大阪市立大学 奥田)		
95/04/01	土	75			物品放出会-食堂 19:00 ピーターパン公演招待(ホリプロ)の案内	炊出-信州そば-長野県高教組	
95/04/02	日	76				物資-本(東京都関口) 物資-人形(東山町 奈良井) 眼鏡-山室会眼科	
95/04/03	月	77	244		【県芦】卓球部練習開始 於 食堂		
95/04/04	火	78	240		市本部-退去届用紙配置(市用、本部用の2枚提出) 配食数の変更-水曜5時締切で連絡一月曜より変 更 朝パン(食パン、バターロール、クロワッサン、牛乳 、コーヒー) 【県芦】本館前仮設トイレ移動 深夜 1:30頃、20歳くらいの不審な男がトイレに のを目撃。1階の施錠をしてはどうか-リーダー 会議で	物資-本(東京都 響) サ(ピワ温灸)~4/6	
95/04/05	水	79	230			コンサート-EPO、ショーロクラブ-食堂	
95/04/06	木	80	225		取材(NHK)	炊出-お抹茶-八幡市 上蘭(電気ポット、やかん用 意)	
95/04/07	金	81					
95/04/08	土	82	219		親睦会(松本さんを送る会)18:00 食堂		
95/04/09	日	83					
95/04/10	月	84					
95/04/11	火	85	208		寝具乾燥 9:00~ ストレスアンケート集計結果(テラサルテ桶谷)		
95/04/12	水	86	207			炊出-ばら寿司-甲良町社会福祉協議会	
95/04/13	木	87	204		健康診断(市保健センター)食堂、レントゲン車 ダンボール、古本、衣類回収(東灘区 松田商店)		
95/04/14	金	88			配布-紙おむつ 取材(神戸新聞)		
95/04/15	土	89	197			コンサート-イニッシュモア-サンケイ厚生文化事 業団 物資-ブラジャー(芦屋長谷川)-実現せず	
95/04/16	日	90	195			炊出-豚マン、玉子スープ、マーボ豆腐、中華みつ まめ、豚角煮、ふかひれスープ-大阪北区、上海 物資-カレンダー100-東京 藤岡	



年月日	曜	日数	人数	世帯	出来事	サービス	備考
95/04/17	月	91	193				
95/04/18	火	92	180				
95/04/19	水	93			餅田さん入居		
95/04/20	木	94				サ(温圧ピワ療法)熊本、森~4/22	
95/04/21	金	95	177				
95/04/22	土	96					
95/04/23	日	97	168				
95/04/24	月	98				炊出-抹茶-MOA芦屋センター	
95/04/25	火	99	164				
95/04/26	水	100				声楽家コンサート受付-実現せず	
95/04/27	木	101	162				
95/04/28	金	102					
95/04/29	土	103	160				
95/04/30	日	104	154		事件-18:25体育館前で殴り合いあり。110番通報、10分後到着。 取材(ABCラジオー1班野口)	サ(気功体操、相互指圧)健康サブライ、中西 炊出-みそ汁、手羽先-大阪ボーイスカウト126団す はら 物資-ビール 2、チューハイ 1、サイダー 2-杉原さん	
95/05/01	月	105	146		小物等プレゼントモンテペロ市(芦屋の姉妹都市)国際交流協会	物資-買物用手さげ袋-豊中、井上-取り止め	
95/05/02	火	106	143		2階 仮設トイレ撤去		
95/05/03	水	107	141		地下水(トイレ用水)停止-電気工事のため		
95/05/04	木	108	137			物資-花100鉢-鶴見緑地フラワーメッセージ-市 体育館に誤配 5/10に再配達	
95/05/05	金	109	129				
95/05/06	土	110	119				
95/05/07	日	111			仮設トイレ(プール横)使用禁止		
95/05/08	月	112			仮設トイレ(バキューム)	物資-ビール券-可児市総務課	
95/05/09	火	113			市本部-個別聞き取り調査(19:00 食堂)~5/10		
95/05/10	水	114	103				
95/05/11	木	115	103	47	花70鉢(大阪市建設局緑化推進部 平尾)		
95/05/12	金	116	92	43			
95/05/13	土	117			大親睦会		
95/05/14	日	118	83	35	避難所座談会(代表 野口、平野、梅田、中島) 法律相談(度会郡玉城町 太田)		
95/05/15	月	119	78	34			
95/05/16	火	120	71	30	OB生徒ボランティア座談会(あしかび)		
95/05/17	水	121			訪問(大阪市立大学 奥田)		
95/05/18	木	122	69	29			
95/05/19	金	123	61	27			
95/05/20	土	124	51	23	調査-日経リサーチ 復興ミーティングに平台を貸す		
95/05/21	日	125	15	8	体育館2階 整理		
95/05/22	月	126			地下水断水 増設電力撤去工事		
95/05/23	火	127					
95/05/24	水	128	11	7	プール洗濯場閉鎖(柔道場前に移転)		
95/05/25	木	129			市-移転について各戸面談-中川		
95/05/26	金	130	9	6	訪問(県教委)		
95/05/27	土	131	6	4	市体育館へ移動者の連絡(岡崎、藤田、西海)		
95/05/28	日	132	0	0	5時10分 避難所閉鎖		
95/05/29	月	133			市本部よりTel(中川)		
95/05/30	火	134					
95/05/31	水	135					

<編集/佐和良一>



## 【2. リーダーミーティングの記録】

2月5日(日)

### 1. 洗濯機の使用開始

<洗濯の方法>

体育館を3つの団体、1階を2つの団体、柔道場を1つの団体とする

\* 事故防止のため、幼児は洗濯場(プールサイド)に入れないこと

\* 雨天の場合、できる限りFREEの時間につめる

	9:00~13:00	13:00~17:00
月	体育館1, 2	FREE
火	体育館3, 4	FREE
水	体育館5, 6	FREE
木	卓球場、食堂	FREE
金	剣道場、脱衣所	FREE
土	柔道場	FREE
日	月~土までにできなかった人	FREE

2. はがきの配布 1,200枚 6グループに配布

3. 日用品の配布予定 下着(L, LL) タオル、洗面器、シャンプー……2/6以降配布

4. 食事時間等 夕食……原則 午後6時00分 残った食物の引き上げは6時30分

5. カートの貸出等 カート、自転車……既に貸出を実施しているが、再度利用を呼びかけ

### 6. ポータブルトイレの使用

2階ポータブルトイレの使用について、子どもが使用し不潔になっている旨の苦情があり、利用者の制限を実施。子ども、及び健康で1階の水洗便所の使用が可能なもののポータブルトイレの使用禁止

### 7. ごみ出し方法

スーパー等の買物ぶくろを利用したものは、大きなごみ袋に集約する。1Fに容器をおく。

(ほうき、ちり取り、はさみ)

2月8日(水)

### 1. 名簿の管理

現在作っている名簿はプライバシー対策として最低限のデータしか入れていない。

取扱については、業者等へ渡さない。名簿の再チェックをお願いしたい。

### 2. 各班での位置図(地図)づくり

### 3. ゴミの出しかた(管理)

ゴミ置き場へ「ゴミの単体」=(コーヒーカップ、使い捨て容器等)を捨てないで、ゴミ袋に入れてください。

### 4. ダスキン(株)によるクリーニングサービス

洗濯物をネットに入れる方法等の指導はリーダーで。受付け簿は各自または受付けの人が記入する。

5. タオルの配布 2月9日中に各班が必要人数を報告。2月10日に配布予定。

6. その他 地球ボランティア協会 TEL 22-9650 掃除 9:00~



2月10日（金）

---

1. 子ども用、大人用オムツの必要な人数、サイズ確認

オムツ等利用する人が特定できる品物に限り、サイズや個数を聞いている方が配給で注文する際に便利で確実。

2. レクリエーションについて

文化祭的なもので、各班が何か一つ出し物を出してもらおう。炊き出し、合唱何でも構わない。（希望者のみ）

3. テレビデオの設置

柔道場、食堂前に一台ずつ テープの管理は、ボランティア及び市、県芦職員で管理。

×放送時間、上映内容はリーダー及び子どものいる親が決める。 ○ボランティアで全てを管理、放送時間、上映内容

4. 2月13日 10:00～15:00 メゾン・ド・ボーテのカットサービス

5. 2月11日 炊き出し 昼 焼きそば 体育館玄関前 焼き肉 バレーコート

6. 洗濯物について 各自の管理、名前の記入

・外部の小中高の避難所と連絡して、FREEの時間に外部の方に開放。

広報活動は無し。口コミで広がれば午後のFREEの時間に利用してもらおう。原則として、午後は誰でも、午前は県芦の住人に利用してもらおう。

7. 転出される場合は本部までお申し出下さい。

8. 当避難所において、紙コップ、ボンベ、コンロ、日用品一般が配給されにくくなっていますので、個人で準備できる方はダイエー、コープなど店頭でご用意下さい。どうしても準備できない方は本部までご相談下さい。

※ 各班のリーダーを通して小さな物（マスク、ハンガー、洗濯はさみ）など日常生活において必要最低限な物だけをリーダー会議において言ってもらおう。大きな物は市役所へ。小さな物は同志社女子へ。

9. 打出保育所の園庭を開放しています。1～6才のお子さんとお母さんは遊びにきて下さい。

10. 本日の物資の配給

・タオル 1人2枚 ・ティッシュ 1家1ヶ ・せっけん 1家8ヶ

・キッチンタオル 1家1つ ・ウェットティッシュ 1家1ヶ

※ 2月12日（日）のリーダーミーティングで下着、マスク、カイロを配布予定。

1家族5枚とか1人に2枚とかの個数は、あくまでもこちらが（ボランティア）分ける際に人数との折り合いを付けるために出した数字なのでリーダーのかたが個々の班で分ける場合はリーダーの方で決めていただいても結構です。

☆電気掃除機

2月12日（日）

---

連絡事項

- ① テレビデオの件（ビデオは子どものアニメだけです） 設置場所、放送時間、終了時間
- ② 館内での火気厳禁（電気使用量の多いのも駄目） 例：オーブントースターなど
- ③ トレーニングセンター前にあるダンボールから衣類を取っていかれる方がおられます。ダンボールの中身は1階ロビーに置いてある衣類の残りなので取られてもよろしいのですが、見終わったあとは、元の場所にきちんと“たたんで”返して下さい。これはいずれ市の方に返却します。
- ④ 同じ避難所内で移動される場合は受付まで申し出て下さい。そうされないと配給の物資等が当たらない場合があります。
- ⑤ ダスキンのクリーニングサービスは下着のみです。その他（・名前を中に入れる・止め具をきちんとする）しっかり守って下さい。わからない場合は受付まで。



クリーニングサービスは要領を守っていただければ、どなたでもご利用できるようになりました。数に限りがありますのでお早めに。

- ⑥ プールのトイレの床の排水口はさびているのでつまります。だから利用される時は靴の底の砂や泥を落として下さい。  
<すみません>すでに水洗トイレは使用禁止でした。
- ⑦ これから燃えるゴミと燃えないゴミに分けて下さい。
- ⑧ リーダーの方はみなさんに聞いて下さい。  
・受験生は何人いますか   ・オムツのサイズ確認   ・レクリエーションはどうなりましたか。  
以上、報告をお願いします。
- ⑨ 2/13 バレーコートで“市ボランティア委員会”によるレクリエーションがあります。  
ちびっこのみんな、楽しみにしていてね。
- ⑩ ～炊き出し予定～  
2/14 豚汁、おかゆ、スープ（朝食）      2/18 おでん（昼食）
- ⑪ ペットボトルの水を1人3本（2ℓ×3）を配ります。その後は柔道場の前に上水道がありますので、そこをご利用下さい。
- ⑫ 喫茶「ホーリー」は紙コップがありませんので、“持参”をお願いします。  
プラスチックのコップ等持参して下さい。
- ⑬ ～今日の配布物～  
下着、カイロ   \*マスクは受付に申し出て下さい。
- ⑭ 2/13 10:00～ 食堂にて「メゾン・ド・ボーテ」の方々によるカットサービスがあります。
- ⑮ 杉田二郎さんのコンサートを開きたいので希望者を募ります。人数が少なければ開催いたしません、悪しからず。
- ⑯ 県民局の炊き出しは13日(月)、14(火)だけとなりました。15日以降は、まだはっきりとはわかっていません。
- ⑰ 自衛隊は2/12以降、撤退されます。そのため炊き出しは15日以降は無くなると思います。が、医療班の方は2月中、または3月上旬までおられる予定です。
- ⑱ 2階のポータブルトイレの件ですが、使用されたご家族の方や気のつかれた方が、そうじしてもらいたいと思います。
- ⑲ 各班リーダーが避難所を出られる場合は必ず交替の人を見つけて下さい。見つけれない場合は受付まで。

2月14日（火）

---

#### 連絡事項

- ① 避難されている皆様へ——県立芦屋高校 教頭
- ② 班別名簿の確認——読み、漢字とも      2/15 提出
- ③ 勝浦温泉旅行ご招待  
2泊3日 送迎含む 宿泊旅館は複数あり      約50人（全体で約150人）  
2/20以降のウィークデイ（月～木のいずれの日にか出発する）      2/16 受付にて申し込み
- ④ 炊き出し    2/17——実施（但し材料あるかぎり）数日間のみ      2/17以降——未定
- ⑤ 食事の分配について    引替券方式？



2月15日（水）

連絡事項

- ① 17日に行われる炊き出しの件について  
 16日 19:00～仕込  
 17日 14:00～調理 バレーコート 10:00 物資搬入 手の空いている方はお手伝いをお願いします。
- ② 食事の分配について 数を増やして対応
- ③ おもちゃ貸し出しについて 子どもたちに開放します（保護者同伴でお願いします） 9:30～16:00 於 受付
- ④ テレビデオの利用と子ども用ビデオについて 食堂前、柔道場に設置……自由にご利用下さい（22:00まで）
- ⑤ 五色温泉（豊中市）ご招待  
 2/17（土）か18（日）の内、1日 朝 8:00～17:00 13:00 NTT横より出発  
 65名 受付にて申込 受付→抽選 勝浦温泉旅行の申込み 300円（入湯料）必要 リーダー会議で公開抽選
- ⑥ 断熱材（マット、寝具の下に敷くもの）  
 本格的に断熱できます。 数を聞いてくる 2/16（木）リーダー会議まで
- ⑦ トイレ使用について トイレトペーパー以外流さないこと 2Fのポータブルトイレ使用について
- ⑧ 映画上映について 松竹映画 23日下見 ・杉田二郎の件→丁重に断る
- ⑨ 夜間学習について 食堂で行う予定 10:00～静かに 保護者がしつける
- ⑩ 炊き出しについて プール横のテントの設置 20日から使用開始
- ⑪ 夜間の本部について 2Fの体育教官室
- ⑫ 2/18 散髪受付中（8:30～10:30）12名まで
- ⑬ 2/20 散髪

2月16日（木）

	1班	2班	3班	4班	5班	6班	柔道場	卓球場	剣道場	食堂	男更衣	グラウンド
断熱マット												

連絡事項

- ① 全県民による犠牲者への黙禱について 2月17日（金）12:00より1分間 放送しますので、お願いします。
- ② 体育館の消灯について 消灯の原則
- ③ 招待者の選定

	申込数	※	申込数-※	※	申込数-※	定員
勝浦温泉	17人					50
五色温泉 2/18（土）	11人					60

※どちらもかなり余裕あり。このまま決行するか、もう一度呼びかけをするか。 放送でもう一度

- ④ トイレ使用について  
 使用対象者以外は使用しないで下さい。  
 2Fのポータブルトイレと体育館出口の洋式トイレの交換を（近日中）  
 清掃について（使った人または家族でして下さい）  
 ・掃除は朝早くからやる人がいるので2度しないため、体育館の見取図を貼って、やり終わったところに斜線をいれる。



・芳香剤、ティッシュ等の補充

- ⑤ 美容カットサービス 2/27(月)午後1時から5時まで。(美容師5、6名)
- ⑥ アンカ50個有り。利用方法について→返却する
- ⑦ 明日2/17(金)の炊き出しについて (八宝菜風煮込み)  
午後6時に配布予定です。放送はしません。2時ごろから準備に入ります。
- ⑧ 断熱マットの必要数(全員分)
- ⑨ 常設炊き出し場の使用について  
・コンロ5台まで、もう1枚ビニールシート(通路側)、電気をつける、各自でゴミ処理、ペールカンの用意、ポンベは各自で
- ⑩ 芦屋市民の記録(カメラ利用)
- ⑪ マスク希望者を募る、靴下(子ども用)のサイズをきく、チャンチャンコは柔道場を配った後で2階にまわす。

2月17日(金)

	1班	2班	3班	4班	5班	6班	柔道場	卓球場	剣道場	食堂	男更衣	グラウンド
マスク	全員		17									
チャンチャンコ	0	3	3	2	6	5	0	3	2	0		
女性下着(LL)	0	2	4	2	0							

#### 連絡事項

- ① 体育館の消灯について 消灯の原則(1列のみ点灯)週に1回のみ→今まで通り
- ② トイレ使用について  
1Fトイレ(男女とも)に洋式便座設置しました、ご利用を。→1階トイレは仮設ドアになっている  
2Fのポータブルトイレと体育館出口の洋式トイレの交換を(近日中)→カーテンまたはダンボール清掃について(使った人または家族でして下さい)
- ③ 生活の基本を大切に  
7:00 起床、点灯の原則を 各自の生活場所を大切に 食事は各自の班で受け取り、各自の場所で
- ④ 五色温泉について 申込者全員参加  
集合時間 2月18日(土)13:00 18名希望 シャンプー等は各自で  
集合場所 受付前 芦高グラウンドにてバス乗車、出発  
参加費用 300円(入湯料)
- ⑤ 断熱マットについて 現存200余(本部に追加を問い合わせ中)→明日対応
- ⑥ 散髪について 前日に洗髪を 2/18(土)8:30~10:30 於 食堂 お湯用意
- ⑦ 炊き出し予定 2/18(土)  
<昼>おでん(四条畷市) <朝>みそ汁 <夜>とん汁(でんでん)
- ⑧ 数量調査(上記) ミーティング終了後、すぐ本部へ
- ⑨ 被災児童の相談  
1) 西宮児童相談所の所員巡回 2/20(月)10:00前後 相談事があるひとは、その時に在所を、または電話で。  
2) パンフレット配布(2種)



2月18日(土)

	1班	2班	3班	4班	5班	6班	柔道場	卓球場	剣道場	食堂	男更衣	グラウンド
チャンチャンコ	0	2	3	3	0	5	3	0	3	1		

### 連絡事項

- ① チャンチャンコの配布について 20着のみ→もう一度話し合いで決める
- ② そうじについて 清掃確認表の記入を→伝言板の左に掛けている
- ③ トイレ使用について  
1F洋式トイレ 女子2 男子1 カーテン等  
2Fのポータブルトイレと体育館出口の洋式トイレ(汲み取りの為)の交換不可能
- ④ 勝浦温泉について  
申込者全員参加——32人(受付の名簿で確認下さい)  
実施日時———3月初旬の平日→1~10日のWEEKDAY
- ⑤ 断熱マットについて  
現存200余(本部で追加予定) 2/19(日)午前中に来所の上、設置(9~10時位)  
【できるだけ自分の場所に居てほしいそうだが、不在にする場合は班に配置等の伝言を】  
後日再調査 <班別名簿>で不必要者だけをチェックして下さい。
- ⑥ 自主炊き出しについて あと1~2食分の残りあり

**調査** 手伝える人数——班別名簿に記入

- ⑦ 炊き出し予定 2/20(月)  
<昼>肉だんごスープ(大阪ゆうせん) <夜>水ぎょうざ(豊中、黒木さん)

**注意** あすの「復興フェスティバル」での「炊き出し」は有料(50円~150円位)です。

### ⑧ 補聴器をご利用の方へ

**A** 紛失者及び破損者に補聴器を贈呈

(条件)「り災届証明交付申請書」を届けられた方(写し持参)

身体障害者の方は厚生省の指示した阪神大震災の為の処理方法にしたがう。

**B** 故障及び点検の無償修理、補聴器無料相談

平成7年2月13日~平成7年3月3日

### ⑨ 洗濯について

洗濯時間———班で決められた時間を守っていない

割り当て曜日——朝7時くらいからしている。これからどうするか→もう1度見直し

※ 自動車の移動→避難者の車を登録、ナンバリング(プリント配布) 自転車の移動

※ カイロ、BOXティッシュの配布



2月19日(日)

連絡事項

- ① 避難者の受入れについて 芦屋市民で被災した人を原則とする→盗難等に気をつける
- ② 自動車登録について
  - 22(水)午後5時 登録表提出 締切——車での移動がスムーズに行かずトラブル発生の恐れ有り
  - 23(木)午後7時 駐車場所番号発表
  - 24(金)各自の駐車場所に移動を
- ③ 断熱マットについて
  - 1 ロール有り
  - 2 Fの設置方法——[ダンボール(たくさん)、断熱マット、黒いマット]セット 2m/1人  
班で再度協議→次回リーダー会議で(1人分ずつ配布? 誰が切るか)
- ④ 調理について
  - 20日より9:00~19:30まで
  - コンロ5台 設置(但しボンベは各自で)→ブルーシート 生ごみはできるだけ各自で処理を
- ⑤ 炊き出し予定
  - 【1】2/20(月) — <昼>肉だんごスープ(大阪ゆうせん) <夜>水ぎょうざ(豊中、黒木さん)
  - 【2】2/25(土) — <昼>たきこみごはん(兵庫、山崎町) <夜>焼魚、まぐろ汁(勝浦町ふるさと委員会)
  - 23日はどうか
- ⑥ 介護を必要とする人数について(調査) 聖徳園にてショートステイ等可
- ⑦ 次回のミーティングについて 2月21日(火) 以後、隔日に実施予定

2月21日(火)

	1班	2班	3班	4班	5班	6班	柔道場	卓球場	剣道場	食堂	男更衣	グラウンド
炊き出し 準備	2	0	1	3	4	1	3	2	2	2	0	
炊き出し 当日	0	0	1	1	4	1	3	3	2	2	0	

連絡事項

- ① 余った食事について
  - 食中毒の危険性がでてきたので次回まで持ち越さないように 各班で余りは速やかに本部へ、また思い切って破棄を本部前の配布も短時間にします
- ② 体育館前正門の開閉について
  - 開門——6時ごろ あしかび会館の横も施錠を 鍵準備
  - 閉門——22時ごろ (但し 横の通用門が開いています)
- ③ ご飯の改善について 申入れ多く、業者に改善を連絡
- ④ 自動車登録について
  - 22(水)午後5時 登録表提出 締切
  - 23(木)午後7時 駐車場所番号発表
  - 24(金)各自の駐車場所に移動を《今週中》→26日を目途に移動



- ⑤ 洗濯機の使用について 割り当て曜日を守って下さい  
9:00～12:00の間は空いていても他の班の人は使用しないこと  
13:00 その他は大目に見る 空いたからと言って放送しない
- ⑥ 自主炊き出しについて 人数調査 メニュー等 23日 材料確認、リスト作り、食器は各自で
- ⑦ 英語でリラックス ブライアン・レッドモンド BRIAN REDMOND 先生（関東学院大学 助教授）  
毎日 12:00～21:00（時間設定は自由に） 24（金）より実施  
幼児から年配者まで（年齢、経験は問題ではありません）  
（例 桃太郎を英語で読んでみる、中高の受験勉強の補助、日常会話）  
申込は本部まで（申し込まなくてもお話しできます）
- ⑧ 断熱マットについて 15:30 食堂にて切断
- ⑨ 炊き出し予定
- 【1】 2/25（土）— <昼>たきこみごはん（兵庫、山崎町） <夜>焼魚、まぐろ汁（勝浦町ふるさと委員会）  
【2】 2/26（日）— <昼>焼肉、うどん（麦の家）  
【3】 2/27（月）— <夜>トン汁（大阪ボランティア協会）

2月22日（水）

---

連絡事項

- ① 生野菜の配布について→12袋を各班で分ける  
当分の間、昼食に生野菜が付く。 →25人分 袋ごと渡して各自でやってもらう  
ビニール袋に20人分ずつ詰められてくるので、その分配をどうするか。（ドレッシング、カップ、配食用手袋付き）  
……改善を申入れ済み
- ② 自主炊き出しについて だいこん汁、ぞうに 容器は各自で用意 14:00～18:00 できあがり
- ③ 自転車、単車の移動について  
23日中に移動を（体育館西、柔道場東）バレーコートから移動させる  
なお、24日、早朝より工事に取り掛かります。  
※ 仮設教室（テニスコート、バレーコート 23日着工）
- ④ 明日もリーダーミーティング行います

2月23日（木）

---

連絡事項

- ① 駐車場について 3/1 自衛隊撤退  
避難されている方が対象です。 掲示に従い、24日に移動を。不可能な場合は今週中に。

注意

- A) 「許可証」をフロントガラスに掲示して下さい。  
B) 「許可証」の無い車両は駐車できません。  
C) 駐車中の損傷、盗難等については一切責任を持ってませんので、ご了解下さい。  
D) 退所の後は駐車できません。



- ② TVの使用について 22時まで利用可。(消灯以降は使用できない) 当面の2F分の設置について→夜はなおす
- ③ 何かあれば連絡を  
退所時は受付へ。体調不良等で自分の場所を離れる時は班リーダー、受付、もしくは体育教官室(体育館2F)まで
- ④ ごみの分別収集について 不燃ごみ用袋の使用について(受付にて配布)  
(①可燃ごみ ②ビン ③カン(アルミ、スチール) ④その他の不燃ごみ)
- ⑤ 懐メロ演奏(アコーディオン、歌)  
2/24(金) 11:30~ 1F 剣道場前廊下にて  
加藤和男さん 他1名 昼食を取りながらどうぞ。
- ⑥ クラシック演奏について(4名のアンサンブル) 午後7時頃より(詳細未定) 場所?→断る
- ⑦ 炊き出し予定  
【1】2/25(土) — <昼>たきこみごはん(兵庫、山崎町) <夜>焼魚、まぐろ汁(勝浦町ふるさと委員会)  
【2】2/26(日) — <昼>焼肉、うどん(麦の家) <おやつ>ぜんざい(ボーイスカウト大阪連盟)  
【3】2/27(月) — <夜>豚汁(大阪ボランティア協会)  
【4】3/1(水) — <夜>うどん(大阪モータースポーツセンター)
- ⑧ マッサージサービス ※ 2月26日(日) 午後 2:00~5:00 20分 30人まで

受付中

- 1) 英会話等
- 2) マッサージ ※ 2/24 9:00~
- \* 物資をボランティアの宿泊所からトレーニングルームに移す  
電話を有料に変えてほしい 食事の放送は無し。昼は今まで通り(3:2:1)

2月25日(金)

	1班	2班	3班	4班	5班	6班	柔道場	卓球場	剣道場	食堂	男更衣	グラウンド
比率	1	2	2	2	2	2	4	3	1	1	0	

**連絡事項**

- ① 駐車場について 2/27(月)までは現在の位置に
- ② 「ストレスと健康」アンケートについて(協力をお願い) →何人アンケートを取るか調査する  
被災者の心身のストレスを客観的に判定します(150名分)  
アンケート提出から結果返送までプライバシーは完全に守られます  
2/28(火)提出締切 3月中旬 結果返送(避難所宛、転居後は転送します)

配布物 「お願い」「質問表」「封筒」「ボールペン」

- ③ 避難所生活に必要な物資について 避難所生活を快適にするために必要な数の調査です  
1)電子レンジ 3台 2)テレビ 3)掃除機 6台 4)オーブントースター 14台 5)電気毛布 多数 6)洗濯機 0  
7)電気ポット 50~100台 8)電気カーペット 多数 9)乾燥機 12台
- ④ 英会話について 食堂奥にて実施 希望者 募集中



⑤ 炊き出し予定

【1】2/25(土) — <昼>たきこみごはん(兵庫、山崎町) <夜>焼魚、まぐろ汁(勝浦町ふるさと委員会)

【2】2/26(日) — <昼>焼肉、うどん(麦の家)

<おやつ>ぜんざい(ボーイスカウト大阪連盟) <夜>シチュー200(打出保育所より)

【3】2/27(月) — <夜>豚汁(大阪ボランティア協会)

【4】3/1(水) — <夜>うどん(大阪モータースポーツセンター)

⑥ 26(日) 大阪府鍼灸師会 14:00~17:00 鍼治療、マッサージ 30人分 鍼も有り

⑦ 26(日) ジャージの件 27日に再度 芦屋南に半分 各班でサイズをきく

⑧ あしなが育英会 保護者がこの震災で死亡・負傷で働けなくなった。貸与

⑨ 自転車の整理を

⑩ 芦屋市合同慰霊祭 2/26(日) 午後1時

⑪ 歯科医師

義歯の不調、歯ぐきの痛み→明日午前中に申し出る 人数が少ないと来ないかも 受付名簿を作る

受付中

1) 英会話等

2) マッサージ

\* 今日の配布物

カイロ はるカイロ(2:1)、ウエットティッシュ(1世帯に1個)、ラーメン(1人1個+各班10個)、毛布

2月27日(月)

	1班	2班	3班	4班	5班	6班	柔道場	卓球場	剣道場	食堂	男更衣	グラウンド
ストレスアンケート	×	×	×	14	×	×	×	8	8			
紙おむつ												
ジャージ												

連絡事項

① 駐車場について 自衛隊の移動後 54名

2/27(月)までは現在の位置に 3/2 午前9時までには移動を 3/7まで駐留→3/8

② 自衛隊医療班について 3月初旬までは現状通り(但し、神戸東灘地区の医療班は2月末で終了)

③ 物資の配分方法について 少量で比例配分もできない個数の場合→抽選会

④ 「ストレスと健康」アンケートについて(協力お願い)

2/28(火)提出締切 3月中旬 結果返送(避難所宛、転居後は転送します)

配布物 「お願い」「質問表」「封筒」「ボールペン」

⑤ 毎日新聞 法律税務相談 2/28(火)11:00~15:00 本部前

⑥ 学用品提供(ビーキャンキッズネットワーク)

幼稚園から高校生まで個人別に申込みを 提出 受付 3/2(木)17:30 締切

⑦ 高校生ボランティアの活動時期について →3/4撤退

四条畷市→2月末で撤退 保母→泊なし、昼間のみ



炊き出し

- 【1】 3/1 (水) — <夜>うどん (大阪モータースポーツセンター)
- 【2】 3/2 (木) — <おやつ>大判焼、甘酒 (世界心道教)
- 【3】 3/3 (金) — <昼>ぜんざい (角本さん)

受付中

- 1) あしなが育英会            2) 英会話等
- 3) 学用品 (ビーキャンキッズネットワーク)            4) 「ストレスと健康」アンケート

配布物

- A) ニューひょうご (世帯に1部)
- B) 学用品アンケート (幼～高校の世帯)
- C) カップスープ (世帯に2個)
- D) ビタミン剤 (世帯に1セット2本)
- E) 勝浦温泉の案内 (申込み者のみ)
- F) \* 2/27 20:30～ 幼児用品 食堂にて  
       3/8 自衛隊 撤退 (大半)  
       3/2～ 仮設校舎 建設  
       パンに要望→あんパン、ジャムパン、コッペパンなどあっさりしたもの  
       ボランティアの部屋→女子更衣室から引越し

3月1日 (水)

	1班	2班	3班	4班	5班	6班	柔道場	卓球場	剣道場	食堂	男更衣	グラウンド
体操服												
シャツ 上												
シャツ 下												

連絡事項

- ① 食事の配給方法について →班で当番制 (ボランティアの縮小により)  
   朝食→ (現行 3:2:1) 勝手に取る→6:00～ 上記の班が待機 (シート被せ)  
   昼食→ (現行 3:2:1)                    7:00～ 配布  
   夕食→ (実数)                    通常は放送なし
- ② 本部の体制について  
   1) 可児市 (岐阜県) 職員 24時間 (2名) 3/1～3/17 (予定)  
   2) 夜間 —— 体育教官室 (2F) 可児市職員 保母—17:30～20:00位 (21:30)
- ③ 飲料水の配給について  
   1) 各班に比例配分            2) 受付で申し出て渡す (1回1人1本)



- ④ 炊き出しについて 水曜日 定例化できないか
- ⑤ 大掃除について 3月中旬に全体で一斉に（高校生の参加予定）
- ⑥ 本部前のストーブについて（3台有り）  
使用は夕方から午後10時まで（その後は、防災のため本部詰め所内にて保管します）
- ⑦ 電話の利用方法について 午前8時～午後10時 用件のみ短時間で
- ⑧ 新聞の配布について（朝刊、夕刊）

2階	1階	柔道場
5	3	2

配分の比率（配らず電話台の所に置いておく）

- ⑨ 日本びわ温圧療法
- ⑩ 卓球台

炊き出し

- 【1】 3/2（木）－ <おやつ>大判焼、甘酒（世界心道教）
- 【2】 3/3（金）－ <昼>ぜんざい（角本さん）
- 【3】 3/6（月）－ <夕>さつま汁
- 【4】 3/7（火）－ <夕>豚汁（京都市職労）

受付中

- 1) あしなが育英会          2) 英会話等
- 3) 学用品（ビーキャンキッズネットワーク）3/2まで

配布物

- A) 県税の軽減措置について（世帯に1部）
- B) BOXティッシュ（世帯に3個）
- C) ポケットティッシュ（1人2個）
- D) ラーメン（班に比例配分）
- E) トローチ

3月2日（木）

	1班	2班	3班	4班	5班	6班	柔道場	卓球場	剣道男更	食堂
朝食当番	10の日	2の日	3の日	4の日	5の日	6の日	1の日	7の日	8の日	9の日
体操服										
ジャージ 上										
ジャージ 下										

サイズ一覧  
→必要な人

連絡事項

- ① 飲料水の配給について →日程は後日。本部→リーダー会議へ



- 1) 各班に比例配分→4本/人 2000本有り 3/4か3/8以降 2) 受付で申し出て渡す(1回1人1本)
- ② 2Fのポータブルトイレについて  
芦屋市保母の宿泊終了により清掃・衛生管理できず  
利用者の意見を本部まで→次回までに意見を聞いておく
- ③ 洗濯場の排水溝の清掃について  
週1回、できれば毎日→班毎に責任を持って→ストッキングをパイプに留める(ネット等適宜)  
水道の蛇口交換(～18:00 17時までから延長)
- ④ 炊き出しについて 3/8(水)1回実施→次回は未定  
水曜日 定例化できないか→昼2、3人だが夕方帰ってきた人が手伝える? 材料、燃料等は市が提供してもよい
- ⑤ 玄関横の卓球台の移動について 武庫高校が授業で使用するため移動します(犬を2匹つないでいる)
- ⑥ 電話の利用方法について 午前8時～午後10時 用件のみ短時間で
- ⑦ 尋ね人について (別紙)

炊き出し

- 【1】3/3(金) — <昼>ぜんざい(角本さん)  
【2】3/5(日) — <夕>豚汁、おかゆ(天理教)  
【3】3/6(月) — <夕>さつま汁(近江兄弟社高校)  
【4】3/7(火) — <夕>豚汁(京都市職労)

受付中

- 1) カットサービス——3/4(土) 8:30～10:30 大森さん(6班) 整理券を受付で

配布物

- A) コップ 1セット B) 茶碗 1個

※ 物の配布はリーダー会議のない日に

自転車の配置場所→体育館西、柔道場東

次回リーダー会議 3/6 20:00～

3月6日(月)

	1班	2班	3班	4班	5班	6班	柔道場	卓球場	剣道男更	食堂
朝食当番	10の日	2の日	3の日	4の日	5の日	6の日	1の日	7の日	8の日	9の日
体操服										
ジャージ 上										
ジャージ 下										

連絡事項

- ① 生活状況調査について

食事の数量の確認、物資配分の基準数にしますので次回までに確認を→次回リーダー会議で



② 炊き出しについて 3/8 (水)

メニュー→豚汁、中華スープ、けんちん汁、クリームシチュー、おでん、八宝菜

- ・早くて来週より週2回→(水)を要望
- ・器材一式(3重コンロ 4台、36ℓ鍋4ヶ ブロック他)
- ・週2回(火、木)温食(カットは不可)食材は16時までに配送

プロパンのみ至急、マキはどうか(柔道場前は可) 水田さん(柔)との調整

③ リーダー会議の日程について 【原則】固定化(週に\_\_回、\_\_、\_\_、\_\_曜日)→次回で検討

④ 自衛隊(一部)撤退について 3/7 (火) 午前10時(9:30 リーダーで挨拶 10:00 放送)

北海道に帰る部隊があるので見送りをよろしくお願いします→代表の方で(市長も)お礼の一言を

⑤ 電気温水器の利用について

200ℓ 1.5kw ドラムカンの中に電熱線入り

飲み水として使えるがすすめない 6~7時間で40~60度

⑥ 避難所生活で心ゆたかに暮すために 3/7 (火) 19:30 食堂奥(厨房前)

永田 兼一さん(日本ヒーリングセラピスト研究所 所長)

野村 和男さん 藤原みどりさん 佐藤ゆかりさん 楠田あつこさん(カウンセラー)

→不眠症の方々 体を動かして20~60分

⑦ 電気工事について 3/8 目途に工事中 (電気容量の大幅増のため)

電化製品の増加が予想されるが、場所・コンセントの数量の問題残る→ブレーカーは剣道場廊下

⑧ 学生服の提供について

今春卒業された方から提供の申し出あり 必要な人は次回までに→3/8 18:00 締切

⑨ 眼鏡の提供について

3/19(日)午後 眼科医(山室会眼科)来所の上 眼鏡プレゼント(約1週間後)

遠・近を問いません(事前の申込み不要)

⑩ ペットの数確認 保健所より依頼

本部へ届け(名前付、種類) 3/7 17:00まで

⑪ クラリネットアンサンブル「サーブ」(8名+α)

60分(喫茶、インスタントコーヒー付)土日の昼か夕食時 平日の夕食時 受入れ日時を電話で連絡→実現せず

炊き出し

【1】3/7(火) <夕>豚汁ごはん 300人分(30kg) 16:00~(京都市職労)

※ 勉強室に張り紙「静かに」

3月8日(水)

連絡事項

① 食事の配布・処理について 3/10 開始

今回の調査を元に発注します 6:30集合

昼食分も実数配分します(配分担当——) 11:30(朝昼通して準備)

残りが出ても各班で処理下さい 夕食 後日



② 炊き出しについて プロパン 3/9 (木) 搬入

③ 自衛隊医療班の撤退について

3/14 (火) 診療終了

15 (水) 撤退

3/16以降 巡回診療 月・水・金 午後3時～午後5時

④ 自習室(食堂奥)の利用について 午後10時消灯、その後の利用は特に静かに(保護者の方で時々確認を)

⑤ そうじ機の使用について 2台あり——(体育館2F) (体育館1F、柔道場)にしてはどうか。

⑥ 1階の戸締りについて

食堂出口、奥の施錠をします→食堂で22時に閉める 出入禁止 あしかび会館の横の門も閉めるように

⑦ 電気工事について

使用禁止 電熱器、電気ストーブ、 (火事の危険性のあるもの)

総量が規制されてますので、使用には注意を(全体で150A) トースター可 電子レンジ 1台を2階へ

⑧ リーダー会議の日程について →【原則】固定化(週に2回、月・木曜日) 20:00～

⑨ 洗濯(ダスキン)について →3/11(土) 受付分で終了

⑩ 「こころと健康」講演会について →3/13(月) 19:00～芦屋高校 本館2F 大教室

⑪ 避難所生活で心ゆたかに暮すために(第2回) 3/9(木) 19:30 食堂奥(厨房前)

永田 兼一さん(日本ヒーリングセラピスト研究所 所長)

炊き出し

【1】3/11(土) — <昼>うどん } 可児市ボーイスカウト  
<夕>けんちん汁

【2】3/12(日) — <昼>うどん、パン、ドーナッツ(旭製粉)

受付中

1) 学用品

配布物

A) こころとからだ Q&A (世帯に1部)

※ 柔道場の放送が入りにくい

3月13日(月)

連絡事項

① 食堂業務の再開について 4月以降学校再開にあたり、食堂を再開したい

[今後の用途]

学校側 食堂再開の準備・学校行事等の使用(教科書販売、各種の小集会)

避難所 昼食時に食堂の利用可。(食品は有料200～400円) 談話室等として利用可



<日程> 3/17(金)までに移動をお願いしたい

3/17のみ高校生ボランティア在所

3/18~24 夕方まで 食堂閉鎖(教科書販売のため)

- ② 畳の使用について 家庭用畳(77枚)剣道場へ 3/14(火)午後 コンセントの工夫を
- ③ 大掃除の実施について 3/18(土) 10:10  
高校生ボランティアも集めて道具移動、2階(舞台の両端、北側のした)の手伝い→3/16 入試
- ④ 電気毛布の配布について 140枚 <原則>→世帯1枚(次回にリストを)
- ⑤ 柔道場の電気工事(仮設校舎で利用するため)について  
3/14(火)柔道場 配電盤付近の壁・天窓に穴をあける(短時間)  
2、3日後 一時的な停電を伴う工事(容量増設はないが、教室のみのため避難所での使用に問題なし)  
配電盤付近の方 荷物の整理を
- ⑥ 自衛隊医療活動終了後の医療について(別紙参照)  
救護所の開設(前回3/8に連絡分は取消)  

水・土(13:00~15:00)女子更衣室
-----------------------
- ⑦ 自衛隊医療班の見送りについて  
3/16(木) 11:00 芦高グラウンド よろしくおねがいします。  
10:50 グラウンド集合 放送控える(入試のため)
- ⑧ 退所について  
1) 手続きは早く、正確に(食事等のため、出来るだけ事前に)  
2) ふとん・毛布等、物品はすべて持ち帰り下さい
- ⑨ 炊き出しについて  
1) 火・金に実施(温めるだけ)  
2) 野菜(草津市より)うどんあり ——実施時期?→次回リーダー会議で
- ⑩ プロパンの使用原則について 玄関前に設置、4口あり  
使用時以外は元栓を堅く閉めておくこと(嚴重注意)

使用原則

- 1) 炊き出し時(可)
- 2) 外部団体 (可・不可)できるだけ持参してもらう
- 3) 個人で利用 (可・不可)カセットコンロで
- ⑪ 物資の抽選について →受付で抽選券を入れる 世帯で1枚  
コンロ 20・懐中電燈 20 次回申込書を
- ⑫ 夕食の配分について  
各班で分担して——現行の班割りで(次回で決定)卓球場・柔道場の扱い
- ⑬ 物資の希望調査について 班で希望調査し次回に決定してはどうか
- ⑭ 乾燥機の利用について  
3/15(水)に10台(1F 2台、2F 4台、プール4台 柔道場は設置できる場所なし)  
利用原則——16日に検討



炊き出し

【1】3/14(火) — <夕>ビーフシチュー、野菜まんじゅう、マドレーヌ(辻調理師学校)

3月16日(木)

連絡事項

① 食堂業務の再開について

<日程> 3/17(金) 高校生ボランティア在所

3/18(土) 大掃除・高校生ボランティア在所

3/19(日) 午前中移動完了 午後より24日昼まで閉鎖(教科書販売のため)

② 食事配分の割り当てについて(3/19以降)

	1班	2班	3班	4班	5班	6班	柔道場	卓球場	剣道男更
日にち	1	2	3	4	5	6	7、8	9、31	10

3月20日剣道場より開始

③ 大掃除の実施について 3/18(土) 10:00 床・タイルの水拭き、2Fステージ近辺の整理

④ 電気毛布の配布について →140枚 世帯1枚(残—数枚) 134枚 残は本部で

⑤ 炊き出しについて

1) 火・金に実施(温めるだけ)

17(金)	21(火)	24(金)	28(火)	31(金)
おでん	中華スープ	クリームシチュー	けんちん汁	八宝菜

2) 自主炊き出し 3/18(土) 夕食時 焼きそば、焼きうどん、みそ汁 みなさんで協力を

⑥ 子供用下着(150cmまでの男女児用)の分配について

3/17(金) 19:30 食堂奥(厨房前) 希望者が集り、相談して分配

⑦ 物資の抽選について

1) 「物品申込書」を上下とも書く。→月・木の会議前後に抽選

2) 受付に提出し、受付印を押してもらう。(半分にし、1つは封筒へ、1つは本人へ)

3) (控)を受け取り、抽選発表を待つ。

4) 班長会議の日に抽選、当選者を発表し物品を配布する。

⑧ 物資の希望調査について

<特に希望の多いもの>

(細かいものは後日整理して検討) ふとん希望者は本部へ個人的に申込む ホカロンが欲しい

⑨ 救援用電気製品の利用について

1) 乾燥機 (10)設置済 排水のためのホース 洗濯の翌日に乾燥機をつかう 下の6台を使用(投入は18:00)

2) トースター (9)各班1台

3) 掃除機 (5)フィルターの袋

4) 湯沸かしポット(12)調査



⑩ 「食生活と健康に関する調査」の可否について

大阪市立大学 生活科学部 数名来所、聞き取り調査（午後3時～8時頃）

⑪ 緊急一斉法律相談 → 3/19（日） 13時～16時 芦屋市商工会館（市役所北）

⑫ 確定申告等に関する税務相談 概要の説明、個別相談とも 3/24（金） 19時～20時 食堂

⑬ 眼鏡の提供について ★ 3/6 お知らせ済み

3/19（日）午後 眼科医（山室会眼科）来所の上 眼鏡プレゼント（約1週間後）

遠・近を問いません（事前の申込み不要）

炊き出し

【1】 3/19（日）一 <昼>牛丼（三田市富士小学校職員）

抽選物品 それぞれ申し込めます

【A】カセットコンロ 62台（世帯で申込み）

【B】懐中電灯（大） 22台（世帯で申込み）

※ ふとんだけの人が居る。夜に国際電話を長時間する。退所勧告をする。掃除道具が傷んでる。

3月20日（月）

	1班	2班	3班	4班	5班	6班	柔道場	卓球場	剣道男更	食堂
湯沸かしポット										

連絡事項

① 食堂閉鎖について → 3/19（日）午後～24日午後（教科書販売のため）

② 食事配分の割り当てについて（3/20以降）

	1班	2班	3班	4班	5班	6班	柔道場	卓球場	剣道男更
	1	2	3	4	5	6	7・8	9(31)	0

③ 物資の抽選について

1) 懐中電灯（22/46）

2) カセットコンロ（申込み者全員） 当選者は本日より23日午後5時まで引き換え（以後無効）

④ 物資の希望調査について

<特に希望の多いもの>

1) 仕切パネル→世帯1組を要求 2) ふとん 3) 洗剤

<細かいもの>（別紙）

⑤ 救援用電気製品の利用について

1) 乾燥機——「月曜日」の使用 避難所の人のみ（注意の張り紙） フィルターの清掃

2) 掃除機——ごみパック

3) 湯沸かしポット(12)本部預り

⑥ 確定申告等に関する税務相談 概要の説明、個別相談とも 3/24（金） 19時～20時 食堂



- ⑦ 班の統廃合について →次回で
- ⑧ 募金箱の設置について 自主的な炊き出し時の材料、調味料代等に
- ⑨ 仮設トイレの設置場所の移動について  
 利用状況——多し 3基だけ撤去  
 設置場所——  
 食堂南側の水道→蛇口を本部で貸出（給水のみ使用）但し、便所掃除は可

炊き出し

〔市による配給〕	21(火)	24(金)	28(火)	31(金)
	中華スープ	クリームシチュー	けんちん汁	八宝菜

【1】 3/27(月) — <昼>炊き込みご飯、すまし汁（滋賀県甲良町社会福祉協議会）

【2】 4/1(土) — <昼>信州そば（長野県全教）

抽選物品 それぞれ申し込めます

【A】 ラジオ 8台（世帯で申込み）→締切 3/23 12:00

【B】 はさみ 27台（世帯で申込み）

※ カイロ→比率 ティッシュ→3個/世帯+比率

3月23日(木)

連絡事項

- ① 食事数の届け出は合計数で 「-1」「+2」等の相対的な報告をしないで総数で
  - ② 卓球部の練習について  
 〔3/27~4/5〕月・水・金 2:00~5:30（食堂復元完了） 食堂（厨房前除く）  
 〔4/6以降〕月・水・金 3:30~5:30→毎日でも可
  - ③ 避難所における食堂の利用について ——意見交換をし、次回に原則を確定  
 （使用方法・時間帯）  
 1) 食事場所 2) 休憩場所 3) 小演奏会、集会等  
 4) 勉強場所→次回  
 5) 洗面所→柔道場前の雨よけ（テント検討）  
 6) リーダー会議  
 7) 物品配分所
- ①閉めておいた方がいいのでは
  - ②申し出て使う
  - ③業者のいる時のみ
  - ④学校側に委ねる
- ④ 物資の抽選について  
 1) ラジオ（8/51） 2) はさみ（27/38）  
 当選者は本日より27日午後5時まで引き換え（以後無効）
  - ⑤ 救援用電気製品の利用について →1)湯沸かしポット(12)本部で管理 必要なら貸し出します
  - ⑥ 柔道場の停電（仮設校舎の電気工事）について →3/25(土) 13:00~13:30 短時間で終わります
  - ⑦ 音楽バンドのボランティアについて →EPO, ショーロクラブ  
 4/5(水) 午後7時30分~ 約1時間 食堂にて 3~4人（ギター、ウッドベース、ボーカル） 可



⑧ 班の統廃合について → 1、2、5班で減少激しい

炊き出し

〔市による配給〕	24(金)	28(火)	31(金)
	クリームシチュー	けんちん汁	八宝菜

【1】 3/27(月) — <昼>炊き込みご飯、すまし汁(滋賀県甲良町社会福祉協議会)

【2】 3/29(水) — <夕>すき焼き風煮込(天台京都青年会)

【3】 4/1(土) — <昼>信州そば(長野県全教)

行事

【1】 確定申告等に関する税務相談 概要の説明、個別相談とも 3/24(金) 19時~20時 食堂

【2】 寄席(落語) 3/26(日) 19:30 食堂 笑福亭遊喬、笑福亭喬楽

【3】 美容カットサービス 3/28(火) モッズ・ヘア(時間帯は後日、掲示で発表)

【4】 「食生活と健康に関する調査」について 3/30(木) 15:30~20:30

大阪市立大学 生活科学部 数名来所、聞き取り調査

※ KDDより苦情→公衆電話化できないか

3月27日(月)

	1班	2班	3班	4班	5班	6班	柔道場	卓球場	剣道男更
人数	19	29	23	17	24	21	57	43	27
世帯数	8	12	12	10	8	10	24	16	18

連絡事項

① 「避難所生活に関する調査」 3/29(水) 午後7時 締切

(配布文書) 1)ごあいさつ 2)避難所生活に関する調査 3)封筒

<提出方法> 封筒の表に「班名」「氏名」「住所」の3つを記し、直接本部受付へ

② 班別名簿の確認 3/29(水) 午後7時 締切

1) 「調査」を渡した世帯の「世帯主」欄に○をつける

2) 食事数をできるだけ正確に確認する

3) 世帯(主)で抜けているのがあれば書き足す 提出後、コピーをお返しします

③ 勉強場所、利用人数の確認 → 要望が強ければ考える

④ 電話の使用について

NTTの方針——有料化した公衆電話の設置はしない

設置台数

1) 昼間 2) 夜間

⑤ 希望物資について (別紙)

⑥ 班の統廃合について

1) 体育館(2F) 133人 4、5班分に相当(一班あたり約30人) 全体 265人



2) 今後の班編制の方針→4月中旬を目途に考える

⑦ 物品の放出会

数量が中途半端なものを一斉に配布する(日時、場所を予告)できるだけ参加が見込めるように配慮

(方法) チケットとの交換——1世帯-5枚

リーダーにお手伝いを(作業が大変なので)

3/30 チケット配布

4/1 14:00 準備 19:00 開始

炊き出し

〔市による配給〕	28(火)	31(金)
	けんちん汁	八宝菜

【1】3/29(水) — <夕>すきやき風煮込(天台京都青年会)

【2】4/1(土) — <昼>信州そば(長野県高教組)

行事

【1】美容カットサービス 3/28(火) 15:00~ モッズ・ヘア 3、4人

【2】「食生活と健康に関する調査」について

3/30(木) 15:30~20:30 大阪市立大学 生活科学部 数名来所、聞き取り調査

【3】ビワ温圧療法 4/4、5、6 日本ビワ温圧療法師会

3月30日(木)

連絡事項

① 本部体制について

1) 可児市職員の応援終了(3/31)

2) 芦屋市の対応

9:00~17:00	1人	} 3人で交替
17:00~9:00	2人	

3) 県芦高の体制の変更 (専任)金延 (係)佐和、加藤、服部、稲葉

② 物品の放出会 4/1(土) 19時より20時50分まで

物品引換券——(原則) 1点につき1枚 但し、1点で2、3枚必要なものもある

	時間帯	交換品数	引換券の種類(1世帯につき)	
1	19:00~19:40	5点まで	白(大) 5枚つづり(時間帯記入済)	外にでる
2	19:45~20:15	5点まで	茶(大) 5枚つづり( " )	"
3	20:20~20:50	10点まで	茶(小) 10枚つづり( " )	

<放出会の準備> 4/1(土) 14時 お手すきの方お手伝いをよろしく申し上げます 使用済みは<消す>



③ 救護所の閉鎖について

3/29 診療終了 以後、夜間救急等の問い合わせは芦屋市消防本部（32-2345）まで

④ 仮設トイレの一部撤去 食堂横 6台（西吉野）

3/30 使用終了<使用禁止>

31 清掃、汲み取り、工事

4/1 撤去

⑤ 食事について

1) 内容の向上

2) 配布方法の変更 2回配食 ①昼、②夕（翌日分の朝食も同時に配布）食パン希望

炊き出し

[市による配給]

31(金)	4/4(火)	7(金)	11(火)	14(金)	18(火)	21(金)	25(火)	28(金)
八宝菜	赤だし	うどん	カレーシチュー	粕汁	玉子スープ	ビーフシチュー	新筍のスープ	新芋肉じゃが

【1】4/1（土）— <昼>信州そば（長野県高教組）

行事

【1】ビワ温圧療法 4/4、5、6 日本ビワ温圧療法師会

4月3日（月）

	1班	2班	3班	4班	5班	6班	柔道	卓球	剣更	合計
世帯	8	11	11	6	8	9	21	16	11	103
人数	20	24	21	12	26	18	51	40	18	237

連絡事項

① 班の再編成について →4月中旬まで待つ 洗濯について（1～6班は合同でFREEにする、月火水）※1

② 駐車場の移動について →4/5中にお願ひします

③ プール北側仮設トイレを1列に並べ変えて使用可能にします（4/4）

4月中旬に水槽工事（一時断水）後は水洗が止る心配はほぼ無くなります。

④ 訪問、取材関係の原則

・こころのケア関係 随時入室

・調査アンケート関係 リーダーミーティングで了解後に

・マスコミ関係 カメラの無断撮影の原則禁止

⑤ 「ピーターパン」ミュージカル招待の案内（別紙）

⑥ 朝食の配布は前日の夕食時

※2 消灯時間の見直し

※3 2階トイレ→使用者の確認。本来使用すべき人が使わなくなったなら撤去も考える

入学式の花 4月中旬に立食会



行事

- 【1】びわ温灸 4/4～4/6
- 【2】食堂コンサート 4/5 19:30～20:30 EPO、ショーロクラブ
- 【3】お抹茶サービス 4/6 13:00～ 玄関ホール
- 【4】食堂の学校利用 ・4/6 会議 ・4/7 午後 身体測定 ・月水金～17:30 卓球部練習

※1～3は次回

4月6日(木)

連絡事項

① 断水(一部)について

- 1) 4/6(木)～14(金) 芦高中館の貯水タンク破損、交換工事の間

使用不可 トイレ用水、洗濯用水(上水道は使用可)

- 2) トイレ使用について

- ・仮設トイレの利用
- ・水溜めの水で流す(大量に使用を。紙づまりの原因となる)→本部よりホースを利用して補充

② 仮設住宅(抽選もれの方)について

- 1) 3次で募集は、ほぼ終了(予定)
- 2) 抽選もれの方(約60)も順次繰上げ入居予定(辞退等ができるため)
- 3) 4/4現在で2次の鍵渡し途中(～4月半ば)
- 4) 4次募集の実施は未定

③ 転居予定の調査について

4月下旬～5月中旬に退所される予定の方(仮設住宅3次分、その他)に○の記入を 4/9締

④ 寝具類の乾燥サービス 4/7(金) 9:00～17:00 30～50枚/回 30分 毛布、枕、シーツ

⑤ 体育館1F玄関の施錠について

- ・柔道場の方の利便性

⑥ 転居の届について

- 1) 県芦独自のもの(従来)……本部で保存 2) 市の様式(新設)……市が回収
- お手数ですが、2枚ともお書き下さい

⑦ 避難所親睦会について 5/13(土) 午後7時～ 食堂

⑧ 食堂の鍵 7:00 開錠 22:00 施錠

炊き出し

[市による配給]

7(金)	11(火)	14(金)	18(火)	21(金)	25(火)	28(金)
うどん	カレーシチュー	粕汁	玉子スープ	ビーフシチュー	新筍のスープ	新芋肉じゃが

【1】4/6(木) — <おやつ>お抹茶 (上蘭さん)

【2】4/12(水) — <昼>ばら寿司 (滋賀県甲良町社会福祉協議会)



行事

- 【1】 4/13 (木) 巡回健康診査 13:30~15:30 於 食堂 (主催 芦屋市保健センター)
- 【2】 4/7 (金) 花見と花まつり (別紙)
- 【3】 4/8 (土) わくわく一日こども村 (別紙)

学校行事 (食堂利用)

- 《1》 4/7 (金) 午後 身体計測 《2》 4/11 (火) 午後 保険受付 《3》 4/13 (木) ~ 食堂営業再開
- 《※》 (月・水・金) ~17:30 卓球部練習

抽選物品 4/9 (日) 18:00申込締切

- 【A】 ラジコンカー 1台
- 【B】 下着 (靴下 49、男パンツ 21、Tシャツ 9) 別々に申込を
- 【C】 女性用長袖シャツ(S) 2枚
- 【D】 ハンカチ 11枚

<前回の課題>

- ※1 洗濯時間→従来通り ※2 消灯時間→従来通り ※3 2階トイレ→従来通り(5班2名使用→使用者が掃除)

4月10日 (月)

連絡事項

- ① 寝具類の乾燥サービス 4/11 (火) 9:00~17:00 1時間/回 毛布、枕、シーツ
- ② 避難所の備品について 市県に所有権あり (現段階) 最終的に市物資係 (芦屋南高校) に返却
- ③ 衣類の展示について →4/12まで展示、以後返却 (市の指示)
- ④ 紙おむつ (大人・子ども用) の配分について →4/14 (金) 19:00~ 食堂
- ⑤ 仮設物置募集は全員当選しています。詳しくは受付掲示板をごらん下さい

炊き出し

[市による配給]

11(火)	14(金)	18(火)	21(金)	25(火)	28(金)
カレーシチュー	粕汁	玉子スープ	ビーフシチュー	新筍のスープ	新芋肉じゃが

- 【1】 4/12 (水) <昼>ばら寿司 (滋賀県甲良町社会福祉協議会)
- 【2】 4/16 (日) <昼>肉まん、スープ (中華料理「上海」) <夕>2品、スープ他 ( " )

行事

- 【1】 4/13 (木) 巡回健康診査 13:30~15:30 食堂 (主催 芦屋市保健センター)
- 【2】 4/15 (土) イニッシュモア、フォークコンサート 15:00 食堂
- 【3】 5/13 (土) 避難所大親睦会 18:00 食堂



**学校行事** (食堂利用)

《1》4/11(火)午後 保険受付 《2》4/13(木)～ 食堂営業再開

《※》(月・水・金) ～17:30 卓球部練習

**抽選会** (本日分) 引換え 本日より4/13(木)まで

【A】ラジコンカー	1台	34	
【B】下着 靴 下	49枚	12	(全員当選)
男パンツ	21枚	6	(全員当選)
Tシャツ	9枚	16	
【C】女性用長袖シャツ(S)	2枚	18	
【D】ハンカチ	11枚	18	

**抽選物品** 4/12(水) 18:00申込締切

【ア】シャンプー 17本

【イ】ウェットティッシュ(ポケットサイズ 5個入り) 30セット

4月13日(木)

**連絡事項**

① 体育館2F外階段側のドア施錠について

内側より鍵の開閉可能(昼間、2Fは不在で不用心のため)

2Fの喫煙者……そのつど開錠し、踊り場で喫煙、その後施錠をお願いします

<時間帯> 9:00～16:00

② 紙おむつ(大人・子ども用)の配分について

衣類の残りも合せて配布します(当選で未引換分を含む) 4/14(金) 19:00～ 食堂

③ 駐車場について →53台分(番号)→枠内で自由に駐車を。14日より実施

④ 忘れ物 手帳、名刺入れ

4/10以前 柔道場前の洗濯機上に放置

⑤ 新聞の配達終了について →4/15(土) 避難所への配達打ち切り(連絡掲示済み)

⑥ ストレストテスト報告 →以前実施しましたアンケート調査の報告書を回覧下さい(受付に1部)

**炊き出し**

[市による支給]

14(金)	18(火)	21(金)	25(火)	28(金)
粕汁	玉子スープ	ビーフシチュー	新筍のスープ	新芋肉じゃが

【1】4/16(日) — <昼>肉まん、玉子スープ (中華料理「上海」)

<夕>皿うどん、豚角煮、スープ他 ( " )



行事

【1】 4/15 (土) イニッシュモア、フォークコンサート 15:00 食堂

【2】 5/13 (土) 避難所大親睦会 18:00 食堂

学校行事 (食堂利用)

《1》 4/13 (木) ~ 食堂営業再開 《※》 (月・水・金) ~17:30 卓球部練習

抽選会 (本日分) 引換え 本日より 4/16 (日) まで

【ア】 シャンプー 17本 34

【イ】 ウエットティッシュ 50セット 38 (全員当選)

抽選物品 4/16 (日) 18:00 申込締切

【A】 カート (新品) 21台

【B】 ボールペン 5本

※ 不審者の出没が心配。注意書きを玄関・体育館入口に設置

4月17日 (月)

連絡事項

- ① トイレ用水等について 工事完了……トラブルの可能性有り
- ② カレンダー配布 100部 (配布方法) 18日以降に受付で ~20日 (木)
- ③ コンロ配布について 残り世帯に配布 (別紙一覧) 18日以降に受け取りを

炊き出し

[市による配給]

18(火)	21(金)	25(火)	28(金)
玉子スープ	ビーフシチュー	新筍のスープ	新芋肉じゃが

行事

【1】 5/13 (土) 避難所大親睦会 18:00 食堂

学校行事 (食堂利用)

《1》

《※》 (月・水・金) ~17:30 卓球部練習



抽選会 (本日分) 引換え 本日より 4/19 (水) まで

【A】カート(新品) 21台 62

【B】ボールペン 5本 32

抽選物品 4/19 (水) 18:00 申込締切

【ア】絵はがき 申込者で等分

4月20日(木) 中止

### 連絡事項

① トイレ用水について 夜間・休日に断水の可能性大

② 柔道場前のフェンスについて

終日閉鎖 但し (1)15:00~15:40の清掃時間帯は1ヵ所のみ開ける  
(2)授業時等に少量の水を汲む時もある

### 炊き出し

[市による配給]

21(金)	25(火)	28(金)
ビーフシチュー	新筍のスープ	新芋肉じゃが

### 行事

【1】5/13(土) 避難所大親睦会 18:00 食堂

学校行事 (食堂利用)

《1》(月・水・金) ~17:30 卓球部練習

### 本日(5/1)のリーダーミーティングについて

本日のリーダーミーティングは、ここ1、2週間で仮設住宅等へ移動なされる方もたくさんいらっしゃるよう  
ですし、すでに、少人数になっている班もありますので、少なくなったメンバーでよりよい避難所運営ができる  
よう、ご意見、ご希望があられる方は、どなたでもご出席下さるようなミーティングにしたいと思います。

リーダーさん以外の方も、どうぞご出席下さい。なお、本日は食堂にて行います。



5月1日(月)

連絡事項

① 記録集の作成について

- 1) 阪神大震災の芦屋に及ぼした被害
- 2) ボランティアの活動
- 3) 避難所の開設から現在に至るまでの日々の生活の記録
- 4) 避難者の生の声を中心に……A)アンケート調査【全員】

B)作文【ご協力いただける方】8/31締切 県芦 金延、佐和まで  
座談会(ビデオで)13日前後 編集は任せて下さい

② アンケート調査について(別紙) 提出先 受付 締切 5月6日

③ 全仮設トイレの撤去について(提案)

- A) 屋外分(食堂前、柔道場前)  
5/7(日)使用可 5/8(月)使用不可、撤去準備 以後、撤去 13日までに(市に要請)
- B) 2F仮設トイレの撤去(提案) 5班2名のみ→不在のため撤去

④ 下記事項のルールの確認について

- 1) 炊き出し場の利用……
  - どなたでも自由に利用できます
  - 携帯用ガスコンロ(備えつけ)を利用下さい(ボンベは各自で)
  - 火の始末、後片付けをしっかりと
- 2) 電気製品の利用……直接火災の心配の有るもの館内使用厳禁(電熱器、電気ストーブ等)

⑤ 本部室内への出入りについて 配慮の欠ける点があったことをお詫びいたします。

⑥ 食事数の確認について

連休後、毎日食事数を業者に報告します 変更あればその都度、黒板の必要数、合計の訂正を

⑦ 避難所より退所なさる場合は移動届(2部 市提出、本部保管)を提出下さい

⑧ 花……各世帯で退所時に一つずつお持ち下さい(5/4 到着、以降配布)

買物用 手さげ袋(約30枚)……到着次第、抽選受付(5/2、3 到着見込)

⑨ 伝言は本人が取りに来るように

炊き出し

5月分

2(火)	5(金)	9(火)	12(金)	16(火)	19(金)	23(火)	26(金)	30(火)
赤だし	クリームシチュー	豚汁	中華スープ	けんちん汁	カレーシチュー	玉子スープ	みそ汁	ビーフシチュー

行事

【1】5/13(土) 避難所大親睦会 18:00 食堂

学校行事 (食堂利用)

《1》5/22(月)~24(水)午後 保護者会

《※》(月・水・金) ~17:30 卓球部練習



配布物

【1】広報あしや

【2】あしや市議会だより

※ 仮設に家族転居の是非について→誤解の無いように（個々の事情）

仮設の申込まれてない方→1階（食堂）で事情聞き取り 5月下旬に鍵渡し

※ 班の統廃合について→掃除、食事とも自分たちです。統廃合はしない

5月11日（木）

連絡事項

- ① 在籍者の状況確認について →5月下旬に鍵渡し、退所完了 閉所を考えている（市より文書で発表）  
 1) 当所で生活されている方      1) 食事のみ、荷物のみの方
- ② 退所された方の施設利用について（洗濯機、乾燥機について）  
 避難所の方→最優先      退所された方 →避難所の方の利用してない時
- ③ 近々退所の方の予定について      食事数報告等のため事前にお知らせ下さい
- ④ 温食について      気温の上昇に伴い、希望減少気味      （継続・中止）来週分より中止
- ⑤ 大親睦会について      300人位の規模で計画      避難所より記念品を寄贈予定
- ⑥ 座談会について      避難所生活を振り返って 5/14（日）13:00 食堂      ご自由にご参加下さい
- ⑦ 武庫高校の食堂利用について      卓球の授業に食堂を使用      午後7時～8時30分  
 《5月》15(月)、16(火)、17(水)、29(月)、30(火)、31(水)      《6月》月、火、水……毎週
- ⑧ アンケート調査について      （回収継続中）
- ⑨ 花（前回分）……各世帯で退所時に一つずつお持ち下さい（5/11 到着）      案内文を添えて
- ⑩ 畳の移動について →体育館2階より1階卓球場前に随時移動
- ⑪ プール授業 5/29～      洗濯機を柔道場前へ移動

炊き出し

5月分

12(金)	16(火)	19(金)	23(火)	26(金)	30(火)
中華スープ	けんちん汁	カレーシチュー	玉子スープ	みそ汁	ビーフシチュー

行事

【1】5/13（土） 避難所大親睦会 18:00 食堂

学校行事（食堂利用）

《1》5/22（月）～24（水）午後 保護者会      《※》（月・水・金）～17:30 卓球部練習

〈編集/佐和良一〉



### Ⅲ. 資 料

#### 【1. 学校関係】

##### ① 実態調査票（1月23日）

（ ）年 （ ）組 （ ）番 氏名（ ）

\*該当事項の記号に○印し、記入事項があればできるだけ正確に記入してください。 県立芦屋高校 1995・1・23

1. 本人・家族の状況	a. 本人 — ア. 負傷無し イ. 負傷有り (具体的に ) b. 家族 — ア. 負傷無し イ. 負傷等有り (入院先等、簡略に )
2. 自宅の状況	a. 居住不可 (ア. 全壊 イ. 半壊 ウ. 焼失 エ. その他) b. 居住可
3. 現在の居場所	a. 自宅 b. 自宅以外 — ア. 学校等の避難所 — 学校名等 ( ) イ. 親戚等の避難先 — 所在地 ( ) 名 称 ( ) TEL ( )-( )-( )
4. 通学の可否 通学方法 所要時間	a. 可 b. 否 (理由 ) a. 徒歩 b. 自転車 c. 電車等 a. 30分以内 b. 60分以内 c. 90分以内 d. 90分以上
5. 教科書等の有無	a. 無 b. 全て有り c. 一部有り
6. 要望事項	a. 学校に対して ( ) b. 学校等の避難所に対して ( ) c. 行政機関等に対して ( )
7. 連絡事項	今回の被災によりやむをえず他校への転学の必要が生じる場合は、担任or学校に連絡して下さい。

##### ② 生徒・教職員被害状況調査（1月23日に調査した結果）

###### (1) 生徒被害状況調査

		1 年	2 年	3 年	計	
出欠確認	出席者	188	288	240	700	
	欠席者	170	113	149	432	
本人家族の安否	本人	負傷	7	1	2	10
		死亡	1	1	1	3
	家族	負傷	15	9	8	32
		死亡	1	4	3	8
家屋の状況	全壊	16	19	21	56	
	半壊	43	73	78	194	
	その他	205	195	194	594	
現在の居場所	自宅	150	174	165	489	
	避難所	43	36	20	99	
	その他	129	162	193	484	
通学	可	199	253	245	697	
	否	90	67	64	221	
確認	済み	.....	328	397	379	1,104
		.....	358	401	389	1,148
	未	.....	30	4	10	44
		.....	358	401	389	1,148

###### (2) 教職員の被害状況（提出者数 46）

- ① 本人の負傷状況 負傷 7人
- ② 家族の負傷状況 負傷 7人
- ③ 現在の居場所 自宅 29人 避難所 17人
- ④ 通勤について 可能 29人 (1:00以内 12人)  
開始遅 14人 (1:30 9人)  
不可能 3人



③ 2月17日 生徒被害状況集計

3年	在籍	留学	転校	本人家族の安否				現在の居場所			家屋の状況		
				本人		家族		自宅	避難所	その他	全壊	半壊	その他
				負傷	死亡	負傷	死亡						
A	38	1		0	0	0	2	17	1	20	1	6	30
B	39			0	1	0	2	24	4	11	3	3	33
C	39			0	0	0	2	19	5	15	2	9	28
D	40	1		0	0	0	0	20	0	20	6	5	28
E	39			0	0	2	0	13	6	20	2	10	27
F	40			0	0	0	0	20	2	18	1	9	30
G	41			0	0	0	0	15	4	22	4	9	28
H	40			0	0	0	0	21	2	17	2	5	33
I	37			0	0	2	2	21	2	14	2	4	31
J	38			0	0	0	0	26	0	12	1	3	34
総計	391	2	0	0	1	4	8	196	26	169	24	63	302

2年	在籍	休学	転校	本人家族の安否				現在の居場所			家屋の状況		
				本人		家族		自宅	避難所	その他	全壊	半壊	その他
				負傷	死亡	負傷	死亡						
A	41			0	1	0	0	31	2	7	4	7	30
B	40		2	0	0	0	0	23	3	14	4	4	30
C	41		1	0	0	2	0	23	0	18	4	7	29
D	42		1	0	0	1	0	23	1	18	1	9	25
E	39		3	0	0	1	1	15	3	21	3	4	25
F	40	1		0	0	1	0	31	2	7	5	1	33
G	41		2	0	0	2	0	21	5	15	3	6	29
H	39		1	0	0	0	0	28	2	9	2	8	29
I	39		1	0	0	3	0	30	0	9	3	3	33
J	39		1	0	0	0	2	23	4	12	2	10	27
総計	401	1	12	0	1	10	3	248	22	130	31	59	290

1年	在籍	休学	転校	本人家族の安否				現在の居場所			家屋の状況		
				本人		家族		自宅	避難所	その他	全壊	半壊	その他
				負傷	死亡	負傷	死亡						
A	40		1	0	0	0	0	29	1	10	4	2	34
B	39	1		1	0	2	2	28	1	10	5	3	32
C	40		1	0	0	3	0	29	3	8	2	5	33
D	40		1	0	0	5	1	27	1	12	5	8	27
E	40		5	1	0	1	0	27	1	11	0	6	34
F	40	1	2	0	1	4	1	23	3	14	12	0	27
G	40			0	0	0	2	29	3	8	3	2	31
H	40			0	0	0	0	29	1	10	3	7	30
I	41	1	1	0	0	0	0	28	3	10	2	9	28
総計	360	3	11	2	1	15	6	249	17	93	36	42	276



④ 2月2日よりの臨時時間割

1年時間割

	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日		土曜日
	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1
A組	国語	英語	理科	数学	社会	英語	国語	理科	数学	社会	英語
B組	英語	国語	英語	数学	社会	理科	数学	国語	理科	英語	社会
C組	英語	数学	国語	社会	理科	数学	社会	英語	国語	理科	英語
D組	社会	英語	数学	国語	英語	理科	数学	社会	英語	国語	理科
E組	理科	数学	社会	英語	国語	英語	理科	数学	社会	英語	国語
F組	国語	理科	数学	社会	英語	国語	英語	理科	数学	社会	英語
G組	英語	社会	理科	英語	数学	国語	国語	社会	理科	英語	数学
H組	数学	英語	国語	理科	英語	社会	英語	国語	社会	理科	数学
I組	数学	社会	英語	国語	理科	数学	社会	英語	英語	国語	理科

国語	2	1	2	2	1	2	2	2	1	2	1	18
英語	3	3	2	2	3	2	2	2	2	3	3	27
社会	1	2	1	2	2	1	2	2	2	2	1	18
数学	2	2	2	2	1	2	2	1	2	0	2	18
理科	1	1	2	1	2	2	1	2	2	2	2	18

2年時間割

	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日		土曜日
	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1
A組	D 2	B 3	英語	国語	英語	日史	国語	D 2	英語	国語	生物
B組	英語	D 1	B 2	国語	英語	D 1	日史	英語	生物	国語	国語
C組	日史	D 1	B 2	英語	国語	D 1	地学	英語	国語	英語	国語
D組	D 2	B 3	国語	C 2	英語	世史	国語	D 2	英語	国語	英語
E組	D 2	B 3	国語	C 2	国語	英語	英語	D 2	国語	英語	日史
F組	国語	英語	数学	英語	B 1	国語	数学	A 群	国語	C 1	英語
G組	国語	英語	英語	数学	B 1	国語	英語	A 群	数学	C 1	国語
H組	国語	D 1	英語	C 2	国語	D 1	英語	国語	日史	英語	世史
I組	英語	国語	数学	国語	B 1	英語	国語	A 群	英語	C 1	数学
J組	英語	国語	国語	英語	B 1	国語	数学	A 群	数学	C 1	英語

国語	3	2	3	3	3	3	3	1	3	3	3	30
英語	3	2	3	3	3	2	3	2	3	3	3	30
社会	1	3	2	0	2	2	1	2	1	2	2	18
数学	3	3	2	1	0	3	2	3	2	0	1	20
理科	0	0	0	3	3	0	1	2	1	2	1	13

A群<FGIJ>物理(F)化学(G)日本史(J)地理(I)

B1<FGIJ>物理(F)化学(G)世界史(J)日本史(I)

B2<BC>地理(B)世界史(C)

B3<ADE>地理(A)地理(D)世界史(E)

C1<FGIJ>日本史(F)地理(G)生物(J)化学(I)

C2<DEH>地学(D)生物(E)化学(H)

D1<BCH>数Ⅱ(B)数Ⅱ(C)解代(H)

D2<ADE>解代(A)数Ⅱ(D)数Ⅱ(E)

《解説》出勤可能職員の実状に合わせて、教科担任・科目は各教科に任せる



⑤ 転学希望者一覧表

平成7年2月15日現在

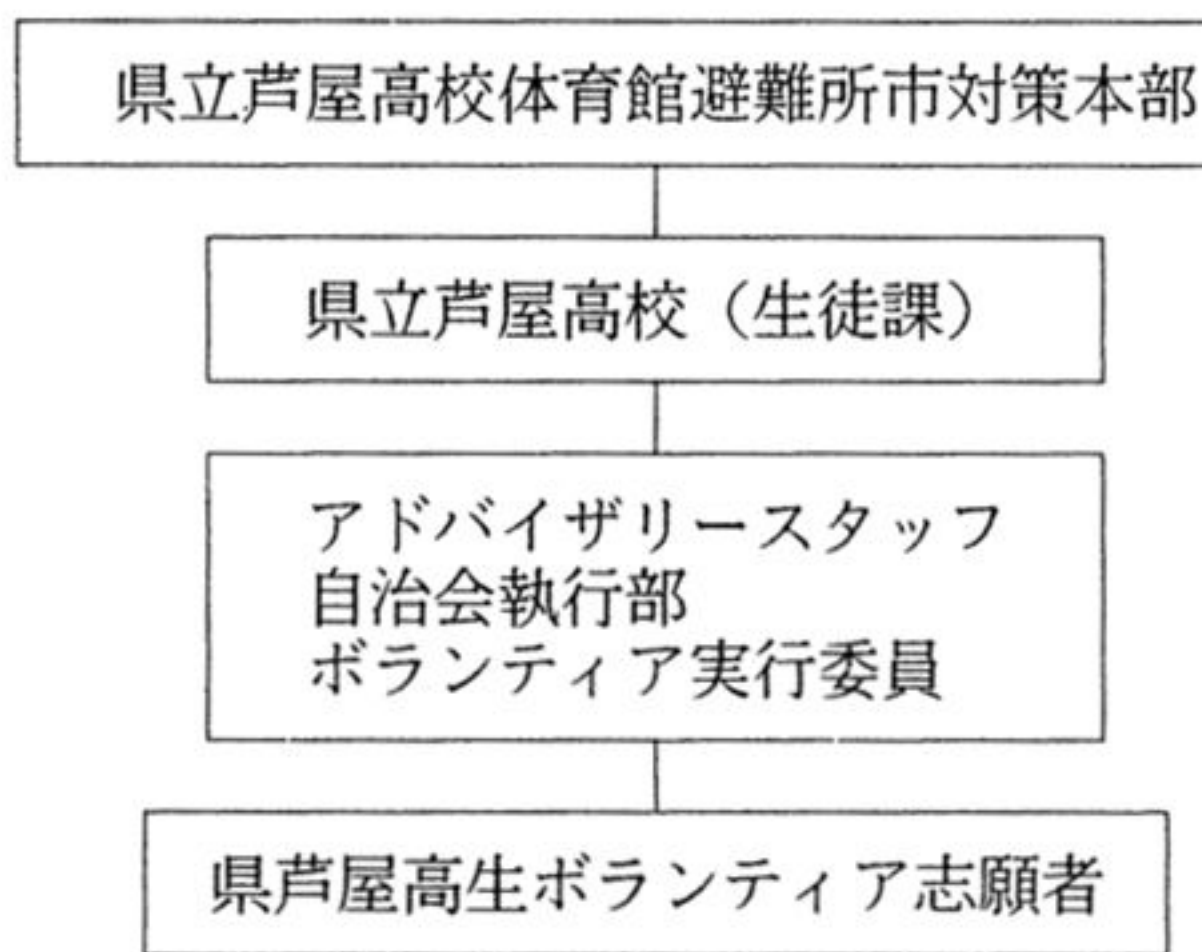
学年	組	番号	氏名	転学先	決定	転出日	転入許日	学籍上の扱い
1	省略	省略	省 略	県立横須賀大津	○	2/2	2/3	転学
1				県立高知西	○	2/?	2/?	在籍は本校
1				県立金沢二水	○	1/25	1/26	在籍は本校
1				県立加古川東	○	1/31	2/1	在籍は本校
1				県立三木北	○	1/25	1/26	在籍は本校
1				県立八鹿	○	1/25	1/26	在籍は本校
1				府立寝屋川	○	1/27	1/28	転学
1				府立大和川	○	1/29	1/30	転学(短期)
1				県立防府	○	1/23	1/24	在籍は本校
2				愛知県立日進西	○	2/3	2/4	転学
2				横浜市立桜丘	○	2/2	2/3	転学
2				道立旭川北	○	1/31	2/1	転学
2				岐阜県立多治見	○	1/27	1/28	転学(短期)
2				県立高松西	○	1/31	2/1	転学
2				県立高松西	○	1/31	2/1	転学
2				福岡県立城南	○	1/31	2/1	転学(短期)
2				大阪府立香里ヶ丘	○	1/31	2/1	転学
1				須磨東	○	1/31	2/1	転学
2				市姫路	○	2/1	2/2	在籍は本校
2				奈良県立北大和	○	1/30	1/31	在籍は本校
2				愛知県立福江	○	2/5	2/6	在籍は本校
1				広島県立庄原格致	○	2/3	2/4	転学(短期)
2				和歌山県立那賀	○	2/2	2/3	在籍は本校
2				愛媛県立今治南	○	2/3	2/4	在籍は本校
2				徳島県立阿波	○			転学
1				星 陵	○	2/13	2/14	在籍は本校

《解説》震災に関わる転学のみを記載。

⑥ ボランティア実行委員会のあらまし

(2月2日現在)

【組織】



\* 2月2日現在 76名以上

【アドバイザースタッフ等】

〔リーダー〕

河原 直樹(県芦高OB) 富沢 信介(自治会長/2C)

〔トレセン〕

\*在庫確認、整理のリーダー  
向瀬 寛之(県芦高OB) 濱田 充弘(県芦高OB)  
小倉 愛(自治会副会長/2H)

〔下着、衣類、日用品の仕分け整理〕

堀本 義文(村野工業高)  
手科 美保(自治会副会長/2D)

〔ボランティア指導〕

小笠原詩乃(県芦高OG) 樋口 勝(市芦屋高)  
手科 美保(自治会副会長/2D)

【一日の流れ】

7:00 活動開始  
朝食  
9:00 洗濯場使用開始  
17:00まで  
使用区分に従って  
11:00  
↓ 昼食  
12:00  
17:00 夕食  
22:00 消灯

【ボランティアの心構え】

- ・自分の行動に責任を持つ。  
分からないときは聞きに行く。  
あやふやな答え方はしない。
- ・言葉遣いに気を付ける。  
敬語か、親しみやすい言葉か、その場の状況、相手に合わせて適切に使い分ける。
- ・だらだらしない。
- ・すすんで仕事を見付けて動く。
- ・避難されている人達の不安を取り除いてあげられるように、笑顔を忘れず、親切な態度で接することが出来るよう努める。
- ・楽しく活動する。
- ・ボランティアの役割とは何かをよく考える。

【主な活動】

・食事の分配→比率3:2:1。 ・洗濯時の受付と洗剤の配布。 ・物資の運び込み。 ・トレーニング室の物資の管理、場所の把握。 ・売り子→不足したら女子更衣室もしくはトレーニング室から出す。 ・衣類の分類。 ・消毒液の作り方の把握。 ・ゴミ捨て。 ・「ホーリー」の手伝い。(《解説》「ホーリー」とはボランティアが作った喫茶サービスコーナーのこと) ・掃除用具の場所の把握。 等々。



## ⑦ ボランティア活動のあらまし

【第1期】 1月17日～1月23日

本校卒業生を中心にしたボランティア集団が自然発生的に発足、活動。

卒業生・一般若者・在校生（本校自治会長及び執行部員含む）。

総数約25名。

本校教職員随時参加。

【第2期】 1月24日～2月3日

1月23日、生徒安否確認のための震災後初めての生徒登校日に、登校生徒（約6割）にボランティア希望者を募る。約40名参加。

3～5名を1班に、7:00～19:00を原則2時間交替制で、第1期ボランティア集団の手伝いとして活動する。

本校教職員随時参加。

【第3期】 2月4日～3月23日

2月1日生徒登校、2月2日授業再開（校舎2棟使用不能のため、午前1年・午後2年の変則授業）。

2月1日、再度新たにボランティアを募る。

2月2日、ボランティア志望生徒約80名集まる。自治会組織の一環として、ボランティア実行委員会発足。委員長に自治会長が就任し、自治会活動としてボランティア活動を開始する。

3～5名を1班に、7:00～19:00を原則2時間交替制で、授業に支障のないよう当番時間割りを組み、第1期ボランティア集団の手伝いとして活動する。但し、中核的存在である自治会長はじめ執行部員は、徐々に一部撤退していった第1期ボランティア集団に代わって、22:00頃まで活動する場合も多々あった。

当初、本校生徒課教員が当番制で、ボランティア実行委員会の指導及び避難所運営に当たったが、間もなく避難所運営体制及び学校運営強化のため、専任教員を配置し、全教員が当番制で補助する体制に移行する。

【第4期】 3月24日～3月31日

3月23日をもって、第1期ボランティア及び生徒ボランティア実行委員会を解散、避難所ボランティアは撤退する。

以後、避難所担当専任教員が、避難所の管理運営に当たる（全教員当番制による補助も3月31日をもって終了）。

【第5期】 4月1日～5月28日（5月28日避難所閉所）

避難所担当専任教員が、避難所の管理運営に当たる。

新学期より、クラス役員として、原則各クラス1名（希望）をボランティア委員として選出し、必要に応じて放課後約1時間週1回程度の当番で、補助的活動をする。実際は、避難所お世話の仕事はほとんどなかったが、この委員会が「阪神・淡路大震災 芦屋市被災模型」制作の当初の母体となった。

## ⑧ 本校生のボランティアに関するアンケート

平成7年11月

兵庫県立芦屋高等学校 生徒課

芦屋高校在籍数	1年 360人	2年 315人	3年 386人	全体 1,097人
---------	---------	---------	---------	-----------



【1】 ボランティア活動を行ないましたか。								
1. 行なった	1年	16%	2年	38%	3年	43%	全体	32%
2. していない		84%		62%		57%		68%
(【2】～【9】はボランティア活動を行なった人のみ答えること。)								
【2】 どの場所で行ないましたか。								
1. 芦屋市	1年	73%	2年	70%	3年	78%	全体	74%
2. 神戸市		27%		28%		20%		24%
3. 他の都市		0%		2%		2.6%		2%
【3】 どの様な施設で行ないましたか。								
1. 県立芦屋高校	1年	2%	2年	23%	3年	31%	全体	23%
2. 芦屋市役所		4%		3%		10%		6%
3. 市内の小・中学校		46%		19%		19%		23%
4. 神戸市の高校		0%		2%		2%		2%
5. 神戸市の小・中学校		18%		18%		4%		12%
6. 前記以外の避難所		12%		15%		6%		10%
7. その他		18%		19%		28%		23%
【4】 どの様な団体ですか。								
1. 芦屋市ボランティア委員会	1年	6%	2年	11%	3年	15%	全体	12%
2. 芦屋市学生救援隊		4%		8%		17%		11%
3. 神戸市ボランティア委員会		0%		0%		1%		1%
4. 他の団体		16%		29%		31%		28%
5. 個人で行なった		74%		52%		35%		48%
【5】 どのような活動をしていましたか。								
1. 避難所のお世話	1年	23%	2年	21%	3年	11%	全体	17%
2. 救援物資の運搬		21%		24%		31%		27%
3. 救援物資の管理		38%		23%		34%		31%
4. 炊き出し		10%		16%		10%		12%
5. 家屋の解体		6%		12%		9%		10%
6. お年寄りのお世話		0%		2%		2%		1%
7. 慰問及び手伝い		0%		1%		1%		1%
8. 引っ越しの手伝い		0%		0%		0%		0%
9. 医療活動の手伝い		2%		1%		2%		1%
0. その他		0%		0%		0%		0%
【6】 期間はどれくらいですか。								
1. 1週間未満	1年	52%	2年	29%	3年	31%	全体	34%
2. ～2週間未満		28%		20%		10%		16%
3. ～1ヵ月未満		6%		23%		23%		20%
4. ～2ヵ月未満		6%		14%		25%		18%
5. ～3ヵ月未満		2%		10%		9%		8%
6. 3ヵ月以上		2%		2%		3%		2%
7. その他		4%		2%		1%		2%
【7】 動機は何ですか。								
1. 友達に誘われて	1年	32%	2年	33%	3年	22%	全体	28%
2. しかたなく		2%		2%		1%		2%
3. 自治会の呼びかけで		4%		4%		6%		5%
4. 先生に声をかけられて		2%		2%		2%		2%
5. 自分も何かしたくて		36%		45%		58%		49%
6. 被災者が気の毒で		2%		0%		1%		1%
7. その他		22%		14%		10%		13%



<b>【8】</b>	感想は。								
1.	充実していた	1年	32%	2年	43%	3年	47%	全体	43%
2.	身体的に疲れた		18%		11%		8%		11%
3.	精神的に疲れた		10%		10%		13%		11%
4.	心身ともに疲れた		12%		9%		10%		10%
5.	楽しかった		28%		25%		16%		21%
6.	嫌になった		0%		2%		7%		4%
<b>【9】</b>	ボランティアをして悩んだ事柄がありますか。								
1.	悩まなかった	1年	66%	2年	65%	3年	38%	全体	53%
2.	学習・進路のこと		16%		3%		8%		7%
3.	ボランティアの人間関係		4%		7%		12%		8%
4.	避難者との人間関係		10%		10%		9%		10%
5.	ボランティアの在り方		2%		9%		26%		15%
6.	その他		2%		7%		7%		6%
<b>【10】</b>	しなかった（できなかった）理由は何ですか。								
1.	その気にならなかった	1年	8%	2年	18%	3年	12%	全体	12%
2.	学習・進路が気になって		15%		1%		3%		7%
3.	親に反対されて		2%		3%		2%		2%
4.	遠くに避難したため		26%		29%		31%		28%
5.	震災の被害が大きくて		8%		9%		12%		9%
6.	機会がなくて		31%		28%		23%		28%
7.	行ったが断られた		0%		3%		2%		2%
8.	その他		9%		10%		15%		11%
<b>【11】</b>	将来ボランティアに参加しようと思いますか。								
1.	参加しようと思う	1年	33%	2年	32%	3年	47%	全体	37%
2.	参加しようと思わない		9%		12%		7%		9%
3.	分らない		58%		56%		46%		53%
<b>【12】</b>	どのようなボランティアに参加しますか。								
1.	老人介護	1年	8%	2年	15%	3年	10%	全体	10%
2.	障害者介護		9%		1%		5%		5%
3.	施設訪問（慰問）		4%		5%		2%		3%
4.	災害ボランティア		36%		36%		39%		37%
5.	医療ボランティア		4%		8%		10%		8%
6.	募金活動		8%		7%		4%		6%
7.	イベントの手伝い		18%		21%		20%		19%
8.	その他		15%		7%		11%		11%
<b>【13】</b>	ボランティア活動について、基本的にどのように思いますか。								
1.	意義が有り強制して全員がすべき	1年	7%	2年	3%	3年	5%	全体	5%
2.	意義は有るが余裕のある者がすべき		25%		31%		28%		28%
3.	公欠扱いや交通費支給が無いとやりにくい		15%		11%		13%		13%
4.	行政の谷間として必要		3%		3%		4%		3%
5.	相互扶助の精神でやればいい		12%		14%		14%		14%
6.	やれる事を、やれる時にやればいい		33%		39%		34%		35%
7.	ボランティアは必要ない、行政がやるべきだ		2%		2%		1%		2%
<b>【14】</b>	震災時の住所は何処でしたか。								
1.	芦屋市	1年	68%	2年	68%	3年	68%	全体	68%
2.	神戸市		28%		27%		25%		27%
3.	その他		4%		5%		7%		6%



⑨ 初期ボランティア協力者名簿

避難場所：県立芦屋高校 1月23日現在

	氏 名	所 属	開 始 日
1	樋 口 勝	市立芦屋高 3年	1月20日～
2	向 瀬 寛 之	県芦高 OB	1月17日～
3	田 中 道 子	神大 3回生	1月21日～
4	中 川 裕 子	県芦高 OG・神大 3回生	1月21日～
5	中 川 暁 子	県芦高生 2年G組	1月21日～
6	濱 田 充 弘	県芦高 OB	1月20日～
7	堀 本 義 文	村野工業高 3年	1月20日～
8	河 原 直 樹	県芦高 OB	1月20日～
9	続 木 啓 一	県芦高生 3年H組	1月17日～
10	古 川 誠 司	県芦高生 3年G組	1月17日～
11	菊 地 良 美	県芦高 OG	1月18日～21日
12	石 本 麻 佐 美	県芦高 OG	1月17日～
13	正 井 聖 治	県芦高 OB	1月18日～
14	今 城 良 忠	県芦高 OB	1月17日～
15	若 尾 利 仁	県芦高生 3年D組	1月17日～21日
16	田 中 彰 仁	明石高等工業専門学校	1月20日～
17	一 定 毅	神戸高等工業専門学校	1月20日～
18	西 章 夫	県芦高 OB・甲子園大学	1月20日～
19	森 田 雅 彦	会社員	1月21日～
20	岩 元 美 香	武庫川女大	1月23日～
21	泉 本 美 由 紀	武庫川女大	1月23日～
22	小 笠 原 詩 乃	県芦高 OG	
23	中 村 信 行	県芦高 OB	1月20日～23日

⑩ 「阪神・淡路大震災 芦屋市被災模型」制作要項及び新聞記事内容（朝日9/22）

県立芦屋高等学校  
震災対策委員会  
いきいきハイスクール推進実行委員会

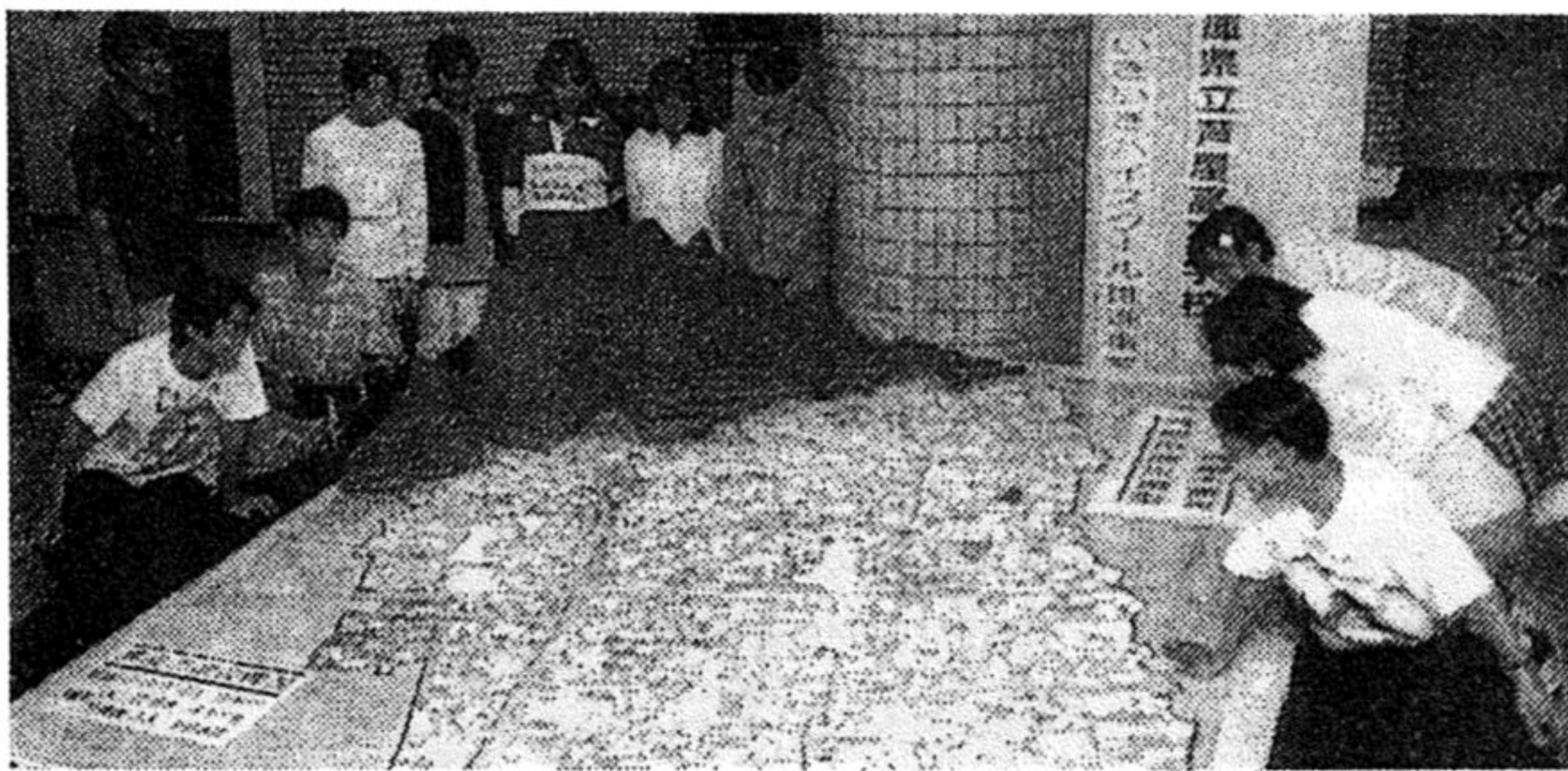
事業名 県立芦屋高等学校いきいきハイスクール推進事業の1「阪神・淡路大震災 芦屋市被災模型」制作  
目的 この事業は、避難所運営記録・避難者体験文集をも含んだ本校の被災と復興の記録集の編纂（来年1月17日発行予定）事業に併せて行なう。自らの手で我が町の被災状況を立体模型に再現することによって、積極的に被災を克服する精神的効果を期待し、復興を目指す本校のシンボリックな事業として位置付ける。  
大きさ 六畳大（約12尺×9尺）。  
縮 尺 1250分の1。



範 囲	ほぼ芦屋市全域、北部の一部除く。
内 容	① 建物を、全壊・半壊・一部損壊・無傷に色分けし、半立体模型に再現する。 ② 水道の復旧状況を、4段階に、電気点灯仕掛けで表示する。 〔15.7%（1月27日）、33%（2月1日）、49.5%（2月5日）、70%（2月13日）〕 ③ 避難所の所在を、電気仕掛けで、点滅表示する。
制作期間	計画・構想／4月 作業開始／6月 完成展示／9月22・23日（本校記念祭）
制作母体	ボランティア委員会（担当・指導／震災対策委員会・いきいきハイスクール推進実行委員会）
参加者数	延べ約150人（ボランティア委員会、生徒有志、担当・指導教員、卒業生）
制作協力	神戸市立御影工業高校、神戸商船大学有志。
基礎資料	芦屋市消防本部（1月25日現在）調査（踏査）資料。
資料協力	芦屋市・芦屋市教育委員会。
備 考	出来れば、完成後、芦屋市に寄贈し、適当な施設で末長く展示してもらえることを希望する。

1995年 第47回 県立芦屋高校 記念祭			
「阪神・淡路大震災 芦屋市被災模型」展示場所・日時			
場 所	体育館1階ピロティー		
日 時	9月22日（金）	一般公開	10時～16時
	23日（土）	一般公開	10時～15時

## 新聞記事



朝日新聞（9月22日）

3段組み

大見出し「芦屋の震災被害ひと目で」

小見出し「4カ月かけ立体模型地図」

記事内容

県立芦屋高校の生徒たちが、震災で受けた芦屋市の被害がひと目で分かる立体模型地図を作った＝写真。

22、23日に開かれる学園祭「記念祭」で、一般に公開される。

生徒50人や教師、卒業生など有志が集まり、4カ月がかりで作った。1250分の1で、6畳の大きさ。建物の一軒一軒を発泡スチロールで再現し、全壊は赤、半壊は黄、一部損壊は青に塗った。芦屋市消防本部が1月25日に調査した資料を基にした。発光ダイオード千個を使って、避難所の位置と水道の復旧状況も表現した。

同校の震災対策委員長の金延重光教諭（43）は「震災の中での学校の動きを継続的に記録していきたい。今後も文集などを予定している」と話している。



## ① 平成7年度兵庫県南部地震被災児童生徒教育相談研究中間報告

平成7年7月29日  
兵庫県立芦屋高等学校

### 1. 現段階までの成果

年間計画に従って、以下の項目について調査研究の進捗があった。

#### (1) 組織の在り方の研究

校内意見の集約（職員アンケート）の結果、組織の在り方については、今年度から取り入れた委員会制度が若干の修正の必要が明らかになったものの、ほぼ追認された。意見集約の結果は、校内研修会の討議を経て、一定の共通理解を得る効果があった。また、組織論に留まらず、教育相談に対する認識についても、上述の手続きを経て、校内意見の大勢が奈辺にあるかが明らかになり、さまざまな考え方のある教育相談に対する認識が、今後一定の共通理解を得ていく際の貴重な資料となった。

#### (2) 生徒の実状理解の基礎資料の収集整理と相談活動

##### ① 被災状況調査の整理

被災直後に行なった全生徒の被災状況調査は、奨学金・授業料免除等の取り組み、きめ細かな生徒指導、個人面談等に役立った。9月以降新たな状況調査を行い、生徒理解の資料としたい。

##### ② 重点対象者の把握と実践

全生徒対象に行なった「被災に関する心のケアアンケート」（無記名）の結果（③で報告）、PTSD（心的外傷後ストレス障害）の度合いが比較的高いと云う結果が出た1年生について、本校カウンセリング委員会のメンバーである養護教諭が中心になって、保護者宛てに、子弟の震災後のさまざまな状況の影響の有無を問うアンケートを実施した。保護者から見て影響があると答えた件数は、53件あった。この資料は、担任にフィードバックされ、生徒理解に役立ててもらおうとともに、現在養護教諭が教育相談活動を展開中である。

##### ③ 全生徒対象「被災に関する心のケアアンケート」（無記名）調査の実施

この調査は、個々の生徒を対象とするものでなく、本校生全体の状態を理解するためのものである。表面的には、4月以降むしろ生徒はおとなしく、落ち着きがあると云う意見が少なからずある現実の中で、果たして本当にそうなのかを、客観的に調査し、生徒理解の認識を深める手立てとしたいと云うのが、眼目であった。

アンケート項目は、(1)教師として知っておきたいと思われる内容で55項目。これは校内で作成した。（回答例：「主に自分の健康上の問題や精神的な問題で悩むことが多い」22%、「学校に行く気がしないことが多い」41%、「精神的に地震の後遺症が残っていると思う」18%）(2)PTSDの度合いを調べるための内容で32項目。これは甲南大学文学部心理学研究室の森茂起助教授に、調査項目の提供、解析等の協力を得て行なった。折しも森先生は、兵庫教育大学、神戸大学と合同で、被災地域の小・中学生を対象にした大規模なPTSDの調査を行なっている最中で、そこで得られたデータと本校生徒のデータを比較しながら、解析して下さった。本校生徒は、被災地群（神戸市・芦屋市・西宮市・宝塚市・明石市・北淡町）の中学2年生のデータと比較して、抑うつ傾向・不安傾向ともに高く、学年では1年生が、性別では女子が高いと云う結果が出た。

##### ④ 被災体験作文指導

作文そのものが、心のケアに役立つことだけでなく、生徒理解のためにも有効であった。

#### (3) 校内研修会の実施

- ① 7月28日。(1)(2)で上述した各種調査、研究成果を、全職員に報告し、意見交換の場を持った。組織論、生徒理解、教育相談活動、いずれの場合も、情報交換は大切であり、完全な共通理解は無理にしても、進むべき道は奈辺にあるか、一定の方向性をもって収斂されていく端緒となったと思う。



② 7月18日。専門家講師を招いての研修会の実施。講師からPTSDの解説を受けた後、3グループに分かれて、グループカウンセリングを行なった。これは自身被災者でもある教員の、グループカウンセリングの効果もさることながら、個々の教員の生徒指導上の悩みや、問題提起の場ともなり、有効な情報交換の場として、有意義であった。例えば、美術教師から、生徒の描く絵が閉塞感を表していると云う報告があった。

(4) 校外講習会の参加、学校訪問の実施

校内研修会等で、フィードバックに努めた。

① 県立教育研修所特別講座第1回「児童生徒の心のケアと地域社会」に参加。

- ・意識の範疇で整理納得出来ない気持ちを無意識の範疇に押し込める。
- ・しっかりした子、落ち着いた子は、マイナス要因を無意識の領域に押し込めている可能性有り。
- ・それはいつか爆発し、身体に症状がでる場合もある。
- ・安心感を与えるのがなにより大切。

② 県立神出学園への学校訪問。

施設、環境、運営内容の充実ぶりに感心したが、職員間の情報交換、共通理解、信頼関係の重要性と困難さを改めて痛感した。

(5) 教育相談は対象生徒の対症療法的活動の大切さはもちろんのこと、対象生徒を少しでも少なくする事前の積極的な活動も大切だと云う観点から、

① 震災直後から生徒によるボランティア実行委員会を組織し、震災復興に生徒自身が積極的に取り組める活動を展開した。これはボランティア活動そのものの価値に加え、震災の影響からくるマイナスとなる心的要因の払拭の一助となることをも期待したものである。本校避難所の運営手伝いを主な仕事とし、自治会(生徒会)長を中心に、3月末までに参加した生徒は100名を越える。4月以降は、各クラスよりボランティア委員を選出し、避難所閉鎖までは避難所の運営手伝いを、それ以降は本校いきいきハイスクール推進事業である「震災に学ぶ ～自主的行動力とふれあいの中で目指される復興の記録と震災の記録～」の中核として、芦屋市被災模型の制作と、被災・復興の記録集の作成に参画する。すでに一定の成果を得たと思われるが、以後年度末まで継続される。なお、生徒指導部の指導の下、自治会(生徒会)が中心になって行なう本年度の記念祭(文化祭)のテーマも、「復活への礎」である。なお、被災模型制作や被災体験作文指導は、心のケアに大変効果的であると、上述の甲南大学の森先生から評価頂いた。

② 従来行なってきた活動を、教育相談の観点からより意識的に行なった。

- (1) 学期末行なわれる成績会議における生徒情報交換
- (2) 随時行なわれる拡大学年会議における生徒情報交換
- (3) 担任が行なう個人面談
- (4) 奨学金・授業料免除の取組の強化
- (5) 自治会(クラブ)活動の奨励、設備上の制約の中での工夫

## 2. 今後の課題

(1) 本校の実状に即した教育相談の組織的位置付け、構成メンバー等、次年度へ向けて、あるべき組織の研究の継続。

(2) 生徒理解の深化

① 対象生徒の教育相談活動の継続。                      ② 時の経過に伴うPTSD調査の継続。

(3) 校外研修会、講習会への積極的な参加、校内へのフィードバックの努力。

(4) 情報交換、共通理解を得る努力の継続。

① 校内研修会により一層の充実。                      ② 専門家を招いての講習会の継続。

(5) 相談室設置の努力。



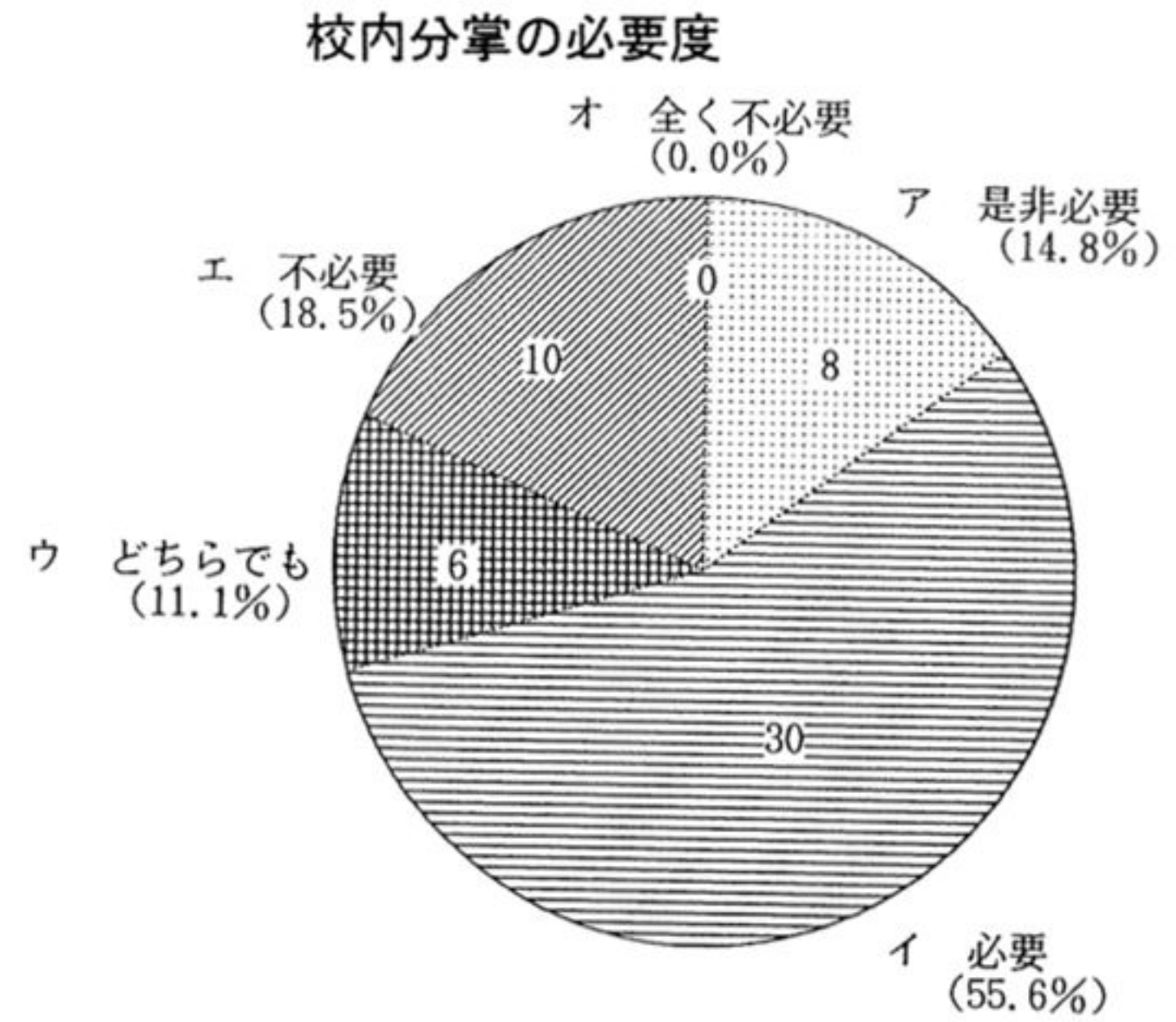
⑫ 教育相談のあり方についての職員アンケート（結果）

1995年7月28日  
震災対策委員会

1. 教育相談に対応する校内分掌の必要度

- ア 是非必要
- イ 必要
- ウ どちらでもよい
- エ 不必要
- オ 全く不必要

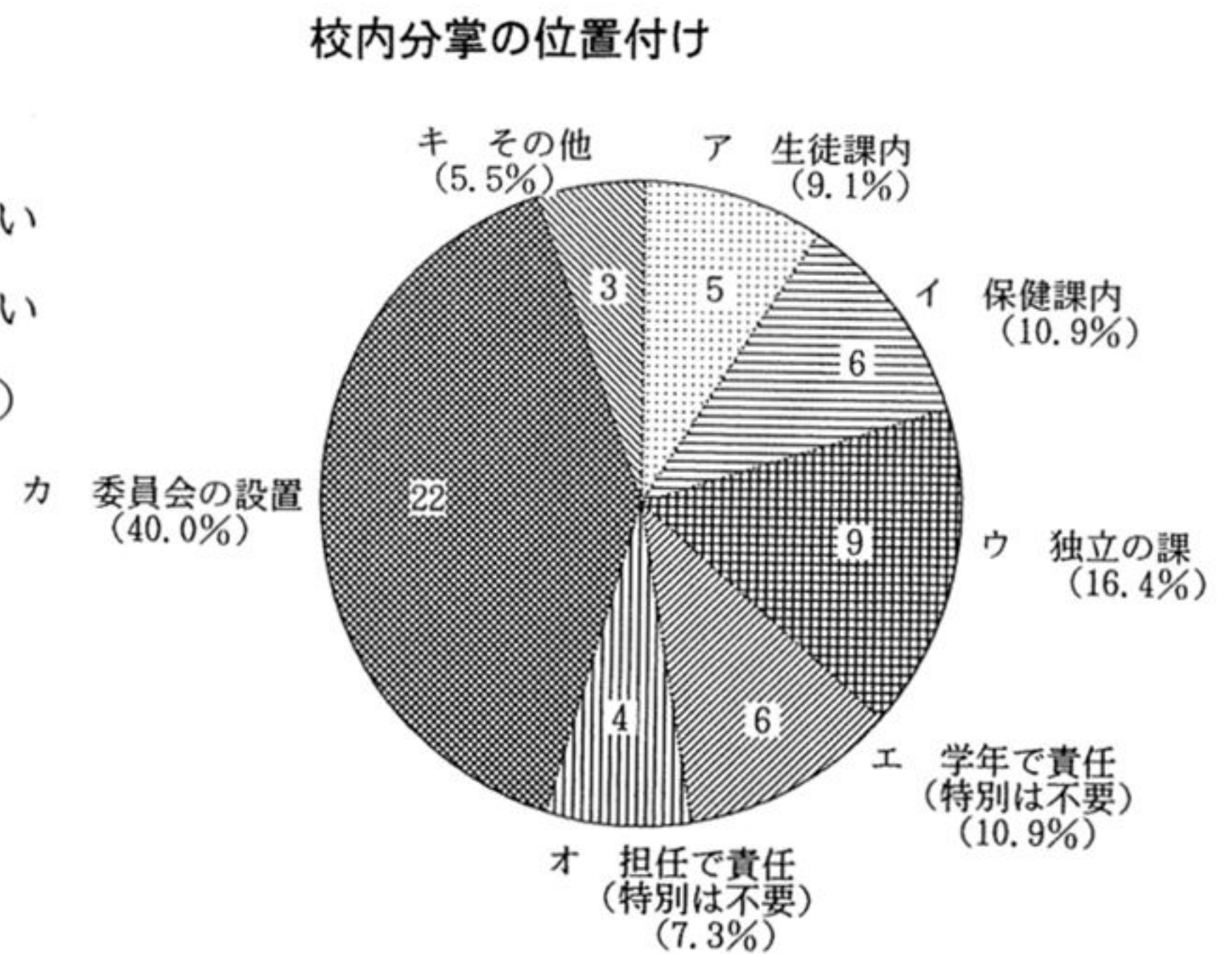
1	ア	イ	ウ	エ	オ
(人)	8	30	6	10	0
%	14.8	55.6	11.1	18.5	0.0



2. 教育相談を担う校内分掌の位置付け

- ア 生徒課内におく
- イ 保健課内におく
- ウ 独立の課の創設
- エ 各学年が責任をもって行なうので、特別な分掌は必要ない
- オ 各担任が責任をもって行なうので、特別な分掌は必要ない
- カ 委員会の設置（本年度からカウンセリング委員会を設置）
- キ その他

2	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
(人)	5	6	9	6	4	22	3
%	9.1	10.9	16.4	10.9	7.3	40.0	5.5

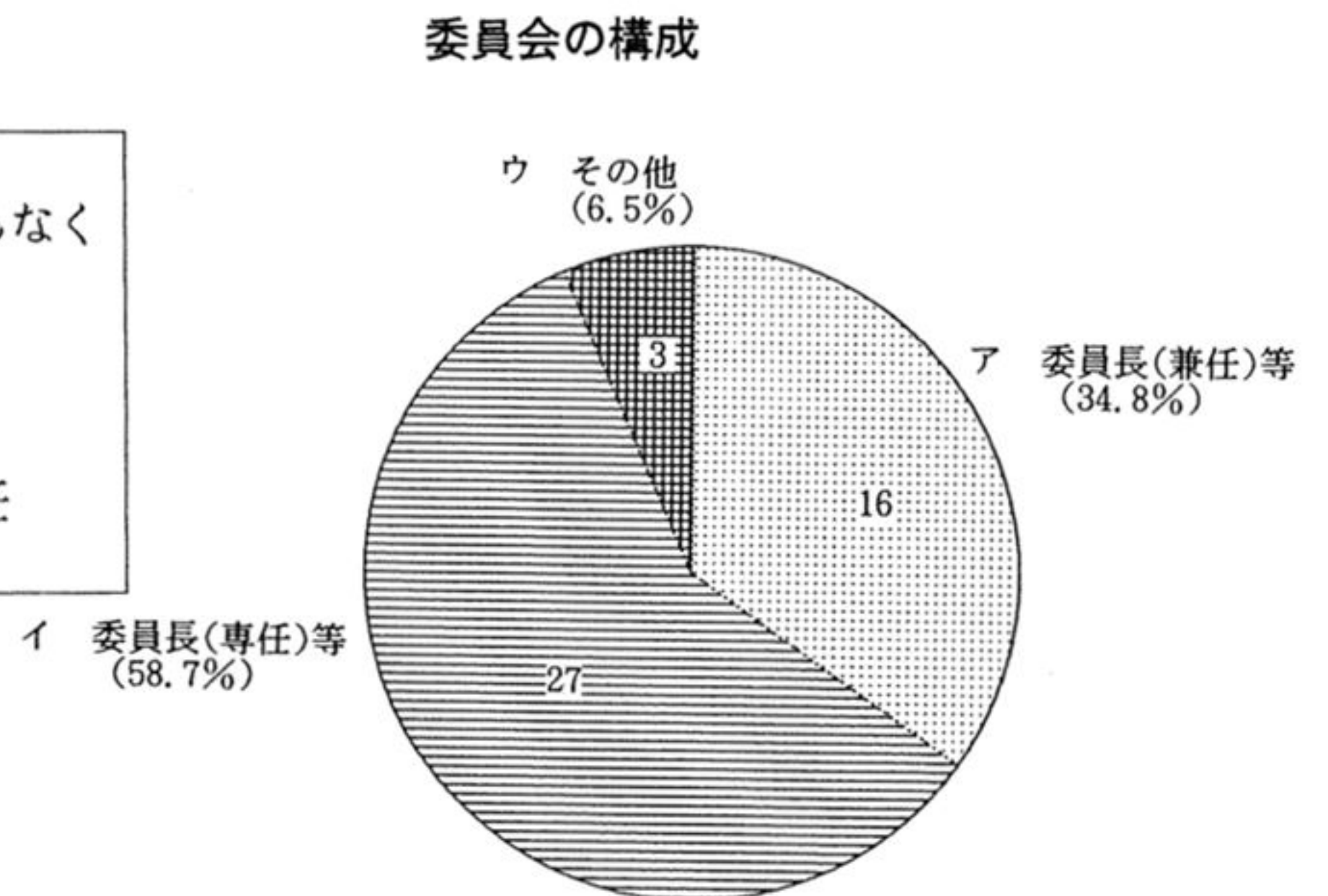


3. 教育相談を担う委員会の構成

- ア 委員長（他分掌兼任）、保健課（養護教諭）、各学年1名
- イ 委員長（専任）、保健課（養護教諭）、各学年1名
- ウ その他

委員長（専任） 各学年1名 養護教諭は入っても入らなくてもよい  
専任3人で、各課は補助的にサポートする。  
委員長（専任）、学年主任、担任代表、当該クラス担任

3	ア	イ	ウ
(人)	16	27	3
%	34.8	58.7	6.5



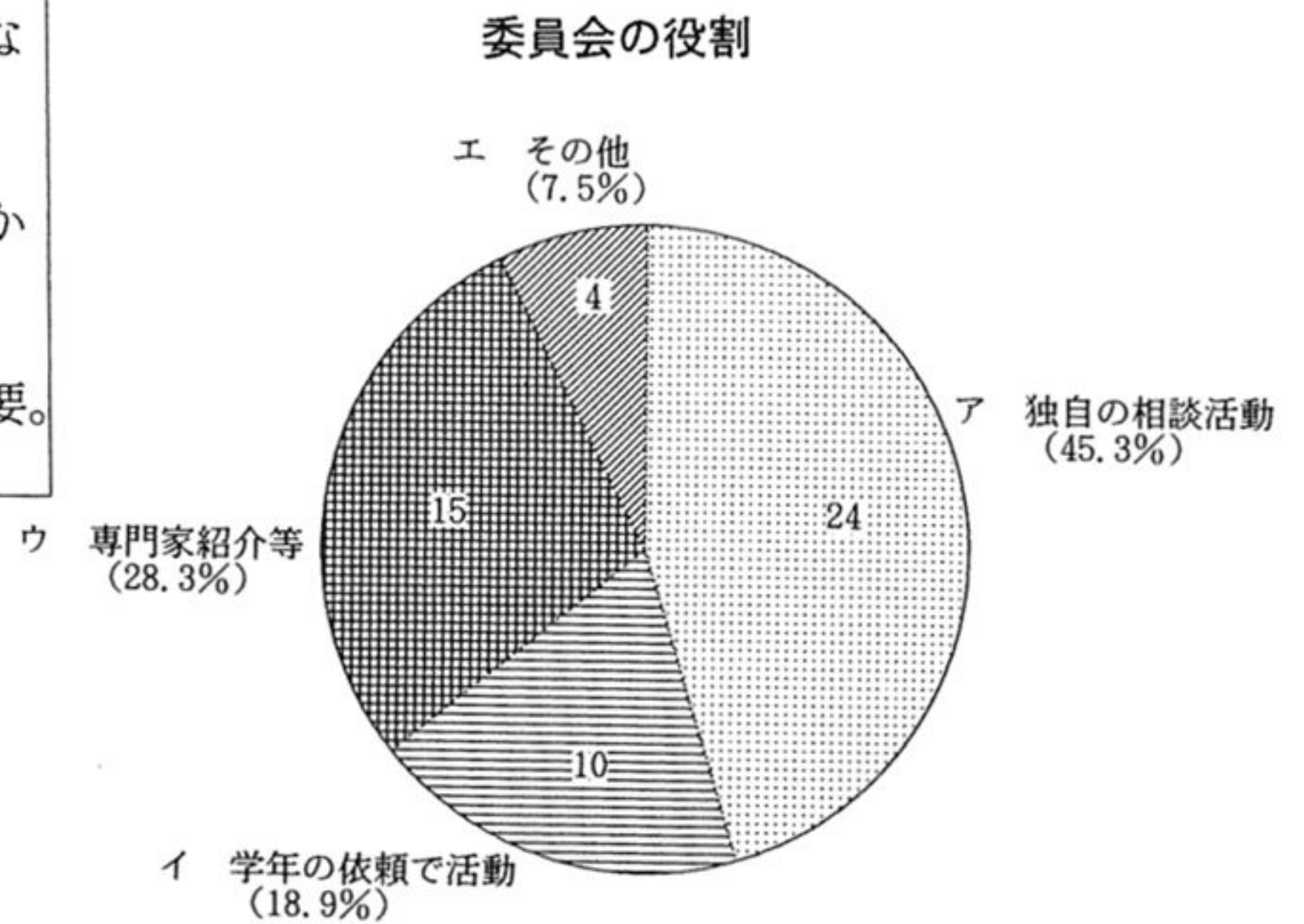


4. 教育相談を担う委員会の役割

- ア 学年（担任）と連絡をとりつつも、時には学年（担任）を越えた独自の相談活動。
- イ 学年（担任）と連絡をとりつつ、学年（担任）から依頼を受けた生徒に対する相談活動。
- ウ 学年（担任）が行なう相談活動に対する、専門家（機関）の紹介・資料統計の整理等の、補助的活動。
- エ その他

生徒の方から相談したいという気持ちを抱けるような委員会が望ましい。  
 ア、ウのよい部分をとる。生徒により委員会か担任かを見極めて連絡を取り合う。  
 あまり、難しく考えない方がよい。アイウ全てが必要。

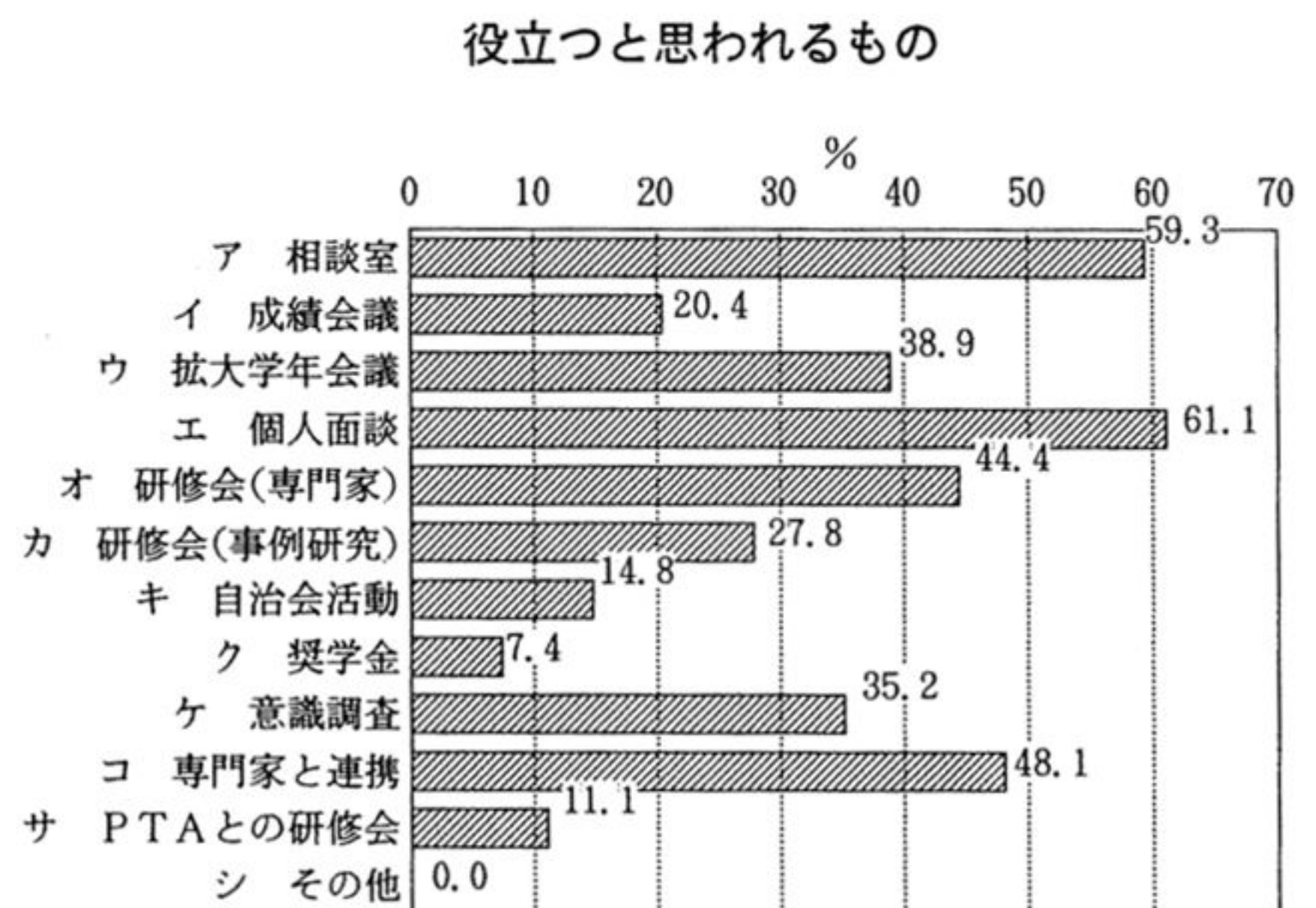
4	ア	イ	ウ	エ
(人)	24	10	15	4
%	45.3	18.9	28.3	7.5



5. 教育相談活動に役立つと思われるものを次の各項より、5つ以内で選んで下さい。

- ア 相談室の設置
- イ 各学期末に行なう成績会議における生徒情報交換
- ウ 随時行なわれる拡大学年会議における生徒情報交換
- エ 担任が行なう個人面談
- オ 専門家を招聘しての校内研修会
- カ 事例研究を主にした校内研修会
- キ 自治会（クラブ）活動の奨励
- ク 奨学金（授業料減免）の取組の強化
- ケ 生徒の意識調査（無記名アンケート等）による生徒総体の実態把握
- コ 専門家（機関）との連携
- サ PTAとの合同研修会
- シ その他

ゆっくり落ち着いて話のできる場を是非設置してほしい。



5	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ
(人)	32	11	21	33	24	15	8	4	19	26	6	0
%	59.3	20.4	38.9	61.1	44.4	27.8	14.8	7.4	35.2	48.1	11.1	0.0

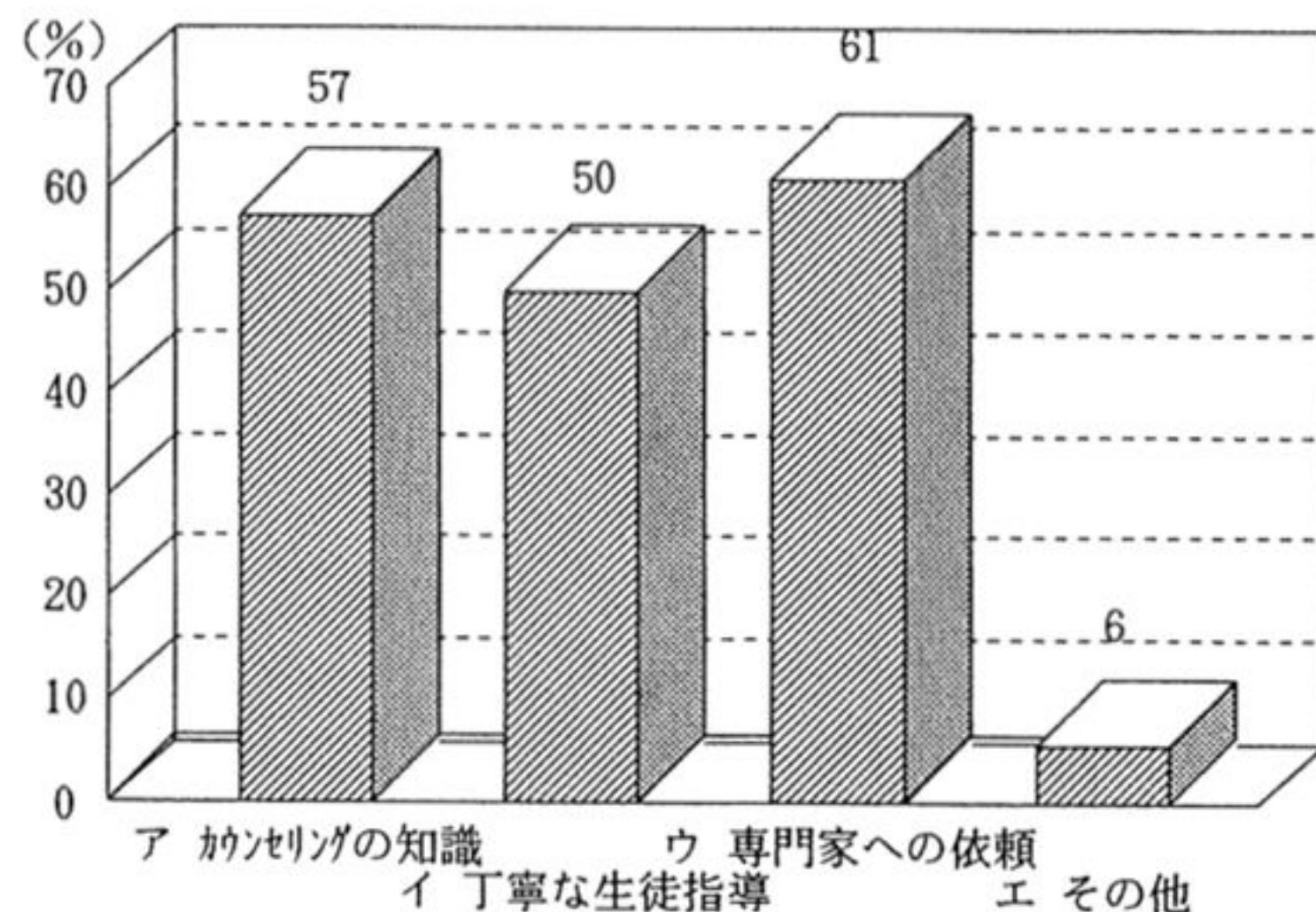


6. 教師に求められるものについて（複数回答可）

- ア カウンセリングの基本的知識技量を備えるのが好ましい。
- イ 所謂丁寧な生徒指導を心掛けるのが肝要だ。
- ウ 対応の難しい生徒は専門家（機関）に任せた方がよい。
- エ その他

素人がカウンセリングに手を出してもマイナスになることも多くある。  
 専門家をパートでも学校に配置すべき。  
 すぐに専門家へ任せるばかりも考えものだが、担任の判断のみで深く対応するのも危ない。  
 「学校」という社会と生徒のもつ「個人」の部分とまわりの社会との関わりから、学校がどうあるべきか、考えるべき。  
 教師が何かできると思わず、専門家との連携が必要だ。  
 教師の意識が過信にならないように。

教師に求められるもの



6	ア	イ	ウ	エ
(人)	31	27	33	3
%	57.4	50.0	61.1	5.6

その他のその他

委員会の設置が前提になっている。これ以上委員会を増やす必要はない。

総括

- 必要度 ————— 7割の方が必要と判断。
- 位置付け ————— 「委員会の設置」と「独立の課の創設」とで56.4%となり、従来の枠外での分掌が必要。
- 構成 ————— 専任の委員長を中心とした各学年にまたがる委員会構成。
- 役割 ————— 独自の相談活動を行うとともに専門機関の紹介を期待。
- 役立つこと ———— 相談室を設置し担任による個人面談が有効。また適宜、専門家と連携する体制が必要。
- 求められること — 全項目とも5割以上だが、前述のように専門機関との連携が求められている。

《1 是非必要 必要と回答された方で（計 70%）》

- 役割 ————— 「独自の相談活動」「学年の依頼で活動」が約80%になり、「専門家紹介」約13%を大きく上回り、校内での対応を期待している。



⑬ 「心のケア」アンケート（結果）

1995年7月28日

県立芦屋高等学校震災対策委員会

（注）回答番号1、2は実数、3～13は省略、14以下は%

- 1 あなたの学年 ① 1年 ② 2年 ③ 3年  
 2 あなたの性別 ① 男 ② 女

番号	①	②	③	① 男	② 男	③ 男	① 女	② 女	③ 女
1	350	339	373	160	163	165	166	168	175
2	488	509	0	488	0	0	0	509	0

【被災直後の生活・心的状況】

次の14～18の設問について、「はい」は①、「いいえ」は②、「なんとも言えない」は③に、マークしなさい。

- 14 勉強が十分に出来る環境でなかったため、ストレスがたまった。  
 15 クラブ活動が十分に出来る環境でなかったため、ストレスがたまった。  
 16 通常の学校生活とは違った状態が続いたため、規律正しい生活をするのが難しかった。  
 17 通常の学校生活とは違った状態が続いたとは言え、学校が再開したことが救いだった。  
 18 通常の学校生活とは違い、自由な時間が多かったため楽しかった。

番号	①	②	③	① 男	② 男	③ 男	① 女	② 女	③ 女
14	27	45	26	27	50	21	27	41	30
15	26	55	17	32	51	15	22	58	19
16	66	23	9	64	25	10	68	21	10
17	48	19	32	40	28	31	55	11	33
18	46	26	26	53	23	22	40	27	31

- 19 14～18の設問より、最も強く感じたことを一つ選び、14を選んだ人は①に、以下15は②、16は③、17は④、18は⑤、「特に無し」の場合は⑥に、マークしなさい。

番号	①	②	③	④	⑤	⑥	① 男	② 男	③ 男	④ 男	⑤ 男	⑥ 男	① 女	② 女	③ 女	④ 女	⑤ 女	⑥ 女
19	7	10	23	16	18	23	8	13	22	10	20	23	6	8	25	21	15	22

次の20～27の設問について、「はい」は①、「いいえ」は②、「なんとも言えない」は③に、マークしなさい。

- 20 クラブ活動・クラブの仲間との交流が心の支えとなる部分が多かった。  
 21 クラスの仲間との交流が心の支えとなる部分が多かった。  
 22 クラス・クラブ以外の友人・知人との交流が心の支えとなる部分が多かった。  
 23 家族の絆（きずな）を改めて強く感じた。  
 24 近所の人々との物的・心的助け合いを強く感じた。  
 25 友人・知人の冷たさを感じた。  
 26 家族の絆（きずな）の弱さを感じた。  
 27 近所の人々との物的・心的助け合いの弱さを感じた。

番号	①	②	③	① 男	② 男	③ 男	① 女	② 女	③ 女
20	42	29	27	40	29	28	43	28	27
21	53	23	23	46	28	25	60	18	21
22	50	22	27	49	24	26	52	19	27
23	64	12	22	55	19	25	72	6	20
24	75	10	14	68	14	17	81	6	11
25	4	86	9	4	83	11	3	88	7
26	3	86	9	5	80	14	2	92	5
27	5	81	13	6	76	16	4	84	10

- 28 20～27の設問より、最も強く感じたことを一つ選び、20を選んだ人は①に、以下21は②に、22は③に、23は④に、24は⑤に、25は⑥に、26は⑦に、27は⑧に、「特に無し」の場合は⑨に、マークしなさい。

番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	① 男	② 男	③ 男	④ 男	⑤ 男	⑥ 男	⑦ 男	⑧ 男	⑨ 男	① 女	② 女	③ 女	④ 女	⑤ 女	⑥ 女	⑦ 女	⑧ 女	⑨ 女
28	13	11	10	21	23	1	0	0	17	14	10	11	15	20	1	1	0	22	12	12	8	27	24	0	0	0	12



次の29～35の設問について、「はい」は①、「いいえ」は②、「なんとも言えない」は③に、マークしなさい。

- 29 余震が恐くて不安だった。  
 30 被災により降り掛かった自分や家族の問題に心を悩ませた。  
 31 主に経済的な理由で将来が不安だった。  
 32 精神的にかなり落ち込んでいたと思う。  
 33 何となくやる気が起こらなくてだらけていた。  
 34 友人・知人の被災の痛手が大きかったのでつらい思いをした。  
 35 被災により降り掛かった困難にむしろ前向きに頑張ろうと云う気力が湧いた。

番号	①			②			③		
	①	②	③	①	②	③	①	②	③
	男	男	男	女	女	女			
29	69	20	9	51	34	14	85	8	5
30	33	43	22	31	48	20	35	38	25
31	17	63	19	19	64	15	15	62	21
32	31	46	21	23	58	17	39	34	25
33	65	20	14	62	24	12	68	16	15
34	47	31	21	43	35	20	50	27	22
35	30	24	45	31	28	40	29	19	51

36 29～35の設問より、最も強く感じたことを一つ選び、29を選んだ人は①に、以下30は②に、31は③に、32は④に、33は⑤に、34は⑥に、35は⑦に、「特に無し」の場合は⑧に、マークしなさい。

番号	①								②								③								④								⑤								⑥								⑦								⑧							
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧																								
	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女																								
36	24	5	3	7	16	14	7	19	14	7	5	6	18	14	8	23	34	4	2	8	15	14	6	13																																								

次の37～42の設問について、「はい」は①、「いいえ」は②、「なんとも言えない」は③に、マークしなさい。

- 37 校内に避難所があったので嫌だった。  
 38 人の醜い部分を見て嫌な思いをした。  
 39 善意が満ちている感じがして心が動かされた。  
 40 ボランティアに参加したいと思った。  
 41 全体的に充実していたと思う。  
 42 全体的に震災前とあまり変わらなかった。

番号	①			②			③		
	①	②	③	①	②	③	①	②	③
	男	男	男	女	女	女			
37	18	59	21	23	56	20	15	61	22
38	39	40	19	37	43	18	40	37	21
39	41	19	38	36	25	38	45	13	40
40	48	24	27	37	32	28	60	14	25
41	18	47	34	20	48	30	15	45	39
42	11	74	13	14	69	15	9	78	11

43 37～42の設問より、最も強く感じたことを一つ選び、37を選んだ人は①に、以下38は②に、39は③に、40は④に、41は⑤に、42は⑥に、「特に無し」の場合は⑦に、マークしなさい。

番号	①							②							③							④							⑤							⑥							⑦						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦														
	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女										
43	6	15	14	16	3	5	38	6	17	13	10	4	7	40	5	14	14	21	3	3	35																												

【現在の生活・心的状況】

次の44～46の設問について、「はい」は①、「いいえ」は②、「なんとも言えない」は③に、マークしなさい。

- 44 勉強が遅れているのではないかと不安だ。  
 45 クラブ活動が十分に出来ないのが不満だ。  
 46 仮設校舎等設備が十分に整っていないのが不満だ。

番号	①			②			③		
	①	②	③	①	②	③	①	②	③
	男	男	男	女	女	女			
44	56	29	14	54	32	13	58	26	15
45	32	52	15	34	49	16	31	53	15
46	33	46	18	32	50	17	35	42	21

47 44～46の設問より、最も強く感じたことを一つ選び、44を選んだ人は①に、以下45は②に、46は③に、「特に無し」の場合は④に、マークしなさい。

番号	①				②				③				④			
	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④
	男	男	男	男	男	男	男	男	女	女	女	女	女	女	女	女
47	32	19	13	34	31	23	11	32	32	17	15	34				



次の48～52の設問について、「はい」は①、「いいえ」は②、「なんとも言えない」は③に、マークしなさい。

- 48 主に家庭の経済的な理由で悩むことが多い。  
 49 主に自分の健康上の問題や精神的な問題が理由で悩むことが多い。  
 50 主に家族の健康上の問題や精神的な問題が理由で悩むことが多い。  
 51 友人・知人の家庭の経済的な理由で悩むことが多い。  
 52 友人・知人の健康上の問題や精神的な問題が理由で悩むことが多い。

番号	①	②	③	① 男	② 男	③ 男	① 女	② 女	③ 女
48	17	63	18	20	63	16	15	62	20
49	22	65	12	18	69	11	24	61	13
50	16	68	15	16	70	12	16	66	17
51	5	79	14	7	77	15	4	81	14
52	8	75	16	8	74	16	7	75	16

53 48～52の設問より、最も強く感じたことを一つ選び、48を選んだ人は①に、以下49は②に、50は③に、51は④に、52は⑤に、「特に無し」の場合は⑥に、マークしなさい。

番号	①	②	③	④	⑤	⑥	① 男	② 男	③ 男	④ 男	⑤ 男	⑥ 男	① 女	② 女	③ 女	④ 女	⑤ 女	⑥ 女
53	11	11	7	2	3	63	11	10	7	2	4	62	11	10	7	1	2	65

次の54～60の設問について、「はい」は①、「いいえ」は②、「なんとも言えない」は③に、マークしなさい。

- 54 学校に行く気がしないことが多い。  
 55 家（現在の住居）に居ても落ち着かない。  
 56 家（現在の住居）から出る気がしない。  
 57 余震が不安だ。  
 58 今も地震のことを思い出して恐くなることもある。  
 59 何となくやる気が起こらずだらけていると思う。  
 60 ほぼ充実した日々をおくっていると思う。

番号	①	②	③	① 男	② 男	③ 男	① 女	② 女	③ 女
54	40	41	17	42	42	14	38	41	20
55	15	75	8	17	74	7	14	76	8
56	16	71	12	17	69	12	14	72	13
57	44	41	14	27	59	13	60	24	15
58	34	47	17	20	65	14	48	32	19
59	58	24	16	58	27	14	59	22	18
60	20	48	30	19	56	23	22	40	36

61 54～60の設問より、最も強く感じたことを一つ選び、54を選んだ人は①に、以下55は②に、56は③に、57は④に、58は⑤に、59は⑥に、60は⑦に、「特に無し」の場合は⑧に、マークしなさい。

番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	① 男	② 男	③ 男	④ 男	⑤ 男	⑥ 男	⑦ 男	⑧ 男	① 女	② 女	③ 女	④ 女	⑤ 女	⑥ 女	⑦ 女	⑧ 女
61	16	3	1	13	5	22	6	30	17	4	2	4	4	23	7	35	14	3	0	21	7	21	5	26

次の62～66の設問について、「はい」は①、「いいえ」は②、「なんとも言えない」は③に、マークしなさい。

- 62 精神的に地震の後遺症が残っていると思う。  
 63 被災が自分の進路に悪影響を及ぼしたと思う。  
 64 被災が自分の進路に好影響を及ぼしたと思う。  
 65 全体として被災体験は自分に悪影響を及ぼしたと思う。  
 66 全体として被災体験は自分に好影響を及ぼしたと思う。  
 67 震災前と比べて特に感じていることにあまり差はないと思う。

番号	①	②	③	① 男	② 男	③ 男	① 女	② 女	③ 女
62	18	67	14	18	70	10	18	63	17
63	15	63	20	17	64	17	13	62	23
64	10	69	19	11	69	19	10	68	20
65	22	46	31	21	50	27	23	41	35
66	29	36	34	34	37	27	24	35	40
67	27	49	22	31	46	21	21	53	24

68 62～67の設問より、最も強く感じたことを一つ選び、62を選んだ人は①に、以下63は②に、64は③に、65は④に、66は⑤に、67は⑥に、「特に無し」の場合は⑦に、マークしなさい。

番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	① 男	② 男	③ 男	④ 男	⑤ 男	⑥ 男	⑦ 男	① 女	② 女	③ 女	④ 女	⑤ 女	⑥ 女	⑦ 女
68	6	7	4	7	13	9	50	5	7	5	7	15	8	50	7	7	3	7	11	10	51



該当する選択肢の番号をマークしなさい。

69 地震の時、どこに住んでいましたか。

①芦屋市 ②神戸市東灘区 ③神戸市灘区 ④他の神戸市内 ⑤西宮市 ⑥川西市 ⑦尼崎市 ⑧明石市 ⑨その他

番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	女	女	女	女	女	女	女	女	女
69	68	27	0	0	0	0	0	0	2	65	29	0	0	0	0	0	0	3	69	26	0	0	0	0	0	0	2

70 地震の時に住んでいた家はどうなりましたか。

①被害なし ②直せば住める(直して住んでいる) ③壊れて住めない ④火事で焼けた

71 地震のすぐ後にはどうしましたか。

①家にいた ②その日のうちに避難した ③しばらく閉じ込められていた

番号	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④
	男	男	男	男	男	男	男	男	女	女	女	女
70	37	47	15	0	40	42	16	0	33	51	14	0
71	58	38	3	0	58	37	3	0	57	39	2	0

72 避難したことのある人はどこに避難しましたか。

①親戚の家 ②知り合いの家 ③避難所 ④親戚の家と避難所 ⑤親戚の家と知り合いの家 ⑥知り合いの家と避難所

番号	①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤	⑥
	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	女	女	女	女	女	女
72	43	8	25	16	3	2	45	7	26	12	3	2	41	8	23	20	3	2

73 避難していたのは全部でどれぐらいのあいだですか。

①1週間以内 ②2週間以内 ③1ヵ月以内 ④1ヵ月以上

74 あなたの家に避難してきた人がいましたか。

①いない ②1週間以内いた ③2週間以内いた ④1ヵ月以内いた ⑤1ヵ月以上いた

75 あなたはけがをしましたか。

①けがをしなかった ②すこしけがをした ③大けがをした

76 家族のなかで、けがをしたり、亡くなったりした人がいますか。

①誰もいない ②けがをした人がいる ③亡くなった人がいる

77 身近な友達に、けがをしたり、亡くなったりした人がいますか。

①誰もいない ②けがをした人がいる ③亡くなった人がいる

78 地震のあと、どれぐらいして学校生活にもどれましたか(疎開先の学校も含みます)。

①1週間以内 ②2週間以内 ③1ヵ月以内 ④1ヵ月以上

番号	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	女	女	女	女	女
73	28	23	21	26	0	34	17	20	27	0	24	27	22	25	0
74	84	7	2	2	3	84	7	2	1	3	83	7	2	2	3
75	84	13	1	0	0	82	15	1	0	0	87	12	0	0	0
76	75	21	2	0	0	73	23	3	0	0	77	20	1	0	0
77	43	10	45	0	0	46	13	39	0	0	39	7	52	0	0
78	10	23	48	17	0	12	21	41	24	0	8	24	55	10	0



※79以下はPTSD（心的外傷後ストレス障害）の質問事項。

ここからは、最近の1週間の様子について答えて下さい。

次の79～92の設問について、「ない」は①、「たまにある」は②、「たびたびある」は③、「いつもある」は④にマークしなさい。

- 79 食欲がなくて、あまり食べられないことがありますか。
- 80 頭が痛かったり、お腹が痛かったり、ふらふらしたり、胸がドキドキしたりすることがありますか。
- 81 ぜいぜいとせきが出ますか。
- 82 ひふがかゆくなることがありますか。
- 83 いらいらしたり、すぐに腹がたつことがありますか。
- 84 もう一度地震が起こったり、もっと悪いことが起こるのではないかとこわい感じがすることがありますか。
- 85 家族や友達といっしょにいないとこわい感じ（心細い感じ）がすることがありますか。
- 86 誰かといっしょでなかったり、明かりがついていないと、眠れないことがありますか。
- 87 すぐに涙が出てしまうことがありますか。
- 88 さみしくなったり、気分が落ち込むことがありますか。
- 89 人と話をするのが「しんどいな」と感じたり、みんなと一緒にいても楽しくないことがありますか。
- 90 みんなのために役に立っていると感ずることがありますか。
- 91 地震の夢やこわい夢を見ますか。
- 92 急に地震の時のことが頭に浮かんだり、地震の時のようなこわさを感じるがありますか。

番号	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④
					男	男	男	男	女	女	女	女
79	65	28	4	1	67	27	3	1	64	30	4	0
80	52	34	10	2	59	29	8	2	44	40	12	2
81	84	13	1	0	82	14	2	0	86	11	1	0
82	60	26	7	5	62	26	7	3	59	25	7	7
83	39	38	13	8	44	35	11	8	35	40	15	8
84	44	39	9	5	58	31	5	3	31	46	13	7
85	65	28	3	2	79	17	2	0	51	39	6	3
86	82	13	2	1	87	10	1	0	78	16	2	2
87	76	17	4	1	85	11	1	1	67	23	6	2
88	55	31	8	4	68	23	4	3	42	39	12	4
89	53	34	8	2	57	31	7	3	48	39	9	2
90	64	30	4	0	69	25	3	1	59	36	4	0
91	75	21	1	0	81	17	1	0	70	26	2	0
92	61	32	5	0	71	25	3	0	51	40	7	0

該当する選択肢の番号をマークしなさい。

- 93 地震の時にいたところにいるのがいやですか。  
①いやでない ②すこしいや ③いや ④とてもないや
- 94 地震の話をしたり、聞いたりするのがいやですか。  
①いやでない ②すこしいや ③いや ④とてもないや

番号	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④
					男	男	男	男	女	女	女	女
93	78	15	4	1	82	11	3	2	72	20	5	1
94	71	21	4	1	75	17	4	2	66	27	4	1



次の95～99の設問について、「ない」は①、「たまにある」は②、「たびたびある」は③、「いつもある」は④にマークしなさい。

- 95 眠れなかったり、寝てもすぐに目が覚めることがありますか。
- 96 小さな音やゆれでも、びくっとしてしまうことがありますか。
- 97 遊びや勉強に集中できない（落ち着いて取り組めない）ことがありますか。
- 98 自分より大きな被害を受けた人に対して「すまないな」と感じることがありますか。
- 99 ひとりでできることでも、すぐに誰かに手伝ってほしいと思うことがありますか。

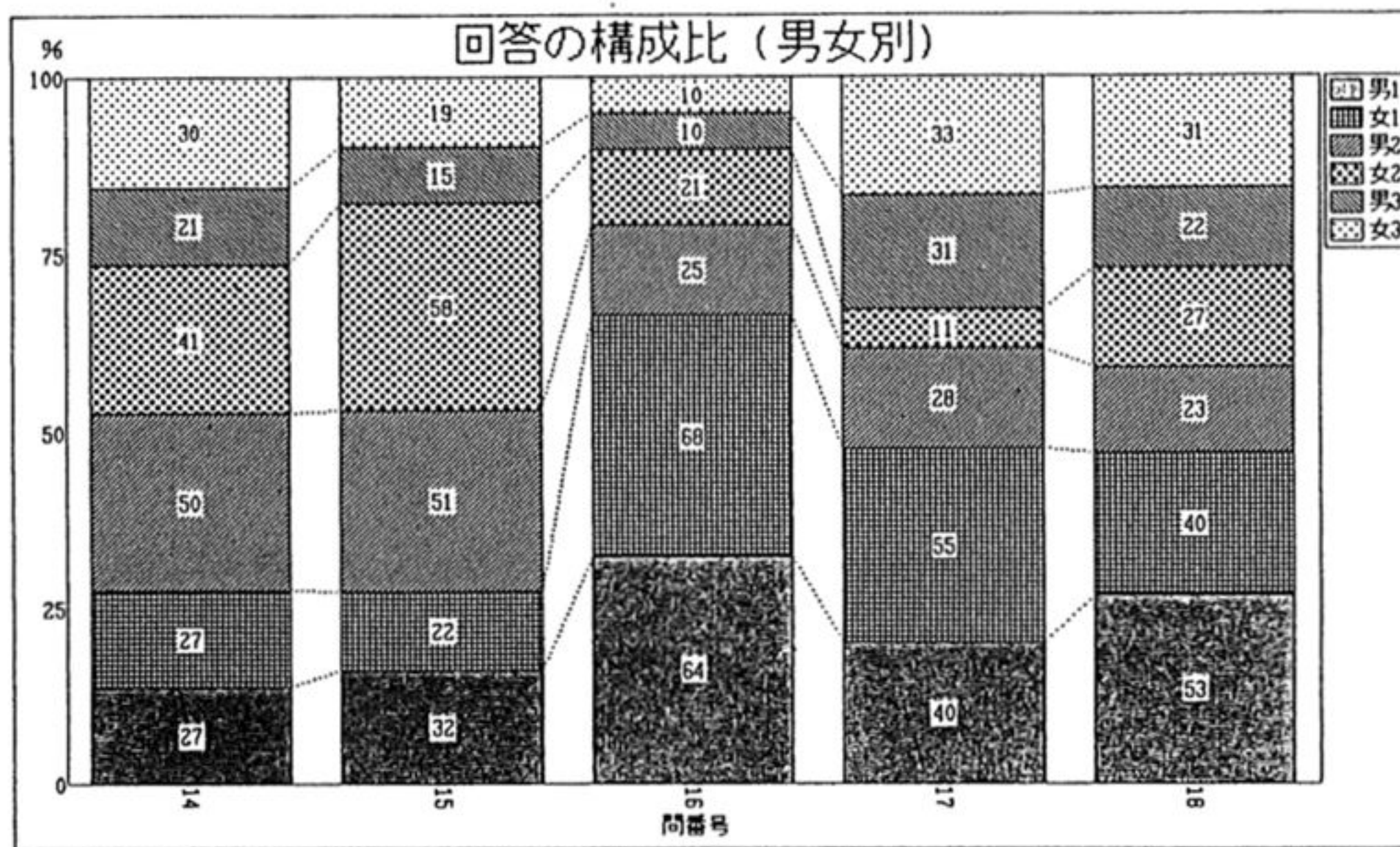
番号	①				②				③				④			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
95	69	25	3	0	72	23	3	1	66	29	3	0				
96	41	36	14	8	57	29	7	4	26	41	19	11				
97	39	35	15	9	46	31	12	8	31	41	17	9				
98	48	33	12	6	53	28	12	5	43	37	12	6				
99	64	28	4	2	69	23	4	2	60	33	4	2				

該当する選択肢の番号をマークしなさい。

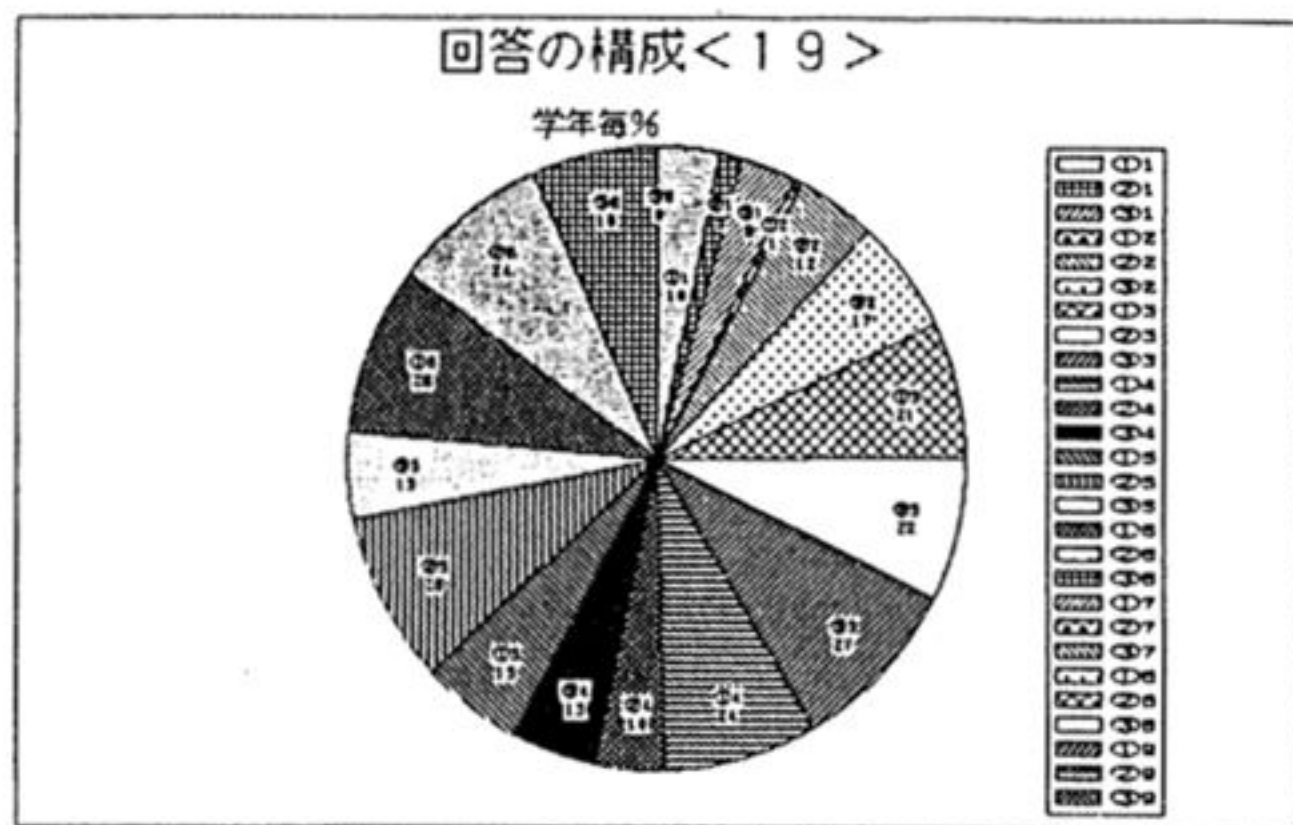
- 100 困っている人を見ると、助けてあげたいと強く思いますか。  
①ない ②すこし ③かなり ④とても

番号	①				②				③				④			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
100	6	47	29	17	9	49	25	15	2	45	33	18				

グラフ内の値(%)は男女別で表示

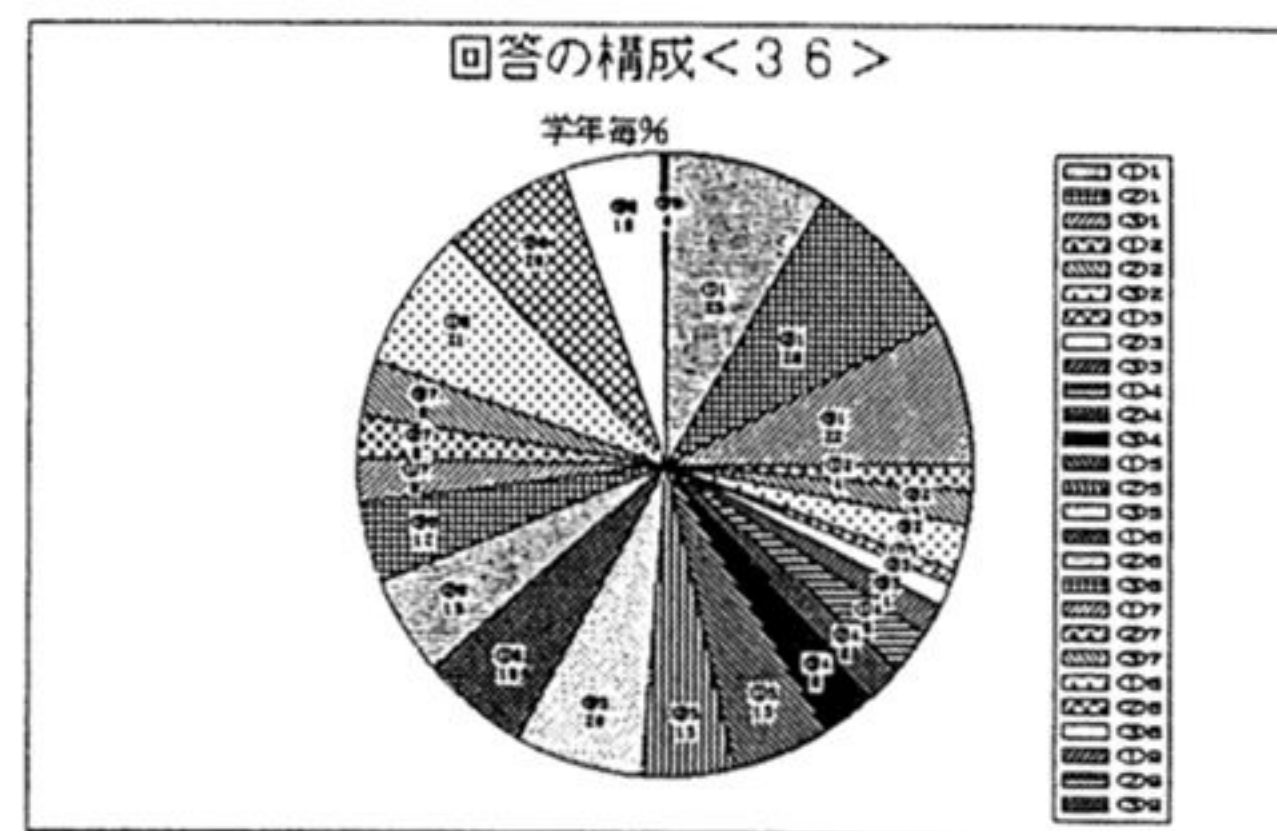
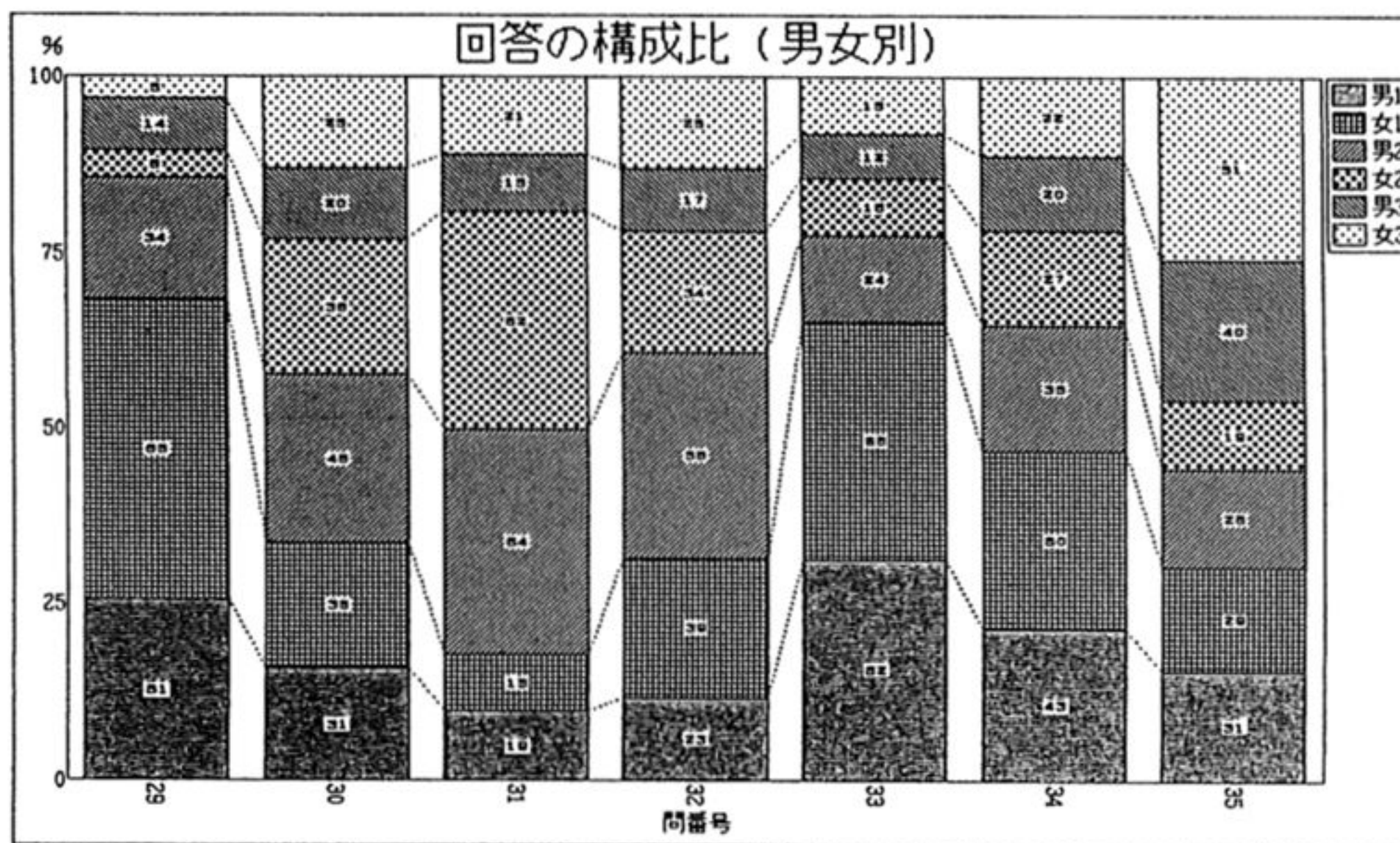
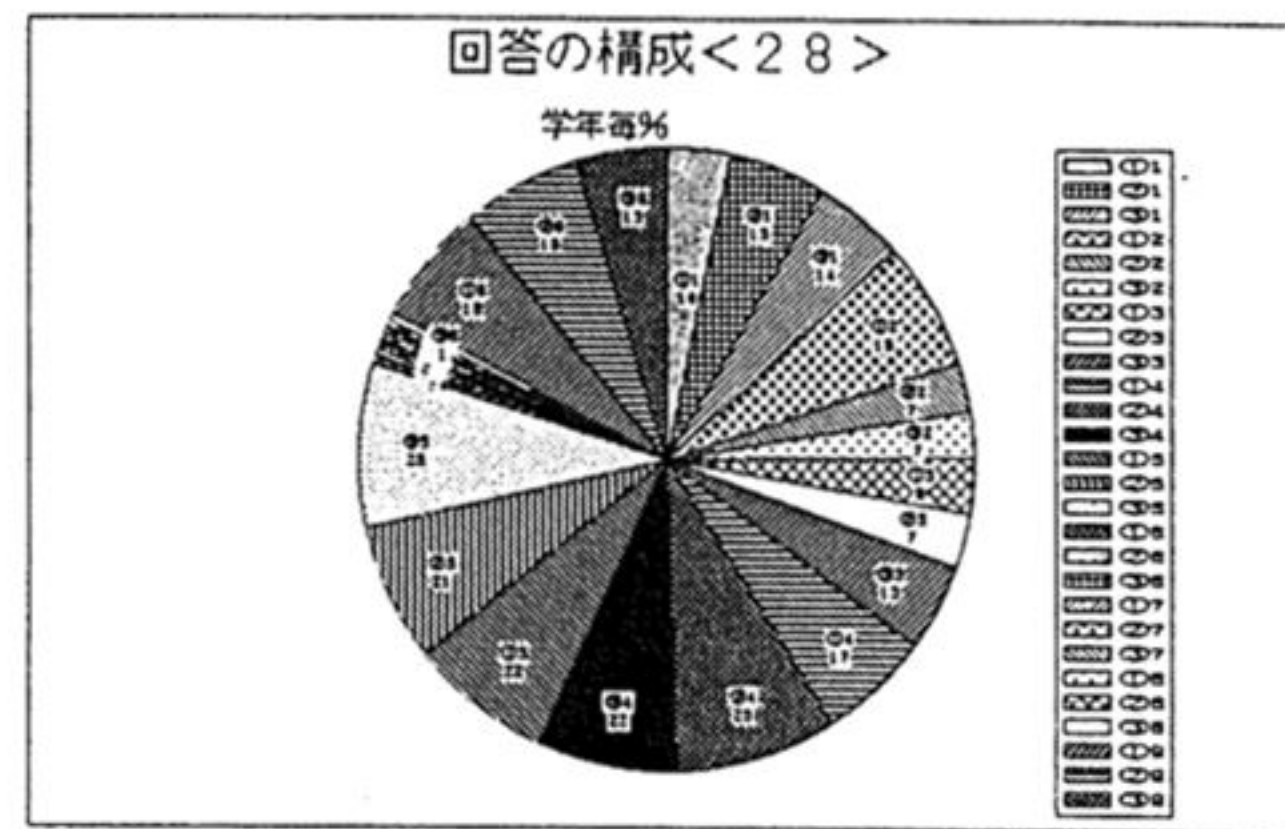
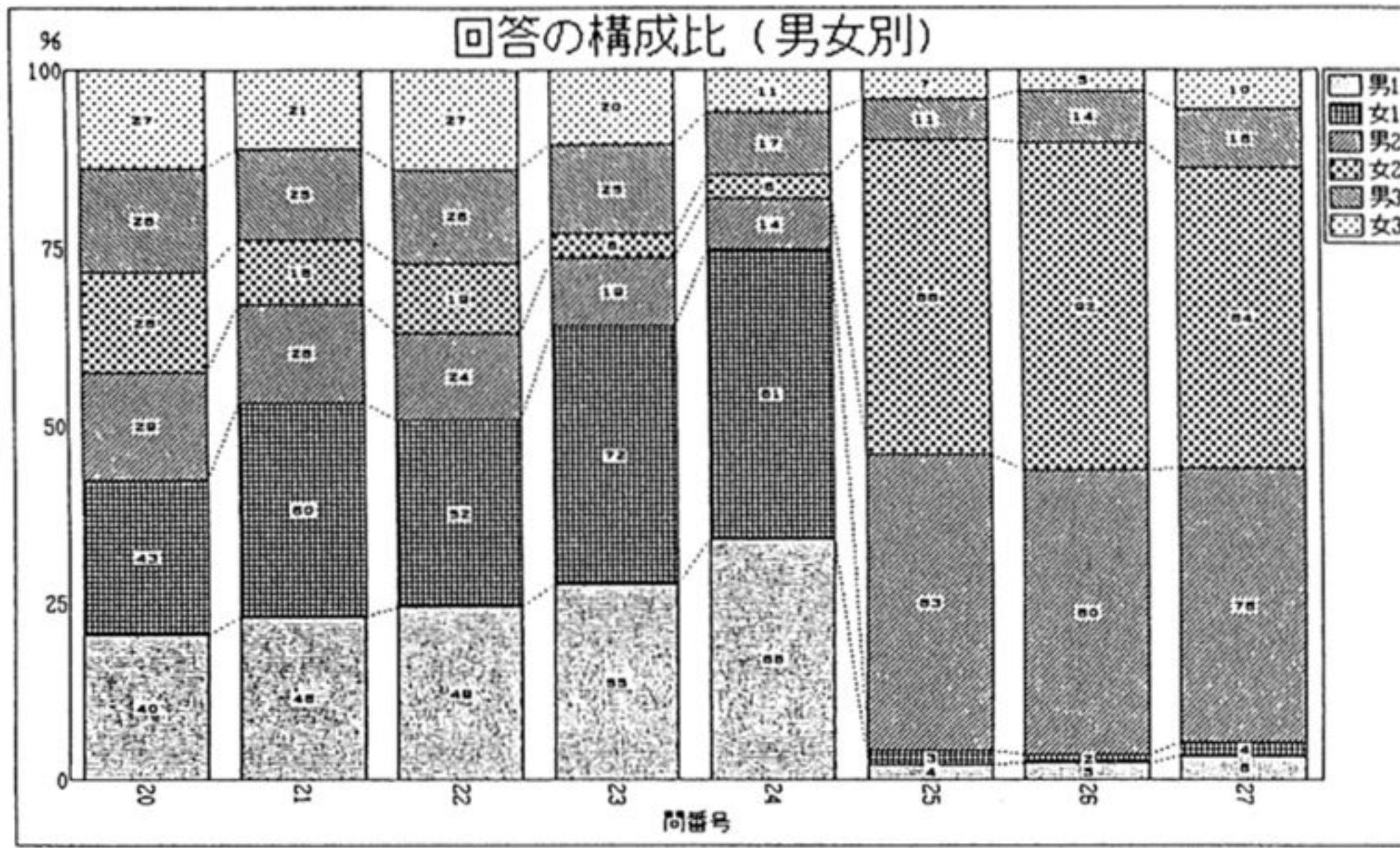


凡例の見方  
性別・選択番号

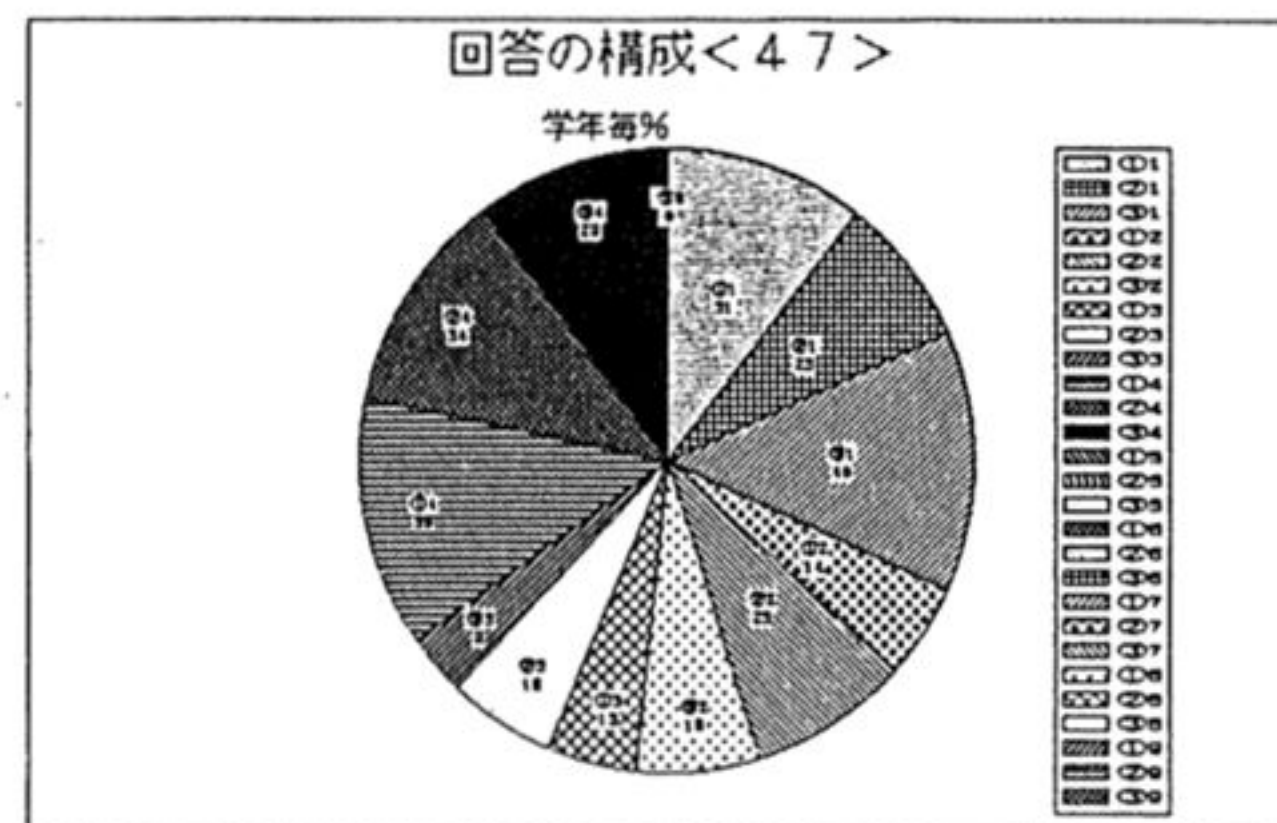
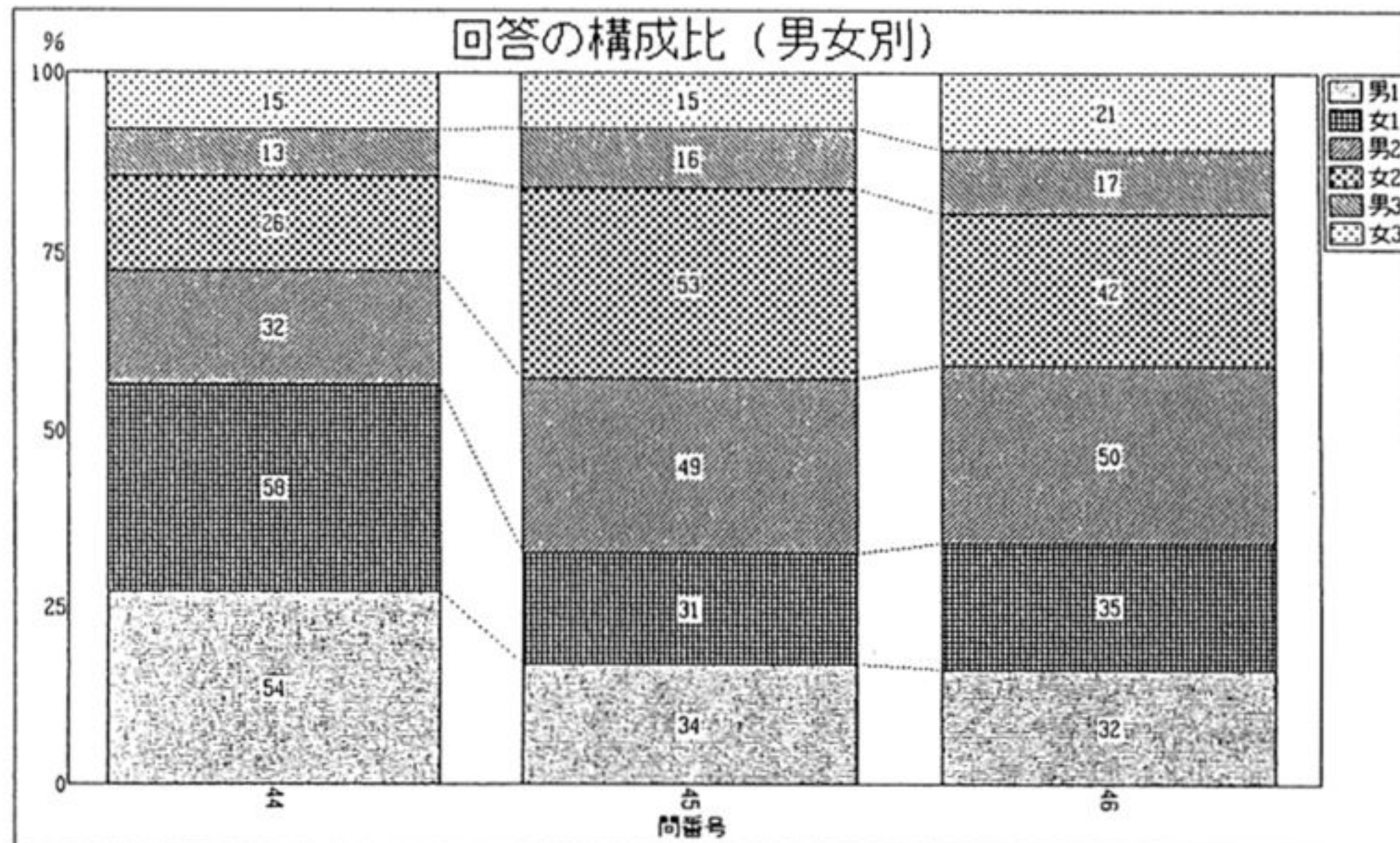
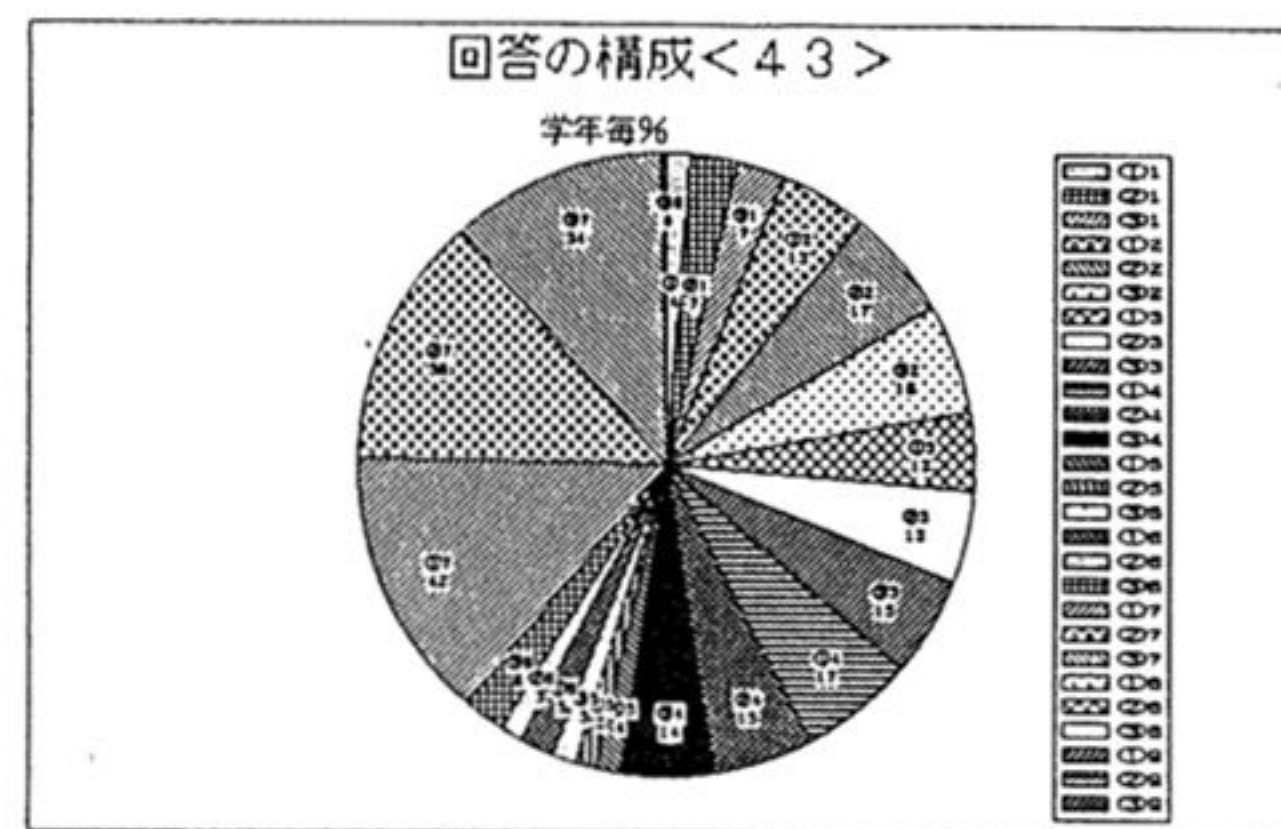
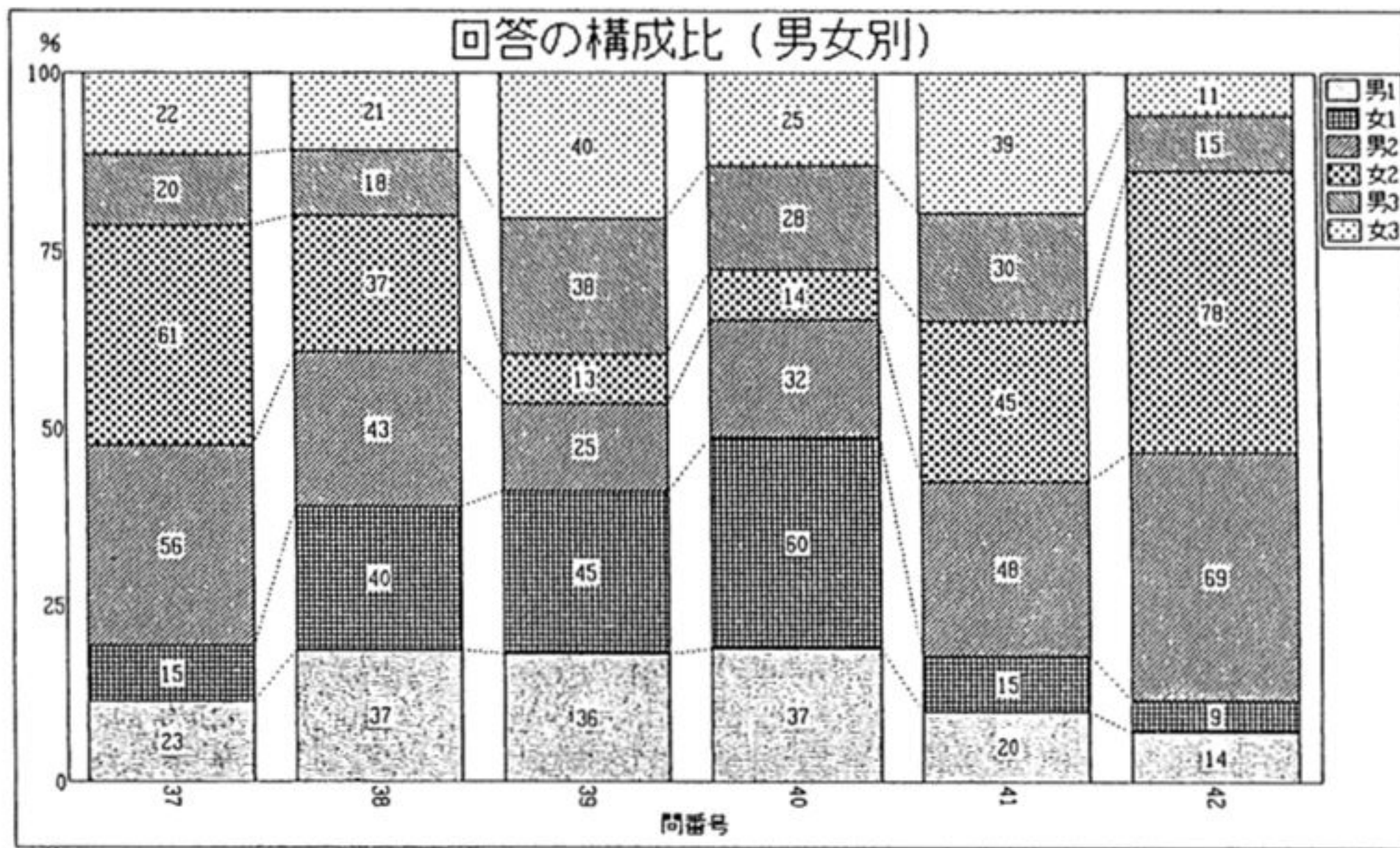


凡例の見方  
①②③ 1~9  
学年 選択番号

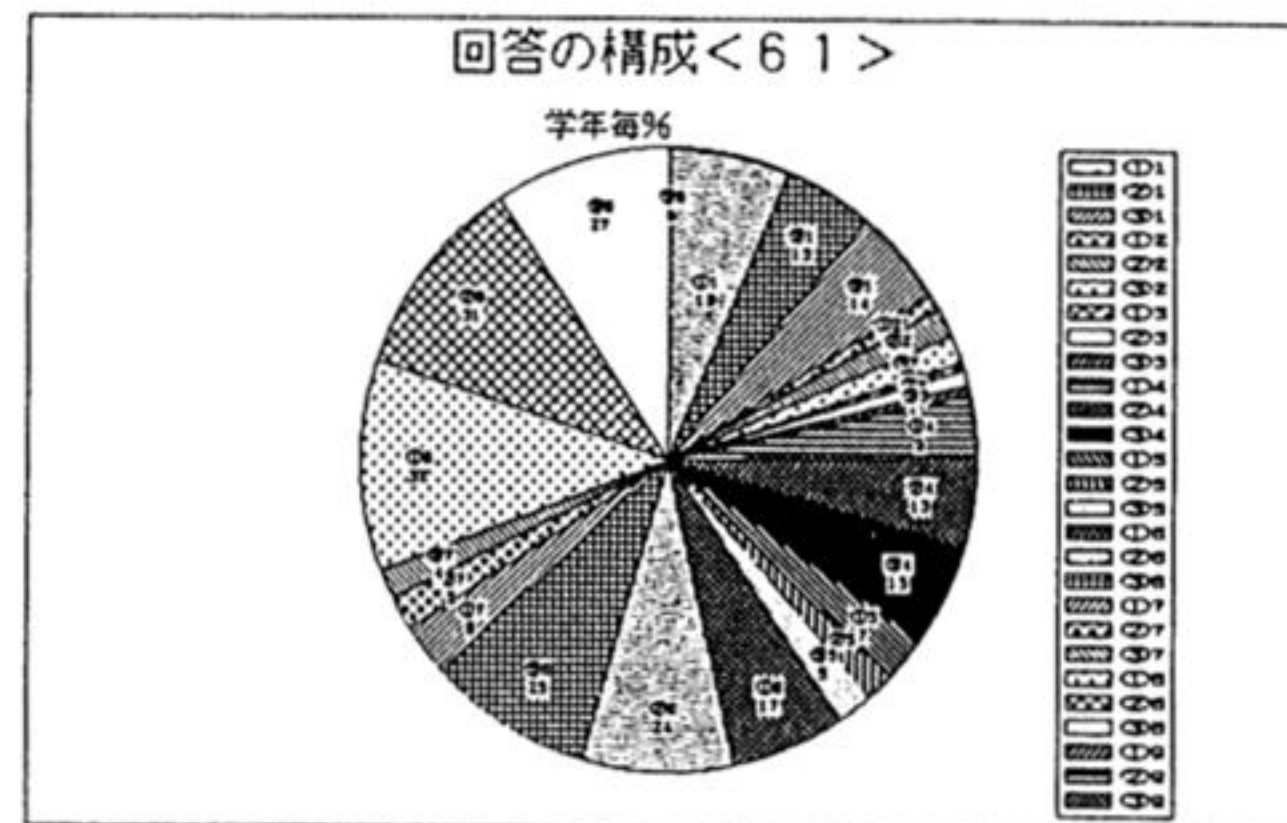
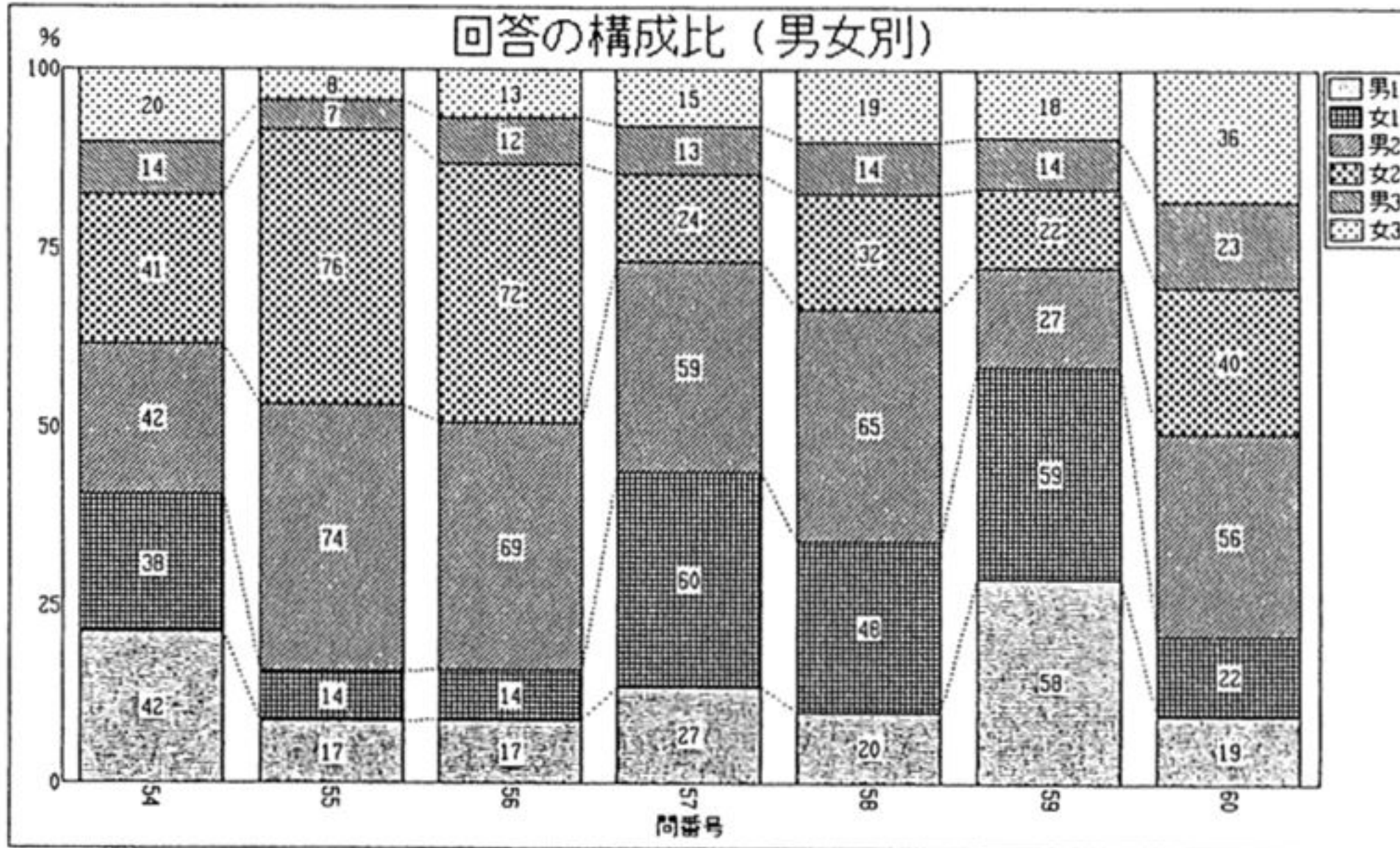
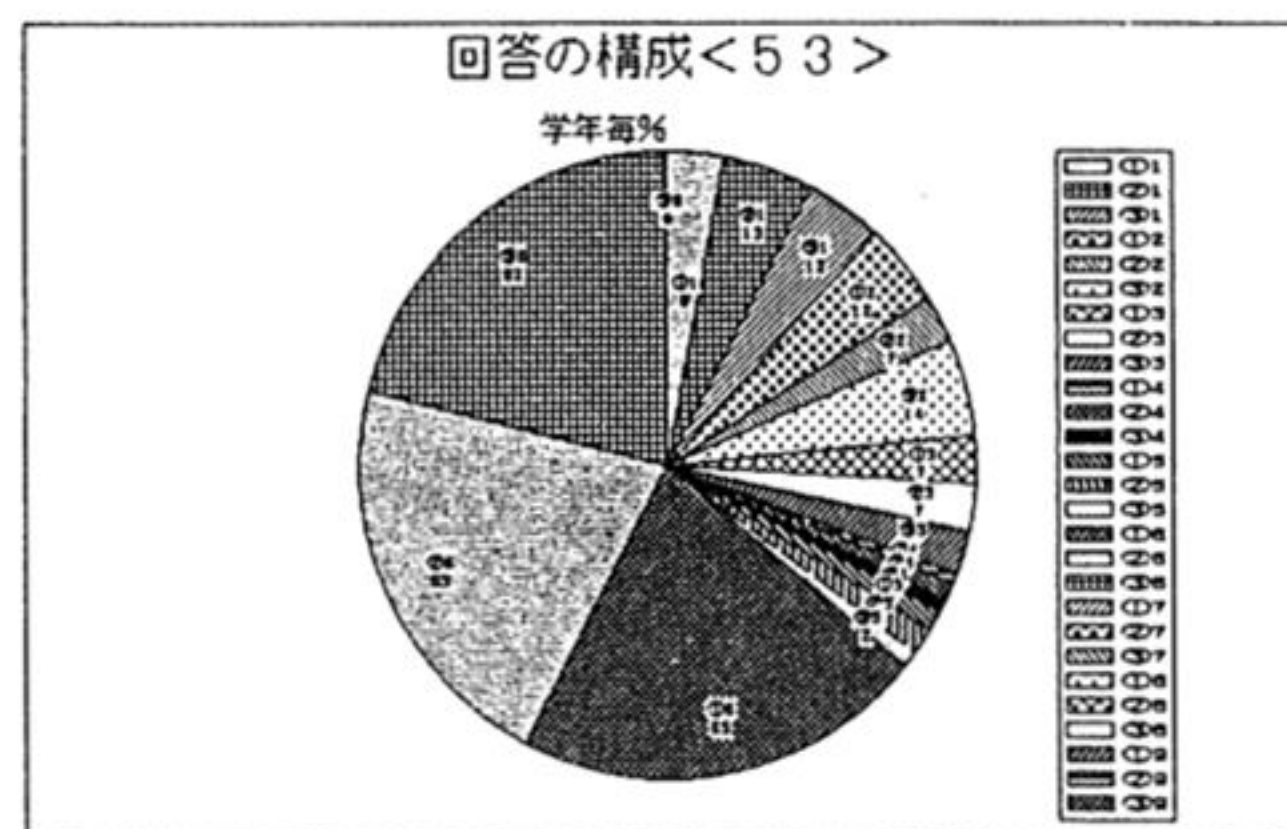
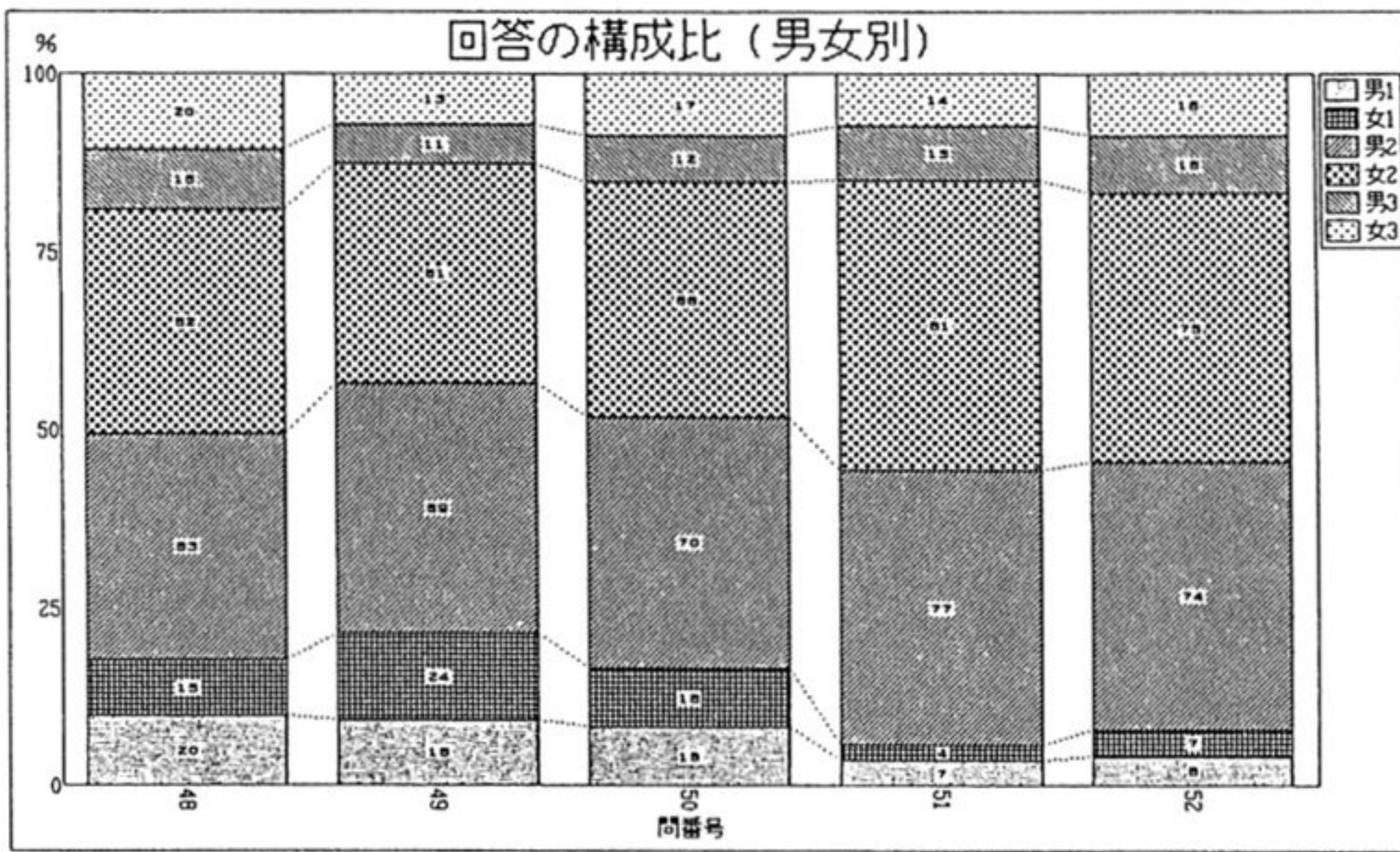




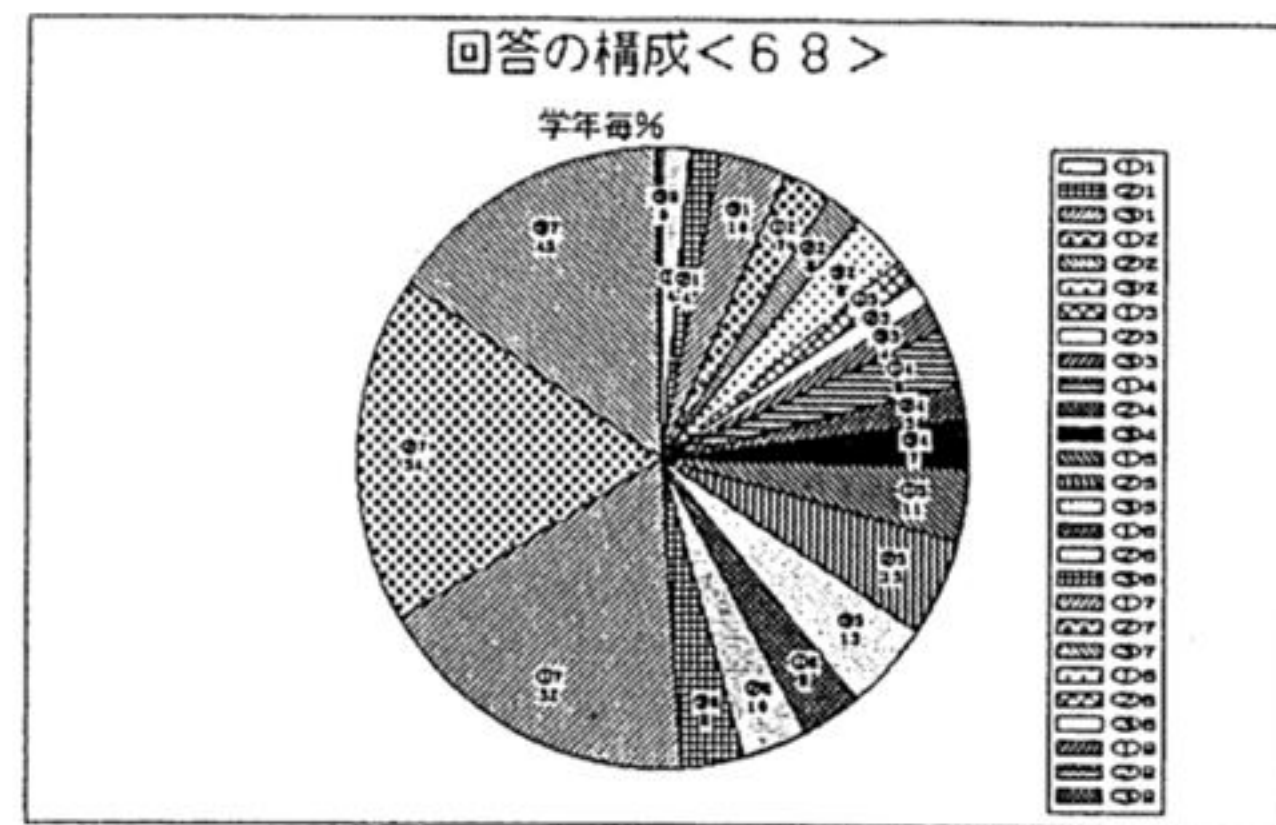
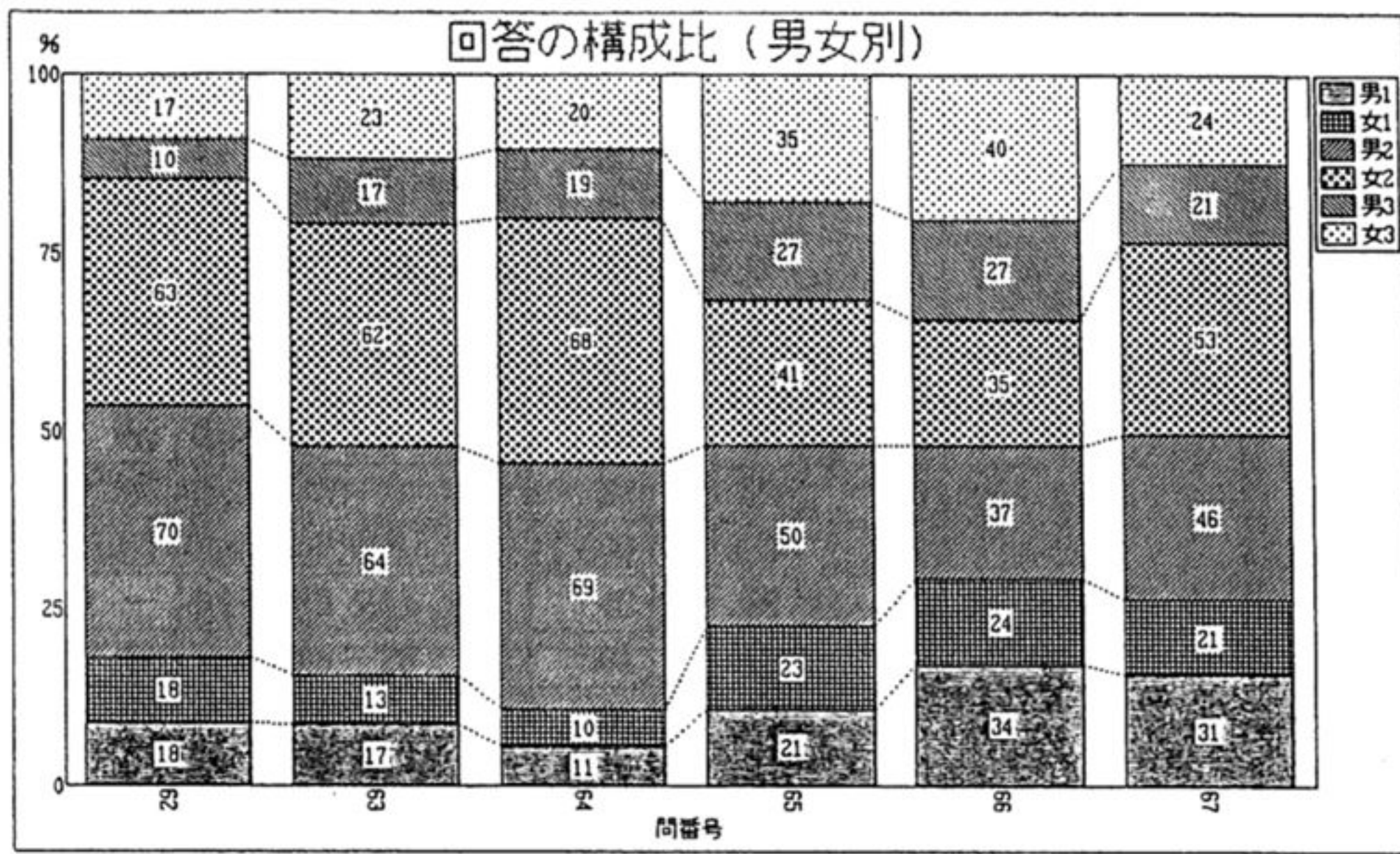




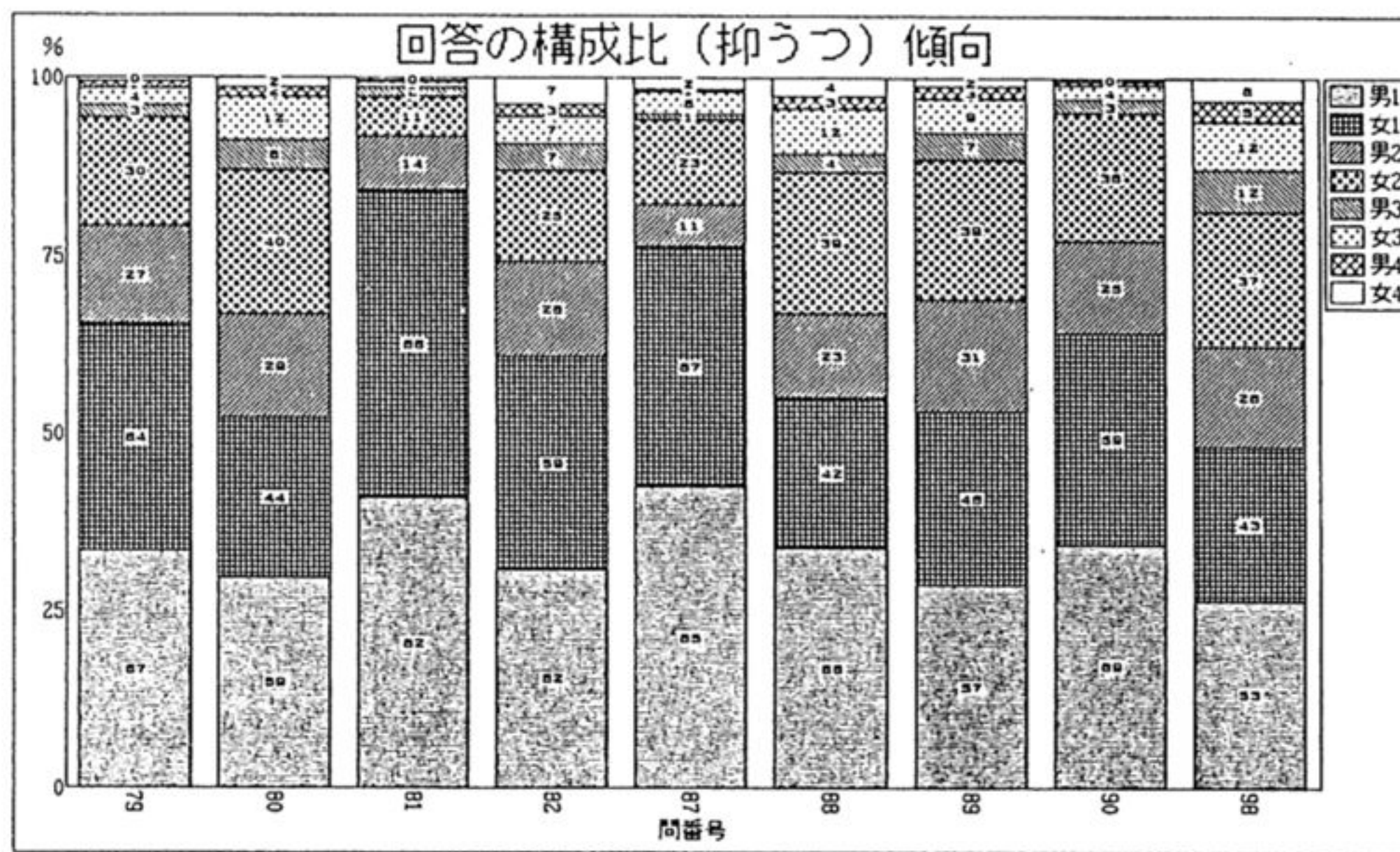




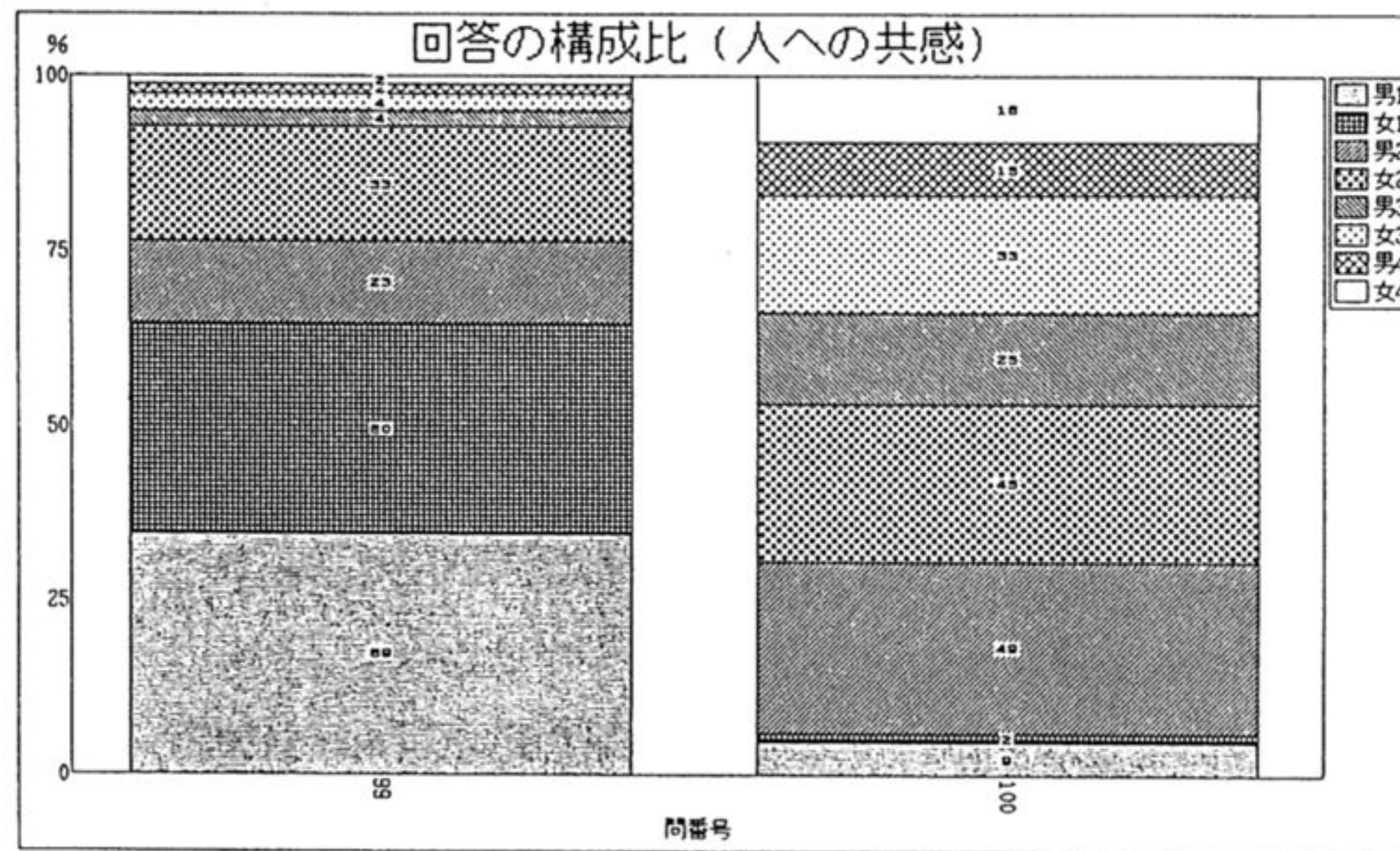
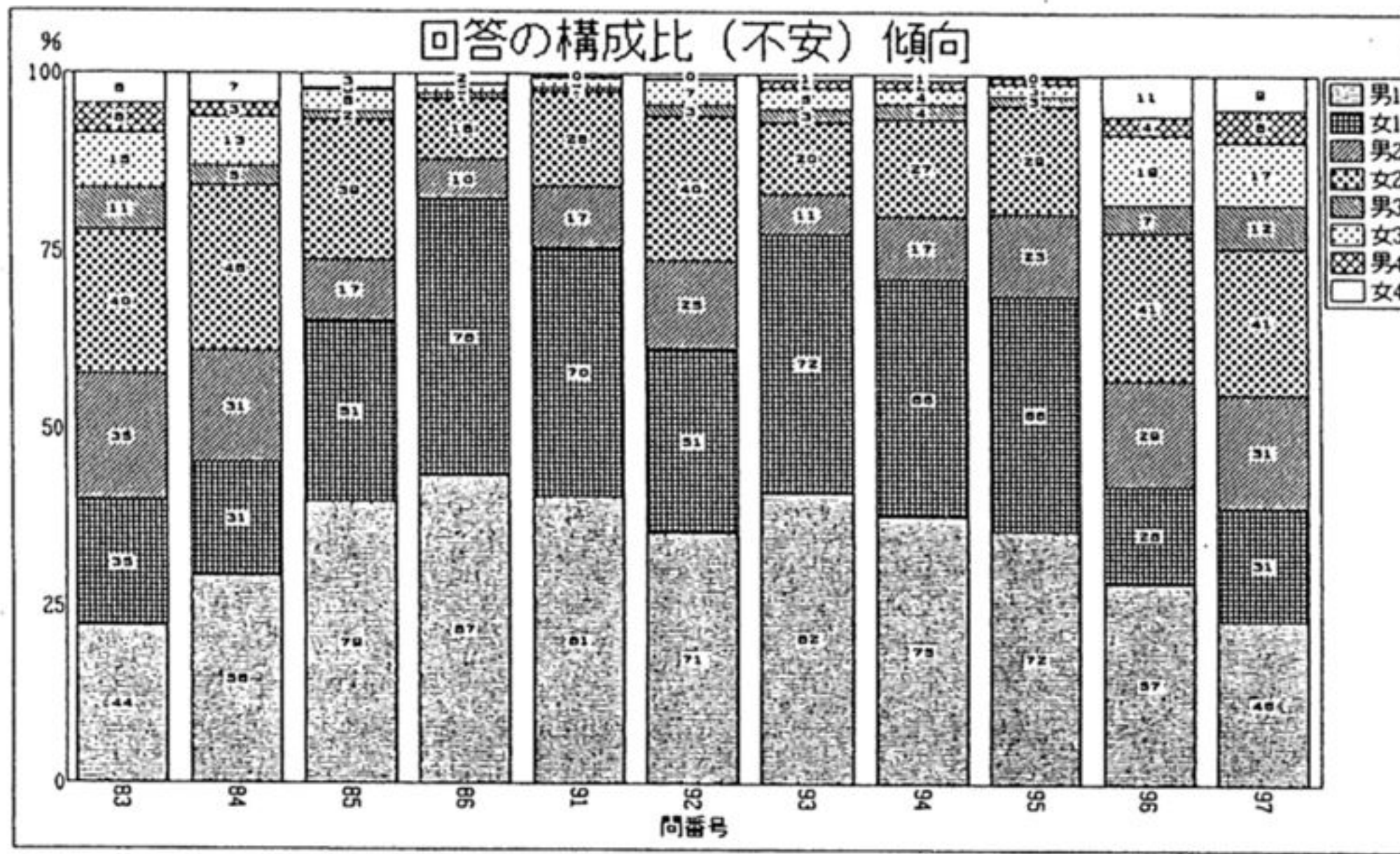




PTSDに関する質問事項 (79~100)の回答集計グラフ。









「心のケア」アンケート 分析結果

(注) ①②③は学年を表す

番号	総 合	REM1	REM2
1	97% (1年96% 2年97% 3年97%)		
2	男92% 女90% マークもれ有るため		
14			
15	男子(33%) 高く、依存している		
16	67% 規律正しい生活困難		
17	48% 学校再開喜ぶ女子の比率高い(55%)		
18	自由時間は男子肯定的(①51 ②62 ③48%)		
19	規律正しい生活、自由な生活の順(①学校再開 ②自由な時間 ③規律正しい生活)		
20			
21	級友とのつながり、女子に顕著		
22			
23	64% 家族のつながりの再確認		
24	75-10%近所の人とのつながり(新)発見		
25	人の冷たさはほとんど感じず(5%)		
26	人の冷たさはほとんど感じず(5%)		
27	人の冷たさはほとんど感じず(5%)		
28	家族、近所と普段意識しにくいことを再認識-女子で家族は約3割		
29	7割不安、女子極めて高い(86-8%)		
30			
31	経済的な不安は2割弱だが、③22%と高く、現実と直面すると認識が変化する。187人と侮れない人数。		
32	精神的な落ち込みは男女差大きく、(23-58, 39-34%)		
33	やる気の喪失(無気力状態)65%高率		
34			
35			
36	余震、やる気なし、友人知人への思いの順 余震は男女差顕著(14-34%)		
37	2割いや、6割嫌でない		
38	醜さを4割感じ、4割感じなかった。女子①30 ②40 ③51と増加。男子も増加。		
39	4割善意感じる。女子の②③が高い。		
40	ボランティア意識は女子が6割と圧倒的に高い。		
41	充実感は低い。		
42	震災による変化が顕著。		
43	人の醜さ、善意あふれる両面に直面し、自分にできることを求めて、ボランティアを希望した、とよめるが、「特に無し」が4割と多く、今回の総括となる「感情をあまり抱かなかった」とも読める。		
44	勉強56%不安感じている。①②③と順に増加。		
45	クラブは(32-52%)でそう思わない方が多いが、①23-60 ②39-50 ③35-46とばらつきあり。		
46			
47	勉強クラブ設備が、30:20:10で不安・不満を感じている。勉強③41と高い。		
48	本人・家族で悩んでいるのは2割。		
49	本人・家族で悩んでいるのは2割。		
50	本人・家族で悩んでいるのは2割。		
51	友人関係での悩みは1割未満となり、ごく少数。それだけ分かってもらいにくい側面があり、延べ140人は注意を要する。		
52	同上		
53	6割が悩んでいない回答をしている。4割は共通項が少なく、それぞれで悩むことになる。		
54	4割学校に行く気がしない。		
55	75% 家にいると落ち着きやすい。		
56	71% 出る気がしないわけではなく、エネルギーはあると言える。16%は出る気なく、要注意。		
57	余震の不安は男女差が著しい(25-60%)		
58	思い出しも男女差大きい。		
59	やる気のない状態はまだ続いており(6割)、自律困難な様子である。		
60	そう感じるのは2割に過ぎず、男子6割、女子4割が充実してない日々を送っている。		



番号	総 合	REM1	REM2
61	「行く気しない」「やる気起こらず」の無気力状態は4割になり、深刻な事態である。		
62	地震の後遺症を18%訴えている。193人は少なくない数であり、割合では判断できない。		
63	被災の進路への影響は全体として2割強あり、好悪まとめて注目すべき。		
64	同上		
65	被災体験の悪影響を2割強感じているが、4割強は感じていない。		
66	被災体験の好影響を3割弱感じているが、3割強は感じていない。前問と合せて、好悪それぞれ感じているが、どちらかと言えば、悪い面をあまり感じず、良い面を受け止めていると言えよう。		
67	4割強が震災で感じ方に変化があった。		
68	好影響を感じた割合がやや高いが、「特に無し」が5割を越え、総体として捉らえにくいようである。		
69			
70	15%壊れて住めない。		
71	32人がとじ込められた。		
72	避難者の内、「親戚の家」7割、「避難所」4割強		
73	25%が1ヵ月以上避難		
74	被災地だけに避難してきた人は少ないが、16%はある。(近隣の人か)		
75	15%怪我		
76	27人 家族でなくなっている。		
77	46% 友人をなくしており、かなり高率。		
78	学校には85%が1ヵ月以内にできたが、15%余りは1ヵ月以上かかった。		
79	全体が著しく高い。	<抑うつ>	M1
80	学年進行に連れて低下 男女差顕著	<抑うつ>	M2
81		<抑うつ>	M3
82	81より差が大きい、調査時期のずれによるか。	<抑うつ>	M4
83	1年のいらいら度は高い 女子は平均化している。	<不安>	M5
84	男女差大 漠然と不安感じる度合いは女子が高くSDも0.05~0.08と低く女子全体として、その傾向が顕著 2年男高め 2年女低め	<不安>	M6
85	男女差大	<不安>	M7
86	全体に低め 時間たち平穏になったからか。	<不安>	M8
87	男女差大きく、女子の123と増加 男子はあまり泣かない?	<抑うつ>	M9
88	男123女123の順に増加 女子の平均点高くナーバスになっている様子。③女は被災(中2)と0.59も開いている。	<抑うつ>	M10
89	男2女2の高さ-【要考察】	<抑うつ>	M11
90	平均より低め-他人への貢献度【要考察】	<抑うつ>	M12
91	平均低めだが、女3突出 男2は中では高い SD約0.3と大きく、特に男子の個人差が大きい。	<不安>	M13
92	男女差大 男2低め	<不安>	M14
93	321と感じやすい 2年表面的にあまり感じてない	<不安>	M15
94	男2気にしてない 女1感じやすい	<不安>	M16
95	男3女2高め	<不安>	M17
96	男女差大きく中2よりかなり高い SDの差が大きく個人差が大 不安は無意識の領域に押し込められようとしている。	<不安>	M18
97	女高学年ほど集中できない 男1高校生活不慣れで高めか	<不安>	M19
98	被災より低め 男2の低さ 時期のずれ	<抑うつ>	M20
99	他人への依存は123と減少 女2のみ高め 不安の(心的エネルギーの)表出か(昇華?)	人への共感	M21
100	他人への援助は平均も高く、男女123と高まるが2年のみ低め 感情を押さえている?)	人への共感	M22
	【全体のまとめ】不安、抑うつ傾向とも高めだが、2年の表面的平静さが気にかかる。感情の抑圧が随所に見られ、一種の無感動状態に近いとも考えられる。		
	【抑うつのまとめ】度合いは高め 2年男だけ低め顕著。3女ほど高い	<抑うつ>	
	【不安のまとめ】不安は無意識の領域に押し込められる 普段は感情の表出等も控え目だが、無意識が解き放たれる時には男2等で高めに出る いらいらと集中の結果が一致している 2抑圧されたもの多い 表面的には平穏	<不安>	

(注) 「REM2」欄のM1~M22の番号は、甲南大学などによる「震災後こころのケア研究班」のアンケートと同一である。

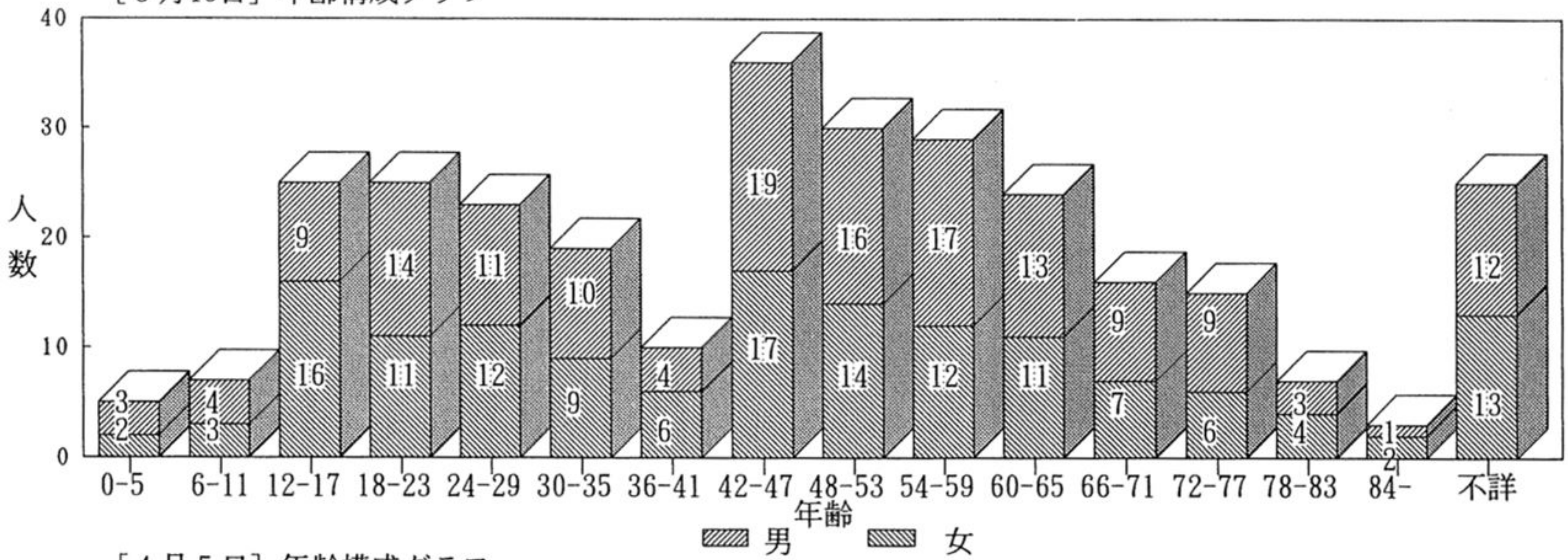


【2. 避難所関係】

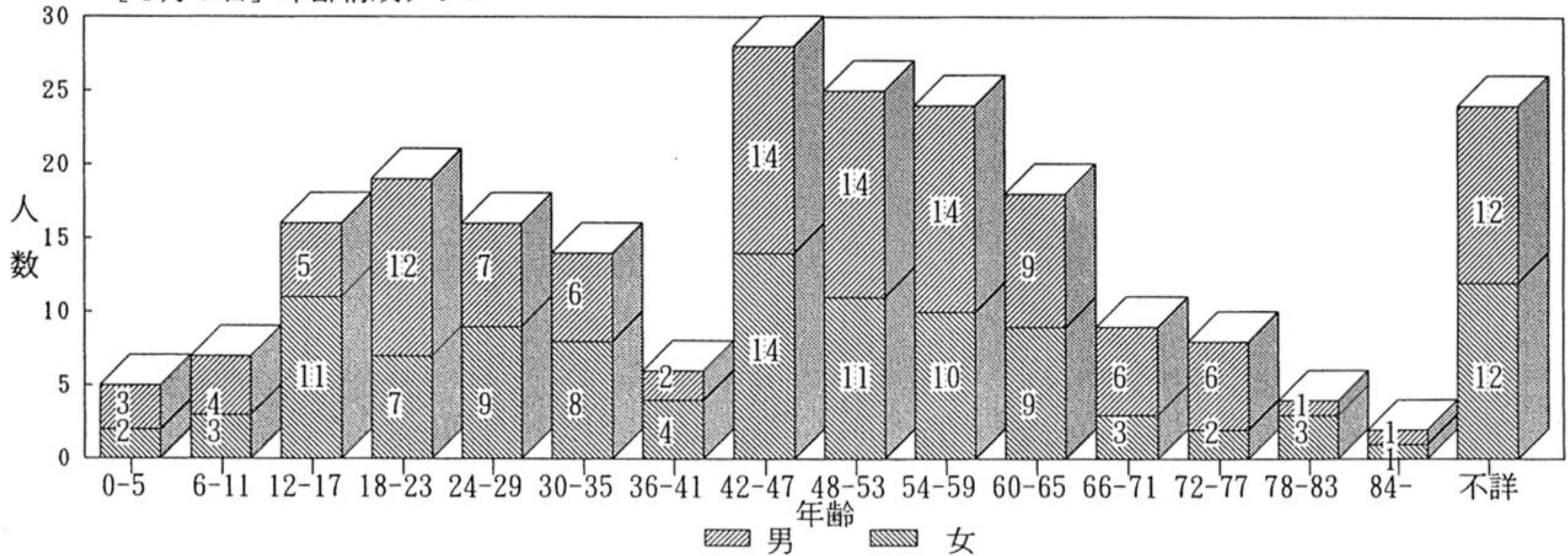
① 県立芦屋高校避難所 年齢別避難者数

2月11日現在		2月21日現在		3月19日現在		4月5日現在		4月30日現在	
年齢	人数	年齢	人数	年齢	人数	年齢	人数	年齢	人数
0～6	13	0～5	13	0～5	5	0～5	5	0～5	4
7～12	20	6～11	11	6～11	7	6～11	7	6～11	3
13～15	20	12～17	30	12～17	25	12～17	16	12～17	8
16～18	22	18～23	38	18～23	25	18～23	19	18～23	11
19～22	31	24～29	35	24～29	23	24～29	16	24～29	10
23～59	271	30～35	23	30～35	19	30～35	14	30～35	10
		36～41	19	36～41	10	36～41	6	36～41	3
		42～47	47	42～47	36	42～47	28	42～47	20
		48～53	47	48～53	30	48～53	25	48～53	16
		54～59	41	54～59	29	54～59	24	54～59	18
		60～65	39	60～65	24	60～65	18	60～65	8
60～64	32	66～71	27	66～71	16	66～71	9	66～71	6
65～69	34	72～77	21	72～77	15	72～77	8	72～77	4
70～74	36	78～83	5	78～83	7	78～83	4	78～83	3
75～90	22	84～	5	84～	3	84～	2	84～	
年齢不詳	67	年齢不詳	42	年齢不詳	25	年齢不詳	24	年齢不詳	22
計	568	計	443	計	299	計	225	計	146

[3月19日] 年齢構成グラフ



[4月5日] 年齢構成グラフ





② 県立芦屋高校避難所運営要項 2/11

		備考・課題	担当
住民名簿	・住民名簿（生活区分ごとの名簿）	4種類 ①五十音別（年令入）②五十音別（年令無）③住所別④生活場所別 避難者→実数 448（不定期含む 571）  高齢者多し ブロックは6～7か？  米田（車、グラウンド）  6:00まえから自主的掃除 班としては9:00から  23:00 見回り出来れば市のほうで？ * 22:00以降の電話、2階の教官室に切替えの方策を（市のほうで）  現在/体育館2階：1階：柔道場＝3：2：1 別途20～30食分→ボ・電報配達員(6)分 食事量の発注→市・委託業者 現在/朝夕600、 昼300 炊出、自衛隊から県民局へ（2日間のみ） →人出応援住民ボ、不足器具学校で  ボータブルトイレ・消毒液→保母さんで ゴミ→分別を 清掃道具の不足→学校で補充（中南館のを） 不足物資は食事運搬時の自衛隊に発注、市より補充  他に県芦南高に電話連絡することあり（直通電話あり・随時請求）、生活用品なんでも  直接救援物資の受付記録（連絡先、住所電話）、 その他避難所での出来事等の記録。 判断し、カレンダーに記入。場所の提供のみ。  避難所内のことに限る。現金書留等は、本人呼び出し、不在の時は局留、掲示連絡。  コーヒー、紅茶、カルピス、お茶類、（コンロ・ボンベは救援物資でなくなれば、それまで）  コンロ現在20コぐらい 個人放送はしていない。至急面会の時は放送で伝言板を見るように 常時ではない。 *郵便受付、現金貴重品は配達人に直接部屋まで、 不在は局留不在表預かり、掲示。 物は預かり、掲示、数日で局戻し。	
住民自治	・組織（生活区分の班リーダー） ・内容（清掃、配布物受領・分配）		
生活区分	1 体育館1班 班長 野口 2 体育館2班 久保 3 体育館3班 浜野 4 体育館4班 山口 5 体育館5班 小笠原 6 体育館6班 神田 7 卓球場 梅田 8 剣道場 常国 9 食堂 吉田（11世帯14人） 10 更衣室 多田 11 柔道場 吉田 * トレーニング室→ 資材置場 * 洗濯場→プールサイド * 女子更衣室→ボ控室、薬品室		
生活時間	7:00 活動開始 朝食（放送で案内） 9:00 洗濯場使用開始 17:00まで 11:30 ↓ 昼食 12:30 18:00頃 夕食（放送で案内） 19:45 班リーダー会議 22:00 消灯		
食 事	・配布の方法 本部で仕分け、放送で案内、班リーダーに取りに来てもらう。		
清 掃	・生活場所 } 住民で ・便所 } ・その他 }		
救助物資管理	市から以外は帳簿記入 →活用判断 → 配布管理（資材置場）  ・衣類→随時 ・日用品→消耗に応じて ・食料→日持ち品→据置・適時 →生もの類→即時		
本部業務	・業務日誌等の記録 ・炊出等の申し出の日の調整		
受付業務	・入退所受付 ・来訪者受付（生活区分場所を知らせる） ・伝言受付（掲示板へ） ・総合案内 ・サービス案内受付		
サービス	・洗濯場使用 ・喫茶（「ホーリー」）サービス  ・自転車貸し出し 20台 ・カート貸し出し 50台 ・放送機の提供 氏名記入 ボンは3本まで ・場内放送（全体に限る）  ・その他（娯楽、炊き出し等）		



組 織		備 考 ・ 課 題	担 当
<p>本部 (避難所本部と市本部の対応項目の明確化)</p> <pre>       graph TD         A[本部] --&gt; B[住民自治会]         A --&gt; C[市職員]         B --&gt; D[各生活区分リーダー]         C --&gt; E[芦高職員(武高職員)]         C --&gt; F[アドバイザースタッフ]         F --&gt; G[県芦生ボランティア志願者]           </pre>		<p>・ストーブ使用限定 設置場所→受付前に限る。使用時間→夕刻から22:00まで。 ボが責任管理。消化器の設置4。灯油は県芦高事務室で。</p> <p>責任者引き上げ、応援/保母さん2 四条縄市職2~3 畑・雨堤(西川) ↓ 市対策本部、避難所維持管理係、世話班 38-2102 *本部38-2099</p> <p>*現在市内避難所53箇所、7000人、仮設住宅2月なか1000、3月中プラス? *県芦体育館2階の学校使用可の方向を強く要望</p>	

### ③ ボランティアの仕事

#### お 仕 事

- ・掃除(ゴミ袋、お手洗い、玄関、階段) ・物資搬入、数量の把握 ・食事の配分、数量の把握 ・寄付品の配布
- ・避難各部屋の換気 ・点灯(午前7時)、消灯(午後10時) ・見回り、様子うかがい ・伝言業務、人探し、受付
- ・新聞の配布、及び自分たち用確保 6部(市職員、ボランティア、本館事務所、自衛隊2部、事務所1部)

#### 注 意

- ・搬入物品の個数のCHECK!
- ・食事の配布所(2階体育館、1階食堂、1階卓球場、剣道場、柔道場、本館事務室、グラウンドの車)
- ・各物品の保管場所の把握!
- ・受付/1階ホールで飲食しないこと(はしゃがない、ふざけない)
- ・言葉遣いに気配りを!  
(避難されている方や尋ねてこられる方の気分を逆なでしてしまいますので、すこし気にしてください)
- ・不明なことは自分で判断せず、市職員の方に問い合わせること!  
市の方がおられない時はベテランのボランティアに尋ねること!! あいまいな返事はしないで!!
- ・寝たきりのお年寄りには時々声をかけてあげてください
- ・衛生面に特に注意してください。

### ④ 避難所受付マニュアル

1995年2月28日

入退所の受付	1)避難者名票に記入: B6の名票に氏名(ふりがな)、住所、年齢、性別を記入してもらう。 2)必要事項の連絡: 班リーダー名、食事の時間などを連絡する。 3)提出してもらった名票は本部へ。
退所の受付	1)連絡先の記入: 転居先の住所、電話番号を避難者50音名簿の備考欄に記入してもらう。 2)提出してもらった名票は本部へ。
来訪者の受付	1)避難者を訪ねて来られた場合、50音名簿で避難場所を確認し、柱に貼ってある地図で案内する。 2)救援物資を届けて来られた場合、内容物を確認の上、出来るだけ名前、連絡先を記入して頂く。 避難所日誌に日時、提供者、内容物を書き留めておく。 3)ボランティアの申し出があった場合は、本部へ。
伝言の受付	1)伝言のほとんどは電話による。 2)誰への伝言かを聞いたら、内容を聞く前に50音名簿で在所を確認する。 3)伝言内容、連絡先は出来るだけ復唱して確認する。 4)必要事項を伝言の用紙に書き写し、日付と時間を書いて伝言板に掲示する。 5)伝言板に掲示できるのは24時間。 電話による取り次ぎ、放送による呼び出し等はしない(緊急時を除く)。
食事・物資等の受け取り	1)食事・物資等が配送された時は本部に連絡するとともに搬入を手伝う。 2)食事数の連絡を本部内の白板を見て確認する。



食 事 の 配 分	1)本部で仕分けをして、各班毎に取りに来てもらう。 2)朝食・昼食は3:2:1、夕食は実数を配る。 実数を記入した紙(ファイル)は食事受付の机内にある。 3)実数は各班リーダーが本部に適宜報告する。 4)食事の時間:朝食7時、昼食12時、夕食18時。放送はせず自主的に来る。 5)炊き出しがある場合は、先に食事を配布してから炊き出しを始める。 過不足がある場合、本部に返す、または取りに来る。
郵便・宅配便の受付	1)郵便・小包・宅配便が届けられた時は直接本人に渡してもらう。 2)不在の時は受付で預かり、伝言板に掲示をする。 3)書留は郵便局止めにしてもらい掲示する。 本人の強い希望がある時は、本部へ連絡する。
物 品 の 貸 出	1)自転車、買物カートを貸し出す。 2)貸出簿を記入してもらい、貸し出す。
ダ ス キ ン 洗 濯 サ ー ビ ス (下着のみ)	1)受付にある「洗濯物の受け渡しについて」で詳細を確認する。 2)水、土に取りに来られるので、火、金に締切。 3)県芦の番号(E-39)と名前を書いてもらう。 4)集計表にその日毎の預かり個数(合計)を記入し保管しておく。

### ⑤ 災害ボランティア十訓

- 一、自分の意志と責任に於いて、自給自足を旨とすべし
- 一、活動は自分で探し、自ら行動すべし
- 一、活動は創造と、敏を持って、期を失せず
- 一、活動内容に上下はあらず、えり好みは謹むべし
- 一、活動は思慮深さと、やさしさと、人間を愛する心を、もってなすべし
- 一、活動は人の為にあらず、我が為とすべし、実を残して徳を取れ
- 一、活動は自由参加とて、無責任にはあらざるべし
- 一、人の痛みを我が痛みとして、相手の立場で行動し、発言すべし
- 一、目立たず悔しまず活動し、けなさず、いからず名も無く去るべし
- 一、我々は被災者の自力復興への応援団であり、影の支援者である。去るべき時を知り、有事の友を作れ

《解 説》 これは、最初期のボランティア達が、本部に模造紙に書いて掲示していた内容。出典は不明。

### ⑥ 避難者数の状況(芦屋市)

3/28 5:20PM

No.	避難場所	所在地	2/19~ 2/20	2/22	2/24	2/26	3/ 8	3/13	3/16	3/20	3/23	3/26	3/28
2	警察学校	剣谷	36	36	36	36	36	36	29	28	28	26	26
3	朝日ヶ丘集会所	朝日ヶ丘町30-9	12	12	12	12	12	12	13	12	13	13	13
4	朝日ヶ丘幼稚園	朝日ヶ丘町10	32	33	33	29	12	11	21	3	2	2	☆
6	山手小学校	山手町8-3	36	36	36	26	15	10	10	10	10	10	10
7	岩園小学校	岩園町23-41	210	210	250	250	150	170	170	140	140	124	124
9	西山幼稚園	西山町22-15	55	48	50	50	52	42	47	45	36	37	37
10	三条小学校	三条町39-20	58	58	55	55	57	57	55	57	57	51	51
11	山手中学校	三条町39-10	46	46	46	46	37	37	33	34	34	33	33
13	翠ヶ丘集会所	翠ヶ丘町9-15	29	30	30	30	28	28	27	20	24	23	19
15	大原集会所	大原町20-2	180	180	180	180	133	133	104	84	78	75	76
16	三田谷治療教育院	楠町16-5	98	88	70	70	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
17	はこぶね保育園	上宮川町1-18	24	24	24	24	23	23	26	23	23	22	22
18	上宮川文化センター	上宮川町10-5	119	119	119	118	113	116	95	91	91	91	81
19	業平日興証券寮	業平町2-18	13	13	15	15	15	15	16	16	14	14	14
20	市民センター	業平町8-24	392	268	263	263	256	256	210	239	236	230	226
21	前田集会所	前田町9-12	39	39	39	40	37	37	35	37	36	34	34
22	前田町コープの寮	前田町6-9	60	60	60	60	70	64	86	62	62	62	62
23	春日集会所	春日町13-17	57	51	56	57	104	104	92	92	92	85	65
24	小槌幼稚園	打出小槌町15-7	104	131	105	105	81	81	64	59	58	55	51
26	西法寺	茶屋之町10-8	閉鎖	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
27	茶屋集会所	茶屋之町9-20	63	61	61	61	53	53	50	45	45	36	36
28	保健センター	公光町5-10	58	56	56	54	51	48	28	27	26	23	23
29	阪国事務所	川西町14-1	41	41	41	35	32	40	40	40	38	36	36
30	精道幼稚園	川西町11-10	14	12	12	12	11	3	☆	☆	☆	☆	☆
31	体育館・青少年センター	川西町15-3	200	200	250	250	126	143	140	140	134	127	127
32	津知公園	津知町1	120	120	120	110	80	80	67	67	67	67	67



33	芦屋川教会	津知町7-16	10	10	10	10	10	9	11	9	9	9	9
34	日吉会館	津知町6-9	9	9	9	10	9	9	5	5	5	5	5
36	精道中学校	南宮町9-7	260	250	220	220	135	135	100	100	100	100	75
37	打出集会所	大東町17-3	65	65	54	58	41	41	36	37	37	30	34
38	こばと保育園	若宮町3-17	閉鎖	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
38	宏和工業(株)	若宮町9-8	25	25	25	25	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
39	※県立芦屋高校	宮川町6-3	434	434	420	440	392	385	328	293	280	277	277
40	打出保育所	宮川町4-1	26	23	19	17	16	15	15	15	10	5	5
41	竹園集会所	竹園町5-6	32	25	25	32	26	26	18	18	14	14	8
42	市役所	精道町7-6	300	300	261	257	221	179	179	179	179	179	179
43	女性センター	精道町5-11	40	39	39	39	39	39	39	39	33	31	26
44	精道小学校	精道町8-25	504	410	409	409	368	348	321	321	238	238	197
45	ルーア芦屋	平田北町3-1	30	30	31	31	31	☆	☆	☆	☆	☆	☆
47	川鉄体育館	南宮町13	117	104	40	97	81	77	80	80	☆	☆	☆
47	旧打出集会所	南宮町15-9									15	15	14
48	宮川小学校	浜町1-9	138	138	136	138	138	120	109	109	100	100	100
60	宮川幼稚園	浜町1-20	63	63	63	66	66	51	47	47	35	35	35
49	海技大学	西蔵町12-14	115	119	116	113	101	90	74	75	54	49	48
50	西蔵集会所	西蔵町11-16	35	33	30	35	33	33	26	26	26	22	22
51	図書館	伊勢町12-5	81	80	73	65	32	30	26	25	22	20	20
52	打出浜小学校	新浜町8-2	120	110	110	110	80	65	69	43	43	43	44
53	浜風小学校	浜風町1-1	35	20	27	27	2	☆	☆	☆	☆	☆	☆
54	潮見小学校	潮見町1-2	55	50	68	60	60	7	7	3	3	3	3
55	潮見中学校	潮見町20-1	15	15	15	15	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
56	潮見幼稚園	潮見町1-3	閉鎖	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
57	さくら保育園	大榭町2-15	15	15	15	閉鎖	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
66	清水町駐車場	清水町9-1	20	20	20	20	20	20	12	12	12	10	10
合計			4,640	4,359	4,254	4,282	3,485	3,278	2,960	2,807	2,559	2,461	2,344
避難所数			49	49	49	48	45	43	42	42	42	42	41

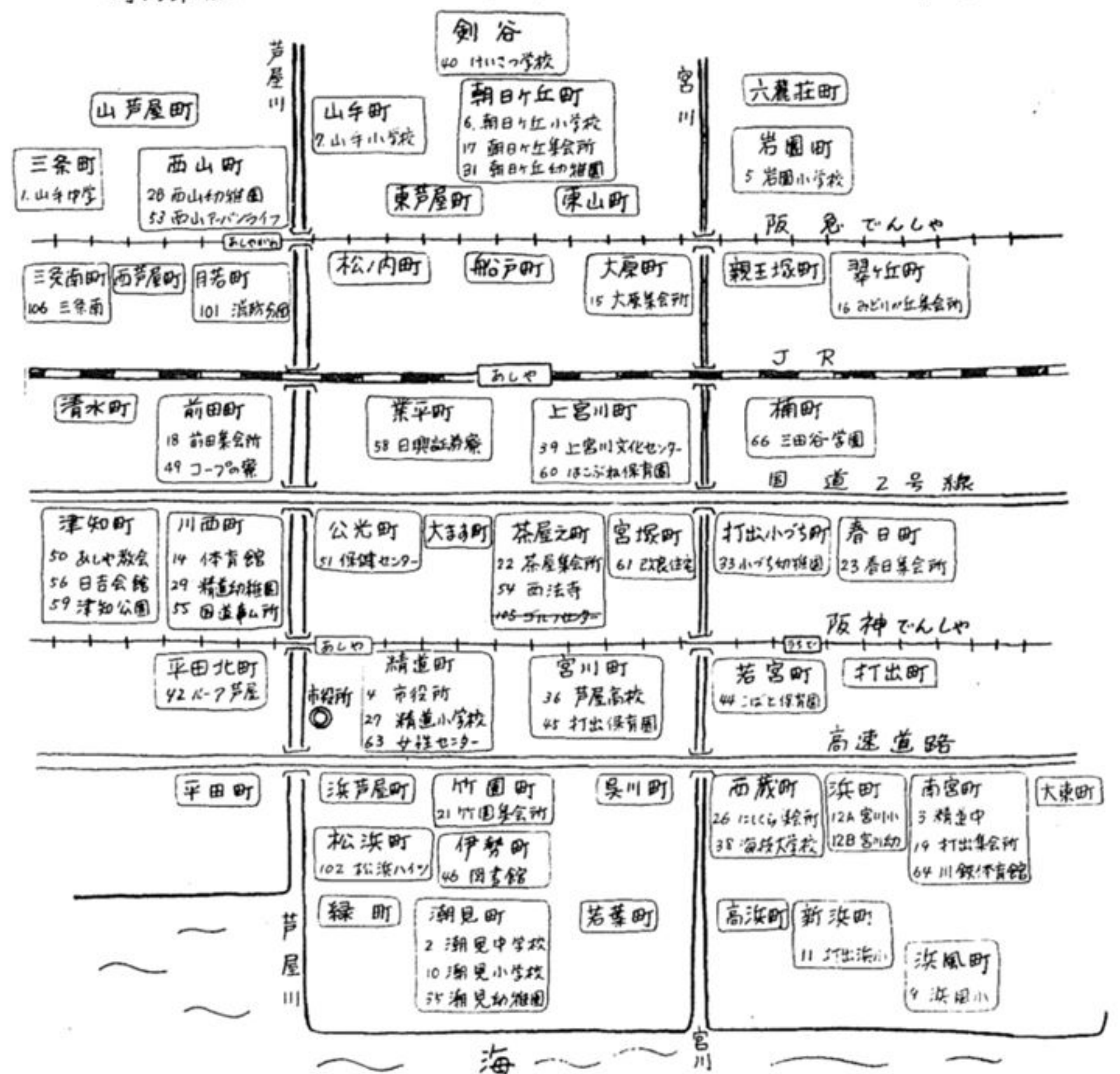
3月14日 AM6:30現在 死亡者数 407人

(遺体収容先別) 精道小学校19人 体育館46人 芦屋警察34人 警察学校63人 潮見中学校201人 潮見小学校33人 旧上畠邸1人 計 397人

⑦ 番号順 芦屋市避難所一覧

- |             |            |               |          |
|-------------|------------|---------------|----------|
| 1. 山手中学     | 三条町39-10   | 35. 潮見幼稚園     | 潮見町1-3   |
| 2. 潮見中学     | 潮見町20-1    | 36. 県立芦屋高校    | 宮川町6-3   |
| 3. 精道中学     | 南宮町9-7     | 38. 海技大学      | 西蔵町12-24 |
| 4. 精道小学校    | 精道町8-25    | 39. 上宮川文化センター | 上宮川町10-5 |
| 5. 岩園小学校    | 岩園町23-41   | 40. 警察学校      | 剣谷       |
| 6. 朝日ヶ丘小学校  | 朝日ヶ丘町10-10 | 42. ルーア芦屋     | 平田北町3-1  |
| 7. 山手小学校    | 山手町8-3     | 44. こばと保育園    | 若宮町3-17  |
| 9. 浜風小学校    | 浜風町1-1     | 45. 打出保育園     | 宮川町4-10  |
| 10. 潮見小学校   | 潮見町1-2     | 46. 図書館       | 伊勢町12-5  |
| 11. 打出浜小学校  | 新浜町8-2     | 49. 前田町コープの寮  | 前田町6-9   |
| 12A. 宮川小学校  | 浜町1-9      | 50. 芦屋川教会     | 津知町7-16  |
| 12B. 宮川幼稚園  | 浜町1-9      | 51. 保健センター    | 公光町5     |
| 14. 体育館     | 川西町15-3    | 53. 西山ア-パライフ  | 西山町17-10 |
| 15. 大原集会所   | 大原町20-2    | 54. 西法寺       | 茶屋の町10-8 |
| 16. 翠ヶ丘集会所  | 翠ヶ丘町9-15   | 55. 建設省国道事務所  | 川西町14-1  |
| 17. 朝日ヶ丘集会所 | 朝日ヶ丘町30-9  | 56. 日吉会館      | 津知町6-1   |
| 18. 前田集会所   | 前田9-12     | 58. 日興證券      | 業平町2-18  |
| 19. 打出集会所   | 南宮町15-9    | 59. 津知公園      | 津知町1     |
| 21. 竹園集会所   | 竹園町5-6     | 60. はこぶね保育園   | 上宮川町1-18 |
| 22. 茶屋集会所   | 茶屋の町9-20   | 61. 宮塚改良住宅6   | 宮塚町2     |
| 23. 春日集会所   | 春日町13-17   | 63. 女性センター    | 精道町5     |
| 26. 西蔵集会所   | 西蔵町11-16   | 64. 川鉄体育館     | 南宮町13    |
| 27. 市役所     | 精道町7-6     | 66. 三田谷学園     | 楠町16     |
| 28. 西山幼稚園   | 西山町22-15   | 101. 消防山手分団   | 月若町5     |
| 29. 精道幼稚園   | 川西町11-10   | 102. 松浜ハイツ    | 松浜町5     |
| 31. 朝日ヶ丘幼稚園 | 朝日ヶ丘町10    | 106. 三条南      | 三条南町1-4  |
| 33. 小槌幼稚園   | 打出小槌町15-7  |               |          |

ブロックごと 町内単位 避難所分布図 (町名のみを記したものは避難所の無い町である)



メモ



⑧ 希望物資一覧

3月19日

品名	希望班数	配布予定	必要度	個人 ↔ 全体
サランラップ	3	若干	5	★ ★ ★ ★ ★
洗剤(食器洗い)	3	若干	5	★ ★ ★ ★ ★
冷蔵庫	3		5	★ ★ ★ ★ ★
ごみ袋(小)	2	請求中	5	★ ★ ★ ★ ★
ごみ袋(大)	2	請求中	5	★ ★ ★ ★ ★
はみがき粉	2		5	★ ★ ★ ★ ★
ガムテープ	2	若干	5	★ ★ ★ ★ ★
ティッシュ	2	配布	5	★ ★ ★ ★ ★
マスク	2	近日中	5	★ ★ ★ ★ ★
アルミホイル	1	若干	5	★ ★ ★ ★ ★
スポンジ	1		5	★ ★ ★ ★ ★
洗濯かご	1		5	★ ★ ★ ★ ★
洗濯たこあし	1		5	★ ★ ★ ★ ★
洗濯ばさみ	1		5	★ ★ ★ ★ ★
物干し(室内用)	1		5	★ ★ ★ ★ ★
洗剤(洗濯)	3	相当量	4	★ ★ ★ ★
お茶	2		4	★ ★ ★ ★
春用衣類	2		4	★ ★ ★ ★
ハンカチ	1		4	★ ★ ★ ★
ペーパータオル	1		4	★ ★ ★ ★
下着	1		4	★ ★ ★ ★
果物ナイフ	1		4	★ ★ ★ ★
紙てふき	1		4	★ ★ ★ ★
洗濯のり	1		4	★ ★ ★ ★
自転車	2		3	★ ★ ★
フォーク・スプーン	1		3	★ ★ ★
紙コップ	1		3	★ ★ ★
ふとん	5		1	★
スニーカー	2		1	★
スリッパ	2		1	★
テレビ	2		1	★
雨合羽	2		1	★
電気釜	2		1	★
枕	2		1	★
うちわ	1		1	★
はさみ	1	抽選	1	★
アイロン	1		1	★
クッション	1		1	★
タッパー(密閉容器)	1		1	★
タンス	1		1	★
ラジオ	1	抽選予定	1	★
時計	1		1	★
食器	1	抽選	1	★
水筒	1		1	★
折畳みテーブル	1		1	★
台所用品	1		1	★
調理器具	1		1	★
電熱器	1		1	★
電話	1		1	★
筆記具	1	済み	1	★
弁当箱	1		1	★
電気カーペット	1		0	
電気ストーブ	1		0	
かさ	2	貸出		
軍手	1	大量		

《解説》これは、本校避難所住民の希望物資を調査集計したもの。  
必要度5のものを中心に当局に要望したが、希望通りには届かなかった。



**芦屋高校避難所**  
**大親睦会**

5月13日(土) 6時  
食堂

心揺さぶる出会い  
これからの糧に

芦屋高校に避難されている方  
芦屋高校から退所された方  
芦屋高校でボランティアした方  
四条畷市職員、ボランティアの方  
可児市職員の方  
精道保育所の先生方  
芦屋市職員の方  
武庫高校職員の方  
芦屋高校職員の方

**皆さんご参加下さい**  
＜当日、カンパをお願いします＞



朝日新聞 (5月14日)

7段組み

大見出し「手作り料理で『親睦会』」

小見出し「元避難者とボランティアら  
200人が旧交温める」

記事内容

芦屋市宮川町の県立芦屋高校で13日夕、阪神大震災で同校に避難していた市民やボランティアとして活動した人らが集まって「大親睦会」を開いた。震災後ともに暮らした約200人が集まり、ビールやジュースを手に手作りのごちそうで旧交を温め、カラオケを楽しんだ。

集まったのは、同校で避難生活をした人たちとボランティアで四条畷市岐阜県可児市から来ていたボランティアもいた。避難者やボランティアの世話をしてきた同校の金延重光教諭(42)らが「心揺さぶる出会い、これからの糧に」をテーマに、一カ月前から企画した。

親睦会は午後六時から食堂で始まり、北村春江市長も招かれた。体育館のリーダーを努めた野口良一さん(48)が「ボランティアの皆さんに感謝しています。今後もみんなで力を合わせて市や個人のためにもがんばりましょう」とあいさつ。伊藤正広校長も「このような会合ができるとは夢のような気がする。地域のみなさんと深いつながりができて喜んでいる」と話し、全員で乾杯した。

料理は、仮設住宅などに移った元避難者が集まって前日から作った。野菜は救援物資、その他の材料や飲み物は避難者の積立金を充てた。食事の合間にカラオケも始まり、にぎやかに同窓会を楽しんだ。

同校では、ピーク時には千人を超える市民が避難し、体育館や教室などで暮らしていた。現在も43世帯92人が体育館で避難生活を送っている。



⑩ 芦屋高校避難所アンケート結果 回答数39枚43人分  
 (アンケート結果は39枚に対するパーセント表示(%)で行います)

平成7年5月1日

アンケート協力をお願い

県立芦屋高校避難所

今回の貴重な震災体験を、多角的にまとめた記録集を作りたいと思います。その一環として当避難所の皆様に、アンケート調査のご協力をお願いしたく思います。宜しく申し上げます。

該当する項目に 印をお付け下さい。7才以上の方は、出来るだけ各自でご記入下さい。

- 1 年齢 ①0～6才(0%) ②7～15才(10%) ③16～19才(5%)  
 ④20代(10%) ⑤30代(10%) ⑥40代(24%) ⑦50代(20%)  
 ⑧60代(15%) ⑨70代(7%) ⑩80代以上(0%)

\* 0～6才のお子様がおられる場合は、保護者の方一名が、ご自分の年齢と①に○印を付けて人数を記入し、以下の質問には、ご自分の判断でご記入下さい。

- 2 避難所に入所された時期 (%)
- |                           |   |    |   |   |   |   |
|---------------------------|---|----|---|---|---|---|
| 1月 ①17・18日 ②19・20日 ③21～末日 | ① | 87 | ② | 3 | ③ | 5 |
| 2月 ④～10日 ⑤～20日 ⑥～末日       | ④ |    | ⑤ | 3 | ⑥ |   |
| 3月 ⑦～10日 ⑧～20日 ⑨～末日 ⑩4月以降 | ⑦ |    | ⑧ | 3 | ⑨ |   |

- 3 震災前住まわれていた町名 別紙資料参照
- ①芦屋市内(町名を記入下さい。)(100%)  
 ②東灘区(0%) ③その他の神戸市(区名を記入下さい。 区)(0%)  
 ④西宮市(0%) ⑤その他(市名を記入下さい。 市)(0%)

- 4 震災前住まわれていた住居の状況
- |                       |    |    |   |   |   |
|-----------------------|----|----|---|---|---|
| ①全壊 ②半壊 ③一部損壊 ④全焼 ⑤半焼 | ①  | ②  | ③ | ④ | ⑤ |
|                       | 72 | 28 |   |   |   |

- 5 同居されていた親族の安否
- |                    |    |    |   |
|--------------------|----|----|---|
| ①全員無事 ②負傷者有り ③死者有り | ①  | ②  | ③ |
|                    | 87 | 13 |   |

- 6 避難所を出られる場合の居住先(予定)
- |                        |    |   |    |
|------------------------|----|---|----|
| ①仮設住宅 ②市の斡旋の公営住宅等 ③その他 | ①  | ② | ③  |
|                        | 84 |   | 16 |

- 7 避難所の運営についてのご感想  
 ①とても良かった ②だいたい良かった ③普通 ④悪かった ⑤とても悪かった

A 職員・ボランティアの対応

- ア 芦屋高校職員の対応  
 イ 芦屋高校OBを中心にした一般ボランティアの対応  
 ウ 芦屋高校生によるボランティアの対応(～3月下旬)  
 エ 芦屋市職員の対応(～2月初旬)  
 オ 保育所保母さん方の対応(3月初旬)  
 カ 四條畷市職員(2月)可児市職員(3月)ボランティアの対応  
 キ 芦屋市嘱託職員の対応(4月)  
 ク 全体として

A	①	②	③	④	⑤
ア	77	10	13		
イ	85	8	8		
ウ	79	13	8		
エ	46	32	16	3	3
オ	44	40	16		
カ	76	11	14		
キ	55	32	13		
ク	65	26	9		

B 避難所におられる方々による自主的運営

- ア リーダーミーティングの機能  
 ①とてもうまく機能していた。 ②ほぼ機能していた。 ③普通  
 ④十分機能していたとは言えない。 ⑤まったく機能していなかった。



イ 掃除・食事の配分等の役割分担作業

- ①ととてもうまく行えた。 ②ほぼうまく行えた。 ③普通  
④あまりうまく行えなかった。 ⑤まったくうまく行えなかった。

ウ 全体としても自主的運営

- ①ととてもうまく行えた。 ②ほぼうまく行えた。 ③普通  
④あまりうまく行えなかった。 ⑤まったくうまく行えなかった。

B	①	②	③	④	⑤
ア	46	38	14	3	
イ	39	42	16		3
ウ	26	47	26		

8 避難所での生活の感想

\* 避難所の生活が快適であるわけがありません。ご不満は多々あるかと思いますが、避難所ゆえ致し方ないと思える部分は除いて頂いて、お答え下さい。

①ほぼ満足 ②普通 ③不満 ④たいへん不満

		①	②	③	④
ア	食事 1月	32	24	21	24
	2月	36	25	28	11
	3月	39	37	18	5
	4月	50	34	13	3
イ	炊出 自衛隊による(～2月12日)	89	11		
	外部ボランティアによる	92	8		
	温食による(3月17日～)	64	36		
	内部ボランティアによる	72	28		
ウ	救援物資	74	26		
エ	住環境	44	49	5	3
オ	衛生環境	39	45	16	
カ	人間関係	41	56	3	
キ	医療体制	67	33		

9 情報提供

①	②	③	④
38	46	16	

10 避難所生活・芦屋市・県立芦屋高校・ボランティア・その他に対するご感想、ご意見がありましたら、ご自由にお書きください。(裏面をお使い下さっても結構です。)

- 避難所生活において私共は1月17日の午後に入ったので何にも床に敷くものがなく、一番寒い時期でもあり、大変つらかったが、県芦の生徒さん始め、先生方の温かい心での奉仕活動により、心は暖かく過ごすことが出来、本当にありがとうございました。
- ボランティアの方々には大変お世話になりました。避難所生活をし、今までの生活を見直すと同時に、人生観が見直されたのではないかと思います。大変でしたが良い経験だったとも言えます。
- 長い間大変お世話になりました。永住したいほど居心地のいい避難所でした。
- 当避難所の先生の方で、私たちを上手くリードして頂き不足は全然ありません。感謝致しております。何にもお手伝い出来ず、申し訳なく思っております。ただ市の仮設の件の行政には不満。一度目に当たっていながらずされ、外形で判断されたこと、こちらでは1級建築士には全壊証明をもらっているのに一部損壊と一方的に決められた。地盤沈下で家を上げてまた沈下することでも前の家には修理しても住みたく、現在大工さん待ちですが、なかなか来てくれそうにありません。2次、3次(災害)、台風には心配です。赤ちゃんのおられる家庭は早く仮設に入れてあげてほしかった。生徒さんに不自由をかけて居りますので、早く修理して退所をと急いでおります。
- ボランティアの方々、先生方、いつも大変なお世話いただきありがとうございました。
- 避難所生活者を安心させるため、市職員、市長が直接復興計画、仮設住宅の説明を、文書でなく、避難所に来て人間一人ひとりに会って、不安を取り除くような対応をしてほしかった。「芦屋」という街の行政に失望した日々だった。
- 先生を始め、ボランティアさん等たくさんの方々にすごくお世話になりました。ありがとう御座居ました。
- 100日以上の間、何かとお世話になり有難うございました。皆様の暖かいお心に感謝し、これからも頑張ります。



⑪ 避難所閉鎖のお知らせ

### 避難所閉鎖のお知らせ

本日5月28日をもちまして、県立芦屋高等学校避難所は閉鎖となりました。1月17日以来、皆様方の苦難の一端を共にさせていただきましたことを、地域と共にある学校の貴重な体験としたいと思います。

皆様方の苦難はこれからも続くことと思いますが、一日も早い復興を心より祈念しております。

1995年5月28日  
県立芦屋高等学校

〈編集/金延重光・佐和良一〉





# 2 体 験 文

～ 明日は笑顔で～







## I 生徒

### 天災に負けたくない

井上 和子

今も夢を見ているような気がする。夢が覚めて、学校で友達にこんな怖い夢を見たと話して、「あほやね。そんなことあるわけないやんか。どうしてそんな怖い夢出てきたんやろね。」と、笑って言ってほしい。夢であってほしい。夢と信じたい。

その日もそうだったが、私はいつも朝型で、五時代は既に起きている時間だった。その日も、五時過ぎまで起きていたのだけれど、何を思ったのか布団の中に入って寝てしまった。それが私の命を救った。家が揺れた後、家具や壁が私の布団の上にどっと落ちてきて初めていつもの軽い地震とは違うと気付いた。眼鏡もかけていなかったし、まだ周りも暗くて何も見えてなかったの、幸いどういう状態かわかっていなかった。それでパニックも起こさなくて、自分なりに冷静になれたと思う。すぐ外に出てみると、おばあちゃんが埋まっていると叫んでいる人がいて、近所の人みんなで助けに行った。家が崩れていたり、レンガや電柱が倒れていて、私は立ちすくんでしまった。商店街の一部は道がもうなくて屋根の上を通ったりした。私が自分自身生きていると感じたのは、友達が探しに来てくれた時だった。友達の顔を生きてまた見ることができたことがものすごく嬉しかった。今になっては大げさに聞こえるかもしれないが、その時は、決して大げさな感情ではなかった。現に、友達や先輩、後輩、おじには、もう会うこともできない。友とは、いつも会っていたわけではないが、時々頑張っているうわさ話を聞いたりして、今となっては、どうでもいい、会えなくていい、頑張ってくれればそれでいい。そう思う。友の命が欲しい。こんなことを言っているが、まだ亡くなった友に会える気がしてならない。

地震から一週間して田舎へ行った。行く途中、バスの中からデパートの前でお坊さんが頭下げて義援金を集めて下さっているのを見て、涙があふれた。周りは普段と変わっていないので、安心もしたけれど、何故か怖さがよみがえってきた。おばあちゃんちへ帰ってきて、一安心するかと思ったけれど、全然心は安らぎなかった。周りが食器棚や本棚の部屋にいただけで怖かった。地震のその日の夜も、建物の中に入るのも怖かったし、体を横にするのも怖かった。それどころか

最初のご飯が、自分でも分からないけれど、恐ろしくて食べられなかった。田舎の同じぐらいの年の人は、いつも通りにおしゃれして、いつも通りに普段の番組見て、それが一般の生活なのに腹が立ってしょうがなかった。でも、私も奥尻の時は、そんなに気にも留めず一般の生活をぜいたくに当たり前のようしてきた。自分が経験しないと分からないということがよく分かった。

田舎に行って、二、三日後の夜、私はおばあちゃんと一緒に亡くなった知人の供養をした。けれど私のは、供養にならず、お寺に友の死の怒りをぶつけているだけだった。地震の日の夜のことがよみがえった。

その夜、私は、下敷きになったおばが小学校の保健室にいたので見舞いに行った。そのとき、次々に生死をさまよっている人が担ぎこまれてきた。運びこまれるまえに、「次の方はもうだめです。」と先生にこそっと言っている人がいて、運ばれて診察してその間に心臓が止まって、身内の人らしい方が、「お金はいくらでも払うので、注射でも何でもしてやって下さい。」って先生にすがっていた。よくドラマで聞くセリフだが、実際近くで聞くと、金や人間の無力さがたまらなく身にしみた。市役所の死亡届の窓口に行ったときのことも忘れられない。何十枚もの死亡届の紙があり、事務的に運ばれている紙々をみて、「ごっこ遊び」でもしているような気がしてきた。私もあのまま起きていたらこの紙に書かれてどっかいつっちゃうのかなとふと怖々思ってしまった。父に聞いた話だけれど、私の机に額の角がささっていたらしく、今でもぞっとしている。

芦屋に帰るとき、途中、大阪のデパートへよった。やっぱりぜいたくしておしゃれしている人がいっぱいいた。そんな人には負けたくない。どんな面においても自分に似合った幸せな人生を頑張って作り上げたいと思う。そして、なんととっても、天災が奪った私の友の人生、命は取り戻せないけど、友の人生は私が一日一日頑張ることによって取り戻せるような気がする。あの友が味わわないといけなかった苦しみも楽しみも、あの友が燃やし続けるはずだった命も、私たちが大切に一生懸命一日一日送ることによって天災から取り戻したい。



## ボランティアを通して

富沢 信介

僕がボランティアを始めたのが1月23日。あれからもう9ヶ月が過ぎた。震災から数日間ではあったが、余震を気にしながら水と食料を求めて。幸い家族も親友も家も無事であったが、もう二度と経験したくない。

家の屋根がいかれたので修理を手伝ったり、食料の確保や、自転車で連絡の取れる人ととったりして一週間が過ぎた。自治会長という立場上、顧問の先生から連絡があった。学校が避難所ということで県立芦屋高校としてボランティアをやってみないかという誘いだった。生まれてこれまで老人の介護やましてボランティアなどやったことがなかった。正直に言えば半分仕方なく、半分暇であったので、自治会のメンバーにも呼びかけて一応、参加してみることにしてみた。それが1月23日のことである。

このような事態なので当り前ではあるが、個人の意見を尊重した。だが、かなりの人数が集まりまず初めは自治会のメンバーだけで参加することにした。避難所へ赴くと、ボランティアはすでに結成されていた。全員、年上で県立OBが多かった。やはりほとんど十代であった。各自の役割が分担されていて、はっきり言ってやることがなかった。今、言える事だが、すでにそのグループは亀裂が入っており僕たちが参加してよかったと先輩は言ってくれた。初めの方は、記憶が薄い、仕事がなく受付で被災者の人を訪ねてくる人の対応や、食事の分配、炊き出しの手伝いなどをやっていた。ちなみに受付の被災者の一覧表であるが、震災後一日で約千人分の名簿を作ったらしい。これも先輩である。日が経過するにつれ先輩らとも仲良くなり毎日が充実してきた。2月1日、確か安否確認のため学校があった。久しぶりに再会する友達であったが、3人の方が亡くなっておられた。

みんなが集まった機会に学校のみんにボランティアを募集しようとした。約70人が集まった。残念ながら8割は女の子である。まあそのボランティアの生徒と一緒に新たな旅が始まった。だが、生徒をまとめるという事が必要になってくる。そこで一応リーダーである僕がまとめることになったが、すでにボランティアをまとめているOBの方もいるのだが、その人と一緒にリーダーをするという方向になって、さらに忙しい日々が始まった。

例えばどんなことをするのかといえば、避難所を9

つぐらいに分けた班のリーダー会議に出席したり、ときたま取材もある。人に気をつかわなくてはいけないし、プレッシャーもあった。

ところでボランティアとはとても美化されていると思う。リーダーになるといろいろ言われた。救援物資の配布をするのは私たちだが、当り前のようにみんな公平でないとか、一人でいくつもごはんをもらっている、ペットをどうにかしろ、あげくの果てはボランティアが乱れている。どうしようもない意見である。嫌だったら出て行けとも言えないし、みんなピリピリしているのはわかるが、集団生活になっているのだから秩序を守るくらい大人であったら考えて行動してほしい。だが、そんな人は、はっきり言って相手にしなかった。面倒くさいし、自分が疲れる。でもいつも会ったら笑顔で「御苦労さんです。」など、僕たちに感謝してくれる人達もたくさんいた。そんなこともあったから長く続いたのかもしれない。

リーダーになる前、慣れない環境に疲れた時があり何もかも嫌になり逃げていた時があった。その後輩ががんばっていた。その後輩に「富沢さん何しているんですか。僕は頑張っているんですからしっかりして下さいよ。そんなんでリーダー勤まるんですか。」などと言われた。ショックというより情けなかった。彼は僕のことを殴りそうだった。それからは必死だった。被災者の人々に顔を覚えてもらうのが先決だということで自分から何事も進んでやった。

いろんな事があって何を書いて良いかかわからずに話がバラバラになってすみません。最後にボランティアについて思うことがある。先程も言ったがボランティアが美化され過ぎているところ。そして、十代の人々ががんばったがそれは、学校もなく暇であったのが大部分の意見で、大人の人達は家族や仕事もありボランティアどころではなかったと思う。その代わりに私たち十代の者がやったということにすぎない。だが、良い経験であった。もう二度としたくないが。被災者の人々とたくさん知り会いになり、時々狭い芦屋で会うこともある。それに何よりもボランティアのメンバーが楽しかったこと。これがないとやっていけない。全く知らない人達と友達またはそれ以上の関係になることなんかそう滅多にない。一生つき合っていきたい仲間である。決して私たちの心から消えない地震。いろんな事を教えてくれた。これも生きているからこそ。充実しすぎた一年であった。最近では頭の悪い脳ミソ



にむちを打って受験勉強に励んでいる。私たちはもう生活を普通にしている。だからといってあの震災を忘れたわけではない。

## 地震の朝・その後の行動

河添祐紀子

1月17日、午前5時46分——。激しい揺れと次々に落ちてくる本で目が覚めた。すぐに地震だと分かったが、今までに体験したことのないような激しい揺れに私はどうすることもできず、ただ布団を頭からかぶって耐えていた。そして、その時私はマンションの揺れる音を聞いた。ぎゅうるっ…ぎゅうるっ…ごきごきっ…。それはまた悲鳴のようでもあり、私の恐怖心を一層かきたてる。埋め立て地に建てられた29階建ての高層住宅。折れるんじゃないだろうか。私は恐ろしくてありったけの声で母を呼んだ。しかし、いくら呼んでも返事はこず、真っ暗で何も分からない。泣きそうになりながら何回も何回も呼んだ。やがて揺れがやんだ。私はベッドから飛び出して両親の寝室へ行った。両親は幸い無事だった。頭のところに小ダンスが倒れてきて間一髪でよけたらしい。それから3人で懐中電灯を探すのに必死だった。何回も余震がきて、そのたびに私は悲鳴をあげた。

しばらくたち、夜が明けて外を見ると、宮川のそばに毛布や布団をかぶったパジャマ姿の人が大勢座り込んでいた。多分恐ろしくて家を飛び出したのだろう。また、家の中のさまざまな状況に気がついた。まず、水がでない。ガスもでない。もちろんテレビもつかない。とりあえず、電池でずっとラジオを聞いていた。ふと思いたって、自分の部屋へ行って見た。あまりの悲惨さに思わずため息がでるほどだった。それにしても、あの暗闇の中、この部屋を簡単に出られたことが不思議でたまらない。だが後で見ると、足があざだらけだったので、多分無理矢理いろんなものにぶつかって脱出したのだろう。

しかし、私はこのときまだ、この地震が歴史に残るほどの大惨事をもたらしたとは思っていなかった。きっと今日学校ではこの話題でもちきりだろうなと無邪気に考えていた。

1時間後、再び窓の外を見ると、駐車場のアスファルトがジグソーパズルのように地割れしていて驚く。地割れなんて初めて見た。見える限りの道路は2m近くのすきまが開いていたり、深い穴ができたり、もり

あがったりしていた。

そのような状況を見ても、私は「これは学校が休みにちがいない。ラッキーだ。」ぐらいのことしか考えられなかった。

ところが、ラジオを聞くと、どうも「ラッキー」などという事態でないことにすぐ気がつく。高速道路が倒れた…？アパートが倒壊した…？土砂崩れ…？

とどまることなく増え続ける死者の数に私はどうやら大変なことになったらしいと悟った。1月17日の時点で、芦屋市では145人、全体では1241人の尊い命が失われた。どこかのマンションが倒壊したとか、家が何軒つぶれたとかそういうニュースをうんざりするほど聞いた。それで私は心配になって、神戸の友人に電話をかけたが、まったくつながらない。不安はどんどんつのる。私の家は芦屋市の最南端、海岸沿いの町にある。その町付近一帯は埋め立て地で家も施設も新しいので、はるかに被害は小さく、そこに住む友人達は電話もちゃんとつながり、みんな無事であることは確認できた。しかし、同じ芦屋でも北部や中部に住んでいる友人のことは非常に不安だった。私は何回も電話をかける。次の日も、そのまた次の日も——。

翌日、とりあえず芦屋市内を友人と一緒に歩いてみる。たくさんつぶれた家とその脇に呆然とたたずむ人を見た。私達の県立芦屋高校も例外ではなく、学校がしばらくないことを予測させた。

2日後、テレビがついてからは、とにかく死亡者の名前を真剣にずっと見ていた。そして、15歳や16歳の年令の名前を見つけるたびに自治会名簿で調べてみる。調べる間はずっとドキドキして胸が張り裂けそうだった。全く知らない人であっても、その人の今までの人生や命の尊さを思うと、私にはとても重くて苦しくて耐えきれず、とうとうそれを見るのをやめてしまった。

3日後、いてもたってもいられなくなった私は同じ思いを抱えている友人2人と一緒に避難所をまわった。たくさん友人に会い、いろんな話を聞くことができた。もちろん神戸にも行ったが、神戸は芦屋とはくらべものにならないくらい広く、誰にも会うことはできなかった。また、被害も想像を絶するもので、私はますます連絡のとれない友人の安否が気になった。

23日、やっと学校があった日。たくさん友人に会えて本当に嬉しかった。私が心配していた友人はみんな無事だったが、たくさん友人が死んだと悲しそうに言っている子もいた。それに、同学年から1人、他学



年から2人、合計3人の生徒が亡くなったことを知り、本当につらく思った。そして友人2人と神戸へ行った時、1人が県立芦屋南高校の子だったのだが、その子が言ったことを思い出す。「テレビでね、死んだ人の名前がでるでしょ？あれで県南の子もう5人も見つけたの。神戸から来てる子多いから。きっともっと増える。つらいからテレビはもう見ない。」その言葉が針のように私の心を貫く。私が何か言おうとした時、その友人が前方から自転車でやってくる男の子に声をかけ、手をふった。男の子は笑顔で手をふり返し、通り過ぎた。「県南の子？」「うん、あの子も神戸の子。無事で良かったぁ…でも、あの子の親友死んじゃった…。あの子知ってるのかなぁ。」すべて現実だった。私が見るもの、聞くもの、すべてが決して目をそむけられない現実だった。

当初、水と食料の確保は大変だった。大阪まで父が食料を買いに行き、私と母は近くの小学校にバケツをもって長時間ならんだ。最初のころは、水をつんだ車がありこず、朝の7時から昼の2時までならんで水がもらえないこともあった。ならんでいる間、いろいろな人と話をした。私の家は四階だったが、もっと上の階の人はこの世の終わりかと思っただけ。「テレビが飛んだ。」「ピアノが壁にめりこんだ。」という話を多く聞いた。

地震は日々の生活だけでなく、私の心にも多くの影響を与えた。地震のせいで今までつかんでいたものすべて失ったと思った。地震前の生活は夢だったのかもしれない。たいくつな授業もテストも部活も楽しかった休み時間のおしゃべりも失敗ばかりだった化学の実験も、地震が私からすべて取り上げた。全部消えてなくなりました。そして大好きな友達が転校すると知ったその夜、私は泣いた。怒った。そして地震に対する激しい怒りをぶつけた。返して。私の全てを返して。忙しかった毎日を返して。大好きな友達まで取り上げないで。悲しくてくやしくて気が滅入って、あの時の私は毎日地震をうらみ、憎んで泣いていた。5000人以上もの尊い命を奪い、見慣れた町の風景をズタズタに引き裂き、私の大切なものをすべて取りあげた地震に腹が立って仕方がなかった。私はすべてに失望し、痛々しいほどボロボロだった。私は自分がダメになってしまったと思った。それはとてつもないショックを私に与えた。私は地震のせいで墮落し、どうしようもない人間になってしまった。それまでの私は勉強や部

活におわれ、忙しい毎日に苦しみながらも必死に努力していた。それがあの1月17日を境にすべてが崩れ去った。今までとは180度違う生活に私は汚されてしまったと思ったのだ。何もできず、何も考えられず、ただ時間だけが過ぎてゆく毎日。私はあせりと不安で一杯だった。「このままじゃダメだ。以前の自分に戻らなくてはならない。」と何回自分に言い聞かせてみても、何もかも失った私はどうしていいのか分からず、「自分はもうダメなんだ。」という思いを消すことはできなかった。

やがて、水やガスがでるようになった。道路もある程度直された。すべての空き地に仮設が建った。私は2年になり、新しいクラスで新しい友達に囲まれ、毎日をおくっている。新しい環境は少しずつ私の心を癒し、そして変化させた。地震は無差別にたくさんの人の命を奪った。つまり、その人のこれからの人生や可能性を一瞬で消し去ってしまったのだ。それは許しがたい事実である。だからこそ、私はこれからいろいろなものを見て聞いて触れて感じて、生きているからこそ得られる喜びや悲しみを大切にしたい。そう思うようになったのである。その結果、私は少しずつ以前の自分を取り戻し、そして今、新しい自分を創造しつつある。

地震を憎む気持ちは今でも変わらない。それは私だけでなく多くの人がそうだろう。しかし、私たちが今すべきことは地震を憎むことではない。今を一生懸命生きることなのだ。

1995年1月17日(火)

寺前 由加

この日を、忘れ去ることはできないだろう。

あまりの異常事態だったため、この日に前後する2、3日の記憶は、少し混乱しているが、この目に焼き付いた映像は、まるで編集されたビデオのように、頭の中で流れる。

真っ暗な部屋。頭のう上に降ってきたジャンプやコミックス、小説。やけに揺れるな……などとのんきに思いながら、それでも落ちてくる本から頭をかばって、牛のようにモソモソと布団の中にもぐりこんだのを覚えている。家族の声に、いまだ寝ぼけ眼のまま、本の山をかき分けて、ムックリとベッドのう上に身を起こす自分。戦時中に覚えたのか、軍隊バリでてきばきと点呼を取る祖父の声。驚きと心配のあまり、怒っ



ているような両親の叫び声。真剣な大人たちと違って、私と弟は呆れるくらいに気の抜けた、ギャグをかます感じの返事をしていた。とりあえず、家の中で一番丈夫そうな一階の廊下にかたまっていることになった。家と家族が無事だったためか、私はいささか不謹慎に、わくわくした気分で渡された重要書類を抱え、足の踏み場もないほどに散らかった中に突っ立っていた。

ここからしばらくの記憶は途切れ、うっすらと明けて青みがかった空に、黒々としたシルエットでたたずむ、マンションの変わり果てた姿に気づくところがある。道路と阪神の線路を隔てた目と鼻の先に、古いマンションと寺があるのだが、そのときにはもう、瓦礫の山と化していた。補修工事を終えたばかりで、真新しい瓦に違和感を感じていた寺のどてっ腹に、深々と突き刺さったマンションの「屋上」。無残にへしゃげたマンションの本体に対して、「屋上」は、ほとんど形を変えずに下に降りていた。

ふと、家族以外の人達のことが気に掛かった。親戚関係、休みのたびにウチに遊びにくる“騒ぎ仲間”、学校関係……この時点ではどうしようもなかったので、とりあえず気持ちを切り替えた。それからしばらくして“騒ぎ仲間”の無事も、確認できた。中の一人が、伝令役を買って出てくれたのだ。本人たちも、その家族も幸いけがはなかったのだが、二人ほど、住み慣れた家を出なければならなくなったそうだ。

あたりが完全に明るくなってから、私は、散らかった中から服を引っ張り出して着替えた。いつ余震がくるかもしれないというので、家の前にいすを並べて、そこに座って一日を過ごした。地震のちょうど前日に買った長編シリーズの小説を読んでいると、まるで自分のまわりだけ、時間が違うように感じた。

関西出身、東京在住の、とある漫画家が著者の一言の欄に書いている。“大変な状況の中で、自分の作品が、被災地の読者の心を和ませるのに、少しでも役に立っているなら、うれしい。”と。私は、このときほど小説の存在をありがたく思ったことはなかった。

この後の記憶はあやふやだ。確か、一週間ほど不便な生活をした後、父の会社の厚意で、社宅に入れてもらえることになり、そっちへ移った。その3DKの部屋には3週間ほどいたのか……学校の授業が何とか再開されて、面倒臭いとぶつぶつ言いながら電車通学をしたので、もう少し長かったかもしれない。そんな中でも、図太い私と弟は、暇つぶしの漫画を山ほど社

宅に持ち込んで、両親に呆れられた。それもひとえに、何とか地震に耐えてくれた家と、まわりの親しい人達が生きていてくれたお陰である。地震に、もう少しで母を殺される場所だったのだ。というのは、実は、あのとき、父のマッサージをしてくれという声で母は起きだし、いつも寝ている部屋とは違う部屋に行った。その数分後に地震がおきたのだ。もし、父がマッサージを頼まなければ、母は、四方から倒れてくる重いタンスの下敷きになって、万が一にも助からなかっただろう。

あれから、もう半年たって、家の細々としたたくさんの損傷もほとんど修復を終え、震災前と変わらない生活を送っている私は、すごい幸せ者だと思う。思い出深い家を、解体しなければならなかった人。かけがえのない家族や友人をなくした人。そういう人達のつらい思いが染み付いているようで、私は、壊れた民家を写真に収めるのに抵抗を感じる。

私は、この幸運に感謝して、みんな元に戻れるように、自分ができることを精一杯やっていきたいと思う。

## 私が感謝していること

岩橋 麻美

地震が起こった直後から、被災地は地獄と化していました。交通は乱れ、電気・ガス・水道はストップし、家屋は倒壊し、たくさんの人々が生き埋めになりました。一日目の夜、私は近くの幼稚園の避難所にいました。朝から何も食べていなかったし、疲れも出ていました。余震におびえ、ただ座っているだけの時間を何時間も過ごしていました。地震では助かったけど、このまま何日も食べ物がなかったら死んでしまう。そんな不安でいっぱいでした。夜遅く救援物資でパンや毛布がきました。本当にうれしかったです。幸いにも私の家にはすぐ電気が来たので、次の日には家へもどりました。倒れた物を起こし、少しずつかたづけをしているうちに、気持ちも落ち着きました。とにかく家があるということに対して、感謝したいという思いでいっぱいでした。その後、日本中のあちらこちらから、救援物資がたくさん届きました。道路もめっちゃくちゃになっていたのに、何時間もかけて遠くからたくさんの方が来て下さいました。まったく知らない人間のためなのに一生懸命になってくれた人達に心から感謝しています。普段は、あまりつき合いのない近所の人た



ちが、水や食糧をわけ合い、助け合っていく、そんな姿も多く見られました。そんな人間の暖かさというものが、地震のショックから、多くの人々を立ち直らせたに違いありません。私が一番感謝しているのは、そういう人間の暖かさです。もちろん、命があったということに対する感謝は大きかったです。でも、不安や絶望の底から救ってくれたのは、家族であり友人であり、まったく知らない人間達であったのです。そういう人達がいなかったら、今の私はない、と思うのです。

普段の生活では忘れていた人間の暖かさ、一人の人間のもつ力の大きさを強く感じました。この地震は私達の忘れていた大切なことを思い出させてくれました。思い出させる、というきっかけにしては、あまりにも被害が大きすぎたかもしれませんが。

人間は時がたつとしだいに忘れてゆく生き物です。悲しい生き物です。また、人間の暖かさへの感謝の気持ちを、人間どうしの助け合いを忘れてゆくのです。でも、この地震があったことは永遠に歴史として残っていきます。何十年も先、町が完全に復興し、今とまったく違う建物が建ったとしても、この地震があったことは決して消えないのです。だから人々の心の中にも、地震のときの気持ちが消えることはないのです。忘れてしまったのなら、また思い出せばいいのです。

こうして色々な思いがとりまく中、命があることに感謝をし、毎日を生きて、人間の暖かさにもふれあってゆける。そんな日々が私にはまだ残されている。そのことに対して最も大きな感謝をこめて。

私が今ここにいることと、家族と友人と私達に助けをくれた人間達が生きていることに、精一杯の感謝をこめて

“ありがとう。”

## 私が感謝していること

助野沙代子

一月十七日から「悲しい事」や「つらい事」が多かったように「感謝している事」「うれしかった事」もたくさんあります。

今、改めて考えてみて震災後の時期に一番うれしいと感じ、心が落ち着くことができたのは「友達からの電話」でした。電話の調子がおかしいままで、私の家からは通じないけれどよそからはかかる時もあるという状態が続いていました。公衆電話を使っても連絡がつかなかった時は、とても不安でした。そんな時、友

達から電話がかかってきて、すごく心配していたと聞きました。その声を聞くと本当にうれしくて、心がとても落ちついたのを覚えています。あんな気持ちになったのは初めてだと思います。友達というものは、本当に素晴らしいものだと思います。

停電していた家の中に突然「パッ」と電気がついたあの時も気分がとても「ホッ。」として、震災後、初めて緊張が少しとれた一瞬だったような気がします。ずっと緊張していて夜になると余震が多くなっていたのにろうそくや懐中電灯だけしかなく暗くて見えない事に対してどうしようとドキドキしていたのでとてもありがたかったです。それから二、三日後に直してもらったテレビを見てどういう事が起こったのかが少しずつ分かってきました。

震災の後、一番初めに見た給水車は、よその県からの車で十八日の夜に父と妹と私の三人で、生まれて初めて水をもらいに行きました。どこの地域もこの給水車にどれだけお世話になったことでしょうか。毎日毎日、仮設の水道ができるまで給水車はいろいろな県から来て下さっていました。と同時に励ましの言葉を沢山いただきました。道路や水道の復旧工事でもそうですが、北から南まで本当にたくさんの県のナンバーの車を見て驚きました。被災地での被災者の生活も大変なものですが、それを助けようとして下さる人々もすごい人数ですし、いきなりすごい量の仕事をこなさなければならなくなったのもたいへんな重労働だと思いました。作業を見ているといろいろな人々に助けられているのだと感謝の気持ちでいっぱいになりました。普段ほとんど災害の起こらない地域なので備えが少なかったという油断もありましたが、自分達の町だけでは全部の事に対応しきれないものだとも思いました。

全国からといえば、救援物資や励ましの手紙などもたくさん来ている事を知りました。新聞か学校で見たのですが「北海道南西沖地震」の被災地の小学校からの手紙がありました。「津波に家とお父さんがさらわれた」と書いてあり、その続きに「あなたの家族はだいじょうぶですか？」と書いてありました。心にズキンとくるものがありました。やはり他県の人でも被災者の人は、災害がどんなにすごいものかが理解できるし、その時の人間の気持ちなども分かって、体験したことがある分よけいに心配してくれているのだと思いました。

私達も他の地域が震災にあった時、どういう気持ち



でテレビをみていたでしょうか。恐ろしいとか悲しいと思ってもやはり頭の片隅では、どうしても無意識のうちに「どこか遠い町での出来事」という感じが起こってしまい、いつの間にか忘れてしまうのが人間だと思います。だから、自分が震災にあって感じた恐ろしさや悲しさ、または、周りの人々の優しさやその人々への感謝の気持ちはその時に初めて知ることができるものかもしれないと思いました。

普通の生活からは起こらない種類の心からの「感謝」の気持ちだと思うので決して忘れてはいけないと思いました。

## 私が感謝していること

高橋 奈千

1月17日早朝、阪神間すべての人の心に深い傷を残した大きな地震に今までにない恐怖を味わい体の震えが止まらなかったことを覚えている。

初日から私の家は電気がついたものの、水、ガスは完全にストップしてしまった。

父はこの様子にあわてて食料を得るために家を飛び出て行った。3時間ほどたつのに父はまだ帰ってこない。ようやく帰ってきたと思えばカップラーメン4つとおにぎり4つお茶2ℓだった。私はつつい「これだけ買うのに2時間も3時間も並んだの」と言ってしまった。

父は500m以上続く行列に並んだという。みんな考えることは同じだった。でも、その日の腹ごしらえは父のおかげでできたものだったのでとても感謝した。

私の家は社宅なので会社の人々がお金を出しあってくれて三田工場という所から毎日のように水と食料が届けられた。

ある晩、それをもらいに出ると運んできた人々が小さな愚痴をこぼすのを聞いた。「あゝまた帰りも5時間の道のりか」私は高速がやられていたのを知っていたので、あたりまえのように食料をもらいにいる自分を恥ずかしく思った。こんなにたいへんな道の中三田から芦屋まで5時間以上走り続けてくれた。この人たちにとっては10時間労働でここにくるまで一日を終えてしまう。こんなことをしてくれた人々にとっても感謝している。

これと同じことが地方の水道局の人々にも言える。私が見たものだけでも静岡県や熊本県をはじめ、本当に遠くから来てくださり、運ぶのまで手伝ってくれた

方もいた。

それから、さまざまなボランティアをして下さった方たち。自分も被災者であるにもかかわらず、夜道は危ないからとパトロールをして下さった方々。私の父も参加しましたが、家を失い学校に泊まっている人々が多かったようです。

みなさんが知らない所でもボランティアはされているのだと感じた所です。

それから、朝、昼、夜と食事を配布して下さった方には本当に感謝しています。呉川町から温泉が出たというのを聞きつけてその日のうちに行った時もボランティアの人々が受けつけをしていました。私はそれを見て、たいへんだなと思うだけでした。たくさんの所からそれを聞きつけて、人数もだいぶ多くなり、入るために並ぶのは3時間という時もあり、それだけで1日仕事のようになってしまったこともありました。そのお風呂ではあまりの利用客の多さにしんどくなってボランティアを募集していたので私は少し手伝うようになりました。朝から夜までやったこともあります。そうじからはじまり足ふきマットのとりかえ、受けつけ。冬だというのに自然と汗が流れてきました。ここでボランティアという大変さを味わいました。

みなさんととても親切な方々ばかりで、苦しさなどは顔には出しませんがみんなきっとしんどいはずなのです。だいたい接客という仕事は気を使いますし、精神面でもずいぶんと疲れるものです。私はここで経験できたそのような思いに喜びを感じていました。

ボランティア活動とは喜びを持ってすべきです。あくまでも志であり親切心であるということを忘れないようにしようと思いました。

またボランティアの方々が一番最後にお風呂に入り一日の疲れをいやすということもこの時はじめて知り、びっくりし感心しました。

中にはこういうふうにたいへんであるにもかかわらず、ボランティアの人々に文句を言う人がいました。

「遅すぎる」「ボランティアが悪いからみなぎてきばき行動できない」などというたぐいのものでした。私はその生の声を聞いて、「なんて心の狭い人々なんだ。まるで自分のことしか考えてない」と思いとても悲しくて残念に思いました。

私はこのようなボランティアという仕事を通して人間の内面というのを学ぶことができ、とてもうれしく思っているのと同時にとても感謝しています。本当に



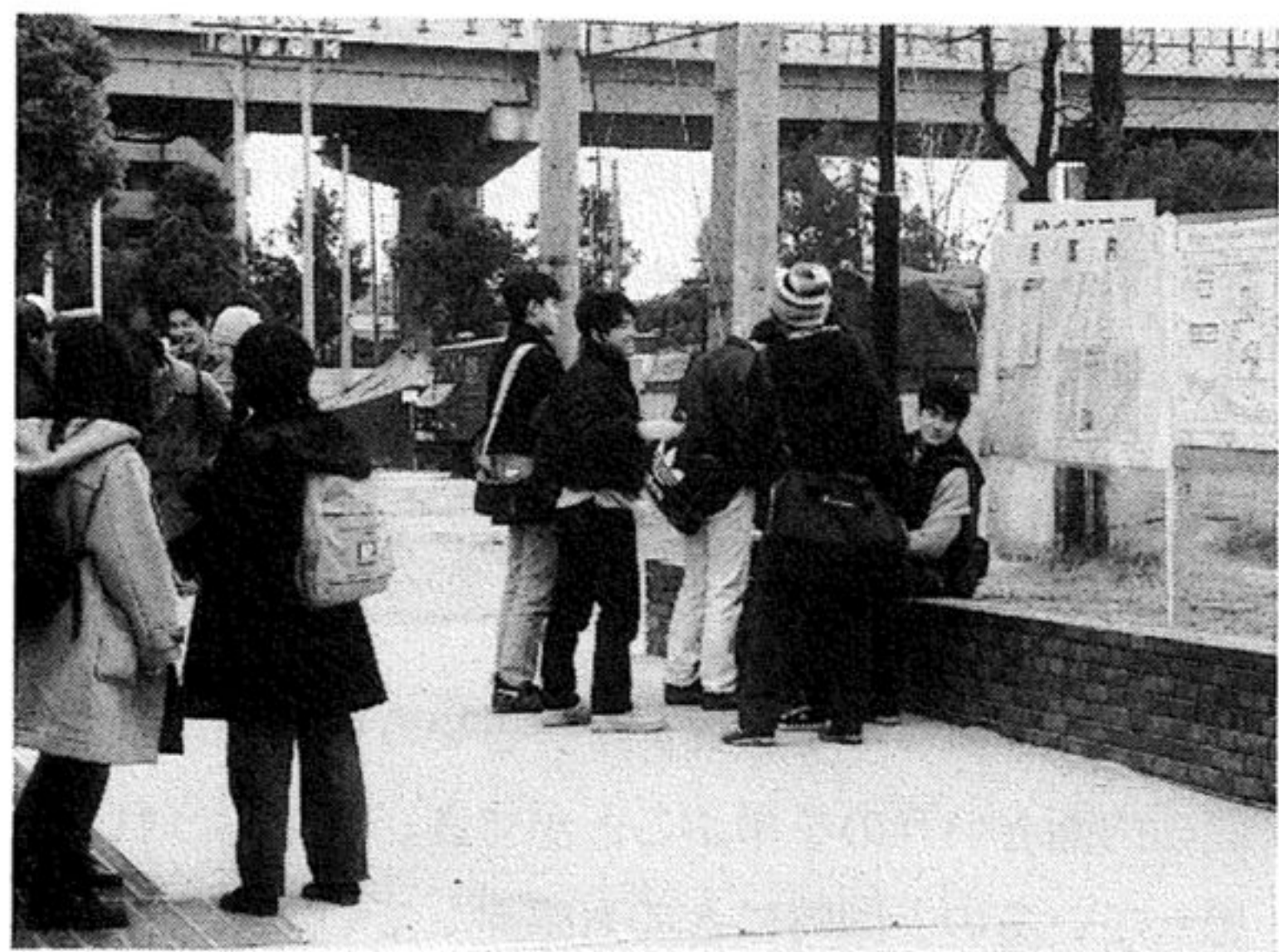
ありがとうございました。

## ボランティア活動を終えて

富井佐智子

「ボランティア？とんでもない。」初めてこの仕事をしろと言われて発した最初の言葉だ。やっと学校に登校した1月23日。あの頃の私は、流行っていた風邪の熱で最悪の状態だった。連日放送される亡くなった方の名前に友の名があった事や家の事で一杯で他の方々のお世話など出来る筈がないと思ったのだ。私がそれでもやってみようと思ったのは、少しでも体を動かして気を紛らそうとしたからかも知れない。私が初めて仕事をしに行ったのは、3日後の26日の事だった。慣れないのと仕事内容が理解しきれていないのとあまり役に立てない。地震当日から仕事をしている人はすでにかかなりのストレスと疲れがたまっている様なのに、それでもやさしく教えてくれるのには本当に感動した。何日かして仕事に慣れてくると、ボランティアの人々だけでなく避難している方々のやさしさにやっと気付く様になった。「ありがとう。」や「ご苦労様。」また小さな子供達の「また明日ー」の言葉に励まされて私はだんだん元の自分を取り戻し、最後までこの仕事を続けられたのだと思う。いろいろな人に迷惑もかけたけど、この活動を通じて人のやさしさや暖かさ、たくさんの方がいてこそ出来る、分かるすばらしさを知った事にとっても感謝している。3月21日ーほんの2ヶ月程のボランティア活動はひとまず終了した。

「ボランティア？機会があったら絶対にやってみるべきだと思うよ。今まで自分が気付いていなかったり、忘れていた事をきっと手に入れる事ができると思うから。」





## Ⅱ 職員

### 「みんなのちから」にであえて

下野 信明

(前本校教頭・現武庫高校校長)

学校は、緊急事態などという状況をはるかに超えていた。体育館は避難住民で満杯となり、なおも、焚き火をしながら一夜を外で過ごした人々が学校へと避難してくる。校舎は管理棟を除いて2棟が全壊していた。かろうじて建物が無事であった管理棟内も設備は破損し、備品は散乱していて足の踏み場もない地獄絵そのものであった。まさに混乱の渦が全てを支配していた。

そうした混乱の中で、復旧・復興にむかって歩むには「みんなのちから」が必要であった。そのため、情報の収集・整理・発信を通して共通認識・理解・実践への集結を図ることに努めた。

#### 1. 情報収集・整理・発信の場づくり

避難住民への対応、生徒や教職員の安否確認、施設設備の損壊状況の確認、県教育委員会への報告、市対策本部との連携、復旧対策に向けての方策等々なにもかもが未経験の課題ばかりであった。これらの一つひとつの課題への対応・対策のために本部づくりが急務である。まず、全ての情報収集・発信の場として事務室を充てることとし、その作業が可能な範囲をとりあえず整理、生徒の安否確認等で必要な職員室についても必要最低限の範囲で整理をした。また、緊急対策本部としての校長室は完全復旧とした。

#### 2. 情報の収集

混乱が混乱をよぶ。混乱時、最も必要な作業の一つに情報収集がある。流言、飛語、憶測等、誰もが右往左往するものである。次の満月の夜には、再び大きな地震があるとの噂がどこからともなく囁かれ、誰もが、そうかもしれないと不安に陥った。生徒の所在や教職員の所在の確認にしても同じである。所在の確認ができなければ、ひょっとしてと憶測したり、そして、その憶測が憶測を呼び、現実味をおびて流言することもある。状況を正確に把握することが何よりも事態への対応に欠かせない第一の作業であった。

当初、主として、緊急を要する次のような情報を精力的に収集した。

① 避難住民の氏名、年齢、住所(1月18日に作成、

主として卒業生ボランティア)

② 生徒の被災状況(生徒・家族の安否、家屋の被災状況、住所・避難先等)

③ 教職員の被災状況(教職員・家族の安否、家屋の被災状況、住所・避難先等)

④ 学校施設・設備の被災状況(被災状況の写真撮影もあわせて行う)

⑤ 芦屋市災害対策本部と避難所としての本校の連携方法

⑥ 芦屋市の救援体制(緊急物資、水道、ガス等のライフラインの状況)

⑦ 地域の被災状況(地域住民・学校等)

これら情報のうち、生徒に関わるものは、各学年主任を中心に、その他の情報は事務室を中心に、可能な限り窓口を一本化して情報収集作業を推進した。お蔭で情報の混乱・分散を防ぐことができたと思う。

#### 3. 情報の共有

情報を知ることには安心を生み、また、次への創造のエネルギーを生み出すものである。組織が大きくなればなるほど、共通した情報を同時に共有することが必要であるとの視点に立って、収集した情報を整理・加工し、活字として、毎朝の職員連絡会の時間に配布した。教職員が同一場所で、日々の日程を始め、あらゆる情報・課題を共有することで連帯感も芽生えた。交通事情や自身の家屋復旧等個人的事情で連絡会に参加できなかった人にも、活字連絡は共通理解を推進する意味で役立ったと思う。

また、状況分析の困難なもの、分析から次の復旧・復興への展望について判断に困難性のある問題等は校務運営委員の先生方に検討を依頼して、その結論を添え知らせることとした。震災関連で教職員の福利厚生に関する通知等については事務室が直接、あるいは、難解なもので手続き等の必要な情報については、情報を整理し、解説文を添えて配布したので多くの教職員には好評であった。

県教育委員会からの情報として、他校の被害状況や復旧への進捗状況、芦屋市の行政としての対応状況等についても活字印刷をして配布した。この掲載は、ともすれば、芦屋高校の枠にとらわれがちな状況認識から、阪神・淡路大震災としての大きな視点での認識へとひろがり深めたのではないかと思う。



#### 4. みんなのちから

情報の共有量が増加するに連れ、復旧から復興への施策の提案、創造へのエネルギーが膨らみ、日増しに大きな組織の力となっていった。避難している地域住民への卒業生によるボランティア活動、生徒自治会のボランティア活動、教職員のボランティア活動等は混乱もなく順調に機能した。また、学校本来の使命である教育活動、取り分け進学・就職を控えた3年生の進路指導も、3年生の学年主任を中心に担任の先生方が協力して精力的に取り組んだこともあり関係生徒や保護者に大きな不安を抱かせることなく指導できた。

一方、2年生や1年生の学力水準維持のために、使用可能な10教室をあて、午前・午後の2部授業として2月2日より実施できたのも全職員による「みんなのちから」の結集があればこそだと思っている。

さらに、芦屋高等学校に関わる震災復旧から復興へのすべての歩みは、「みんなのちから」の結集で可能になったと確信している。

ともあれ、私は、この未曾有の大震災を通じ、芦屋高等学校再構築に向かう「みんなのちから」の一員として参加できたことをとても誇りに思っている。そして、多くの学んだ教訓を糧とし今後の教育活動に生かしたいと思う。

### 震災そして復旧・復興へ

箱木 八郎

(本校事務長)

このたびの阪神・淡路大震災は、私たちにとって大きな教訓を残すことになった。それは「京阪神には大地震は起こらない」という「安全神話」が罷通っており、わたしもそれを信じる者の1人であった。今回の震災はそれを覆すものであった。しかも、400～500年周期でくり返すとさえ言われている。またそんな安全な土地柄であるということで、市民や行政は地震に対する備えが不十分で、防災マニュアル作りが叫ばれているのである。

ところで、本校校舎の被害は南館が大破、中館は中破、定時制(武庫高校)の図書館は地盤の緩みにより建物が傾くなどしたため、立入禁止の措置をとった。本館やその他の建物は、各所にヘアークラックやエキスパンション仕上げの剥落や水道管破裂による浸水があり、水道・ガスが停止した。また、備品などもほとんどが散乱などにより破損した。このような中、1月

19日には、県教委学事課と学事課から委託された設計事務所から建物の被災度調査のため来校、南館は改築、中館と定時制図書館は補修するという県教委の方針が打ち出された。

散乱した各室のうち当面仕事に必要な事務室や職員室等の整理をした後は、やはり学校再開への努力である。本校では普通教室30教室のうち中・南館の20教室と特別教室全部が使用禁止となり、本館の普通教室10室だけが無事だった。そのため、本館を使っていた3年生の授業は終了とし、当面はそこを1・2年生が午前・午後に別れての2部授業をすることにし、その間に仮設校舎を設置することになった。幸い、運動場は、自衛隊の給水・炊き出し・救護・入浴・車両等の基地や、避難者の駐車場となったものの、テニスコートやバレーコートは仮設校舎の設置場所として使えたので、ここに20教室設置することになった。ただ、仮設校舎としては現在の学級数分(18教室)しか設置できず、現実を選択授業の際には教室が不足することになるために、選択授業用に2教室増設を県教委に特別に認めていただいた。

しかし、仮設校舎はプレハブ建築であり、各地で仮設の校舎・住宅・事務所に需要が殺到したため2階建のものはすでになく、平屋建てのものになり、テニスコート・バレーコートのほかに運動場にも4教室建てることになった。2月8日に事務打合せ、同15日入札を行った。軽量鉄骨造平屋建5棟で、建て上げ・撤去期間を含め、平成9年3月31日までのリース契約となった。

このようにして決まった仮設校舎設置も、実際の着工にあたっては、随所に物が置いてあり、また避難者の自転車や自家用車、自衛隊の車両があったため、避難所の班長会議などを通じて移動をお願いするなどの調整が必要であったが、2月17日着工、3月31日完成となった。そして、3月30・31両日にわたって中・南館から机・椅子等の搬入が行われ、4月6日に始業式と入学式を予定を早めて行い、授業時数の確保を目指した。

一方、特別教室は平屋建3棟(11教室及び各準備室、作法室)が運動場に設置される予定で、学校としても7月中に完成、8月中に物品搬入、9月から使用開始となるよう県へ要望していたが、事務手続や設計の都合上、9月末の完成予定となった。ただ、特別教室の場合は2階建2棟となり、運動場も若干広く使えるよ



うになった。6月7日入札、普通教室と同じく、平成9年3月31日までのリース契約となり、実験実習台等の設備・備品は規格等の関係で、多くが新しく設置された。

このようにして仮設校舎は完成して授業は軌道に乗せられたが、本格復旧はこれからである。校舎・備品等の被害に対する文部省・大蔵省の査定を経て復旧事業が行われる。県教委は当初、南館改築・中館補修の方針であったが、中館を補修するには柱に鉄筋を巻いて補強する必要があり、その場合、採光が悪くなり教室として適しないとして、中館も改築する方針を打ち出し、文部省と折衝を続けた。度重なる折衝の結果、9月21日の査定では、中・南館ともに改築を認められた。

しかし、中館の改築は認められたが、ここ数年来の生徒減少期にあって改築査定面積は従来の中・南館の面積よりも減少することになり、教育課程上必要な特別教室が、標準規格の面積で全部配置できず、しかも芦屋市の条例による建物の高さ制限のため、3階建が限度となった。また、運動場は市有地のため狭い校舎敷地内に建てる必要があり、県の標準設計による校舎配置はできず、学校側に検討を大幅にまかされることになり、10月初旬から11月下旬まで連日のように精力的に校舎建設委員会を開いて、時には学事課の担当者にも出席してもらって検討を重ねた。その間何度となく、配置案を県とやり取りをし、また武庫高校の要望も検討しながら進め、約2カ月かかってようやく設計事務所に最終案が提出された。(学事課には細部にわたって学校の要望を受け入れていただき感謝しています。)

この後、12月中に建築設計、1月に設備設計が終わり、入札・仮契約・県議会の承認を経て本契約の後着工される予定である。

## 私の震災体験・教務課を中心として

古川 勲

(前本校職員・現県立神戸工業高校職員)

震災から早1年が過ぎようとしている。学校機能の復旧・復興、仮設校舎での授業、練習場所の制限された部活動等々教職員、生徒の皆様のご苦労は大変なものであったとお察しいたします。しかし、中・南館の建て替え計画が軌道に乗ったこと、サッカー・ラグビー・ソフトテニス等の部活動の活躍など復興に向け

て不死鳥のごとく立ち上がりつつある芦屋高校の姿がうかがえます。今後もさらに苦難の道は続くと思われませんが校長先生を中心として教職員生徒が一体となって芦屋高校復興に立ち向かうことを念願しております。

芦屋高校震災の記録発刊にあたって教務課としての体験を書くようにとのことであるが、かつてない経験と無我夢中で過ごした3ヶ月で、記憶も定かでなく、事実関係の多少の誤り、時間的な錯綜があるかもしれませんが、とにかく教務課としての震災体験を個人的な感想をふくめてかくことにする。

### 震災直後～生徒安否確認、登校日設定～

1月17日は交通機関は完全途絶、バス停とか駅にいても全く身動きできない状態であった。とりあえずは学校に電話連絡をしようとしてもなかなか通じず、10回目ぐらいにやっと避難住民の支援作業中の豊留さんと連絡でき、学校の状況のあらましを聴く。しかしいまにして思えばことの重大さを実感していなかったように思える。停電は2時間ほどで済んだため終日震災情報を食い入るようにみていた。夕方になってガソリンスタンドが一店だけ開きバイクに給油。明日の出勤の足が確保できた。

18日に初めて出勤(神戸市北区の自宅から芦屋までバイクできたがその間の灘区、東灘区、芦屋の状況は悲惨きわまりない状態でどのように書いてもその真実を伝えることにはならないと思える。また本稿は芦屋高校教務課としての立場で書くことでもあり省略させていただく)

9時過ぎ学校着。体育館・グラウンドは被災者であふれ、校舎も中・南館は壊滅状態、本館も廊下は水浸し、職員室・事務室は足の踏み場もない状態で途方に暮れる思いをした。幸いに体育館は前日より出勤していた先生方の世話で本校生及びOBを中心としたボランティアグループが組織され被災者の方々の世話をしていた。その時間帯にどの先生が登校していたかは定かでないがごく自然に体育館で被災者の世話をするグループと本館の校長室・事務室・職員室などを整備するグループに分かれた。まず事務室の整備をし、続いて職員室の整備。整備といってもロッカー、書棚は倒れ、机・椅子は四方八方バラバラ、机上の本立は倒れ書籍、書類が床に散乱し、全く足の踏み場もなく、手の施しようのない状態であった。とりあえず職員室出入り口近辺のロッカーをもとの状態になおし、



職員室中央付近の通路を確保するとともにソファー近辺に座る場所を確保する程度であった。

その作業の間に3年生、浪人生が登校し大学受験の調査書を受け取りに来たが互いの無事を喜び合うだけで調査書の発行のすべなく「大学に連絡を取って指示に従うこと」を指示。(19日以降は3年生の担任の先生が多数登校し調査書発行等の事務作業は滞りなく行われた。また受験指導も不十分ながらできうる最大限の指導がなされたと思う)

19日～21日この期間は学校が組織として動き出した時期といえる。

体育館に避難している本校生、学校を心配して登校してくる生徒も多数あり、無事を喜び合うも、大多数の生徒の安否不明、所在不明の状況は変わりなし。職員室前、事務室前に生徒名簿を貼り安否確認。「登校者本人および登校者が直接であった本校生のみチェックを入れる」ことでかなりの生徒の安全が確認できた。しかし一方で各学年女子生徒1名ずつ計3名の悲報も入ってきた。

校長、教頭を中心にとりあえず当面の取り組み「生徒の安否確認の徹底」「体育館に避難している被災者への支援・協力」「学校機能回復」について協議。安否確認と今後の日程を連絡することを目的として23日を登校日とする。連絡方法は芦屋市内、東灘区内の小中学校を中心とした避難所に掲示、ラジオ・テレビによる放送連絡、それまでに登校してきた生徒を通して口コミ連絡、担任による電話連絡等考えられるあらゆる手段を用いたがどれだけ連絡できたか定かでない。23日の登校日の出席率は約60%で全員の安否確認にはいたらなかった。その後学年の先生を中心に家庭訪問、電話連絡などを繰り返し最終的に全員の安否が確認できたのは2回目の登校日28日の前日か前々日であったと思う。

この時期は出勤できる教職員は限られていたが、生徒の安否確認で校区内を巡回する先生、体育館で被災者の方々のお世話をする先生、事務室で電話の対応をする先生、職員室で登校してきた生徒に対応する先生、散乱した机・椅子などを片づける先生等々それぞれに誰に指示されともなく各々の持ち場を持ってできることを懸命に取り組んでいた。

## 転出、聴講生

あの震災で被災者は北は北海道、南は九州まで日

本全国に避難することになったが本校生および家族も例外でなく転出希望、一時的転出希望が続出した。単身赴任の父親のところへ家族全員で転居した例、両親の親元・親類を頼って避難した例、会社の買い取ったマンション等へ社令により転居した例、さらには家族全員での避難・転居、両親と離れて子どもだけの避難、半永久的な転居、いつ目途がつくかわからないがとにかく先の見通しがつくまでの一時的な避難等いろいろな場合があり、転出についても不明確な状況のなかで各地の高等学校に依頼することになった。

各高等学校に依頼する形態を①転学(卒業までの期間)②転学-短期-(3学期末まで)③聴講生扱い(在籍は芦屋高校のままで3学期末まで)の3つのいずれかで依頼することとし、②・③については該当校の事務手続き上の都合等もありその学校の指示に従った。

混乱のなかで生徒、家族との連絡も十分とれないようななかで転学、聴講の依頼をすることになったが各地の高等学校においては3学期当初という例のない時期にかかわらず、どの高等学校(都道府県教育委員会も含めて)も快く引き受けて下さった。

さらに転出先でも温かい励ましや支援をいただいた。横浜市のS高校では担任の先生およびクラスの生徒から激励の手紙、義援金をいただいた。大阪のK高校は転出に絡む書類を作成し決済印を押せばよい状態にして、支援物資ともども持参していただいた。石川県のK高校では3学期終了時にブラスバンド部激励演奏会を開いてくれた。和歌山のN高校、奈良のK高校では芦屋高校では中止になった修学旅行に参加させていただいた。その他いろいろな形で励ましをいただいた。改めて感謝の意を表したい。

## 授業再開と成績処理

体育館は避難所となり、南館中館は破壊され、学校として使用できるのは本館だけとなった。しかも教室は10教室だけでしかもトイレの使用は不能。また避難所から通学しなければならない生徒、遠隔地に避難していて過酷な通学を強いられる生徒、他府県等に避難していて通学できない生徒もいること、さらに教職員の通勤の問題、授業ができる人数確保の問題もあり、授業再開に向けて多くの課題があった。このような状況のなかで授業再開の目途について検討した。「無理をして授業をしなければならないのか。いまは生徒、



職員ともにやらなければならないことがたくさんある」「こんな状況だからこそ早く学校を再開し、心の拠り所をつくってやらねばならない」等の意見が出るなかで生徒の安否・所在確認、被災状況、その他交通機関の復旧状況を見て判断することにし、とりあえず2月より授業を再開する準備を始めた。

授業については ①1年は午前2時間、2年は午後2時間の学年別2部授業とする。②通勤不能の職員もいるためクラスの授業担当者については教科で責任を持つ。③通学できない生徒が今後の学習に不利にならないよう配慮する(教材プリント郵送、添削等)を申し合わせた。結果的には2月1日生徒登校とし、時間割連絡。2月2日より授業再開となった。授業再開後は思いの外出席者は多かったが片道4～5時間かけて登校してくる生徒もいた。あらためて生徒の努力と強さに感心するとともに学校は生徒の拠り所とならねばならないことを痛感した。

このような状況のなかで授業をスタートすることになったが日とともに出席率も回復してきた。さらに徐々にではあるが交通機関も回復の方向にあり、通学通勤可能範囲も広がってきた。2月27日より午前3時間午後3時間と枠を拡大した。

#### ～卒業判定、進級判定について～

3年生の卒業考査は中止となり、卒業にあたっての単位履修、修得認定の取り扱いについてはその当時の状況から判断して

- ①履修認定 欠席時数については1月14日までの記録とし、以後は全員出席とみなす。
- ②修得認定 1、2学期の学習を総合的に評価し、それを学年成績とみなす。

こととした。なお出席時数不足で補充授業対象者となる見込みの者については判定会議前であっても生徒の被災状況、通学所要時間等を考慮して過度な負担にならないように配慮して事前に実施してもよいこととした。通常と異なる形での卒業判定会議となったが大きな異論もなく、卒業予定者全員の卒業が認定された。なお、県教育委員会の指導通達もあり、震災で亡くなられた下川麻紀さんの卒業も認定された。

1、2年生の進級判定については原則として3年生の卒業判定に準ずることとしたが、変則的ながらも授業を再開し、可能な範囲で学期末考査も実施した科目もあり、3学期分については参考資料とし、被災生徒に不利にならない扱いをすることを申し合わせた。

#### 入学者選抜

震災直後より入学者選抜の特別事情申し込みの受け付けが始まった。19日にはさっそく1名の申込者が来校。このときは先の見通しが全く立たない状況であり学校の現状を説明し後日の来校を依頼した。また住居が全壊し学区外に一時的に避難転居する受験予定者が「芦屋高校を受験できるか」との問い合わせに両親ともども来校したがその時期には県教育委員会からの連絡はまだなかったが「転居しても、近い将来帰ってくるなら受験できる。ただし住民票はしばらくもとの状態にしておいてほしい」と返答したが、そのときの受験生およびご両親の安堵の表情と喜びの顔はいまも忘れられない。我々高校の職員も頑張らねばと激励された思いがした。

また外国の日本人学校を卒業した外国籍受験希望者が来日していたが親権者となる祖母の家が全壊し外国の両親の元に帰った例、以前から市内に転居予定であったが転居予定先が全壊しやむなくもとの住所を校区とする高校を受験した例などを含めて、夏以来の問い合わせを含めると特別事情の申し込み辞退は相当数にのぼり、ここでも震災の大きさがうかがいしれる。

#### おわりに

あの混乱のなか、被災者支援業務、学校内復旧作業、入学者選抜事務、芦高生転出事務、授業再開および枠の拡大に伴う時間割編成等々が絡み合って十分なことはできかねた面が多々ありますが、教務課の先生をはじめ諸先生方の協力と支援で教務課としての震災に絡む当面の仕事は何とかのりきれたように思います。しかし学校週5日制(月2回)実施に伴う時間割編成、教育課程見直しなど大きな課題をやり残したまま転勤となり、新教務の先生方に多大のご迷惑をかけています。

また震災の影響は外部ではうかがいしれないような大きな問題が多々あると思われませんが、教職員生徒が一体となって取り組み一日も早い「芦校復興」が実現することを念願しております。



平成7年1月17日未明

川根 耕一

(本校職員)

《1月17日》

家が倒れると思った程の揺れの割りには、幸いにも本棚の一部が壊れただけで、食器も何一つ割れなかった。また、10分後にはテレビも映った。ニュースで震源地と規模の大きさを知ったが、近所の様子からは想像もつかなかった。ただ、避難者のために体育館を開ける必要があると思った。

午前7時30分、尼崎市の自宅を自動車を出る。3時間たった頃ようやく、北今津の近くに着いた。AM神戸のレポーターが、長田区の町中でインタビューしていた。「小父さん、大丈夫ですか。」「ワシの息子が、あの燃えている家の中におるんや。生き埋めになっているのを、助けようとしてたら、息子が言うんや『親父、二人とも死ぬこと無い。俺はええから逃げてくれ。』言うてな。」ラジオを聞いていて、その状況が目にかんだ。渋滞で3時間経っても学校に着かず、ラジオで火事の様子を聞き、救急車・消防車のサイレンを聞いて、やっと事態の大変さがのみこめた。ようやく自動車を諦める決心が付き、自宅へ引き返し、自転車に乗り換え学校へ向かう。

国道2号線を行くと、川を越える毎に被害が大きくなり、夙川を渡ると、完全に潰れた家があちらこちらにあった。人がいない。潰れた家の中にいるのだろうか。涙が出てきた。芦屋市に入ると、2号線は潰れた家と、自動車と、バイクで進めなくなり、裏道に入った。古い家はほとんど潰れている。パジャマに毛布を羽織っているだけの、女生徒に出合った。寒そうだったが、幸い全壊は免れ、全員無事だったらしい。本当によかった。

午前11時30分頃、県立芦屋高校到着。体育館前の家が潰れて、電柱を倒し、その電柱が柔道場に倒れ掛かっていた。危なくて通れない。学校には、6人程の教諭がみえており、体育館は既に開放されていた。相当に酷いだろうと思ってはいたが、体育教官室に入った時に、足の踏み場も無い状態に啞然とした。

体育館には藤原養護教諭がおられた。藤原教諭は保健室から薬品の全てを、体育館に運んでおられて、もう何人もの手当をすまされていた。藤原教諭から学校の様子を教えてもらった。中館、南館は中に入れる状態では無く、校長からの指示で、立入り禁止の処置が

してあること。本館も電燈は点くが、水が吹出していて、水びたしだとのこと。体育館は、体育科の古本教諭が7時30分頃に開けて下さったとのこと。それでも開ける時に、避難者から、「遅い。もっと早くこい！」と怒鳴られたことなどを聞いた。

2階フロアの、250人程の避難者を、初めて見た時、その生気のなさに驚いた。防寒用に要らなくなった柔道の畳を運んでもらうことにした。健康そうな人でも、自分達の必要分を運んだ後は、動いてくれなかった。病弱なお年寄りの分は、しかたがないので後で、一人で運んだ。自分勝手なものだ。こんな時こそ、心にゆとりが欲しい。避難者の中に本校の生徒や卒業生の顔が見えた。マイクでボランティアを呼びかけたら7人程集った。女子には藤原先生の手伝いで負傷者の手当。男子はとりあえず待機して、力仕事を待つ。そして、朝夕のカーテンの開け締めも頼む。芦屋高校のいろんな事は、この避難している誰よりも、君たちがよく知っている筈だから、一番に動いて欲しいと協力を頼んだ

体育館のトイレの水が使えるようにと、吉国さんと地下水のポンプを調べに行く途中で本校の生徒に何人も出会った。学校が潰れていないか心配して見に来たようだ。結局ポンプは動くが、配管がずれているらしく、水がタンクに貯まらなかった。プールの水を汲みだして使おうと、消防の許可をもらいに行ったが、消火・救出作業が忙しそうで、しかも消防指令が居なくて、その上、宝塚市の消防なので、責任ある返事ができないようだった。水の問題は明日以降の課題となった。

午後1時頃に、生徒課長の金延教諭がこられて、校長、教頭、県教委に電話をかけたが通じず、芦屋市役所だけが通じた。市の方では、芦屋高校に避難者がいることを、把握していなかった。3時過ぎに芦屋市の担当者が来たので、今後、避難者に何処を開放するかを打ち合せた。

午後4時ごろ、まだ何か仕残した事が有るような気がするが、家に居る父のことが気になり、後は市の担当者にまかせて、帰ることにした。朝とは違い川を渡る度に被害がましになっていく。武庫川を越えると、まるで何もなかったようだった。夜になり名簿を作るのを忘れて居たことに気がついた。

《1月18日》

午前8時学校に着く。人が溢れている。昨日の帰る



時点では、体育館の真ん中に250人程の人が、ひっそりというだけだったのに。打ち合せでは、2Fフロアー、1F剣道場・卓球場、柔道場の順に開放する予定が、食堂まで開けざるを得なかったようだ。

2Fの体育教官室にむかう。外廊下に水の入ったポリタンクや鍋が並んでいた。早くも救援物資が着いたようだ。でも、鍋などはどこで調達したんだろうか。体育教官室に入ると市の担当者と卒業生が居た。救援物資は真夜中に着いたとのこと。昨日の夕刻から被災した人々が、救出作業や、家財の持出しを諦め、泊る場所を求めて続々と避難してきたようだ。担当者に名簿のことを話したが、「まあ、いいでしょう。」と、軽く一蹴された。

そのうち食料が届いた。マイクで呼びかけ並んで貰うことにした。配る方の手が足りないので、時間が掛かる。避難者から苦情がでた。弱っているお年寄りが、並べないので貰えなかったようだ。また、避難場所が分散しているので、聞こえなかった所もあったみたいだ。この時グラウンドにも自動車でも避難しているのを知った。約30台。この日は、物資の配布で苦情が殺到した。

事務室には、すでに何人かの先生が詰めて居られて、電話の対応をされていた。安否の確認や所在の確認ばかりではあるが、内容をコピーして、8ヶ所程に貼り付けて行く、その作業はとても大変そうだった。いきなり、喧嘩ごしの文句から始まる電話も有るのに、よく我慢をして対応をしておられるのには、頭が下がる。とても真似ができない。

昨日に続いて地下水の復旧をはかる。今日は、業者の人が入り3人で作業する。配管のずれた場所が分り、中館の壁などをはつり応急処置をするが、結局、屋上のタンクそのものが漏れていることが分る。試運転のせいで、中館は大量に水が漏れた。タンクの穴埋めに、吉国さんと屋上にあがる。上から眺める景色は、何とも言いようの無いものだった。タンクの修理は巧くいかず、結論は満タンのセンサーを穴の位置まで下げられないとなった。特殊な物なので芦屋市から避難所の為にとということで手配して貰った。

《1月19日》

日ごとに朝の人出が多くなる。バイク・自転車がとても多い。信号待ちの間に自転車の若者一団と話をすると、東京からボランティアに来ているらしい。有難

いことだ。

昨日と同じ様に午前8時頃、学校に着く。体育館に行くと、なんと名簿ができています。夜の10時過ぎからボランティア達の発案で作りはじめたらしい。すごい行動力だ。中には書きたくないという人もいたらしいが、なんとか、ほぼ全員書いてくれたらしい。住所を見ると、東灘区の方や、中国籍の方もいた。かなり広い範囲からこの芦屋高校に避難してきているようだ。

何時とはなしに、本部の様になってしまった体育教官室に詰めていると、人を訪ねて次から次へと被災地以外の方がやってくる。出来上がったばかりの名簿がとても役に立つ。両手にいっぱい物を持ち、「〇〇〇〇さんが、ここに居てる筈ですが、何処に居てるんでしょうか。」あるいは、急いでやって来た様子で「〇〇〇〇さんは、ここに居てますか。」「残念ながら、ここには居られません。」「芦屋の〇〇〇〇町に住んで居たんですが、何処へ避難したんでしょうか。」そんなやり取りをしている間にも、食べ物が届き、配布をする。「ヒューズがとんだ。」……何でや、何をしたんや、もう。……

行ってみると、すごい蛸足配線で、湯沸かしポットは有るは、電気毛布は有るは、という状態だった。……何時の間に、こんなもん運んだんやろ。……日がたつにつれて、段々と慌ただしくなっている。また、避難者も少しずつ落ち着きを取り戻し、ずいぶん活動力が出てきたようだ。救援物資もよく届く様になった。その分、忙しいのだろう。

本校の先生方も大分登校されてきた。ほとんどの方は1、2日泊り込みそして1日帰る。という繰り返しみたいだった。事務室は、ひっきりなしにかかってくる電話の対応で大変だった。真夜中になってもどんどんとかかってくるようだ。

本校の生徒や、卒業生が友達を連れて、「何かお手伝いできる事は有りませんか。」と、やって来てくれる。中には友達を探しに来て、そのままボランティアを続けた卒業生もいた。

3人の看護婦さんが「私たちにできる事が有りますか。」と、やってきてくれた。「お医者さんが居てくれたら助かります。」「うちの病院の先生、暇そうにしてるやん。連れてこよ。」「本当ですか。助かります。」「昼から連れてきます。とりあえず、手持ちの薬を置いていきます。」「それから藤原先生と教官室の掃除をして、医者を待たせたがとうとう来なかった。



「川根さん、無理ないわ。お医者さんかて、自分の勤務が有るから、そう簡単には来られへんわ。」と、藤原先生。……そらそうやな……

「川根先生、食料がいっぱい余ってるんです。どうしましょ。」「明日まで置いとこか。」「腐ってもあかんから、何処か配りにいきましょ。」「そやな、1日目から腐らして、ほってたもんな。それに、芦屋より西は物が届きにくいようやしな。よし、いってくるか。山岳部のザックを借りよ。」6人がバイク3台、自転車3台で出発した。「くれぐれも、怪我をせんようにな。」

日が落ちて、ようやく全員が帰ってきた。話を聞くと、目につく大きな避難所は、物資がちゃんと届いているみたいで、一番喜んでもらったのは、渋滞中の自動車の人たちだったみたいだ。労力の割りには、かいたがなかったからか、次の日からは、余っても配りにいかなかった。また、救援物資も、量、品目ともに増え、その整理、管理が大変になってきたこともあり、余った食料を配りにいったのはこの日だけだった。

夕刻、灘本先生と帰る。灘本先生のお宅は、2階が潰れ、今は尼崎市のお姉さんの家にかくれてる。43号線を自転車で帰る。練馬区の消防車がとまっていたり、警視庁のパトカーが走っていたり、熊本県の警官が立っていたりと、全国から応援がきている。

トラックの上に阪神高速道路が落ちている現場を通った。人だかりがしている。積んであったジュース類を、持って帰ろうとして、人が集ってきたみたいだ。それと、野次馬。テレビで被害を見た人が、実際はどんなものなのかと、見に来たようだ。いやなものを見てしまった。

この大震災の中で、わざわざ東京からボランティアに来たり、友達を探しに来てそのままボランティアを始めた若い人達がいる一方で、この様な浅ましい行動をする人達がいる。

……人間てどんな生き物だろう……

## 私の震災体験

古本 保雄

(本校旧職員)

1月17日朝私は何時もの通り目覚めも早く5時に起床し居間で朝刊を読んでいた所(時により冬でも早朝ジョグをやる事がある)突然電気が消え書棚の上から物が落ちて頭に当たり、その後いわゆる轟音の発生

(すぐにゆれたのではない)で「これは地震の前触れではないか」と一瞬思い暗闇の中を立ち上がり玄関まで猛ダッシュ(勿論膝・腰・足首共損傷なし)して玄関ドアをあけ(あけないと万一の場合脱出出来ない)、同時に2階に寝ている家内・息子・娘等に大声で「地震や」と声をかけました。家内は激しいゆれのために三面鏡も倒れ脚に当たり足首を捻挫(約10日間で回復)しました。でもタンスが当たらなかったのは幸でした。息子はその後すぐ降りて来てはき物をはき表へとび出したのです。しばらくして後家内もいたむ脚にもかゝらず下へ降りて玄関先迄出ました。私も出ました。6時前で外も少し明るくなっていた様でした。玄関先を出てみると北側の平屋の家屋がペシャンコです。80才位のオバアさん1人が住んでいるのです。息子が倒れている家の下敷きになっている年寄を背におんぶして救出したのです。すぐ私家で休んでもらいました。その後東側道路方面を見ると殆ど家が半壊の様で年寄の人が「助けてくれ」と言っているのが聞こえて来たり又何とか脱出したものの脚を怪我されている人がいて病院迄の車を待っている状態でした。その様な近所の人々の救助もすべきと思いつゝも、こんな非常時の為に校門や校舎入口の鍵を持っておりしかも学校体育館が避難場所となっているので学校へ行き避難者を収容せねばなりません。それですぐ学校へダッシュして行きました。勿論その時は上下仕事着のままでした。時間は6時半前後だったと思います。ところが学校へ着き体育館迄上った時鍵持参せずに気がついたのです。すでに約30名余りの人々が来ていましたがすぐ自宅にもどり鍵をもってもどって来ました。その時は100人近くに増えていた様です。体育館をあけ入ってもらいました。もう7時前だったでしょうか。なかには「おそいではないか」と不服を言った人もいたり逆に「ようあけて下さった」と感謝されたり……しばらくして校舎通用門の方へ行こうとした時通用門東北の家屋が1階がつぶれ2階が傾いていて電柱が同窓会館側へ寄りかゝっているのがわかりました。その家屋の住人夫婦が弱った様な顔付きで「年寄2人がこの下にいます」とのこと。私と殆ど同時に灘本先生が来られ家庭科吹野先生も来られ救出に励みました。しかし平屋ではなく2階がおゝいかぶさり下はペシャンコで土にうもれている人を救助するのは我々だけでは限界があります。消防所に電話をと思ってもあの時は全くどこにもつながらず誰も来てくれません。こんな



時機械があれば何とかなるのではと思ってもどうにもなりません。後できくにご夫婦の御両親だったらしいのですが、残念ながら死亡されたとの事。その直後に藤原先生が来られました。次に本館を開けようとする藤原先生が「保健室前は水びたしだからあけない方がよい」と言われ確かめるとその通りである事がわかった。その後体育教官室に一度もどって校長宅へ電話しようと思っていたら逆に校長からの電話だった。校長曰く「もっと早い時間に家に電話したがだめでやっと学校につながった。私が動くときからの指示があってもいかなのでしばらく自宅にいる。生徒は教室に入れて待機させとくように。」校長は私をあてにして直後に自宅に電話された様だが、登校した生徒を校舎内に入れるのは無理なのはわかっていた。中・南館校舎も入室させられる状態ではないのは後で見てわかっていた。8時を過ぎて家が無事で真面目な生徒は少しずつ登校してくる。1人1人の生徒に「こんな状態や。今日は帰ってよし。」と伝えた。校長の言には反するが一緒にいた灘本先生とも相談しそう言うしか方法がなかった。中・南館校舎だが中館は1階化学実験室前廊下が少し水びたし、鉄柱が露出しているのがわかり、南館はもっとひどい。各階の窓ガラスが殆ど割れ鉄柱はゆがんでいる。寒い冬だ。こんな校舎に3年を入室出来るわけがない。多くの避難者が出て大変だが学校も大変だと感じた。一方体育館の方が朝あけた時から時間の経過と共に増えるわ増えるわ。11時頃だったか川根先生が来られ（車の渋滞でこんなにおそくなったと言われた）遅れ馳せながら先生が1人増えやれやれと言う思いであった。少し落ち着いてから灘本先生に「家はどうでしたか。」ときくと「全壊です。」と言われた。「本当ですか。それなら家族の皆様も気になるでしょう。先生どうぞ家の方へ。」と言った。ところが先生は「いやえ、です。」と言われたがそんなわけにいかず何度も帰られる様に言ったのですがそのまゝおられたのです。私は鍵をもっていた事もある（家は一応大丈夫）何はともあれ学校と思っていたのですが……そうこうしているうちに川根先生が「私も来たし先生早朝からずっとおられるそうでどうぞ引き上げて下さい。」と言われたがその時も灘本先生の事情を言ったのですが先生は依然として帰ろうとはされなかった。川根先生がそんなわけで私に何度も言うものだから「それなら少しの時間だけ休ませてもらうわ」と言って一度家へ帰った。

丁度昼頃であったが朝食抜きであったのも忘れ今迄来た。しかしガス・水共止まって煮炊き出来ずお茶も飲めない。帰ったがあの時昼に何を食べたか今も記憶がない。こんな非常時食事どころでない。多くの家が全半壊。しかも当日午前中に死亡した人も多数いるはず。だから自宅へもどっても残り物を少し食べた程度だったと思う。被災者の方々もあの日昼食どころではなかったはず。ところで家に帰った途端にベルの音だ。「こんな時誰かな」と思いきや何と10年前の東灘高校の時代の陸上競技部の教え子が門の前にいた。「先生大丈夫ですか。」と「ありがとう。家も何とか大丈夫で家族も怪我人なし」と伝えた。「何で今こゝに」と聞くと家も一部損壊らしいが「神戸から歩き続けてこれから職場へ行く所です」との事。こんな時よくたづねてくれたと思う。教師冥利につきますね。企業はこんな時休んでよい等の指示はない。暗黙の中「這ってゞも出社せよ。」です。きびしい等と言うなかれ、これ当たり前ですよ。話しは余談ですが、思い出すのは昔の春期国鉄スト。東灘高在職中そのストの日管理職は出勤可能な人は出勤する様にとの指示でしたが自宅は、当時神戸市垂水区でした。山陽・国鉄共にストでも何時もより早く起床し朝食3杯食べて一路国道をランニングで定刻前に学校へ着いた事は勿論です。そんな時の管理職の一言。「休んでいてえゝのに」これきくと「むかっ」とします。「先生も好きやな。よく来てくれた。」こう言われると気分えゝものです。こんな時も当時中央区の居住部員は殆どいなかったのので9時30分集合で授業がなくても管理職に許可とって練習させました。何しろ全国をみざすにはストやからと一々練習休ませては目標達成出来ません。余談が少し長くなりましたが午後程なく学校へもどりまし。その時入れ違いに灘本先生帰られたようですがこれから夜の管理をどうしようかと考えねばなりません。昼の間校長・教頭宅へ電話しても全くかゝりません。市の人が2人来てくれていましたが3年を中心とする在校生が何人か体育館に来てくれて（被災にあったのではなく）被災者の世話を協力してくれました。これは川根先生の説得によります。午後になり他の少し来られた先生もいましたが…これ程増加したら体育館だけでなく柔道場も解放すべきだと思ったがトイレがないので不便だとの意見も出ました。しかし卓球剣道場と食堂も解放し4ヶ所に分けないととてもじゃないが睡眠も無理だとの結論です。懸念した通り夕刻から夜



へかけて又増加する一方でした。結局市の人2人と生徒数名がご苦労ながら体育館に宿泊となったのです。生徒の協力はありがたいがそれが殆ど3年。「お前達よくやってくれるのはよいが受験の方はどうなのか。」ときくと皆が皆「今年をあきらめて浪人のつもり。」との答え。この辺りが今の県立生の特徴だと痛感した。夜食がやっと配給されたのは夜10時前。それもパン1個だけ。なかには2個もらった人もあったと後にきく。私は7時前迄いて後を皆に頼んでその日は失礼した。その後校長・教頭宅へ電話したが自宅からも公衆電話からもかゝらずで、その日の事の連絡が出来ずに終了。

翌18日早朝自宅近くの公衆電話で校長とやっと連絡がとれた。昨日は途中迄車で行ったがどうにも進まず途中から引き返されたとの事。教頭も昨日梅田迄は来られた様だが引き返されたとの事。本日は教頭は甲子園口迄JRで来て3時間歩いて10時半頃学校に来られた。他の先生方も昨日よりは少し多く来られた。真面目な生徒は8時過ぎ登校したが今週末迄休みだと伝えた。19日管理職が揃ったので出勤している校運の先生方と今後の方針を協議された。23日(月)に先生方も生徒も来れる人は出て来るようになったと思う。その後の事は皆様ご存じの通り。

一方家庭での生活については家は無事でも食器棚は倒れ多くの食器は割れその片付けにおわれ、タンスは倒れ書棚も倒れ数日間大変だった。中には地震にこりてあの夜からスーツきて靴下はいて靴まで枕元においてねた人もあったとか……。近所の集会所に全半壊の人が集まっていたが2日目から市からのわずかな食事が配布されたのに私宅は家がちゃんと残っているのに食事を配布してくれてありがたかった。ガスと水共ストップとは言え被災者ではないのに……。そのうち2月に入って水道が流れる様になったのは幸だった。もう被災者用の食事はよいのにと何度も伝えたのに食事を今迄同様配布された。被災者の様に家をうばわれ住む所もない人々に比べたら水・ガス共ストップでもぜい沢を言うべきではない。幸に思わねばなりません。3月下旬退職予定日直前にやっとガスが出るようになりホッとしました。これで家で煮炊き可能・風呂も入れる事になった。又被災者達への仮設住宅も少しずつ建設されて行った次第です。今回の地震で私個人の事ですがあれだけの縦ゆれ・横ゆれでありながら全くゆれの実感がなく終わったのはコケッコで早朝から神

経がしゃんとしていた為でしょうか。地震の事をかいてほしいとのことでしたが私自身特にやったというものもなく、たゞ体育館を最初にあけて被災者に中に入れてもらったという事だけで、被災者の世話を主としてされたのは金延先生、川根先生、佐和先生、有馬先生等ではないでしょうか。

最後になりましたが、このような現状の中で数年間は施設面で何かと不都合や困難な事が多いと思いますが、校長先生始め、先生方には生徒の為に県立の益々の発展のため頑張っていたゞきたいと思っております。

## 災害を経験して思ったこと

藤原 節子

(本校職員)

ドンという音にとびあがり、すぐに横揺れ、マンションのコンクリートがギシギシと音がした時、一階に住んでいる私はもう駄目と心の中で叫びました。明るくなって家族の者が怪我しない様にし、近所の方が「まだ余震がいつあるかわからないから学校へ行くのはやめ!」と言われたが一番近くに住んでいるので親切な言葉もそこそこに聞いて学校へ向かった。途中、着のみ着のままの方が家の前で茫然と立ちすくみ、学校が見えると校舎は見るも無残に壊れていました。そして学校の前の方が生き埋めになられ何人かで声をかけながら持ち上げましたが救出できませんでした。奥様が手が冷たくなっていると言われあきらめ、泣けてくるのを我慢するのが精一杯でした。すぐに気を取り戻し保健室へ行きましたが全壊状態で足の踏み場もありません。さらに廊下・床は水びたしです。その中から衣類やフトンを持ち出し、欲しいと言われる方に全部放出しました。そうしている間に体育館の方へどんどん人が集まってこられ、あっという間にフローア・剣道場・卓球場、柔道場が一杯になってしまいました。

昼近くになり、やっと怪我で血がこびりついたまま、打撲で動きにくい人に気がつき、避難してきた生徒に手伝ってもらい、保健室からあるだけの薬品を持ち出し体育館で応急処置を開始しました。長い列が出来た時は頭の中が真っ白で顔を見るより、傷口ばかりみて処置をし無我夢中でした。途中、看護婦の経験者と生徒の応援を得て何とか当日はおえる事が出来ました。処置をしながら何かあったらどうしようとフト脳裏をかすめました。学生の時、「医療を勉強した人間なのだから緊急災害時には率先して自分のなすべき事を



するのですよ」と言われた先生の言葉が、卒業して三十年近くたっているのに忘れずに頭に残っていました。だから何とか動けたのではないかと考えています。怪我は打撲だけではなく、ほとんど縫合を要する外傷です。受診させたくても病院は機能していません。とにかく「応急処置のみです。落ちついたら必ず受診して下さい。」としか言えません。何日かして「先生きれいにひっついたよ」と言われ、化膿するのもなくホッとしました。日がたつにつれ、老人のケアが出てきました。高血圧・心臓病・脳血栓・肺炎・その他、朝、夕の血圧・尿量・食事・一般状態・言葉かけなど自分に出来る範囲で悪化しない様に様子観察するしかありませんでした。その内、巡回診療の先生に指示を得たり、自衛隊の救護班が本校に駐留される様になり少しずつ手を離れてゆきました。ケアしていた老人の方はそれぞれの病院へ入院され、一安心。私が震災から毎日水くみ、食事等何もせず家をあげられたのは、近所の方々のご親切のおかげなのです。「あなたは学校のお世話をしておられるので、おばあちゃんは私達が交代でみてあげます。」と言って助けて頂きました。一生忘れられないこの言葉です。

今回、地震で感じたことは

1. 学校が避難所となっている所は教職員の役割分担を作成しておく。
2. 薬品は学校が必要な分のみしかない。
3. 保健室は救護所として使用されてしまう為、本来の学校の仕事が出来なくなる。
4. 一般の方々の救急処置は感染の恐さがある。
5. 万一、処置の不十分で問題が起こった時、個人としてか、学校の立場としてか、どうなっているのか不安である。

以上の点が問題点になってくると私は思います。今回、私が動けたのは養護教諭としてよりも、医療を知っている者として動けた様に思います。

ただし、

1. 判断力（緊急者の判断。）
2. 行動力（するしかない。）
3. 指示力（周囲に指示し援助してもらう。）
4. 決断力（誰かが起こす。）

以上の四点は誰かが口びを切らなくてはならないのです。幸いにしてこの地震は夜明け前であったことが不幸中の幸いでした。これが実働時間であれば考えられない程のパニックの中での行動をよぎなくされます。

通常は出来てあたり前、緊急時にいかに知識と行動がうまく働かせることができるかが大切です。本校では三名の尊い命が失われ、全、半壊の生徒も多数います。学校も仮設教室で環境も十分とは言えません。クラブ・学習に及ぼす影響もないとは言えず、心に与えたダメージも日がたつことで和らいでくれる事もあるでしょうが、計りしれない眼に見えない心の動きにまだまだ目が離せません。学校全体できめ細かな配慮と連携をとりあうことが大切であると痛感しています。今後、色々と気がつかれることがありましたら一緒に考えてまいりたいと思います。この書面をおかりして、多くの方々に助けて頂きました事、心からお礼申し上げます。有難うございました。

## 明日は笑顔で

佐和 良一

（本校職員）

1月17日夜半に子どもに起こされ、再び眠ったのは午前4時。その時、ふすまを開け放していた。

「ゴーッ」という地鳴りと共に体を突き上げてくる力を感じた途端、開いているふすまの向こうへ。子どものもとに這い寄り覆いかぶさっていた。「何があっても守り通そう」と決意。家具がことごとく落下・転倒し、ガラスが砕け散る中で子どもの安全だけを祈った。

揺れが止まり辺りが白み始めるまで、かなりの時間だったように感じた。ガラスの海を越え6階のベランダから初めて目にしたのは、長女の友人のつぶれた家と火の手の上がっている隣接したビルだった。

学校のことが気になる。周辺の家屋の状況から、少なからぬ生徒の被害が予測される。とはいえ家族の状況を考え学校を覗くこともできなかった。普段付き合いの少ない近所の人々が、震災直後なのに善意にあふれ、各自の出来るだけの力を出し合い、些細なことも協力し、励まし合った。

2月当初には引き続き身内の不幸もあり学校に戻った時、自分の心中には後ろめたい何かがあった。「同じ被災者として共に前向きに生きたい。そして復興を目指したい」との思いが自然に生まれていた。その思いがあればこそ、未知の職務に果敢に挑戦できたようだ。

避難所は、既に市職員、保母、一般ボランティアが本校職員と共に運営していた。なかでも生徒やOBボランティアの動きは常に勇気づけてくれた。OBは在校当時に比べて格段に成長しており「思いやり」が随



所に感じられた。高齢の人や障害のある人も多く、生活を送る上で様々なお手伝いをし決して不快感を表さない。笑顔を絶やさずみんなに平等に接している。芦高の「自治・自由・創造」を具現化した姿がそこにあった。芦高教育の真正さの証明だと自負している。

避難されている方々は、芦屋という地域性のためか、概ね協力的であり、運営は極めてスムーズに行われた。他所にはないアットホームな雰囲気が多く「大親睦会」で最高潮に達したと言える。

その一方で、長い避難所運営の中で人間の陰の部分を感じる事が幾度となくあった。当初の耐乏の中の苛立ちと我慢。不満を抱えつつも人間的に協同し生きたい気持ちに満ちていた。「生きるため何か欲しい」が次第に「どうせなら、よりよいものを」と欲望がふくらむ。際限無いことも多く、正に煩悩に悩む姿が顕在化してきた。

5月末で避難所閉鎖。心の苦しみと共に張合いも失われたのを感じた。いざ通常の業務への復帰となって、何も無いことに改めて気づいた。校舎を始めとする施設の崩壊、学業面で進捗に対する不安、経済的な面、時間空間的な面での生活の困窮と。

個々の問題は、時間とお金で解決できそうなことが多かったが、ただ最大の問題は心の奥に潜む問題の根源を捉え、それを解決することにあった。PTSD（心的外傷後ストレス障害）の症状は生徒に見るのみならず、自分の中でもはっきりと自覚できるものがあった。

なんとなく空虚感を感じると共に、人の温かさには敏感になり、同時に無関心になりがちな人々に腹を立てる。が気持ちの上では、いつまでも引きずらない方が早く復興できるのでは、と矛盾し心中穏やかではいられない。無意識の世界で動いている苦悩が無意識に表出しているようだ。生徒にしても職員にしてもこころ全体を把握するのは困難窮まりないと実感した。

被災一年を迎えるにあたり、以下の事を強く感じる。

第一は地域や個々の被災体験の程度による問題意識の「温度差」だ。事態に直面し未だ逃げられない人と、積極的に関わらぬ限り一時的な出来事として意識の範疇外にある人とは差は明白である。社会を見ても、マスコミもそれなりの継続的な取材をしているが、今日では、当初の事件報道のみでは済まず、通常の生活を踏まえ、より深い取材を目指しているが実際は複雑である。震災復興に関する政治上の問題を孕むものが増え、一般市民の生の声が直接表現されてないように

感じる。天災は、何時どこで発生するか分からないだけに、都市社会の抱える全ての問題をきっちり拾わねば、今後の教訓として活かさないのではと憂慮してしまう。

第二に、高校では心に傷のある子の対処を当分の間、怠ってはならないということである。今年は意識的に取り組んでいるが、次第にその意識が薄れるだろう。高校に入学する生徒については、現在の3、4歳の子どもが高校を卒業するくらいまでずっと意識し続けなければならない。となると、あと15年余り、長期のケアが必要である。

そして最後に、自分自身がこの被災体験を評価できる日は当分こないのではという推測である。この震災で失い、取り返せないものも多い。その一方、人の善なところを再発見し、かけがえのないものとして得た点とどちらが大きいのか、容易には決しがたい。

現在は「あるがまま受け入れる」の精一杯。頭では理解できてるが、どうしても腑に落ちない「今日」を心の底から納得でき、みんな笑顔で暮らせる日が訪れるのを待っている。その間、自他の「人間性」を見続ける覚悟である。

混沌の中にて

## 大震災と仕事

吉國 健一

(本校職員)

1995年1月17日火曜日午前5時46分頃、3階で家族と共に安眠の床についていた私はゴーという地鳴りとともに目が覚めた。次の瞬間縦に横に揺れ、世紀末かと思われるほどだった。“地震や…”大きな声を出し子どもの上に被さった。凄く長く感じられた。ふと気づくと足下に29インチのテレビが転がっていた。まだ外は薄暗く常備していた懐中電灯を手に家族を2階に降ろしラジオのスイッチを入れた。外に出ようと玄関に急いだが靴箱が倒れ出られそうになかった。火事場の馬鹿力というかなんとか起こしてやっとなのおもいで外に出た。隣の人と話をしているとゾロゾロ皆集まってきた。パッと見は何ともなく見える家も中はメチャクチャで、古い家は瓦は落ちて傾いている。近所の人に万一に備え避難場所を確認した。ガスの匂いが漂っていたので近所の人達に元栓を締めて火を使わないように協力を求め、元栓を締めて回った。こんなときに火事でも出したら大変である。



その日は給料日、煤煙測定の日、学校に連絡を入れようとしたが、電話が通じなかった。後で分かった事だが、今回のように勤務先に行けない時は近くの県民局等に出向くようになっているらしい。翌日自転車での通勤となり、武庫川を越えしばらく行くと風景が一変し、そこには見慣れた風景はなく、まるでゲルマン民族の大移動のように人が車が押し寄せてきてなかなか前に進めなかった。途中パンを売っていたので買おうとしたが、ひとつ300円には驚いた。リュックを背追い歩いているK先生に出会った。宝塚から歩いてきたらしい。やっとのおもいで学校に着いたが、ガタガタ道を来たせいか自転車はパンクしていた。グラウンドには所狭しとばかりに車が並び、配管が破裂したのであろうあちこちに水が吹き出している。あまどいの下では親子が溢れた水をビニールプールで受けている。

事務室では出勤してきている教職員が電話の対応に追われていた。何から始めていいか分からずボォーとしていると、K先生から井戸水を出して欲しいと言われた。一からチェックしたがポンプは正常に動かない。配管はあちらこちらで破裂していて修理が必要であったが、学校側の対応が遅く間に合わないため、芦屋市に交渉し部品を手配してもらい、K先生に手伝ってもらって応急処置をし、井戸水を出した。

漏水・漏電・配管破裂等々山のように仕事があった。整理した上で一つ一つ進めていった。折れた配管を直すため近くの水道工事業者でパイプを分けてもらおうとした。しかし資材置場が崩れておりどこにあるのか分からないといわれたが、自分で捜しますからと無理を言って何とか調達した。事務室に戻ると電話回線は塞がり、ファックスは山のように積んであった。出勤している事務職員さんはMさんだけでファックス処理どころではない。キー局になっているせいもあるが、なにもこんなときと思える物もたくさんあった。他の先生方は皆必死で避難されている人達の為に働いている。ほとんど毎日が避難所を中心に動いていた。でも、ここは学校である。学校としての機能を果たすために体育館側の放送設備を切離し、井戸も避難所専用にした。電話も別につき、ボランティアもたくさんやってきたが、中にはこんなこともあった。ある日、ボランティア団体がやってきて事務室の受付の小窓を開けた。「すみません。おにぎりを作りたいので水を下さい」いきなりなので面食らってしまった。「水が無いと握れないじゃないですか?」「ああ それか

ら台と容器もお願いします。」何を考えとるんじゃ、こいつらは。このときはまだ上水道が出ていない時である。何の用意がなくても行けばどうにかなるでは困る。仕方無いので事務室にあったサランラップを渡し、「これでやれば水はいらんやろ」と言ってやった。この類のボランティアも何組かあったが、近くの宮塚公園で炊き出しをしていた某宗教団体は準備よく日替わりメニューで大盛況であった。生半可なボランティアは懲り懲りである。それにしても色々な人達が芦屋高校(避難所)にやって来てくれた。嬉しかった。

自衛隊がテントをはり、お医者さんまで常駐した。一方で昨年度より続けられていたグラウンド整備は打切られ全てが中途半端になってしまった。狭い通用門を大きな給水車などが出入りするのでかなり無理があった。工事途中であった為、運動場西門には土砂が積まれ開けられず、ここさえ開放すれば車の出入りが簡単になると思い業者に無理をお願いした。が、グラウンドは、そのときには駐車場となっており、常駐の自家用車があつたりで大変であった。現代の車社会を反映してか、一番多い時は広いグラウンドが車で一杯に埋まっていた。災害時の車の利用も考えた方がいいのではないかとつくづく思った。

震災直後は皆一丸となってことにあたったが、人によって、やる気がある、やる気がない、何か明暗を分けてしまったような気がするのはいすごしであろうか。誰かが言葉を発し、ワァーと何人かが動いた。良くも悪くもそれぞれがそれぞれの仕事をするとこんなにもスムーズに早くできるものなのかと、改めて実感した。現在社会に於いてなくなりつつある親分肌が今回は大いに役立った。また、こういう人は必要である。仕事においても……

1995年1月17日 午前5時46分

豊留 高明

(本校職員)

どういう理由か、この日は午前5時頃に目が覚めた。学校に行くにはまだ時間があるので、もう少し寝ようと思ったが、なぜか眠れなかった。寝なければと思えば思うほど眠れなかった。

そうこうしていると、突然地震が。「なんや地震か。すぐ終わるやろ。あれー、いつもより大きな揺れやなあ。まあ、布団の中で丸まってれば、いいやろ」と思った。



その時、ダンボール箱が落ちてきて、スライド書棚が自分の上に倒れてきた。「冗談やないで」と思っていたら、家の裏の方から「助けてよ」という声がした。取り敢えず地震が止むのを待って、暗い中を外に出た。薄暗い中、周りを見渡すと、裏の木造2階建の家の2階部分が壊れていた。3ヵ所火事が起こっていた。頭が目覚めていないのでどうしたらいいのかわからなくて、ただ様子を見ていた。近所の人々が、裏の家に集まってきて、2階にいる人を助けようとしていた。取り敢えず裏の家へ行ったが、自分が2階へ登ると壊れるのではないかと思い、2階にはよう行かなかった。閉じこめられていた4人が助け出されると、隣の家には寝たきりの人がいるので、外へ移動させて欲しいと言ってきたので、玄関戸などを壊して外へ出た。そして近所の人に運びこんだ。さらに、2階建の家の1階に祖母が埋もれているということなので行ったが、ほんとに小さな空間に閉じこめられていて、どこからも入っていけなかった。何か物をどけるとつぶれるんじゃないかということで消防が来るまで待とうということになった。

また続いて家主さんに呼ばれた。家主さんの家の中で何か音が鳴っているのを見て欲しいとのことだった。倒れているものをどけつつ探していると、それは目覚まし時計だった。

時間がどれくらい経ったのか分からない。取り敢えず、学校に電話をかけたが繋がらない。仕方がないので車で学校へ行った。

学校へ着くと藤原先生と吹野先生が保健室からガーゼや湿布薬等運びだしていた。既に200人は来ていたのだろうか、だがまだ続々と避難しにやってくる人がいる。薬品等を体育館2階フロアに運ぶと、そこに張ってあった防球ネットをしまい、フロアを使い易くして、負傷者の手当をした。

一段落したとき、男の人がやって来て、「この人ですか」と聞いてきたので「そうです」と答えた。

「車持ってはりますか？」と言ったので「はい」と答えると、「妊娠6ヵ月の妊婦のお腹の上に落ちてきてお腹が痛いので病院まで運んでもらえませんか？」という。そこで妊婦と妹夫婦を自分の車に乗せ、まずJR芦屋駅前のセントマリア病院へ行ったが産婦人科はないので近くの他の産婦人科へ行った。しかしそこもとても見られる状態ではないという。

元町のパルモア病院まで行きたいので、甲南町にあ

る妹夫婦の家まで送り、車を代えて行くことになった。2号線を通って行ったが、東神戸サティの辺りへ来ると地震の被害に加えて火事も有り、ほとんどの家は潰れていた。宮地病院も1階部分が潰れていた。

妹夫婦の家まで来ると、隣の家が潰れていて車が出せなかった。ここまで来たら最後まで行かなければ。体育館のことも気になるが……。

車の中で話していると、妊婦は県芦の卒業生で赤松先生が担任だったという。どの道も混んでいたが43号線はほとんど車が走っていなかったの、楽に走れた。道路に段差がついていて、妊婦を乗せていたので運転には気を遣った。自分は何の情報も知らなかったの、今思うと恐くなってしまう。

病院に着いたのは午後1時頃だったと思う。診察時間は10分ほどで、お腹の子には別状ないということだったので一安心。

その時、神戸市内はまだ燃えているビルも有り、道路はどこもかしこも混んでいた。

午後4時頃に学校付近まで戻れた。阪神電車の南側の道路を通ってきたが、体育館の西側にある精道マンションが燃えて、消防が消火作業をしていた。道の真ん中にホースを繋ぐジョイントがあった。車はどっちに寄っても通れないので、またいで行こうとしたその時、ガリガリという音がして、3階で消火活動中の消防士が「何やっとなねん。水が止まったやろ」と大声で叫んだ。「妊婦を運んでいる」と返答した。「車を後ろへ下げろ」と指示されたので、バックさせるとジョイントのレバーが折れてしまった。取り敢えず妊婦を体育館まで運んで精道マンションまで戻った。そこで始末書を書いた。こういう事態なので何もないと思うと消防士は言っていた。

体育館には千人はいただろうか。「ものすごいことになってんやな」と思った。その中で“芦高軍団”(OB, OG, 生徒)が、よく頑張って動き回ってた。自分の家の中も片付いていないので、この日は軍団に任せて家に帰った。

少し前に引っ越しをし、必要なもの以外はダンボール箱から物を出していなかったの、30分ほどで片付いた。家の細部を見てみると、テレビのスピーカーが壁に当たり、穴を開けていた。また、卵が飛び出して壊れており、その処理には一番困った。その時水道が出ないということで、生活する上で不可欠なんだと実感した。



8時頃校長から電話が有り、「情報が欲しいから明日も行ってくれ」とのことだった。

もう車では行けないので自転車で行った。途中同僚の家を見ていったが、1階部分が潰れていた。

学校に着くと電話が鳴りっぱなしで、その対応に追われた。それが何時間も続く。

一方、体育館では、トイレの水をめぐって大変だった。その水は中館より送られてくるので、ポンプを作動させたが、すぐ異常を示すランプがつく。原因を調べる余裕はなかった。

また体育館では名簿を作るということだったので午後10時から午前2時までの予定で菊地、石本等軍団5人で作成した。結果的には4時までかかった。それをコピーし、事務室、体育館用の2部を作った。

若さのパワーはものすごく圧倒されるようだった。負けていられないという思いと緊張があったので43時間寝ずに起きていた。

安否確認のため、生徒を登校させることとなり、マスメディアを使って情報を流した。それと並行して各避難所へ登校のビラを張りに行った。自分は神戸の避難所10ヵ所をOBの向瀬とバイクで回った。あいも変わらず交通は混乱しており、時間がかかる。

本山南小学校避難所だったろうか、武庫高1年の生徒が泣きながら歩いていた。友達が亡くなったとのこと。帰って武庫高に連絡した。

避難所を回ったのには特別な理由もあった。新聞で2年生(当時)の藤原真喜さんの死亡記事が載っていたので確認を取りたく、2日間、神戸の避難所を回ったのだが、生徒に出会うこともなく、何の情報も得ることが出来なかった。この事は今も信じていないし、信じたくない。

避難所の芦高軍団の様子を見に、午前2時頃に何日か行った。何のマニュアルもない中で自分達の意志でやっていたので、行くたびに「自分の思ったとおりにやれ。責任は俺がとった」とよく言った。失敗もいろいろあったらうけど、軍団にはそれが一番良かったと今でも思っている。実際に自分が責任を取ることなく、時は流れた。

昼間の大半が事務室での電話番だったので、避難所のことほとんど分からない。しかし軍団がよく頑張ってくれたことだけは間違いない。

23日の夕方、帰る気はなかったが、国宝先生が「たまには言うこと聞け!」と怒っていたので、自転車を

借りて家に帰った。しかし、どうも気になるので夜にまた学校へ行って、24日の朝、家に帰った。9時頃、西崎先生(元芦高職員)が心配して来てくれた。話しによると、毎日来てくれていた様で、自分はずっと学校へ泊まっていたから今まで会うことが出来なかった。西崎先生は足から血を流していたので車で西宮北高校まで送り、その後いっしょにクラス生徒の安否確認をしに避難所を回った。クラス全員の確認が出来、安心していっしょに県芦までの帰途についた。

自分の役目は2月8日ぐらいまでだった。そこからは泊まりも何日かに1回の割りで、卒業式前日に泊まったのが最後だった。

その間、下野教頭が倒れたり、3年学年団の炊出があったり、いろいろなことがあった。

今思えば、人間は一人一人は弱いかもしれないけど皆で力をあわせれば、それ以上のものが出てやり遂げられるもんだと思ったし、芦高軍団の頑張りがすべてだと思う。それには心から感謝したい。この震災をバネに、これからの人生を頑張りたい。





### Ⅲ 避難者

#### 芦高体育館に避難して

森田 成

悪夢、としか言いようのない大地震！幸い怪我もなく、またなんとか我が家の倒壊だけは免れました。しかし家の中は巨大なミキサーで引っかき回されたように、壁や家具調度がつれあい、倒れあって、これ以上散乱しようもないような状態でした。それを目の前に恐怖に動転するうち徒に時間が過ぎ、ご近所の人ので取りあえず身の回りの物をまとめて、芦高体育館に入ったのは午後三時か四時頃だったのでしょう。

これまで災害時によくテレビで見ていた体育館の避難所、まさか自分がそこに入るとは夢にも思っていなかったのに。およそ千五百人を超える人たちが、着の身、着のまま、自失したかのような体で、体育館の建物に殺到していました。まさに混乱の極みとはこのことでしょうか、ひしめきあい、身を寄せ合い、そして時の経つほどに募ってくる恐ろしさに、たゞたゞ震えおのゝくだけでした。

しかし、もうこの時から私たちと同じ災害を受けながらも、芦高の職員、男女生徒や卒業生たちの若いボランティアの方々がいち早く駆けつけ、甲斐々々しく援助活動を開始されていたのです。“組織のない組織”が自然に生まれ、目を輝かせ人間の愛に燃えた新時代の若者たち、その時、その姿にどれ程私達避難者が勇気づけられ、そして安堵感を与えられたことか計り知れません。また、有難いことに震災当夜から体育館には電灯が灯り、果物や牛乳が配られ、また毛布なども支給されて、しだいに落ち着きが戻ってきました。

こうして不便をかこちながらも、私たちの芦高体育館での合同避難生活が始まり、一方では自治体の救援活動も芦屋市は勿論、各府県、各市の支援救助隊を含めて本格化し、職員、作業員の腕章や各種作業車の銘版などから本当に国を挙げての救援、ということがひしひしと身に感じられました。数々の各種救助物資の供給のほか、沖縄の水道工事、北陸のガス工事、飛驒の匠による家屋修理、遠くから夜を徹して駆けつけてこられた自治体や篤志業者の炊き出しサービス、身近には芦高ボランティアの無料喫茶などなど、被災者にとって全てが何よりも有難く、そして力強い励ましがありました。更に芦高のグラウンドには陸上自衛隊による給水設備や、炊き出し施設、二十四時間体制の診療

所などの応急施設が設営されました。震災で家並みが崩壊し暗闇となった街で、夜間照明にくっきりと浮かび上がるように輝くテント群、これは美しくも、また頼もしく、やっと安心、の気分を取り戻すことができたのでした。

さて丁度震災から百日目、待望の仮設住宅に入居できることになり、芦高避難所を後にすることになりました。この頃には避難所の人口も三百人足らずに減っており、当初に比べればゆったりとし、通勤、通学者のいない昼間はどちらかと言えばひっそりとしていました。段ボール箱や荷物で仕切られた2次元的住居空間、それでもやはり十分なプライバシーの保持もできず、就寝後も明るい大合宿所でした。そこからの脱出、嬉しい筈なのに、なぜか去り難い思いが彷彿として湧き上がってきたのです。この百日の間に、不安、悲しみ、不自然な孤独感などを、お互いに無言のうちに慰め合い、励まし合ううち、いつしか互いに震友というほどのなごやかな雰囲気になってきていたのです。精神的にも肉体的にも極限的な共同生活が、こうした強い絆を生じさせたのでしょうか。それもありましょう、しかしこれを生ませた源は、同じ被災者であり、さらに校舎が壊滅的な打撃を受けた上に、運動場、体育館等の殆どの施設を避難者達に提供されていた、芦高ボランティア・チームの献身的な実行力に他ならなかったと信じております。人生で初めての、しかもマニュアルのない事態に、さぞかし当初は困惑され頭に血が上ったこともあったでしょう。陸続きとして支給される救援物資の整理、仕分け、配布などなど肉体的にも精神的にも、その疲労は教頭先生が一時倒れられたように、極限状態ではなかったかと推測しています。しかしそれでも皆様はいつも私たちの立場に立ち、いやな顔一つせず常に明るく避難者を励まし、慰め、お世話下さいました。強大な自然の力の前に打ちのめされた絶望の淵から、再生への意欲を呼び醒まし、何が何でも立ち直らねばという勇気と希望を与え、精神的な支柱を作って下さったのは他ならぬあなた方でした。本当に、本当に有難うございました。今はただこれにすぐるお礼の言葉もございません。

この震災は多くの大切なことを私たちに教えてくれました。物理的な大損失は、人間の自然に対する不遜な驕りの結果でもありました。しかし一方では若い人たちの真摯なそして、人間として互いに助け合おうという、自然発生的なボランティア活動も見ました。時



代が移り思潮が変わっても、改めてここに人間愛そのものには何の変わりもないことを強く知らされました。私たちは、あるいは人類は、ここで文明と文化のバランスを深刻に考えるべき時期に来ているのではないのでしょうか。

私はこれまで会社勤めに没入して世間知らずのまま、人生の大半を組織の人間として過ごしてきました。しかし今回の震災でそれを離れて、初めて誠の人情の温かさを身に沁みて感じさせられました。そして積極的に極めて冷静、合理的に行動する若人の姿に、これまで想像もしなかった激しい感動を覚えました。奇跡的に助かったこの命、これからはこの感動を<sup>てこ</sup>梃子に何にもめげず強く生き抜こう！それが不幸にも震災に<sup>な</sup>斃られた人々への何よりもの供養であり、援助して下さった多くの方々へのせめてもの恩返しと考えるようになりました。

間もなく修理の終わった我が家に戻れる見込みですが、短い期間とはいえ避難所、仮設住宅で得た多くの知見、経験が、私の余生により意義深いものとなるよう努めて参りたいと思っております。そして私の生きざまに、大きな教訓を与えて下さったすべての芦高の皆様のご厚情に、衷心からの感謝の想いを捧げ、そして一日も早い校舎の復旧と、素晴らしい生き生きとした校風の下、貴校の輝かしい新時代への躍進を祈念して拙文を閉じたいと思います。

一九九五年八月

私の母校のように思える芦高の皆様に

### 頑張らなくっちゃ

中野 恵子

平成七年一月十七日 五時四十六分AM.

ゴォーッ 地鳴りと共にドンドンと地面の底から怪獣がせめて来た様な響き

ガチャガチャ〜ン「お母さん、お母さん」

食器の割れる音と娘のさげび声。

壁土独特のにおいがたちこめ、娘の部屋の窓から出たのは覚えている。

気がつくとパジャマ姿に素足、心の芯まで凍りそうな寒さだった。

とりあえず車の中に避難。

昼間だったか、友人が避難所で私達の姿が見えないから…と探しに来てくれ、県庁の体育館へ。その時か

ら私の避難所生活が始まった。

ご近所のおばあちゃん、知人や友人の不安顔「大丈夫だった…恐ろしかったネェ」と上着をかけてくれホッと一息、お互い泣き笑い顔になった。

次の日から主人は避難所からの出勤。娘は里からむかえに来た弟と京都へ避難。一人残された私は、何をどの様にすればいいのか、本当なのかウソなのか情報の少ない事に又不安が増して、皆同じなんだ、みんな頑張っているんだと自分をはげました。

水道、ガスが通ると帰る所のある人達は帰って行き、体育館の生活に慣れて来ると人間性が出はじめ、仮設住宅が当たったと出て行く人達がふえていくと、残った者は焦り、だんだん協同体がくずれて行った。

その頃、里にあずけていた娘が体育館に帰って来たが、一週間もしないうちに神経性の腹痛と下痢を起こした。

それを知った知人が何かと気遣ってくれ、話しかけ元気づけ、気晴らしにと買物や銭湯に誘ってくれたり、ここの生活を楽しくしてくれた。

本当に知人と云うに等しいあいさつをする程度のおつきあいだった人なのに……うれしかった。

体育館での4ヶ月 私にとって、長かったし又短かった。つらかった、けど楽しかった。

なくした物は多かった。けれど形にならない得たものが、今では何にも変えられない宝物になった。

平地になった家跡に伸び伸び茂る雑草がうらめしい様な、

又アスファルトのわれめから伸びる雑草がいとおいしい様な

あの寒かった一月十七日

今はせまい、暑い不満の娘

頑張らなくっちゃ

頑張らなくっちゃ

### 阪神大震災

中野 一恵

一月十七日――。

「ガタガタッ。ドンドンッ。」

激しいゆれで目が覚めた。目を開いた時にはもう、タンスは倒れていて、部屋の中はひどい状態だった。

窓ガラスを割って外に出た時、私は住み慣れた家を



失ったことに気付いた。家だけではなく、家具も、アルバムも、身長を記録した柱も、なにかも一瞬にしてなくしてしまった。

外に出ていた人々は、みなぼう然としていた。まるで自分を失ってしまったように…

ここで泣いてしまうと、私も自分を失ってしまうようで、涙があふれてくるのをぐっところえた。私は、自分だけは失いたくなかった。私はこの時、初めて自分と戦ったように感じた。自分にとって一番強い相手と戦った。

お父さんやお母さんが、思ったより冷静であったことにびっくりした。お父さんとお母さんが、中にある物を出すため、家に入っていった。私はその時、車の中に避難していたのだけれど、とても心配だった。

明るくなってくると、近所の人心配して家まで来てくれた。そして、県立芦屋高校に避難するため、連れて行ってくれた。けれど、行ったのは私一人。お父さんとお母さんは、まだ家の中にいた。私はもうやめてほしかった。

避難所に一人で行くのは、とても不安だった。けれど、近所の人場所をとっておいてくれて、とてもうれしかった。

次の日、おじさんがむかえにきてくれて、京都のおばあちゃんのところに避難することになった。普段なら二時間程で着くものだけれど、半日かかった。救援物資を運んだ車に、何度も出会った。私はとてもうれしかった。世界中の人々が、私達を支えてくれている。それは、とてもうれしいことだと思う。

私は一ヶ月位、おばあちゃんの家にはいた。一日おきにお母さんから電話があったけれど、とても心配だった。

でも、楽しいこともあった。私は、京都の小学校に仮転入して、新しい友達もできた。そして、その友達とは今も文通が続いている。私は、とてもうれしかった。そして幸せだった。私は、「幸せ」は不滅だと思った。何が起きても、必ずどこかに「幸せ」がある。震災後、私が初めて感じた幸せだった。

そして、三月、卒業式のために芦屋に帰った。それから、二ヶ月間の避難所生活が始まった。私が初めて避難所を見た時、とてもおどろいた。震災直後の避難所とは全然違った。各家族ダンボールで囲いをしていて、班までできていた。そして、たくさんの学生ボランティアの方がいた。無料喫茶「ホーリー」まであっ

た。私は、避難所は、もっと暗い感じの所だと思っていただけ、避難所の人みんな明るい人達ばかりだし、とても明るい場所だった。

二ヶ月間、色々なことがあった。

入学式。——たくさんの人から「おめでとう。」と言われ、とてもうれしかった。

何度も外れた仮設住宅も、第三次募集で、補欠に入った。

そして五月。私達は仮設住宅に移った。けれど避難所にいた長くて短い二ヶ月間を、今でも忘れない。

私の「故郷」を……

## 私の体験

水田 安秀

私は、神戸、芦屋、西宮、尼崎、宝塚とあちこちに炊き出しに行っていました。

炊き出しで訪れたある学校は、私が中学を出て田舎の長崎から離れラーメン屋で働き、出前に行っていた学校でした。

何年かぶりに見た学校は見る影も姿もなく唯々驚きました。

と同時になつかしい八百屋のおばさんにも出会い本当に胸が一杯になりました。

そのなつかしさも味わう間もなく炊き出しを待っている人達が一杯で、思い出にひたる気持ちすらうすれておりました。

その学校への炊き出しを終え、又、芦屋へ帰りました。避難している高校では卒業式、入学式と行事が行われ新1年生は新しい仮設教室で何事もなかった様にはしゃぎ回っていました。その姿を見て、私は学校を使い、避難している事が、本当につらく思いました。

しかし私達、避難している人は、家族を失い、家をなくした人達ばかりで、自分の淋しい気持ちをいい表す事が出来ず複雑さで一杯だった。

それにも負けず助け合い、すこしの食事もわけ合い食べた避難所生活で本当に一生のうちに出来ない体験もしました。

自分にとってなくした事も大きかったけど、生活してみても、学んだ事も本当に大きかった。

この3、4ヶ月は人生で3年、4年にもあたいする貴重なもので、今後も大切にしたいと思っています。



本校避難所にいらっしゃった吉田さとみさんが、第3回「日本一短い愛の手紙」(福井県坂井郡丸岡町主催)のコンクール最終選考会において、『一筆啓上賞』を受賞されました。

母ちゃん、一緒に住む話、  
もうちょっと待って  
家潰れてしもたんよ  
私頑張るからね！



「大親睦会」スナップ。吉田さんは左より2人目。







# 3 座 談 会

～共に次の一歩を～







# 避難所生活を語る

1995年5月14日 於 県立芦屋高等学校 食堂

(出席者) 梅田彰三 梅田マスエ 平野きみ代 野口良一 野口孝志 中島 咲  
(司会) 佐和良一

## 被災時の様子について

司 会：本日は、「避難所生活について語る」と題しまして、座談会を進めていきたいと思えます。まずはじめに、被災されたときの様子についておうかがいしたいと思えます。

野口良：宮川町の2階建てで被災して、何がなんだかわからなかった。はっきり言って、恐かった。ひどかったというのが一番の感想。家族全員無事でよかった。

中 島：若宮町に、平屋で住んでいた。恐く、思い出したくないというのがある。命だけでも助かったのが、ありがたいと思う。

野口孝：お父さんと一緒に、宮川町に住んでいました。最初は地震とはわからなかった。とにかく命が助かってよかった。

平 野：宮塚町に住んでいた。地震の前に目が覚めていました。ご飯を炊こうかどうか迷った末、スイッチを入れなかったので、火事にならなかった。タンスが倒れてきて、そこから抜け出した。2階の息子の部屋に行くと、ステレオなどいろんなものが倒れていて、息子は、きょとんとして、ベッドに座っていた。おばあちゃんに声をかけて無事を確認し、外へ出るように言った。隣のアパートが倒れているので、助けに行ってくれとの知らせに、息子と、主人が出ていった。懐中電灯がないので、ろうそくを代わりに使った。いざというときに、必要なものがないことを実感した。息子と主人が、近所の人を助けたので、よかったと感謝しています。

梅田マ：大柵町に住んでいる。地震の時は、ちょうど起きようかなと思っていた頃だった。揺れを感じたとき地震だなとわかったが、しばらくしていつもと違うと思った。主人が声をかけてくれた。我に返り、外の様子を見ようとし

ましたが、玄関が開かず、ベランダから様子を見た。近所の家、電信柱などが倒れていて、よく耳を澄ますと、助けてくれと言う声が聞こえた。あわててその場所に行くと、おばあちゃんが軒下に挟まれていました。1人では引っぱり出せないなので助けを求めると、しばらくして、人がきて助け出してくれた。パジャマで、裸足だったので、着替えて、店の様子を見に行こうとした。途中、道はふさがっており、助けを求める声が聞こえる。とにかく生きている人を助けなければと、何人か協力して、子どもとおじいちゃんを助けた。知ってる人も、多く亡くなり、自分は怪我もしないでここにいることがありがたい。家に帰って、自殺しようとも思いましたが、ひもを掛けるところがなく思いとどまった。この地震でたくさんのことを経験した。人の心の温かみを本当に感じた。

梅田彰：大柵町に住んでいる。4時半に1度目が覚め、再び寝た。5時半に起き、6時までゆっくりするつもりだった。いつもの地震だと思っていたら、揺れが激しくなり、何が何かわからなくなった。妻が寝ているところを懐中電灯で照らしたがいなかった。ガラスが散乱していた。とりあえず戸の透き間から外に出て様子を見ると、外はひどい状態だった。仕出しの仕事をしているが、1日前なら、5時半に店にいたので、みんな死んでいただろう。人との助け合いをした。妻は、つぶれた屋根の上に上ったりして、いつもながらしっかりと働いていた。自分は、高所が苦手なので、下の仕事をしていた。避難所にきてからは、ボランティアや自衛隊の方々、先生方、避難所のみなさんにもお世話になりありがとうございます。



## 被災当初にしたことは？

司 会：被災当時のことをお話ししていただきました。別の所で、もしこのようなことが起こった場合に備え、芦屋高校の避難所にやってくるまでにどのようなことをされたか、参考に、お聞かせください。

梅田彰：外に出て、人を助けた後、広いガレージに皆集まり、近所の人々の安否を確かめ合った。一箇所に、人が集まってくると心強い。当日は、夕方までそこにいたが、電気がつかなくなったり、他のところが満員などで、行き場がなくなった。ここに来てよかったと思っている。

梅田マ：どこで、誰を見かけたなど、知ってる人の安否の確認をすると、もっと助かる人も多かったらう。空き地・駐車場などは人が集まり、慰め合ったり、励まし合ったりして心強かった。

平 野：前に空き地があった。自分の家族と、近所の2家族が集まった。息子は他に援助に行った。息子が家の中に入り、毛布と布団を外に出し、台所を片付けた。余震がまだあり、ヘリコプターが飛ぶ中で、近所の人と、空き地にいた。その晩寝る場所を車の中にしようと話しているとき、裏の人が、県芦が開いていると教えてくれた。皆連れだって、県芦に来た。ボランティアの人、先生方、みなさんにお世話になり、狭い中、入れてくれたことを、ありがたいと思う。この震災で、自分の兄弟、主人の兄弟の心が見れた。人の気持ちが見れたことが自分にとっての財産だと思っている。

野口孝：家から出る時、玄関のドアが開かず、近所の人とお父さんの協力で外に出られた。いつもの入り口が、隣の家で2階でふさがれていた。山手の階段から外に出て、父の車で移動した。途中で、エンジンが止まり、どうしてよいかわからなくなった。友達の家で近くまで引っ張ってもらい、父と一緒に家に帰ってから、友達も誘って県芦に行った。

中 島：家の前が駐車場で、トラックが2、3台分の場所が空いていたので、そこにテントを張り、近所の方と無事かどうか確認をして励まし合った。食料を買い出しに行くことになって、

ダイエーまで行くことになった。ダイエーはいっぱいだった。ガスがだめなので、簡単に食べられる物もなくなっていた。水が大切だとわかった。情報を得るにはラジオが大切だとわかったので、家からラジオを持ち出していたが、乾電池がなかったので、それも買おうと思っていた。水・電池・人の温かさが、大切だと身にしみて感じられた。

野口良：地震の日以来、表に出られなかった。家の前に別の家がのしかかり、通路が塞がれていた。近くの嫁の母親を、助けに行った。あちこちの家が倒れ、人が誰かを助け出す姿を見ても、こっちもおばあちゃんを助けるのに必死だった。おばあちゃんの家は大丈夫だったが、横の家がもたれ掛かっていた。おばあちゃんを呼んでも返事がないので、中に入った。小さな返事が聞こえて、重いタンス2つがおばあちゃんの布団の上にのしかかっているのがわかった。肩でタンスを支え、おばあちゃんを救った。兄と妹の娘におばあちゃんを預け、自分は家に戻った。子どもを車に積み込んだ。そのとき初めて、お向かいと無事を確認した。子どもたちは車に積んでおいて、妹と一緒に自転車で東灘に行くとき、これほどの地震が起こったのかと思った。関東にもいたことがあり、震度4クラスの地震ならしょっちゅうあった。この地震の揺れは、船がローリング・ピッチングしているようだった。晩に行くところがなく、県芦が避難所になっていると向かいの人から聞き、一緒に来た。1日のたつのがとても早かった。入ってくると、おなかが空いた。心配なのは食事と水のこと。2日目、3日目になったらどうなるのか。子どもにミルクをあげられるか。来た日に、硬く冷たいおにぎりを1人1個食べたのが今までにない体験だった。

野口良：入所したときは、奥の非常出口の所に中田さんがいて、その横に滑り込ませてもらった。そのときは人がいっぱいという感じではなかった。隅の方に人が集まっていた。自分がそこについたのは、その日の午後1時か2時頃で、6時7時頃はもういっぱいだった。それからは寝る場所の確保に、場所取りをした。



自分の家族を含め5組が知り合いで、あのスペースの中で、着の身着のままで寝ていた。プライバシーはなかった。徐々に詰まってくると、自分の場所を仕切ったりして確保していった。だんだんと、人が増えてくると、この状態で2ヶ月は我慢しなければならないと思った。3ヶ月の終わり頃には、半分以上が出ていった感じだった。早ければ、もう少しはやく出れるかなと思う反面、どうにでもなれ、家はないことだしとおもった。生きてるだけでいいと思った。人間と人間のふれあいが一番の一番の財産ではないかと思った。

### おにぎり1つ

司 会：先ほどの、おにぎりは、いつ配られたのでしょうか。

野口良：17日の7時半頃ではなかったかと思う。各自ひとりずつ取りにこいとのことでした。うちには赤ちゃんと小さい子がいるので、代表で4つくれないうと、ダメだ、1人1つだということだった。そうゆう状況で、私も気が短くなっていたので、喧嘩になりかけた。それでも抑えて、何とかもらった。冷たくて、硬くて、芯があるようだったので、食べられなかった。それでも、腹が減っているので摘んだ。その後からは、徐々に物資が入ってきた。あの1つのおにぎりが、今でも残っている。

中 島：私と父は、地震の起きた3日後に来た。そのときは私は食堂に避難した。3日後でもそんなに混んではいなかった。日に日に、人が2人3人と増えてきた。どうなるのか、どうかなるんだろうということと、まだ地震の恐怖があったので、深く考えることができなかった。17日に買い出しに行ったので、食料で苦労はしなかった。大阪に知人がいたので、車でおにぎりを買ってきて、持ってきてくれた。食料に困ったと言うより、水だけは困ったというのが実感。仮設も当たっていくのだろうと思っていた。でも、1カ月2カ月たっても、そんなに人が減っていかない。地震当初より、1カ月2カ月たってくると、みんなの意見もバラバラになった。落ちつくといろんなこ

とを考える。県芦にいた時の生活は、一生残ると思う、またいい勉強になったと思う。

### ここでの一番の印象は

司 会：最初に、ここに来て一番強い印象を受けたことは何がありますか。

中 島：近所づきあいはそれなりにしてきた。他の市町から来ている人もいたので、いろんな人がいること、自分も悪いところがあるというのがわかった。人それぞれ意見が違うのがわかった。人と人のふれあいが大切だと実感した。力を合わせると何とかやっていけるということが一番印象に残っている。

野口孝：避難所にはいったとき、近所の人が出て、その近くに場所をとった。食事は、1人につきおにぎり一個。最初は、おにぎりが硬かったり、芯が残ったりしていたが、だんだん軟らかくなってきた。この避難所で、今までの地震を思いだし、恐いなと思ったりして寝られなかった。最初のうちは、人がいっぱいいたので、緊張していたが、なれてくると、知らない人にも声をかけることができてきた。

司 会：友達も一緒にここに避難していましたか。

野口孝：友達は、法兼さんの家と、2月27日ぐらいに小川さんの所、原田君の所も避難していました。

司 会：友達とどんな話をしましたか。どんな時期から遊びましたか。

野口孝：友達とはいろんなことをして遊んだ。カードゲームのウノで遊んだりしました。

梅田マ：当日の夕方ここに来た。最初は、さくら保育所に行くか、福祉センターに行くか、悩んだ。さくら保育所は、建物にひびが入っていて、大きい地震が来た場合、危ないということで、福祉センターに行くことになった。とりあえず毛布や、貴重品など取り出せる分を持って、娘と二人、場所をとるために先に行った。ところが真っ暗でいつ電気がつくかわからないので家に戻った。精道小学校に行こうとしたが、いっばいで入れない、芦屋高校の方がまだ空いているらしいと聞いた。荷物を持ってくると、たまたま娘の同級生に会い、柔道場か、卓球場が空いていると聞い



て、卓球場の方にはいった。まだそこにいる。来たときは、思い通りに場所がとれたが、1時間もすると、いっぱいになり最初にとったスペースのまま今も暮らしている。ご飯や水がなかったが、むしろ食べられたことに感謝している。顔や体も毎日洗うことができなかつた点がつらかつた。3月半ばくらいに落ちついてくると、仕事がしたくなつた。仕事ができない状態なので、これから先の生活が不安だつた。どうしようもない、1人で焦つてもしかたないので、成り行き任せで、時期を待っている状態です。

**梅田彰**：夕方暗くなりかけていた。5時か6時頃だつた。精道小学校も福祉センターもダメなので、ここの卓球場に来た。そのときはまだ、かなり空いていた。寝るときにはかなり混んでいたの、足を人に当たらないよう曲げて寝なければならなかつた。夜、卓球場の戸を人が出入りする時の音が、地震の「ゴー」という音に聞こえて、なかなか眠れなかつた。2階には人がいっぱい、今度地震が来たら、2階が落ちてくるのではないかと思うくらいだつた。天井を見ると大きな柱があつたので、今度地震があつたら、その柱が落ちてくるのではと心配だつた。食料に関しては、西宮にいる娘の友人が、まだ開いている店でならんで買ってきてくれた。このあたりの店が全部ダメだつたので、次の日の朝、中央市場に行った。何もなかつたが、何か食べないとおなかが空くので、ガスも何も使わず食べられるミカンを箱で買ってきた。水がないので、普段は見向きもしない宮川の水をよく利用した。近所の西法寺の近くの道で、水道管が破裂し、水が吹き出ていたので、皆、道に流れる水をくんでいました。いろんな体験をしたが、他の人と比べると自分はずいぶんついでだと思ふ。

### 食料・物資の配給について

**司 会**：入所当初1週間から10日にかけて、食料・物資の配給にいろんな混乱があつたように聞いています。

**梅田マ**：その日からボランティアの方に大変お世話に

なつた。よくしてくださつた。何でもいって下さいといつてくれて、とても嬉しかつた。その逆の立場になつたときに、自分にできるかな、自分だつたらどうすればよいか全然動きがとれなかつたのではないかと思ふ。自分も何かの役に立っているのかと思つた。

**司 会**：食事について、どんな物が出てきたかとか配給の様子など。また、それに関わることが何かありますか。

**梅田彰**：食事は初めは何でもおいしかつた。入つてすぐに、お寿司をもらいとてもおいしかつた。もらつてもいいのかなと思つた。しばらくしてから、普通のお弁当にかわつた。食事は十分もらつた。水も最初は制限があつたが、自衛隊やその他から運んでもらい、十分あつた。その点はとても感謝している。自衛隊は2、3日で……

**野口良**：1週間くらいでは……

**梅田彰**：近所の人埋まつて、それを掘つてくれたのが自衛隊の人だつた。

**野口良**：それは確かに早かつた。ただ、自衛隊が、ここの学校に水を持ってくるのにだいたい1週間くらいかかつた。風呂にも入りたかつたし、水がとてもほしかつた。食事については全く覚えていないが、しばらくの間おにぎりはずっと出ていた。おにぎりについてくる物は全然覚えていない。缶詰があつたかな。

**梅田彰**：カレーとか、暖めるもので、コロッケや、ハンバーグ……

**野口良**：1週間か10日以降に、物資等が来たようだつた。食事の状態は覚えていない。覚えているのは、硬かつたというイメージだけ。

**野口孝**：お昼に、ざるそばがあつた。

**野口良**：ウーロン茶かな。食事に関しては、やっぱり硬いということしか覚えていない。おなかが減つていたので、おいしかつた。量的には少ない感じがした。うちは5人家族だから。欲しがらなかつたような気がする。お腹は空いていても、そんなに食べられるような物でもなかつたから。お腹が膨れて残ることもあつた。子供らも、お菓子をもらつても、残してたまつていった。子供らに物を食べさせてあげたかつたので、軟らかい物、ジュース等・



牛乳が欲しかった。1週間ぐらいで、どこかのローソンが開いているときき、買いにいった。だいぶならんだ。小さい子のための牛乳が、一番困った。食べ物、学校のことがどうなるか気になった。粉ミルクの配給は、1月の末に一部あったと思う。その後、他からももらったと思う。3カ月もたつともう忘れていた。物資については、県産は豊富だった。法兼さんが役所の人で、担当が物資の方だったので、どんな物資があるかという情報が逐次入っていた。物資は山積みされていた。いる物があれば、体育館の物資を出せといわれた。米が何トン入ってきたかもわかったが、米をもらっても炊く物がなかった。とにかく物資は南高校に山積みしていると聞いた。ただ、役所関係が対応が悪かった。今でも頭にきている。市長は10から15日くらいたってから来た。市長を目の前に、文句を言った。全体的には、県産は良かった。食べ物も良かった。

中 島：一番嬉しかったのは、水。水や電気は当たり前のもので、本当にありがたかった。学校でコンロを設置してくれ、吉田さんと一緒にすき焼きを炊いたときのおいしさに感激した。いろんな物をいただき、いいのかなと思った。神戸の友人と話して、芦屋は物資が豊富だと聞いた。今のお弁当も、神戸は県産と違った物を食べてると聞いた。県産は1日3食ついているのに、その友人の所は、2食で、ときどき1食の時もあるときき、とてもありがたいと思った。地震当初のことは頭に残っているけど思い出したくない。一番印象に残っているのは、阪神梅田から甲子園まで電車が通ったとき、芦屋の人が、そろそろと甲子園まで長い距離を歩いていく姿。物資は本当にありがたかった。自衛隊の人にはお礼を言えたが、ボランティアの方には、1人もお礼が言えなかった。この場で先生方にもお礼を言いたい。いい出会いができたと思う。

### 温かいものを

野口孝：震災からだいぶたってからも炊き出しがあっ

た。ぜんざいやボランティアの方々のコロケ、いろんな所から炊き出しに来てくれるので感激した。ボランティアの方々が、本部前で開いたホーリーという喫茶店で作ってくれる飲み物がおいしかった。いつ頃は忘れたが、物資で一人三本の水が嬉しかった。いろんな救援物資が来て、ありがたいと思った。1人代表で二階の物資を取りに行くのでは、缶詰・おにぎり・ざるそばがあった。最近、班毎に配られる分では、白ご飯・お寿司・豚カツ・コロケ・唐揚げなどで、だいぶ良くなってきている。

梅田マ：先ほどの、ボランティアの人たちがしてくれた喫茶店がとても嬉しかった。お湯を沸かせなかった時に、喫茶店でコーヒーがもらえるよと聞いた。そこで久しぶりにコーヒーをおいしくいただいた。家では、起きるとすぐコーヒーを飲んでいたので、とても嬉しかった。物資については、最初は受け付けでならべていたのを知らず、行ったときには自分に合うサイズはもうなかった。あるなと思ったらずでに他の人がとっていた。中には喧嘩する人もいたので、先生方が見かねて班毎に分けてくれた。それでみんなの手に物資が届いたときには嬉しかった。一番物資の中で嬉しかったのは、水とティッシュペーパーだった。ここに来て一週間ぐらいで風邪を引き、せきや熱がなかなかおさまらなかった。薬をいただきに行ったらいいよと聞いたけども、買いに行く気力がなく、受け付けで薬をもらって飲む気もなかった。風邪が治るのに一ヶ月かかった。いつもなら、薬ももらわず仕事をやるが、今回だけは参ってしまったので、薬をいただき飲んだ。薬をもらいに行くのがおっくうだった。物資を班毎に分けていただいたときは、皆に平等に行き渡った。でも、同じ品物、タオルでも薄手と厚手の物があると、「私はこのぶ厚いのがいいのよ。」という人もいた。そういう気持ちを抑えて皆と同じようにいただき、お礼を言うべきなのに、これが上等だからいただくというあさましい気持ちには情けなかった。自分がそれが欲しかったからではなく、それを見たときには悲し



かった。人はこういうときに本音が出るんだなと思った。

梅田彰：物資も食料も十分いただきました。一週間ほど冷たい物ばかり続き寒い時期だったので、温かい物がとても欲しかった。自衛隊が精道小学校にお風呂を開いてくれ、そこに入ったときはとても嬉しかった。何気なくはいっていたら、テレビカメラが入ってきて放送されるかもしれないと言われたのを覚えている。ボランティアのみなさんが、寒い時期だからと、いろんな温かい物を用意してくれたのがとても嬉しかった。ほかほかカイロにはみんな喜んだ。宗教の方が、宮塚公園で用意してくれた温かい物をよく利用させていただいた。ありがとうございました。

司会：一年のうちでもっとも寒い時期で、寝られるとき非常に寒かったと思いますが、そのへんについては。

梅田彰：卓球場は、一時、70～80人避難していたので、その熱気でむしろ熱いくらいだった。二階の人は天井も高く、とても寒いと聞いたが、毛布もいただいたので、さほど寒さを感じなかった。

野口良：二階は、広々としていて、また窓が10センチほど閉まらない部分から風も入ってきて、敷いている物は固い畳とマットで、足がとても冷えた。あの時点で一番喜んでいただいたのは、ホカロン。足に引っ付けたり、毛布の下に潜り込ませたりした。私達がいたところはちょうど非常口で、生徒が物の出し入れに大きな扉を開け閉めして出入りしていた。夜でもそこからトイレに出入りしていたので、一番寒かった。広々としていて、2階の上の方は今でも窓が2～3ヶ所閉まらないが、そこから風がよく入ってきた感じだった。寝るところがあるだけ良かった。柔道場は、窓に露がついていたので、暖房が入っているという人もいた。暖房なんかはいっているはずはないといった。天井が低く、人が多いとある程度温かくなるし、天井が高いと寒い。

野口孝：最初、避難所の2階は広くて、人数は500人以上だったので、暑苦しいと思っていたけど、そのうち寒くなってきた。夜も、布団をか

ぶっても寒いことが多かった。

平野：他に比べたら、ありがたいと思った。ビニールの畳もあったし、人数も多いので毛布2枚で十分だった。暖房が入ってるように見えたかもしれないが、それはなかった。今の方が、人数が減って本当に寒い。食事の点で、私は透析をしているので、おにぎりは塩分がきつく食べられなかった。透析の後に、本部で紅茶いっぱいだけもらうのが本当に楽しみだった。物資の配分については、おばあちゃんがお昼にもらってきてくれて、班で分けるときも、余ればジャンケンで決めようと、リーダーの武田さんが言ってくれた。和気藹々として、今より楽しかった。ホカロンが一番嬉しかった。大阪まで透析に行って、温かいご飯を病院でいただいたとき、涙が出るほど嬉しかった。看護婦さんや患者さんたちが、自分の家にある物だと言って、神戸から来た人全員に行き渡るようにしてくれた品物にとっても感謝している。あれは買ってきてくれた物だと思う。そこで、温かいご飯をいただいたこと、自分の好きな物を言うと、サンドイッチを作って出してくれたことが一番嬉しかった。涙が出た。歯ブラシや、みかんなども患者さんが用意してくれた。帰ってきてよばれる紅茶が一番の楽しみだった。そこのお兄ちゃんたちも、今でも元気かと声をかけてくれて嬉しい。

### 食事をめぐって

司会：3～4月にかけて避難所が落ちつくまでの食事の内容について、特に印象に残ったことは何ですか。食事がだんだんと変わっていき、炊き出しにいろんな団体が参加されました。また、いろんな方々が、2～4月にかけて、転居されました。避難所の運営も、リーダー会議が、2月当初は毎日あったのが、3月になると、週に2回となりました。どんな事でもいいです。

梅田彰：ある日何気なく3時頃部屋に帰ってきて、誰もいなくて、卓球場だけが、班長さんが決まっていなかったので、頼むと言われた。僕しかいなかったのが班長になってしまった。食事



は、外から来た人もいたので、混乱した。最初は、1階と2階とでわけた。少し変わったおかずや寿司等の時は足らず、普通の弁当の時は多く余るのが続いた。食堂と剣道場と卓球場の分をもらい、分けている最中にぱっと持って行ってしまう人もいた。喧嘩になったが、最後にはお世話になったとお礼を言いに来た。

梅田マ：いつの頃からか、炊き出しがバレーコートで始まった。最初は様子がよくわからなかったのと、気がまわらなかったので手伝わなかった。自分が何ができるかもわからなかった。でもやってみると割と、皆とわいわい言いながらおもしろい。知らない人とも話すようになった。本部前、プールの横にテントを張ってもらい、水田さんを中心に、炊き出しが本格的に始まった。それから手伝いが常連になった。出しゃばって申し訳ないと思う。終わりになって少し寂しい。個人的にもいろんな事も言われ、主人はやめて、私だけ続けることになった。リーダーとしての立場もあるし、二人いっぺんにやめると、今まで手伝った人が何でなくなったのかと思うので主人だけやめた。その中でも、野口さん、平野さん、水田さんを中心に、岡本さん、米田さんいっぱいいい人もいた。ここを出られた方もいたがそのときは悲しかった。涙も流した。これから自分が出ていくときは、みんなに会いたくないから、だまって出ていこうかなと思った事もしたが、ああゆう人だったのかと思われるのも癪だ。しかし、自立していかないといけないし、ここも閉所する。またそのときに考えようと思っている。野口さんを中心に、私の家族、平野さんも一緒にご飯を作って食べることにした。足りない物の買い物に協力したり、ご飯ができたときも家族のように声を掛け合い、こういう人もいたのだと思った。こういうことがあってはならないが、もしあれば、またよろしく。

平野：野口さんや皆さんに本当にお世話になった。炊き出しで、一番悲しかったことは、岡山から、焼きそば・焼きうどん・豚汁が来たとき。〇〇さん（選挙立候補予定者）がテレビカメ

ラをつれてきて、前のおねえちゃんに、「あんた、いい服着てるね。」と言った。その人は知らん顔して横向いていた。そんな事言ってもんじゃないと後ろの人と話してたら、今度は私達の方に来て、「お宅らも、どういうふうにしたんですか。」ときく。「私らは、おばあちゃんがもらってきたのを着てます。」と言うと、「青少年センターに行きなさい。いくらでも服もらえるから。」と言った。「私乞食じゃありませんよ。」と言うと、「そういうことを言ったんじゃないんです。向こうへ行けばいくらでもあるからもらえますよと言ったんですよ。」でも、そういう解釈はできなかった。その炊き出しに並んでいたけど、列からのいた。自分はきちんと背広を着て、テレビカメラを回して、避難している者に言う事ではないと思う。腹が立ったのでそばをもらわずに帰ってくると、子どもがそばはときく。代わりにおばあちゃんがもらいに行った。野口さんにはお世話になった。主人と食事に呼ばれ、初めて白いご飯を食べたときは、本当に喜んで食べた。

野口孝：水田さんの炊き出しと、お父さん、おかあさんが食事を作ってくれたのがとてもありがたいと思った。

中島：いろんな人と知り合ったことや、梅田さんに「おはよう」と言ってもらったこと。こういった当たり前のことができない人もいる。初めは世帯数の少ない食堂にいた。吉田さんや、和田さんと知り合えた。3月からアルバイトで仕事に出るようになった。いつまでもくよくよしていても仕方がない。生活を戻していきたいという理由で、アルバイトでもいいから行きたいとずっと思っていた。地震で忙しくなった吉田さんの店を手伝いに行くようになった。吉田さんをきっかけに、梅田さんご夫婦、野口さんご一家とも知り合えた。地震をきっかけにいろんな人と知り合えたことが勉強になり、ありがたい。父と2人なので、野口さんご一家と一緒に、大勢で焼きめしを食べたときのおいしさが心に残っている。ありがとうございました。

野口良：一つの屋根の下で、皆と一緒にご飯を食べる



とおいしい。もともとキャンプのような生活が好きなので、大勢で食事するのが好き。ただ、多くの人と知り合って、子どもがよくかわいがってもらいお世話になった。先生もよくしてくれた。その反面、他の人からうらやましがられ、妬まれることもあった。でも、みんなのお陰で、子どもも知恵がつき、いろんな事を覚え、今では自分の事を自分でしているので安心して居る。長男が頼りないので、心残りだ。マーシーが一番頼りになる。長男は、病気があって運動もできず、甘やかされたので、何事も自分でできるというわけではない。この地震をきっかけに、皆と知り合えて一番良かった。人間として、楽しいこと、腹の立つこと、いろんな事を経験した。一番感じたのは、ボランティアの皆さんのしてくれたことで、焼き肉、焼きそば、焼きうどん。一番嬉しかったのはぜんざい。今でもその温かみを忘れられない。あとは、皆さんの気持ちに触れられたこと。女房に、ご飯を炊くなら多めに炊くように、残るのならあとみんなに分けて食べればよいといった。それが自然にみんなで集まって食べるようになった。冷たい弁当より、温かい飯の方がいいし。ご飯を炊いたり、おかずを作ったりして、早く自立しようとした。妬む人もいた。食べていたら、人間として他の人に声をかけたくなる。水田さんも、料理屋さんでよくやってくれた。勝手気ままなところもあるが、炊き出しになったら帰ってきてやってきていた。炊き出しも終わりで、水田さんも仮設が当たって、子どもみたいに喜んでるのが印象に残った。皆と一緒に和気藹々とご飯を食べ、良かったと思う。ありがとうございました。

### 今後への決意

司 会：今後の予定、決意または抱負をお願いします。

野口良：今月20日過ぎから仕事にかかろうと思う。住宅事情もあり、長男が精道中学に行くようになり、仮設からでは40分かかりそうだから、自転車通学ができればよい。いい返事はまだもらえていない。女房は今年は仕事せずにゆっくりすると言っている。これからは成り

行き任せ。いつ仮設から出て、市住なり、アパートなりに住めるかわからない。できれば元の住居に住みたいが、無理なら、宮川町内にいたい。皆さんと別れるのもつらい。どうやっていけばよいか考えつかない。時間がたつにつれ、自分は年をとり、子どもは大きくなるからこれからは心配だ。一番下の子が結婚して、子どもができ孫の世話ができればと思う。一生懸命働かなければならないが、タクシー業界も不況で、今年の10月頃から運賃を上げるそうで、お客さんが減るのはと心配している。将来、長男が早く結婚し、孫の顔を見せてくれるのが楽しみだ。

中 島：5月22日に避難所を出る予定。私はコンピュータの資格を持っているので、その仕事に戻りたい。今の仕事も楽しいので捨てるのはいやだけど、好きなコンピュータの仕事に戻りたい。特に私はまさし君と別れたくない。子どもが大好きだから、早く結婚して子どもが欲しい。3月の初め頃から自分の生活に戻ってきているので、これからは仮設から通うことになるので不安はあまりない。とにかくがんばる。

野口孝：地震前のような生活がしたい。弟たちの面倒を見て、これからも一緒に遊んであげたい。高校にはいるときは是非とも県立をがんばってみたい。

平 野：川西グランドに仮設があたり、息子だけが入っていて、私は先生に頼み甘えさせてもらって1ヶ月ほどいさせてもらっている。本当は出ていくつもりで、主人と荷物を取りに来たけどもう少しよいかと思う。米田さんたちが一緒に出ようといってくれているので、いつ出るか決まっていらない。できれば今度の日曜日くらい。息子を1人だけおいてるのが心残り。息子は食料はここで頂いた、インスタントカレーや、シチュー、ハンバーグ、缶詰をおかずに、ご飯は自分で炊き、サラダや卵は私が持っていつている。おばあさんも高齢なので、元の土地に家を建てようかと思っている。おばあちゃんが足してくれる分と、夫の退職金の前借りで。息子は、私達と一緒に仮設に住むことをいやがってたが、



今月いっぱいみんな避難所を出るからと言うと、納得していつ帰ってきてもいいよと言っている。長い間お世話になりありがとうございました。みんなと別れるのが寂しい。先生方、ありがとうございました。

**梅田マ**：地震前に夫婦二人お世話になっていた奥さんと大将が、また店を手伝って欲しいということなので、店がつぶれてしまっていつ再開するか分からないが、遠からずお世話になると思う。成り行き任せで約4カ月きたが、これからはわからない。仕事が始まったら、がんばりたいと思う。住まいは仮設なので、皆気持ちは一緒。炊き出しのことで、本格的日本料理の資格を持っている和歌山の松本さんが戻られ、炊き出しを手伝ってくれた。それから、釘煮をしてくれ、1つ100円で売った。売り上げは避難者一同からの義援金として、芦高の入学式に花を飾ったところ、通りかかった人がここはいいお金の使い方をしていると言ったそうだ。それを水田さんが聞いて、とても嬉しかったと感激された。それ以来、松本さんから始まり、炊き出し1口100円でカンパしてもらい、5月13日の避難所親

睦会を開くことができ大変盛り上がった。この値段に文句を言う人もいて、そのお金で自分たちの食べ物を買っているという人もいたが、そういう事は一切ない。このカンパは、県芦の避難所閉所の時、自分たちがお世話になった印に全額残していきたいと思う。先生方、心から感謝しています。ありがとうございました。

**梅田彰**：とりあえず頑張る。皆さん本当にお世話になり、ありがとうございました。

**野口孝**：県芦にはいって富沢君みたいに、自治会長になりたい。

**司会**：2時間半近く、避難所についてそれぞれ語っていただきありがとうございました。今回の震災は、ひとりひとり、芦屋高校という組織、芦屋市という公共団体にも大きな教訓を残し、そこから学びとることも多いと思います。今日の座談会の文章も、何らかの形で、ゆくゆくは人々の中で有効に活用され、良き思い出とできるように、これからも頑張っていきたいと思います。今日はありがとうございました。

〈編集／佐和良一、記録／枝澤百合子〉





# ボランティア座談会

1995年5月16日 於 あしかび会館

(出席者) アドバイザリースタッフ A、B

本校生ボランティア ①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧

- ①：全国の皆さんこんにちは、県立芦屋高校その他  
諸々です。皆さん、まずお疲れさまでした。1月  
17日に地震が起きまして、どうなったのですか。  
まずアドバイザリー・スタッフの2人に聞いてみ  
たいと思います。なぜボランティアをしようと思  
いましたか。
- B：〇〇君が働いていたので。
- A：人が足りないから、手伝ってくれって。
- B：手伝ってくれっていわれて、気付いたら、何か  
やってたと。
- A：夜と昼がなかった。
- ①：昼に寝てたんですか。
- A：そう。夜の方が忙しかったんわけや。
- ①：17日はどういう状況でしたか。
- B：体育館がいっぱいでした。
- ①：誰が指示とかしてました？
- B：そんなん指示しても誰も言うこと聞いてなかった。
- ①：みんな避難して、場所確保して。
- B：そう。
- ①：その当時はどういうふうボランティア活動をし  
ましたか。
- A：救援物資を、ちゃん、昼飯とか晩飯を自分らで仕  
分けして、自分らで配りに行って、余ったのを2  
号線に出しておく。
- ①：一番初めの食料、いつ来たか覚えてますか。
- B：17の夜。
- ①：何でした。
- B：おにぎり1個。
- A：ほとんど寝てないで。夜に訪れてくる人、多かっ  
たやん。道が混雑しとったし。そやから、夜まで  
ずーっと起きてて。
- B：救援物資だって、午前2時にくるから。起きとか  
ないと。太陽登ってる時に起きてる人と、沈んで  
る時に起きてる人とに分かれてん。
- ②：それじゃ具体的に何してたのかというのを聞いた  
いんですけど。最初の仕事は。
- B：名簿作り。
- A：救援物資とか、分けにくかった。
- ⑥：班って、なかったんですか。
- A：班はその時全然なかった。班ができたんはかなり  
後。だからとりあえず、ある程度に分けるやん。  
それを例えば、体育館やったらそこにおいて、1  
人ずつならんで取りに来てください。
- ⑥：あ、そうなんだ。
- B：体育館の2階やったら入り口に全部並べて「今か  
ら配りますので、こっちにならんで下さい。」と  
か言って、ならばして……
- ②：私達が来た時もそうでした。
- A：だから、そんなんやったから、飯もおにぎりが  
余ったりしたわけや。
- ⑥：炊き出しとかは、いつからですか。
- B：ずーっと後。
- A：炊き出しとかは、もっとずーっと後。一番初めに炊  
き出しやったんは、先生らちゃうかな。
- ⑥：あ、そうだ。お汁粉かなんか。
- A：お汁粉かなんかやってくれたんやと思う。
- ⑥：それで、自衛隊の人がやってくれたん。で、味が  
濃かったんだ。
- ②：最初の頃の救援物資ってどうゆう物があつたんで  
すか。
- A：うーんと、やっぱ、飯とかちゃん。インスタント  
ラーメンとかもっと後のほうやったし。
- ⑦：ご飯とかが、ちゃんとしたお弁当とかになったの  
はいつですか。
- A：ずーっと後やった。ほんまずーっと後。もう最初  
の頃の飯とかいうたら、おにぎりがまとめて来ん  
ねんな。
- A：サララップで10個ぐらいくるんであるやつが、  
もう腐るほど来て。
- ⑥：あ、6つまとりて、3つ3つに分けて……



- ②：バナナとか来てました。  
A：そう、バナナと缶詰。  
⑥：しかもあのよく腐った。  
②：そうそう、バナナよく腐らせてたもん。  
A：缶詰なんて、やっぱ、中途半端な数やったわけやから、あたる人全員が同じ種類かというたら全然違うしな。  
②：食べ物以外の救援物資。  
A：食べ物以外の救援物資なんてもう、配りようがなかった。  
②：でも、来てたんですか。  
A：来とった。  
⑧：で、毛布とかは。  
B：毛布は、1月の終わり。  
⑦：電気って、地震の当日からついてたんですか。  
A：ついてた。  
B：ついてた。  
A：電気は戻るの早かったな。  
②：電気は戻るの早かったから。  
⑦：芦屋、早いなあ。  
④：うちが来たぐらいの時って、体育館の中、土足禁止やった。  
B：土足？  
A：たぶんそれは、俺らじゃなくて、そこに住んでいる人らが、生活の場所やから、土足禁止にしよって感じになっただけ。  
⑥：元々禁止だから。  
②：うん。紙張ってたもん。  
A：あんな土足禁止にしたらんは、全部避難者の人ら。  
⑥：でも初めは、換気も私らでやんなきゃだめだった。  
②：そうや、換気やってたよね。何か、時間決めて、10時と2時やったよね。  
⑥：そのうち、言ってやってもらうようになって。  
②：そうそう。  
B：そんなもん言うだけやで。  
⑥：言うだけで、あんまりやってくんなかったよ。  
⑧：結局おまえがやるしかなかった。  
②：開けたら、寒いって文句言われんの。  
⑥：ごみ収集車っていつ来たんですか。  
A：ごみ収集車は、かなり後。俺が来て、22・23ぐらいに来たんちゃう。  
②：冬で良かったですね。  
⑦：電話での問い合わせとかいうのは。  
A：あった。あっ、それ、むっちゃあってん。電話と人捜しにめちゃくちゃ追われとってん。  
⑦：じゃ、はじめは対応はボランティアがやってたん。  
A：そうや。  
⑦：いつから市の人に代わったん。  
A：知らん。いつのまにかとられた。あれえ、俺らの仕事は、とかいって。とられててん。いつのまにか。  
④：そういえば、名簿とか人捜しみたいなのんとか市の人がやってた。  
A：それもとられてん。あれとられたん、痛かったで。やることなくなったもん。  
②：後なんか、私が当初やったんで覚えてるんは、広告っていうか、何か、チラシみたいのんがいっぱい届いて、そういうのいっぱい張ったりとか。  
⑥：伝言板。  
②：あ、伝言板もやった。  
A：伝言板？それって、電話で受けたやつを書いて張ってくれとかちゃうかった。  
⑥：それとか、後、市の方の医療どこで……  
②：そうそう、それぞれ。  
⑥：窓に張ったりして。  
②：ここのお医者さんがやってますとか。  
A：ああ。  
⑥：後、段ボール配りとかね。  
②：段ボール。  
A：それっていつ頃やったっけ。  
⑥：だいたい後。26か。  
②：うん多分そうや。私いなかったもん。  
⑥：26ぐらいちゃう。  
A：で、25ぐらいに、多分、ケツが寒くて言われて。  
⑧：ぼくが多かったのは、受け付けで訪ねてきた人の対応。  
②：後は何してた？お掃除して……  
A：そう、掃除とか、便所掃除しとった。  
②：あ、トイレ掃除やった。  
⑥：やったやった。  
②：ごみ？  
⑥：ごみの仕分けもした。  
②：だけど最初はやってなかった。  
⑥：最初は仕分けしないでごっちゃにしてた。  
⑧：あの頃は全部、入れたらもってってくれてん。



②：カンも、瓶もそういうなにもかも。  
B：人がせっかく分けたのに。  
⑥：後、どんだけか経ってからよ、分ける話になったの。  
②：今までやってたんは何やってんやと思った。  
A：最初の頃は救援物資でカップヌードルが、むちゃくちゃ来て……  
②：来た来た。  
A：来たな。  
A：お湯を炊こうと。  
A：あの時はまだ、喫茶ホーリーはできてなかった。で、避難所のおじちゃんが、「そっち風がきついやろ。」とか言って、「こっち側移せや。」とか言って。喫茶ホーリーの場所に移ったわけや。そっから、〇〇さんが作り始めてんな。  
B：そう、黙々と。  
A：黙々と、何作ってんねんて感じの。出来たら、「おう。」って。そこで、コーヒー炊こかってなりだして。喫茶ホーリーできたわけやな。それら辺から、ボランティアの子らも結構仕事が多くなってきたんちゃうかな。  
②：あれでも、水がいっぱいあったからできたんやね。  
A：水は10トンぐらい。  
B：10トン。夏なったら、プールが出来るって。  
A：10トン来て、贅沢なほど来て。救援物資で来とってんな、コーヒーが。来とったからコーヒー炊き出して。  
B：いろいろ増えてきて、スープとか出てきて。  
A：何しろ、名前付けようかという話になってしまっ  
て、思わず「ホーリー」。  
B：誰も賛成してへんねんけど、勝手に段ボールに「ホーリー」って書いてあんねん。  
A：あれはなかなか繁盛したと思うよ。  
B：繁盛って、金取ってないやん。  
A：最初は救援物資だけで、ホーリーをやろういうことやってんけど、な。いつの間にやら、コーヒーを用意せえとか、送ってくれとか、こっちから要求し出して、  
B：我俣になりだした。  
②：新聞にも載ったし。  
A：やっぱり市役所のおじちゃんたちの話もしとかなあかんし。  
②：市役所のおじちゃんは……

A：市役所のおじちゃんとかと、市役所がある程度、形が整ってきた時に市役所とうちらと対立した事があったし。もうわたしボランティア辞めるとかいうて、泣きながら言い出すもんもいて。ま、イライラも溜まってくるわな。で、何か気づいたら、〇〇町の人らと対決した。何かうちら、ボランティアやとった横で、別の事をやろうと。何か〇〇町だけでまとまりを作って、〇〇町でやっていこうやないかって感じ。  
②：町だけで？  
A：うん。でやろうとしとって、俺、最初、それ気付かずに、何か言い合いとなつて。あのおじちゃん何しろ泣いちゃったんや。覚えてる。泣いたわけで。  
B：いじめたんちゃうで。  
A：いじめたとかじゃなくて、地震があつて、近所の人が死んで、そういうのがあつて。壁をガーンとかなぐりだして。床か。「悔しいんですわ。」とか言うて泣きだしたから。思わず、俺も泣きそうになったけど。マジで……そういうこともあつたし。何かいっぱいあつたよね。  
B：自分らの知らない間に。夜なったら、うちら恐いもん。  
③：確かに恐かった。  
A：夜なったら、夜の仕事っていうのは実は一番しんどかったんやん。昼間は昼間で、楽しかったけど。おまえらが帰ってった後が……  
B：忙しかった。  
②：9時には全員帰ってた。  
A：その後が、地獄のように何か、話し合いとかがな。  
B：そう、ミーティング。  
A：ミーティングとかで。だから、対立とかあるわけや。意見のまとまりがなかったり。  
②：それはでも、私らも。  
A：おまえらも1回あつたけどな。俺らにもあつたわ。  
B：しょうもないことです。ほんましょうもないことです。  
A：何か飯の配り方は、どうやこうや。救援物資はどうすれや。あの対立はいつまでも続くから。ちょっと本音言わしてもらったら、おまえらボランティア来た時も、常におまえらは、俺らの下で働いてくれというような感じが本音やったわけや。  
B：だから、前から言ってるけど、ボランティアをボ



ランティアするボランティア。

②：ボランティアのボランティア。

A：何か、最初からおれらが中心やったわけやん。やっぱし、俺らが。何か、とられたくないってのはあるやん。実は、あったわけやね。何か、他の奴も俺を乗っ取るんかって感じ。あったわけやって。

B：たぶん、レギュラーメンバー全員そう思った。

A：全員そう思った。

②：じゃ、もう、あの交代の時なんか。2月の最初。

A：嫌やったよ。実は。

②：もうみんな、いなくなるって話になってましたよね。

A：嫌やったんや。だって、中心やったから、ほんなもん渡してたまるかって感じが。

B：それもあったし、ここの生活がおもしろかったっていうのもあるけど。

A：だから、今一緒におって一緒に仕事するんはいいけど、俺らが邪魔もんになってくるんちゃうかという不安があったわけや。おまえらが来たことよって。それがごっつい嫌やったかな。

B：県庁で、ボランティアしようと話聞いた時と、来て、こいつらとやるんかと思つた時の印象。

②：あのね、あそこまで、力仕事が多いと思わなかった。いきなりの仕事が、水運びだったから。後、もっとボランティアっていったら、堅い感じの人ばかりで、ひたすら働かなきゃいけないのかなって思ってた。

②：社会人のおじさんばかりかなって思ってた。だから……

A：嫌やったやろ。

②：嫌じゃなかったです。だから、あまり来る前は乗り気じゃなかったんですけど。まあ、おもしろそうかなって。

A：そうやって、脳天気考えるたちやもんな。そんな堅くすんのは嫌やし。

B：脳天気が集まる。

A：脳天気が集まってしまったから、たまたま。

B：脳天気が集まったから、脳気なグループしかでけへん。

A：それが良かったんちゃうかな。

②：でも、最初はね、もう既に組織的に、皆、ちゃんと動きが決まっていたから、入りにくかった。

A：でもそれ、ただ単に、入って来るってなったから、よっしゃ組織作らなあかんわって感じで。俺らが組織を作って、それを後継がせるって感じで、しなあかんて言われとったもんな。嫌やったけど。

②：何か、よくまとまってるなと思った。だから、対立があるとかわかんなかった。

A：対立はいっぱいあったもん。

B：うちら戦ったもんな。ぎょうさん。

A：目茶、気に入わんかった事もあって。

②：③くんいつ来た？

③：俺だしぶ遅かったですね。

A：何日ぐらい？

③：29日ぐらいかな。あの、ほとんど家追い出されたから。「あんたボランティアでも行きなさい」いうて。家おっても、一応仕事してたんですけど、とりあえず「邪魔やから、行け。」と。そう言われて、ちょっと腹立ってたから、最初。

②：腕章付けてましたよね。最初。

A：腕章？

③：ああ、青いやつ。

②：そう。

A：あれは、とりあえず、ボランティアっていうことを証明せなあかんああって。

③：気付いたら、はずしてた。

A：でも、一応、最初の方は付けとったで。便所掃除もまじめにやとったしな。

②：（当時の記録を見て）うーん。何か、これ見てたらいっぱいもめ事してたん思い出すわ。3月や、2月やら。

A：もめ事。

②：うん。

A：もめ事か。

②：洗濯機の事とか。

②：うちらどうしのことでももめてたやんか。トレセンで何回話し合ったか。

A：①、ここだけの話しやけど、逃げてたやろう。すべて俺が悪いんです。」って。

②：そうそう。

①：面倒臭いもん。面倒臭い。な。こっちは、屁理屈ばかり、よう言うから。

A：わかんて、それしんどそうにしとんは。実際、あれをまとめようと思ったらそんなもん無理。出来るわけない。



A : 実際まとまってなかったもん。  
A : ○○も愚痴ってたことあったな。  
B : 何て?  
A : 「最初俺らが、やりだしたのに、いつの間にやら、おまえらにとられとう。」って。  
② : まあええねんけどなって。  
B : だったらええやん。有名になりたいんや。  
A : だからみんなもう有名になりたい。何か残したかってんや。  
B : 新聞に載りたい。  
A : 新聞に載りたいし。  
B : テレビ出たい。  
A : テレビ出たいし。俺らはトップやって、学校で、一応知られたいし。なんしろ俺らって、そういうのがあってんな。お礼も言われたい。何か有名になりたかったってのがあったから、ぜーんぶ、「俺が正しい、俺が正しい。」なとった。  
① : そんなん言うたって、マスコミに表すのと、俺ら自身全然違うでしょう。こんなに裏が汚いなんて、誰も思っていないですよ。  
② : 思ってない、思ってない。  
① : そりゃま、どこの避難所でも、どこのボランティアでもあるやろうけど、ほんと汚いよね、ボランティアってねこれ。  
② : あのテレビを見る限りは、わかんないよね。  
① : 俺なんか、ヒーロー。  
② : あんなん、全然違う。  
① : 全然ちゃうもん、こんなん。やってることが。  
A : だっておまえ、普段じいちゃんばあちゃんに……  
② : あんなん階段下りるの手伝う?  
A : 手持って階段下ろすか、普通。  
① : あんなん、嫌やもんね。あんなんひどすぎるわ。俺も、あれはすごいと思ったもん。  
A : テレビの力もな、すごいわ。  
② : ねえ。  
B : 何が一番嫌やった。  
④ : エー、何か、物資とか外から取りに来る人とか、時々文句言われたりしたら、すごい恐かった。  
A : 文句ですか。  
④ : ていうかなんか、渡したらダメ、とか言われるじゃないですか。中の人だからとかいうて、それ説明したら、急に、ワーって怒られて。  
A : 俺らもいっぱいありましたね。

A : 焼き肉したんいつでしたっけ。  
⑤ : あれは、3月の23  
A : バーベキュー。23や、23解散。  
② : 21じゃないですか。  
① : 春分の日がどうこうって言うてたわ。そういえば。  
A : 焼き肉うまかったと。  
① : 本来ね、ボランティア考えてたん、どうあるべきやと思ってたんですか。  
③ : ああ、それ聞きたかった。  
A : だから、なんべんも言うように、俺らボランティアは脳天気やったわけや。  
① : うん。  
A : 脳天気に、ただ、その日楽しく、何か、仕事、これはやらなあかんていうのは考えとったけど、その時に考えて、その時にやとっただけや。何が、ボランティアってのは本来なにかけて考えたことなんてなかったし。とりあえず俺らは、楽しいから、何かあるやん、修学旅行でも夜がやがや騒ぐのって楽しいやろ。そういうの、感じもしとったから。  
① : で、いきなりこんなガキが入ってきて、おまえらに主導権なんて渡さんぞ、どうやこうや……それは、わかりますわ。  
A : 確かにな、さっきも話し合いした通りです。事実です。  
① : ○○、つぶやいてたでしょう。「もっとボランティアって楽しかった。」って、初めの4日間は、それ、話した?  
A : あるやん、俺らがやとった時のボランティアって、最初の頃って、もうぎりぎりの線で楽しんどったやん。  
② : ん?  
A : 何て言うか、身削って、夜も起きて。  
① : けどボランティアしてる。  
① : ミーティングしたり。  
A : ミーティングじゃない。昼間でもうだうだしゃべとったりとか。あったやん。そういうのが。毎日のように続いとったやん。  
A : 何かあったやろそういうのが。だから最後の方ってさ、避難所の人らと接触がなかったやん。ホーリーでしか。最初の頃って、なにかと飯配る時でも、人捜す時でも接触があったやろ。接触があったけど、何か乾ききとったやん最後の方って。



全部まかしたったやん。他の。

A：最後に一番仕事したなって思うんは、大掃除やけども。

②：大掃除。頑張った。

A：大掃除したやろ。頑張った。何か、偽善ぶるって言うたら変やけど、本来のボランティア。

①：確か俺も嫌やったけどな、入った当初は。

②：当初？

①：いや、俺は嫌やった。

A：嫌なってきたんは。何か楽屋で、みんながたまり出してきて。

①：でも楽しそうにしてたから、何も考えてないんかなって思った。

A：だって俺、なにかと独りで、さぼりで、ボクサーしてたことあったもん。

①：俺はなるべくあそこにはいないようにしてたけどね。

A：俺も最終的には、いないようにしてたもん。朝のうちってさ、朝10時くらいとか、みんながそろって、独りで、喫茶ホーリーで……

①：ホーリーいつからあったの。

A：1月の21日。

①：21。

A：だから俺ちょうど2カ月。そうや。やっぱり、焼き肉3月の21や。ちょうど2カ月。

①：へ、そんな早くからやってたん、ホーリーって。

A：喫茶ホーリーは避難所の人に聞いた話やけど誉められてる反面やっぱ、逆のこともあったらしいから。

①：たとえば？

A：こんな避難所でそんな夏のビーチみたいな感じで……

②：うそお。

A：音楽かけて、楽しくやっとなんかみみたいな感じで、言われとうで、って。

③：でも。

②：知らなかった。

A：あったし。

③：こんな所やから、楽しまなあかんのちゃうの。

A：そう。だから、俺は逆に、こんな所やから、楽しまなあかんから、やっぱこれは続けるべきやって。

②：ボランティアはみんなそうですよね。きっと。考え方。

A：文句で何やけど、ちゃんちゃんこ分けたんや。

②：ありましたねえ。

A：ちゃんちゃんこ。

②：かなり言われましたね。

A：かなり言われた。

①：俺もたたかれたよ。

A：ちゃんちゃんこで？

①：リーダー会議で、たたかれたもん。

A：ちゃんちゃんこで？

①：ほんまや。

②：その前の日のリーダー会議で。

A：俺らええことやと思ってやったわけや。「どうやって分けてんのよ、あんた1階だけ配ってなんで2階がないのよ。」って。「はい、すみません。」つって。そんなん俺に聞いてもしょうがない、数ないねんからねえ。

A：で、アンケートとったら、ちゃんちゃんこそんなに必要なかったって言うし。余った余った。どっちやねんて感じのな。

②：とりあえず、あるもんはすべて欲しいと思ってたんちゃうの。

③：なけりゃ、欲しい。やったらいらない。

A：避難所の人ら、感謝してくれてるー？

①：難しいんじゃないですかね。俺なんかいいよ、大丈夫だから。でも、家がなくて、人が死んでたら、そら文句も言いたくなるでしょう。でも、人間限界あるからね。毎日毎日文句ばかり聞いてたら。

⑤：ボランティアの体験は生かされてるのか、思い出になっているのか。将来のエネルギーになるのか。終わってしまった後の気持ちは。

A：何か寂しくなってきましたね。避難所も人が少なくなってきた、引きずってるってことは、別はないけど。やっとなんぞ、という。とか、なんの威張りにもならへんけど、威張れる……

B：今は、いい思い出に残って、将来立つかな、役に。ボランティアしてたら就職にいいみたいなこと。どっかから聞いたんで。きっと将来にはきっと役に立つことではないかと。

A：要するに、青春には何の役にもたたんと。現実でやろ。

B：うん。でもきっと、こういうボランティアする事は、もう多分ないと思うから、いい思い出としか言いようがない。

①：重要なこと話しました？色々あったでしょう。



A : 恋愛沙汰？  
 ② : なんでや。  
 ① : 4組？5組？5組ぐらい出来たよね。  
 ② : やめよ、先生いんのに。  
 A : 何か、このメンバーやったら（またボランティアに）行きたいけど。  
 B : テンションがちゃうやろな。  
 A : テンションがちゃうわ。  
 ① : 俺は、でも、行きたいけどな。  
 ② : うそお。  
 ② : うそ。やってた時と言ってる事が違う。  
 ① : それはその場の雰囲気があるから、そんなん、あまり固定観念にしたくないからさ。  
 ② : ボランティアやってる時は、そんなん言ってなかったよ。  
 A : 同じようなことは絶対ないから。  
 ① : そら絶対ないって。  
 A : また違う楽しみ出てくるかも知れへんけど。楽しみ作ったらあかん言うし。  
 ① : 今、ボランティアはこれしかしてないから、これが絶対になっているわけであって、何回も積み重ねていったら絶対違うって。

A : ま、してみたいとまでは、けど、ま、したい。  
 ① : しかし、このメンバーで行ったら、文句が出てもおもしろいでしょうね。  
 ② : うん。ま、もう地震は起こって欲しくないけど。  
 ① : ま、色々あったよね。ほんと、色々あったもん。人間の汚いところからいいところまで、それぞれ見たよね。  
 A : いっぱいみたわ。  
 ① : ほんと見たよね。  
 A : まとめるってよ。  
 ① : まとめるんですか。全国の皆さん。また、何か震災があれば、僕ら、くじら会（県芦ボランティア・スタッフのグループ名）は、飛んでいきますので、電話して下さい。待ってま〜す。  
 A : どこに電話したらええねん。  
 B : ここに電話番号でとんねん。  
 A : 県立芦屋高校、0797-32-……  
 B : さようなら。  
 ③ : さようなら。  
 ② : さようなら。

〈編集／金延重光・佐和良一、記録／枝澤百合子〉





## あ と が き

あれから間もなく1年目がやってくる。編集作業に当たって体験文集を読んでいると、当時のことがまざまざと甦り、涙を禁じ得ない。

いろんな意味で最も精神的に昂揚していた2月当初、この希有な体験はどうしても記録に残したいと思った。震災の渦中であって、学校がどのように立ち上がっていったか、責任の所在がどこか朦朧としてしまう組織的運営に慣れ切っている日常から放り出されて、非常時に学校組織は有効に機能したか、情緒的感想に終わるものでなく、混乱、軋轢、不手際も含めた客観的事実の記録と、またその時各々が何を感じたかの思いの記録を、解釈・批評を交えず出来る限りありのままに残したいと思った。記録を残す動機が、あまりの悲惨を前にして、将来再び起こるかもしれない同様の事態に少しでも善処して欲しい、そのための学習の材料となればと思ったからだ。手前味噌になるが、あの非常時を、学校運営・避難所運営ともども、大方において、本校はよく乗り越えたと思う。学校長のリーダーシップの下、本校組織が持つ総合力が為したことであるが、その過程では、当然、綺麗事では済まされない複雑な感情のぶつかり合いも少なからずあった。その部分を乗り越えていった事情こそ、後世の参考に記録に含めたいところだが、残念ながら、今、力量不足を痛感するしかない。頁数を決定する予算上の制約と云うことだけではない。学校と云う公的機関、もしくはその組織のメンバーが編集する出版物の限界かもしれない。

避難所の運営記録は、出来るだけ客観的に出来事を羅列することにした。そこから何を読み取り学習するかは、この記録を活用しようとする側に任せたいと思う。ただ残念なことは、最も混乱していた1月中の記録が残っていないことだ。避難所で付けていた日誌の1冊目が紛失してしまっていた。避難所運営に学校が組織的に関わり出したのは1月23日以降だった。この間の事情は、体験文や座談会記録から読み取っていただきたい。

なお、学校運営の記録は、当時の下野信明教頭先生（現武庫高校校長）が、職員の情報共有化と共通理解を図るために、ほとんど毎日出されていた職員連絡メモを基礎資料にしている。あの混乱の最中、僭越ながら感服するばかりである。

さまざまな経緯から、生徒指導を担当していた私が

避難所専任を任せられたが、お蔭で貴重な体験をすることが出来た。同様の川根先生、佐和先生、無理にお願いして快く引き受けて下さった実習助手の稲葉先生、その他全職員の応援の下に、初めて取組めたことであつたが、特にこの三名の方の献身的な活動には、頭が下がる思いがした。1月17日直後の最も混乱していた頃に、積極的に避難所の現場で大活躍された川根先生、校務員の豊留さんを初め幾人かの本校職員がいたが、混乱期から整理・組織化の必要が出てきた頃、川根先生が、「武官の活躍から文官の活躍への移行が大切」と云う趣旨のことを仰って、その方面に長けている佐和先生の活躍を、後押しする立場で協力を惜しまなかった姿勢は、避難所運営に関わった本校職員の有様を、象徴的に表していると思う。

もしあの非常時を、まがりなりにも乗り越え得た最大の要因を挙げよと言われたら、私は迷わず生徒の動きを挙げたい。いち早く組織的に避難所ボランティアに入った本校生の活躍は、その後の避難所のスムーズな運営に多大な貢献をしたし、それぞれとんでもない体験をした生徒達が、さまざまな制約の中で、実によく我慢し、良識ある行動をした。彼らから学ぶことは多い。一方で、震災体験が、彼らに精神的に及ぼしている影響を、私達はしっかりと見つめなければいけないと思う。しかしこの場面でも、気になることは、温度差である。震災に対する捉え方には、根本的には各人の感受性の相違があろうが、被災の状況に応じた温度差は、如何ともしがたいものがある。それは時間が経つにつれて拡大しているような気がする。実は、あらゆる震災復興の取組は、これからが正念場なんだろうと思う。あの大災害を体験した子供たちが、当分の間順次入学してくる。その生徒達に如何に適切な教育活動を展開できるかが、学校現場の最大の復興の取組であり、課題であろう。

震災直後、街に満ちていた善意を、忘れることが出来ない。その後、当然善意だけでは処理できない複雑さが出てきたが、当時、多くの人達がとった行動の動機は、あの善意に突き動かされたことにあると思う。善意のメカニズムが気になって仕方がない。さらに、善意を組織化する大きな知恵はないものかなどと、あてもない夢にかられたりしている。まもなく1年が過ぎようとしている。正直言って、なんとも不思議な時間だった。

〈金延 重光〉



# 心揺さぶる出会い これからの糧に

— 5月13日、当避難所に関わる方々が一堂に会して  
開催した大観望会の趣意書より —

阪神・淡路大震災（1995年1月17日午前5時46分）により、当所が  
避難所となりました。閉所にあたり、お世話になった方々への感謝  
と、当避難所がかげがえのない出会いの場であったことを記念して、  
ここに記録として残します。

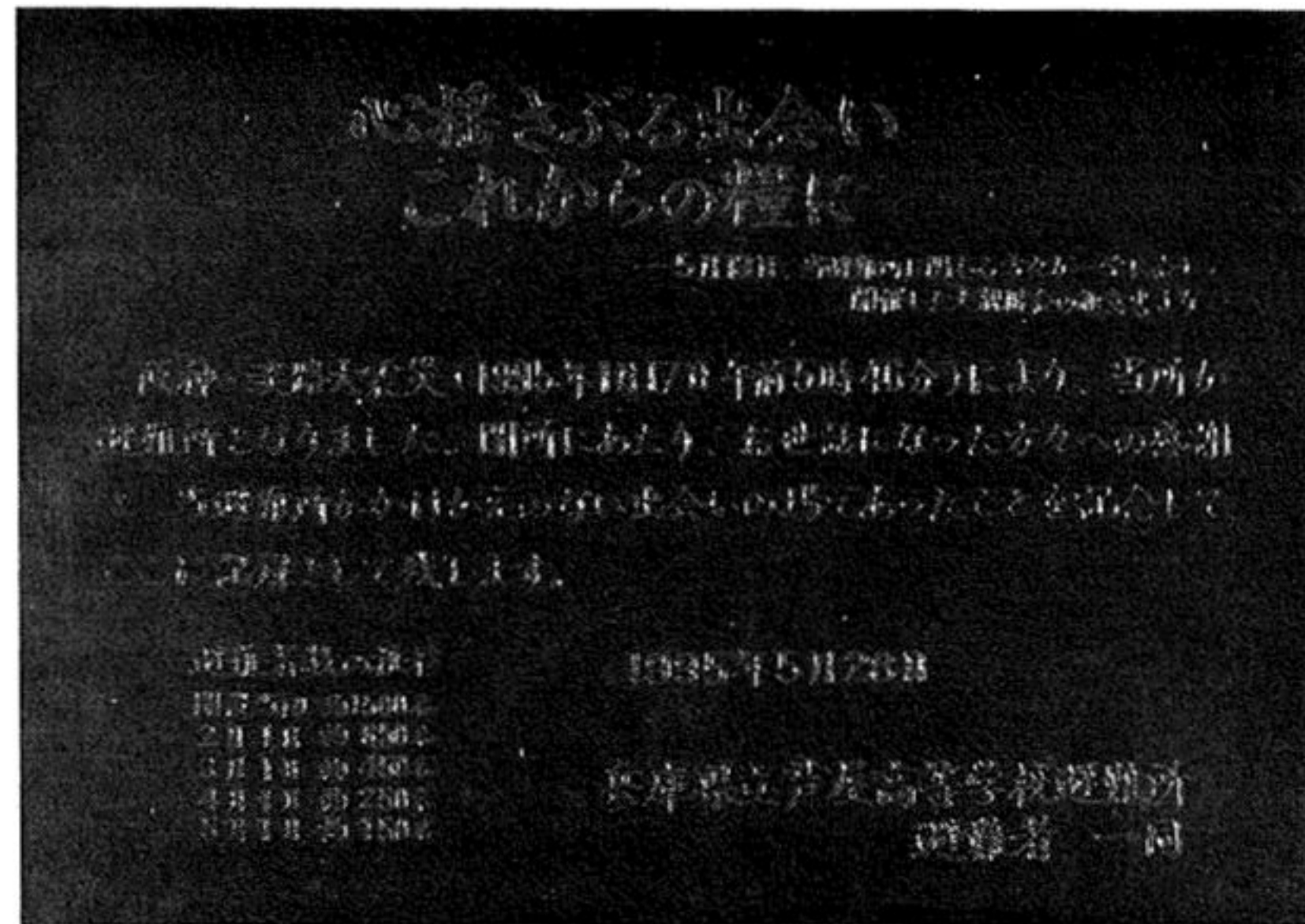
## 避難者数の推移

開設当初 約1500名  
2月1日 約 650名  
3月1日 約 450名  
4月1日 約 250名  
5月1日 約 150名

1995年5月28日

兵庫県立芦屋高等学校避難所  
避難者 一同

本校避難所避難者一同より、  
本校に寄贈された記念銘板。  
体育館1階入口壁面に設置。



表紙題字／小倉 弘（本校職員）

## 復興をめざして

～県立芦屋高校 震災の記録～

1996年1月17日

発行者 兵庫県立芦屋高等学校 代表 伊藤 正広  
〔震災対策委員会・ボランティア委員会・  
いきいきハイスクール推進事業実行委員会〕

編集委員 金延 重光 佐和 良一 枝澤 百合子

〒659 芦屋市宮川町6-3 TEL(0797)32-2325

印刷所 (株)旭プリント



